トロピカル～ジュ！プリキュア
©ABC-A・東映アニメーション
Illustrated by TOEI ANIMATION

映画
トロピカル～ジュ！プリキュア
雪のプリンセスと奇跡の指輪！
©2021 映画トロピカル～ジュ！プリキュア製作委員会
Illustrated by TOEI ANIMATION

TV

トロピカル～ジュ！プリキュア

✿2021年2月28日(日)より放映中
✿毎週日曜日 ✿朝8時30分
✿ABCテレビ・テレビ朝日系
http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

STAFF
シリーズディレクター／土田 豊　シリーズ構成／横谷昌宏　キャラクターデザイン／中谷友紀子　音楽／寺田志保　美術デザイン／今井美紀　色彩設計／柳澤久美子　製作担当／井桁啓介　プロデューサー／加藤香織（ABCテレビ）・田中 昴（ABCアニメーション）・利根里佳（ADKエモーションズ）・村瀬亜季　アニメーション制作／東映アニメーション

MOVIE

映画トロピカル～ジュ！プリキュア 雪のプリンセスと奇跡の指輪！

✿2021年10月23日(土)より公開中
https://2021.precure-movie.com

STAFF
監督／志水淳児　脚本／成田良美　音楽／寺田志保　キャラクターデザイン・総作画監督／上野ケン　美術監督／倉橋 隆　色彩設計／滝田直美　CGディレクター／大曽根悠介　撮影監督／高橋賢司　製作担当／村上昌裕　アニメーション制作／東映アニメーション

TROPICAL-ROUGE! PRECURE SPECIAL ISSUE

『トロピカル～ジュ！プリキュア』の魅力をお伝えする、まるごと1冊プリキュア特集！
公開中の秋映画と、クライマックスに向かうTVアニメの魅力を解説します！

キュアサマーの髪型

「私はキャラの特徴づけとして、前髪が重要だと思っていて。主人公は今までにない感じにしたいと考えた末に思いついたのが、ピョンと飛び出ている前髪でした。第10話のように、感情変化に合わせて前髪がへたれたりもするとは、デザイン時には意図していなかったです（笑）。巨大なポニーテールは、これまでの「プリキュア」の主人公と差別化を図りつつ、元気な感じにしました。髪のグラデ処理は、村瀬さんの強い要望でした。私としては「Go! プリンセスプリキュア」でもやったので、そこまで積極的ではなかったんですが(笑)」(キャラクターデザイン・中谷友紀子)

都会での学校生活に憧れて、南乃島から都会のあおぞら市に引っ越してきた。あおぞら市に来たその日、人魚のローラと出会ってプリキュアに変身。さらに、仲間のプリキュア探しをする中で親しくなった、同級生のさんご、上級生のみのりとあすかとで、「今一番大事なこと」を何でもやる部、トロピカる部を結成した！

まなつの持ち前のバイタリティとその前向きさは、まずブレることがない。敵にやる気パワーを奪われた時も、結局は自分の内側から無尽蔵に湧いてくるやる気パワーで復活という離れ業を見せてくれた。自分の将来の抱負を述べるビデオ撮影では、「大人になったその時に、一番なりたいものになる！」と自分で答えを出した。

と同時に、ローラにはずっと友達でいてほしいと願ったが、そのローラとは、実はまなつが幼い頃に一度会っていたようで……？

「夏海まなつ」名づけの経緯

「主人公は『野比のび太』みたいな繰り返しの名前にしたいと、シリーズディレクターの土田豊さんが言っていまして。名字はキュアサマーと作品モチーフの海から『夏海』。当初は『夏海なつ』でした」(シリーズ構成・横谷昌宏)。「でも『なつ』だと『つ』の音が下がるんです。それで落ちついてしまうから、語尾上がりにしたいと。そこで『なつみ』『なつき』とかいろいろと悩んで……。ちょっと変わった名前にしたいというチーム内の意見もあって、もう名前を決定するギリギリのタイミングで、土田さんから『まなつ』ってどうでしょう？　と提案があり、全員一致で『それだ！』って決まりました(笑)」(プロデューサー・村瀬亜季)

ときめく常夏！

キュアサマー CURE SUMMER

夏海まなつ MANATSU NATSUUMI
声／ファイルーズあい

キュアサマー変身バンク

絵コンテ・演出：土田 豊
原画：板岡 錦
作画監督／中谷友紀子

要所でのニッと歯を見せた笑顔が印象的。ドレスを生み出す時のエフェクトはハート型。ラスト、地面を元気よく駆けてきて、手足を大の字に広げる決めポーズもアクティブだ。

「5人の変身シーンについては、玩具サイドから玩具のギミックに関わる変身プロセスの案をいただき、それに合わせつつ、プラスで面白要素を考えました。ただ、すでにプリキュアは何十人もおり、変身ヒロイン自体も他作品にたくさんいるので、新鮮味のある変身を考えるのはなかなか難しかったです。板岡錦さんほか、原画さんのアイデアに助けてもらいました」(シリーズディレクター・土田 豊)

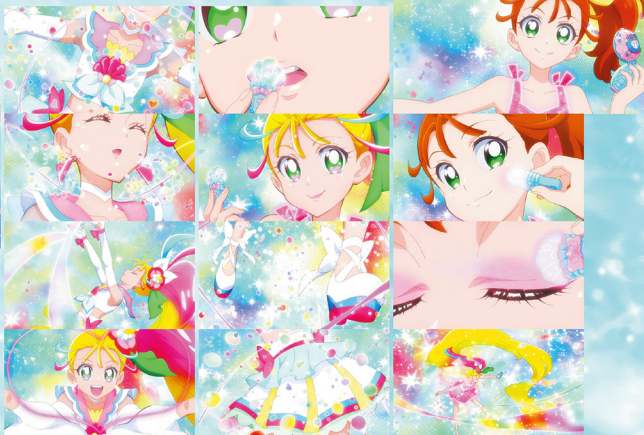
あおぞら水族館

まなつと母が住む家（水族館の寮）

エクセレン・トロピカルスタイル

ハロウィン衣装（狼人間）

まなつは自分の軸を持っている子

キュアサマー／夏海まなつ役
ファイルーズあい

Q1　ここまでで、まなつの変化を感じたところは？

ファイルーズ（以下ファイ）　まなつは物語の中で一貫して自分の気持ちに素直で、とにかく今一番大事なことをやっている子です。大きな軸を持っている子なので、そこまで変化をつけたりはしていませんが、よく見てみると大人っぽい表情や発言をする時もあって、そこがまた魅力だと思います。

Q2　シリーズ中盤についてお聞きします。第27話の水族館の回では、まなつはずっとイルカの浮き輪をつけていましたね。

ファイ　まなつらしくて素敵だと思いました。

Q3　第29話から登場したエクセレン・トロピカルスタイルはどうでしたか？

ファイ　みんなの衣装や髪型がさらにパワーアップしていて、とても素敵でした。かわいいだけじゃなくて、力強さも感じるスタイルです。

Q4　ショートコント回である第33話で、一番面白かったエピソードは？

ファイ　「プリキュア」史上に残る、長い技名を叫ぶ回です。本当にアフレコが大変だったので、皆さんに楽しんでいただけていたら嬉しいです。

Q5　第34話は、まなつが「将来の夢」に悩む話でしたね。

ファイ　台本のページをめくりながら「まなつは最後にどんな答えを出すんだろう」ととても気になっていたので、まなつらしい回答が聞けて良かったと思いました。また、まなつの両親も、最初に夢見ていた職業とは違う職について、それでも幸せでいるところが素敵だなと思いました。

Q6　この他、印象深い回を教えてください

ファイ　第28話で、みのりが自分の殻を破って、ハキハキとトロピカる部のメイク教室を紹介していたシーンがとても良かったです。

Q7　最後に意気込みとメッセージを。

ファイ　一年中、心はサマー！　最後まで一緒にトロピカっていきましょう！

撮影＝江藤はんな（P.9～20）

学年
あおぞら中学校１年
誕生日
８月１日
好きなこと
トロピカってること全部、学校、部活

文化祭メイク

まなつの部屋

まなつが中学で最初に仲良くなった女の子。ガーリーな見た目通り、かわいいものやコスメが大好き。性格的にはまなつとは正反対で、自分にあまり自信がない。つい周囲に自分を合わせてしまう控えめなタイプだった。

　でも、まなつやローラと出会い、プリキュアになったことで、変に周りにおもねることなく、何事も物怖じせずにチャレンジするようになった。そんなさんごの行動が、知らぬうちに若手の俳優に勇気を与えたりもした。また、さんご自身も、思わぬ偶然からファッションモデルの誘いを受けたことも。びっくりしながらも「かわいいを届ける」お仕事に共感して、自分を奮い立たせてその役目を見事に全うできた！

　将来の抱負を語るビデオでは「大人になってもかわいいものに囲まれていたい」と言っていたさんご。彼女はどんな道を歩むのだろう？

学年
あおぞら中学校１年
誕生日
５月９日
好きなこと
かわいいものを集めること、メイク

エクセレン・トロピカルスタイル

「涼村さんご」名づけの経緯

「『さんご』はずばりコーラルの和訳です。最初に変身後の名前を考えた際に、『珊瑚＝紫はイメージとしてアリなのか？』という話は出ました。でも、いろんな種類の珊瑚があるから大丈夫でしょう、と。名字はその後で考えましたが、僕は最初『鈴村』を推していたんです。鈴ってかわいい感じがするでしょ？」（横谷）。「ただ、名字は４人とも海のモチーフとして「氵」をどこかに入れようかという話になって、漢字は調整することになりました」（村瀬）

キュアコーラルの髪型

「極端にボリューミーな２つ分けは、とにかく大きいリボンを着けたくて。リボンありきで考えた髪型ですね。上下左右で計４つのリボンになりました。５人とも、変身前は変身後からのアレンジなのですが、さんごの場合、性格設定を鑑みつつ、おとなしめにしていくと、ちょっとモブキャラみたいになっちゃって。それで、デフォルメ感あるアクセサリーをたくさん着けたんです」（中谷）

文化祭メイク

ハロウィン衣装（海賊）

キュアコーラル変身バンク

絵コンテ・演出：土田 豊
原画：高野 徹
作画監督／中谷友紀子

メイクをしていく中での、おすまし笑顔がキュート。ドレスを生む際のエフェクトは花のような形状。水面を軽やかにステップして、カーテシーのようなお嬢様風決めポーズ。

「かわいい」を伝えることの難しさや楽しさ

花守ゆみり
キュアコーラル◆涼村さんご役

Q1　ここまでで、さんごの変化を感じたところは？

花守　かわいらしくて優しい子という第一印象は、今も変わらずにあります。それにプラスで、自分の好きなものを貫きたいという心の芯ができたことによって、より魅力的な女の子に成長していると感じます。

Q2　キュアコーラルが指でバッテンを作ってバリアを張るシーン（「ぺけ！」と音も入る）はどう感じていますか？

花守　ぺけ！バリア、私も大好きです。イヤと言えずにいたさんごちゃんの、本当は言いたい気持ちが技になっているようで、考えれば考えるほど彼女らしい技ですよね。この時の表情については、守りたいけれど自分の力で守れるのか、最初は不安に思っていたんだと思います。それが、まなつちゃんたちとの日々のおかげで「守りたいけれど」が「守る！」という確固たる意思を持って、技を使えるようになったのかなと。

Q3　第29話から登場したエクセレン・トロピカルスタイルはどうでしたか？

花守　みんなのコスチュームがトロピカドレッシー！というテイストに変わるのがかわいいですよね。さんごちゃんはコスチュームが変わっても、帽子スタイルなのが個人的に大好きです。

Q4　第32話は、さんごがモデル体験でランウェイを歩くという、彼女の変化が打ち出されたお話でした。

花守　今までは、お母さんのお店であるPretty Holicで一緒に働こうとなんとなく考えていたさんごちゃんが、自分の「かわいい」を通してモデルさんという、また新たな夢に触れる素敵なお話でした。自分の「かわいい」を伝えることの難しさや楽しさをこれからもたくさん経験して、素敵な女性になってほしいです。

Q5　ショートコント回である第33話で、一番面白かったエピソードは？

花守　衝撃的なお話でしたね!!　トロピカシュール……でしょうか！　さんごちゃんのあんな顔やこんな顔が見られる、入れ替わり回は必見だと思います。

Q6　この他、印象深い回はありますか？

花守　あすか先輩の修学旅行のお話が印象に残っています。あすか先輩と百合子先輩のテニス部だった頃のお話、正しい行いが必ずしも良い結果をもたらすわけじゃないとしたら、自分だったらどうするんだろうと、あらためて考えさせられるお話でした。

Q7　最後に意気込みとメッセージを。

花守　まなつの夢は、ローラの夢はどうなるのか！人魚と人間は一緒に生きてはいけないのか！　あとまわしの魔女、そして、伝説のプリキュアの正体は！　気になるお話はまだまだ尽きませんが、ラストまで思いっきりトロピかっていきましょー!!　これからも、彼女たち「トロピカル～ジュ！プリキュア」をよろしくお願いします。

さんごの部屋

きらめく宝石！

涼村さんご SANGO SUZUMURA
声／花守ゆみり

キュアコーラル CURE CORAL

母が経営するコスメショップ・Pretty Holic

涼村家外観

キュアパパイア変身バンク

絵コンテ・演出：土田 豊
原画：こはだ
作画監督／中谷友紀子

ひらめく果実（フルーツ）！

キュアパパイア 一之瀬みのり MINORI ICHINOSE 声／石川由依
CURE PAPAYA

メガネを外した瞬間から、いきなり笑顔が弾ける。ドレスを生む際のエフェクトはティアドロップ形。決めポーズ直前の連続前転からハンドスプリングの流れもインパクト大だ。

みのりの部屋

気がついたらめちゃくちゃ面白い子に

キュアパパイア♣一之瀬みのり役
石川由依

Q1 ここまでで、みのりの変化を感じたところは？

石川 みのりの最初の印象は、「優秀で本が好きな、常にポーカーフェイスの子」だったのですが……回を重ねていくうちに「あれ？」と思うことが増え……気がついたら「めちゃくちゃ面白い子」という印象に変わっていました。セリフとして表れているところはもちろんですが、スタッフさんたちの遊び心によって、メガネが曇ったり、一人だけ口いっぱいにもぐもぐしていたりなど、喋っていない時にもたくさんかわいいところがあるんです。そして、それに気づいたファンの皆さんがまたそれをTwitterなどで呟いてくれたりして、皆さんの力によって、さらにみのりを面白くしてもらっている気がします。きっとまだまだ知らない一面があるのではないかと思います。気になって目が離せない存在です。
ちなみに、イヤリングからビームを出すのは、初めて見た時はちょっとシュールで笑ってしまいました。ビームを出している姿を、真横から初めて見た時は、「なるほど。こうなっていたのか」と謎の感動がありました（笑）。

Q2 みのりは、第20話のぴかりん探偵ではノリノリで、第27話の水族館では毒クラゲに興味津々でした。

石川 普段はみんなと比べると一歩引いているというか、裏方に回りがちなみのりですが、自分が本当に好きなものには、他の人が若干引いてしまうくらい積極的になってかわいいですよね。ただ、そうは言ってもみのりなので、他の子たちのような弾けるテンションの上げ方ではなく、いつもより前のめりで、低いところで沸々と興味が湧いているような、鼻息が荒くなるようなテンションの上げ方で表現しています。周りの目や意見にとらわれず、自分の「好き」や「楽しい」にまっすぐなところが、とてもいいです。

Q3 第28話の文化祭の回は、文芸部時代の挫折が明かされ、同時に自分から放送部のインタビューに朗らかに答えてみせる、みのりの変化が表れた回でした。

石川 最初にみんなと出会い、プリキュアになるという大きな一歩がありましたが、第28話にしてさらなる一歩を踏み出す姿が描かれました。それは、一度きりの変化ではなく、みんなとの活動を通してみのりが成長し続けているという、長期的な心の成長を意味しているのではないかと思うと、なんだかとても感動しました。そして、みのりのことを気にかけてくれたのが、ローラだったのもポイントのように思います。性格も真逆で、最初は一番心の距離が遠そうな二人でしたが、入れ替わりなどを経験し、実はお互いのことをよく見ているし、分かってあげられる仲なのかなと。まなつとローラの関係も好きですが、みのりとローラの関係もとても好きです。

Q4 第29話から登場したエクセレン・トロピカルスタイルはどうでしたか？

石川 第28話で作ったドレッサーが新しいアイテムになるとはびっくりしました！　手をかざすと模様が増えたり色が変わったりするのがかわいいです！　ゾウさんや裸足でタップダンスするところもとても印象的ですし、きっかけとなった「伝説のプリキュア」の存在もとても気になっています。
ちなみに、くるるんを攻撃してしまったのは、最初観た時は「パパイア、まじか……（笑）」と驚きましたが、いつもくるるんと仲良くしているみのりだからこそできた（許される）ことかなと。そして、みのりのビームを直撃してもケロッとしているくるるん……一体何者なのでしょうか（笑）。

Q5 ショートコント回である第33話で、一番面白かったエピソードはどれですか？

石川 正直どれも面白くて選べません……！　が、一番大変だったのは「トロピカれ！新しい技！」でした。何はともあれ、合わせゼリフが長い！　家で一人で練習している時も、「え〜!?　これどうするの〜!?!?」って感じでした（笑）。こんな長い技名を言うことは、今後一生ない気がします。
あとは、みのりがストーリーテラーの役割を担っていたことに驚きでした！　まさか、こんなふうにみのりの喋り出しから始まる回があるとは！

Q6 この他、印象深い回はありますか？

石川 ストーリーに関してではないのですが……、第35話のハロウィン回。きっとみんな何かしらの仮装をするんだろうな、みのりだったら何を着るかなとずっと考えていたのですが、イマイチ「これだ！」と思うものが想像できなくて。「キョンシー」に仮装しているみのりを見て、とてもしっくりきました。スタッフさん、さすがだなと思いました。

Q7 最後に意気込みとメッセージをお願いします。

石川 トロピカる部の活動も、みんなとのアフレコも楽しくて、正直終わってほしくないです。でも、それは叶わぬ願いなので……どんな最終回を迎えるかはまだわかりませんが、みんなの心はいつまでも一つ！　これからも最高にトロピカって、最後まで最高の思い出を作っていきたいと思います！

物語を読むのが好きな、寡黙な2年生。1年生の時は文芸部に所属して、創作活動に熱中していたけれど、文芸部の先輩の内容面への鋭い指摘に、自分が作った物語のリアリティの欠如に気がつき断筆。文芸部も辞めてしまった。

2年になって出会ったトロピカる部の面々との日常は、リアルにしてセンス・オブ・ワンダー。ローラと心と体が入れ替わってしまうといった、常識ではありえないハプニングも次々と体験。また、意外と活動的でノリのいい一面を持っているみのりは、大好きな探偵小説のキャラクターを真似てみたり（でも推理はトンチンカン）、天文部設立を手伝った時は電飾入りの惑星型のかぶり物を作成。リモコンで電飾のオンオフを愉しんだりもしていた。

普段は人前には出たがらないが、文化祭での取材では仲間のためにと、自らメイクをして、カメラの前に立ってハキハキと応対。先輩らしい勇姿を見せてくれた。

「一之瀬みのり」名づけの経緯

「「一之瀬」は文学少女っぽさからつけた名字です。「之」の表記は横谷さんの案だったかと」（村瀬）。「でも、僕もときどき「一ノ瀬」と間違えそうになります（笑）。下の名は、キュアパパイアから、「果物が実る」で「みのり」となりました」（横谷）。「果物としての日本語表記は「パパイヤ」もあるかと思いますが、それだと「パパ嫌！」って聞こえちゃうので「パパイア」になりました」（村瀬）

エクセレン・トロピカルスタイル

キュアパパイアの髪型

「果物のイメージで、トップをお団子に。長い後ろ毛は、ショートボブのままだとすっきりしすぎるので、アクセントとして付けました。前髪でおでこを隠したのは、性格的なことではなくて、5人並んだ時のバランスから。変身前のメガネは、最初から指定がありましたが、ラウンド型フレームは私のこだわりです。というのも、パパイアもみのりも、全体に丸い形状で統一しているんです。丸っこい、コロコロしたイメージで作っています」（中谷）

学年
あおぞら中学校2年
誕生日
11月21日
好きなこと
本を読むこと

あおぞら中学校の図書室

「滝沢あすか」名づけの経緯

下の名はフラミンゴからの連想で『飛鳥＝あすか』。変身後の名前は赤色から「フェニックス」や『火山』などの案もあったんです」（横谷）。「『キュアボルケーノ』もありました（笑）。『キュアフラミンゴ』だとシリアスなシーンで締まらないんじゃ、と悩んだけれど、結局は南国のイメージから決めました。『滝沢』はたくさん出た案の中から、口にした時の音の良さで決めました。『滝』って、なんだか強そうじゃないですか？」（村瀬）

はためく翼！

キュアフラミンゴ CURE FLAMINGO

滝沢あすか ASUKA TAKIZAWA

声／瀬戸麻沙美

みんなに受け入れられなかった正義感

キュアフラミンゴ♠滝沢あすか役 瀬戸麻沙美

Q1　ここまでで、あすかの変化を感じたところは？

瀬戸　第一印象はクールで近寄り難い印象がありましたが、まなつとローラに出会った時から、周りの人を放っておけない情深い人なのだなとも感じました。プリキュアになった時もトロピカる部の部長になった時も、なんだかんだ言いつつ受け入れてくれる優しさや、頼りがいのあるところも見えてきました。枕が変わると寝られないところや、実はお料理上手なところなど、第一印象とギャップのある部分も知り、かわいいなと思います。

Q2　第26話に登場した、あすかの父・晴瑠也は、「炎の晴れ男」というちょっとぶっ飛んだ設定でした。

瀬戸　まず、名前のインパクトがありますよね！　ハレルヤ！　そして、晴れの儀式にも驚きました（笑）。あすかの情熱的な部分はお父さん譲りかな？　とも思いつつ、このような父と一緒に過ごしているからこそ、冷静さも持ち合わせた性格に育ったのかなとも思いました。

Q3　第29話から登場したエクセレン・トロピカルスタイルのかわいいと思うところはどこですか？

瀬戸　5人の華麗な素足ステップ！　そしてピンクのゾウです!!

Q4　生徒会長・百合子と直接張り合う第24話のクイズ大会、二人の過去が明かされた第31話について、どのように思いましたか？

瀬戸　あすかと百合子の過去については、最初の頃から気になっていました。要所でお互いが相手を避けながらも、意識している描写もあったので。そしてついに明らかになり、その原因はテニスの大会中に起こった出来事だったと分かりました。あすかの持つ強い正義感が、多数の部員に受け入れられなかったという、つらい経験だったと思います。百合子は百合子で、あすかや部員のためを思った行動をとったのですが、それはあすかにとって差し伸べてほしかった優しさではなかったんですね。お互いがとった行動の意味が分かるからこそ、複雑な思いを抱えて過ごしていたと思います。部室からあすかが去っていく後ろ姿は印象的でした。

Q5　では、ショートコント回である第33話で、一番面白かったエピソードは？

瀬戸　呪文のように長い、合わせゼリフのお話が好きです（笑）。みんなの好きなもの詰め込みまくりの技名で、面白かったです。

Q6　この他、印象深い回はありますか？

瀬戸　あすかの修学旅行のお話です。なんと、カバンの中にローラとくるるんが入っていて、大慌てなあすか。絶対バレてるじゃんと思うのに、バレてない演出も面白かったですね。ローラに引き出されてテニス部の過去も話していました。そしてあすかの忘れ物を届けようとプリキュアに変身して走ってくる3人。「こんな使い方していいの!?」って笑ってしまい

エクセレン・トロピカルスタイル

文化祭メイク

キュアフラミンゴの髪型

「ロングヘアーの指定が最初からあったので、下ろした髪形で。左の横髪が１本シュルッと伸びているのは、差し色を入れる前提で、目立つパーツとして付けました」（中谷）。「チャームポイントがヘアーだから、目立つようにロングヘアーにしたかったのはもちろんですが、もともと彼女には私も土田さんも長い髪のイメージを持っていたと思います。カッコいいですよね」（村瀬）。「南野陽子じゃないけど、『あすかはスケバンのイメージだから髪は長いよね』みたいな共通認識はありました」（横谷）

学年
あおぞら中学校３年
誕生日
10月15日
好きなこと
身体を動かすこと
料理

勝ち気でちょっと近寄りがたい印象の３年生。元テニス部で、生徒会長の百合子と昨年まではダブルスを組んでいた。しかし試合での他校の不正トラブルに、部長として妥協ともとれる判断をした百合子とぶつかり退部。「仲間はいらない」とまで思うようになってしまった。

しかし、困っている人間をぞんざいにできない性分なので、まなつのトロピカる部設立に手を貸し、そのまま部長になることに。百合子との確執は変わらずで、風紀委員の部室の抜き打ち検査を百合子の差し金かと疑ったり、TVのクイズ番組では生徒会vsトロピカる部で対決したことも。

まなつたちとは、プリキュアとして一緒に戦うだけでなく、気持ちを分かち合える関係に。仲間のすばらしさを自然と思い出し、トロピカる部はかけがえのないチームだと認識している。もっとも、ワガママ放題のローラの言動に対しては、ツッコミが絶えない毎日ではあるけれど。

トロピカる部の部室外観

トロピカる部の部室内

ました。

Q７　最後に意気込みとメッセージをお願いします。

瀬戸　作品としては最終回を迎えようとしていますが、あすかとしては変わらず、目の前に起こる出来事を新鮮に受け止めて、演じ続けていこうと思います。最後までチーム『トロプリ』でトロピカっていきます！

本名
ローラ・アポロドーロス・ヒュギーヌス・ラメール
誕生日
6月30日
好きなこと
歌をうたうこと

人魚の国・グランオーシャンの危機を救うため、人魚の女王の命を受けて人間の世界にやって来た。プリキュア探しをする中、最初に出会ったまなつと行動を共にするが、この時点では「手足になる存在」を見つけた気分だった。

だが、まなつやトロピカる部の面々と過ごしていくうちに、次第に人間として一緒に生活したくなっていく。そして、ついに自らの意志でプリキュアになり、まなつたちと一緒に戦いたいと決意。以降は、人間の姿にも自在に変われるようになって、あおぞら中学に編入し、トロピカる部の正式メンバーとして活動していく。

性格的には依然として我が強く、うぬぼれ屋にしてお調子者だ。でも、ウジウジしている相手に発破をかけたり、仲間のピンチは放っておかないなど、情けにも厚い。

グランオーシャンに里帰りしたローラは、幼い頃にまなつと出会った記憶を失っていたことを知る。今のまなつたちとの思い出も、いずれ消さなくてはならない……!?

「ローラ」名づけの経緯

「僕の中では、なんとなく気が強い女の子の名前のイメージとして「ローラ」があったんです。長いミドルネームも僕が考えたんですが、人魚関係の著者の名前をつなげました。「長すぎるからローラでいいよね」というネタありきで仕込んだので、言いにくければ正解です（笑）」（横谷）。「人間の学校での通称の名字は、「ローラ」のすぐ後ろにくる「アポロドーロス」でもよかったんですが、分かりやすく変身後の『ラメール』を使うことになりました」（村瀬）

キュアラメールの髪型

「W主人公のような立ち位置なので、サマーが元気さを前面に出した分、ラメールは女の子が好きそうなウェーブのロングヘアーにしました。人魚といえば真珠ということで、球体パーツをたくさん着けています。お団子部分は、口を開いた真珠貝のイメージです。髪のグラデ処理は、サマーと違い、最初から想定していました。変身前のデザインも同時並行で作業したのですが、ローラがゴージャスな髪型になったので、ラメールはさらに盛り盛りな感じにしました」（中谷）

PICK UP!

劇場版オリジナル私服
By BEAMS mini

シャンティア王国へ向かうまなつたちのオリジナル私服。BEAMS mini とコラボした、おしゃれなお出かけ服だ

ローラの成長に 私も置いていかれないように

キュアラメール♠ローラ役 **日高里菜**

Q1　ここまでで、ローラの変化をどんなところに感じますか？

日高　第1話で「ニンゲンなんて」と言っていたり、人間を捨て駒呼ばわりしていたローラですよ!?　もう成長しかないです!!（笑）まなつたちと出会って仲間の大切さを知って、自分の夢だけではなく誰かのために頑張ることを知ったローラは、本当にかっこいいです。いろいろな困難や壁を乗り越えて、どんどん魅力的な女の子になっているなと感じています。

Q2　第29話から登場したエクセレン・トロピカルスタイルはどうでしたか？

日高　タップダンスのシーンとゾウさんのシーンが好きです！　最初に台本をいただいた時に「え、ゾウ!?」と驚いたのですが、放送を観たら『トロプリ』らしさを感じられて、どんどん好きになりました。ファイちゃんが演じるゾウさんの鳴き声もかわいいですね。

Q3　第31話は、ローラがいつもの調子で生徒会長選挙に出馬しつつ、みんなの希望をメモして立ち会い演説に臨む展開でした。

日高　ローラ節が炸裂している回でしたね！（笑）。ローラにしか考えつかないような公約ばかりで、思わず台本を読みながら笑ってしまいました。ですが、トロピカる部のみんなの意見を聞いて参考にしたり、素直にその意見を受け入れている姿は、みんなを信頼しているんだなと感じました。

Q4　ショートコント回である第33話で、一番面白かったエピソードは？

日高　「トロピカれ 新しいプリキュア誕生!?」です。「くるるんがプリキュアに!?」ということで楽しみにしていたのですが、まさかの（？）やっぱり（？）くるるんはくるるんでした……（笑）。

Q5　この他、最近で印象深い回はありますか？

日高　第34話です。女王になるという夢自体に変わりはありませんが、まなつたちと出会ったことで、もっと素敵な大きな目標になったんだと知って、嬉しくなりました。そして最後のまなつとローラの掛け合いが……思わず台本を読んで、うるっときてしまいました。嬉しくもあり、何だか切なくもなった、とても印象深い回です。

Q6　第36話では、グランオーシャンが危機的状況に陥ります。

日高　ランドビートダイナミックが効かないということで、ここまで追い込まれるのは久々で、演じながらハラハラしましたね。終わり方も「本当にどうなっちゃうの!?」と私も次の展開が気になって仕方がなかったです。そして第37話は、ついにいろいろなことが明らかに……。まなつとローラにとっても、作品にとっても、とても大事な回でした。

Q7　最後に意気込みとメッセージをお願いします。

日高　放送も残り少しだと思うと、とっっっても寂しくて受け入れたくないというのが正直な気持ちです。トロピカる部の活動やみんなをずっと観ていたいですが、どのような最終回を迎えるのか、私も気になっています。最近はキャストみんなで今後の展開について予想することも多くなりました。ローラの成長に私も置いていかれないように、一話一話を大事に噛み締めながら、最後まで一緒に駆け抜けていきたいと思います。

ゆらめく大海原（オーシャン）！ キュアラメール CURE LA・MER

ローラ LAURA 声／日高里菜

キュアラメール変身バンク

絵コンテ：土田 豊
演出：小松由依
原画：森田岳士
作画監督：中谷友紀子

マーメイドアクアパクトの水流から出現する、色鮮やかな球体でメイクをする。ドレスを生むエフェクトはヒトデ型。水面から大ジャンプして、華麗な決めポーズをとる。

グランオーシャン全景（上部のタワー部分が城）

心を溶かす温かさ

プリキュアキャスト座談会

絶賛上映中の秋映画は、プリキュアの歌と想いが孤独な心を救う物語。トロピカる太陽の温かさは、みんなを元気にしてくれる！

演者も学ぶことの多いまなつたちの生き方

――皆さん、演じているキャラクターとの付き合いも長くなってきましたが、それぞれ影響を受けたと思うところはありますか？

ファイルーズ（以下ファイ） 私は元々、まなつと似ていると言われていたんですよね（笑）。でも演じてきて、まなつのことをどんどん尊敬するようになりました。まなつって、周囲の人たちのことを実は俯瞰して見ているんです。たとえば今回の『映画トロピカル～ジュ！プリキュア 雪のプリンセスと奇跡の指輪！』でローラとえりかがぶつかったところでは、その場しのぎじゃなく、本当に心を歩み寄らせようとしていて。ちゃんと当人同士が納得いくまで話し合うことが一番の仲直りってことですよね。そういうふうに、まなつから学ぶことが多いです。

花守 私は、実はちょっと変なTシャツが大好きなんです（笑）。ただ、初期のさんごちゃんと同じで、それを他の人に見せるのは恥ずかしいと思っていたんです。でも、さんごちゃんを演じるようになって、そのTシャツを他人がどう感じようが、「私はかわいいって信じてるんだもん！」って吹っ切れて。それで積極的に着られるようになりました。

石川 私は普段、感情を表に出すのがちょっと苦手なんです。でも、みのりを見ていたら「自分がちゃんと楽しければ、たとえ周囲に気がついてもらえなくてもいいんだ」と思えるようになりました。みのりも、本人は心から楽しんでいても、周りからはそこまで分からなかったりしますからね。でも、その人なりの楽しみ方でいいんだなって思います。

瀬戸 私は友達に「江戸っ子だね」って言われました。江戸っ子って、「意地っ張りを本領とし、正義感が強い反面、ケンカっ早くて軽率」だそうで。あすかさんは第31話の百合子との過去話を見ても思うんですが、正義感が強くてまっすぐなんです。それゆえに苦労してきたところもあるんですが。私自身はケンカっ早いつもりはないんですけど（笑）、正義感の強いところは、より似てきた気がします。

日高 私は元々コスメやネイルが大好きだったんですが、ローラはネイルがチャームポイントなので、私もネイルサロンじゃなく、自分でネイルをするようになったんです。今日のネイルも、自分でやったんですよ！ それから、ラメールのキャラカラーの水色のものに心惹かれるようになりました！

――そんな『トロプリ』チームの皆さんが、今回の映画で『ハートキャッチプリキュア！』とコラボしましたが、決まった時はどう思いましたか？

ファイ 『ハトプリ』は、私が高校生の頃に放送されていて、夢中で観ていました。私の周りにもファンの人が多くて、友達からたくさん祝福の言葉をもらいました。多くの人に愛されているシリーズとコラボできることが、一役者として嬉しかったです。

花守 『トロプリ』との共通点としては、色にとらわれていない性格設定でしょうか。たとえば「ピンク＝元気で積極的」「ブルー＝知的でクール」みたいなイメージだけじゃなくて、マリンちゃんの元気なブルーもすごくかわいいと思っていたんです。映画の台本を読んだ時も、「ああ、変わりなくかわいい～♪」って。皆さんも映画を観て、「そうそう、この子こういう感じだった！」って感じられたと思います。

石川 まず『ハトプリ』のキャストって、すごい方がそろっていますよね。「なんて豪華なメンバーと一緒にお届けできるんだろう！」って。緊張と同時に楽しみになりました。収録は別々でしたが、一緒に戦えて新鮮な気持ちになったし、私たちもパワーアップできた感じがあります。

瀬戸 私はデビューした時から、水樹奈々さん（キュアブロッサム役）にとってもお世話になってきて、水沢史絵さん（キュアマリン役）もかつては同じ事務所の先輩で、『ハトプリ』を勝手に身近に感じていたんです。「数ある

ファイルーズあい
7月6日生まれ／東京都出身／プロ・フィット所属／『半妖の夜叉姫』（竹千代）、『ジョジョの奇妙な冒険 ストーンオーシャン』（空条徐倫）ほか

まなつって、周囲の人たちのことを俯瞰して見ている

キュアサマー♠夏海まなつ役
ファイルーズあい

キュアコーラル♠涼村さんご役
花守ゆみり

キュアパパイア♠一之瀬みのり役
石川由依

キュアフラミンゴ♠滝沢あすか役
瀬戸麻沙美

キュアラメール♠ローラ役
日高里菜

プリキュアの中で、『ハトプリ』とコラボができるなんて運命だ！」と、一人で大興奮していました（笑）。

日高　『ハトプリ』は変身アイテムがパフュームで、部活はファッション部。『トロプリ』もメイクや部活を描いているシリーズなので、『トロプリ』との共通点もありますよね。コミカルな要素が多いのも似ているし、この2チームのコラボは絶対うまくいくと思いました。それから『ハトプリ』といったら、やっぱりえりか（笑）。ローラも負けていないキャラの濃さなので、「えりかとローラが絡んだらどうなるのかな？」って、最初からすごく楽しみにしていました。

後ろで雪玉を作りながら名乗るのがさんごらしい

はなもり・ゆみり
9月29日生まれ／神奈川県出身／ m&i所属／「ブルーピリオド」（鮎川龍二）、「かげきしょうじょ!!」（奈良田愛）ほか

2チームそろって雪に大はしゃぎ！

――ローラとえりかの絡みも描かれましたが、出会いの場になる雪合戦シーンは、みんな楽しい雰囲気でしたね。

瀬戸　真っ先に、まなつがあすかにおしりアタックしたのが笑ったよね（笑）。

ファイ　しかも不意打ち的に「あすかセンパーイ！」って言って。

瀬戸　真っ先にいじられる先輩（笑）。二人でしばらくやり合ってたもんね。

日高　この雪合戦のシーンで「ハトプリ」のみんなと距離が縮まったよね。みんなそれぞれ、自己紹介するのも良かったし。

ファイ　名乗りながら、雪を投げ合うという！

石川　しかもそれぞれ個性が出ていて。

花守　みんなが雪玉を投げながら自己紹介する中で、さんごだけ後ろでせっせと雪玉を作りながら名乗っているんですよね。バトルを好まない、さんごらしいなって。

瀬戸　かわいい♪

ファイ　あすか先輩も、今回の映画では全体にかわいくて。

瀬戸　そう、一人で雪だるまを作ったりして。

石川　駅から宮殿に行くシーンだよね。みんなから「早く行きますよ」みたいな。かわいかった（笑）。

瀬戸　あすかは「え？」みたいなリアクションで（笑）。あと、まなつとあすかは、わりと一緒にされる担当なんだなって感じた（笑）。

ファイ　そうでしたね（笑）。まなつの行動自体は、夏でも冬でもあんまり変わらないですね。一貫してブレないところがまなつの魅力なんだなって、あらためて思いました。

その人なりの楽しみ方でいいんだなって思えた

いしかわ・ゆい
5月30日生まれ／兵庫県出身／ mitt management所属／『進撃の巨人』シリーズ（ミカサ・アッカーマン）、『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』（ヴァイオレット・エヴァーガーデン）ほか

あすかは真っ先にいじられる先輩です

――水かけっこが雪玉に変わったくらいの?

ファイ まさにそれです!（笑）まなつは最初は雪を軽く見て、凍えちゃうんです。でも防寒着を得て、また元気いっぱいになって。本当にウキウキで楽しくはしゃいでいるので、みんなのセリフの裏で「あははは!」とか大騒ぎする声を入れたりしました。

花守 まなつは雪に興味津々でしたよね。さんごも、雪はあんまり見たことがなさそうでしたが、雪そのものよりも防寒着やケープ姿とかの雪国コーデにときめいていたんだろうなぁ。えりかちゃんの衣装デザインにも「上手〜!」って感動していました。

――その戴冠式での衣装デザインを巡って、ローラとえりかがぶつかってしまいました。

日高 まあ、そうなるよねって感じでした（笑）。えりかとローラって、似たもの同士ですからね。仲良くなればとことん仲良くなれると思うんですけど、性格的に「強いタイプ」同士だから、まずぶつかっちゃうのは必然かなぁと。でも、えりかさんが大人だったなぁって思いました。

ファイ 「ハトプリ」との共演という話を聞いた時から、私もえりかとローラは絶対ぶつかると思った(笑)。でも、相手に意地悪したいんじゃなくて、お互いに譲れないものがあるから衝突してしまったわけで。自分を強く持っている魅力的な人同士ゆえに、起こったんですよね。最終的にはそれぞれのあり方を受け入れつつ、仲直りできて良かったなぁ。

花守 この二人は「ケンカするほど仲がいい」みたいなコンビ感がありますよね。逆にまなつとローラって、ケンカしないデコボココンビの面白い空気感ですけど。ローラとえりかって、ある意味で主人公同士みたいな感じですよね。

瀬戸 ぶつかっちゃう二人の隣に、まなつとつぼみがいて本当に良かった。「まなつとローラ」「つぼみとえりか」名コンビですね。うまく補い合っていました。

石川 デザインを考えるシーンで、ローラが「ポイントはこの巻き貝よ!」って言ったら、まなつが「おお、巻いてるね!」って言うのも面白くて（一同・笑）。このやりとりが、もう『トロプリ』だなぁって。ローラは自分の好きなようにやって、それにまなつが同調して、みのりは「確かに目立つけど……」とボソッとツッコんで。そういう私たちらしい面白さが基本にありつつ、映画ならではの世界が広がっていくのが素敵だなって感じました。

ローラの選んだ今、一番大事なこと

――映画オリジナルキャラクターのシャロンの印象はどうでしたか?

ファイ 「プリキュア」の映画って、強大な敵をみんなで力を合わせて倒すお話というイメージがあると思うんですよ。でもシャロンは敵じゃないんですよね。寂しい気持ちがこじれて、歪んだ形になったけれど、本来は人との関わりを大切にしたい、愛情深い子なんです。お互いを大事に思っているからこそ、サマーたちは「あなたは独りじゃないんだよ」と愛を込めて戦っていて。そこが、この映画が異彩を放っているところだと思います。

花守 シャロンのデザインを見た時は、穏やかに微笑んでいる美しいお姫様って印象だったんです。でも松本まりかさんの演じる声を聴いた時に「微笑みをたたえているのに、なんて心が凍った声なんだろう!」という衝撃があって。会話は成立しているのに、どこか熱がない感じを、まりかさんが見事に声に乗せていて、それだけで泣きそうになっちゃいました。戴冠式で幸せな国民や家族に見守られて女王にな

せと・あさみ
4月2日生まれ／埼玉県出身／StarCrew所属／「呪術廻戦」（釘崎野薔薇）、「海賊王女」（フェナ・ハウトマン）ほか

ローラの成長ぶりが本当に嬉しい!

ひだか・りな
6月15日生まれ／千葉県出身／大沢事務所所属／「古見さんは、コミュ症です。」（山井 恋）、「恋は世界征服のあとで」（有栖川ハル／ピンクジェラート）ほか

る、そんな幸せの絶頂の直前に、一瞬にしてすべてを失ってしまったシャロン。でも、自分だけがもう一度仮初めの命をもらって、独りぼっちでいるという気持ちを想像したら……。一体私たちに何ができるんだろうかと、ずっと考えてしまいました。でもローラの、「シャロンと戦いたくない」気持ちこそが、「今、一番大事なこと」と背中を押すまなつが、本当に素敵で。ああ、やっぱり「トロピカル~ジュ!プリキュア」なんだって! そこからの「シャンティア~しあわせのくに~」の歌。物理的に救うことはできなくても、心の救済はありえるんだなって……。私の胸にもずっと残り続けそうだと、演じながら思っていました!

石川　シャロンは、「みんなのために笑顔あふれる国にしたい!」という思いがとにかく強くて。でも、その志を遂げることなく国が滅んでしまい、結果、切なる願いだけが残ってしまって、プリキュアと対立した。もしも、滅びる前にシャロンと出会えていたら、絶対に素敵な友達になれたと思うんですが……。寂しい気持ちはありますが、最後はシャロンにプリキュアの想いが伝わって、納得した上で消えていったと思うんです。お互いにとって、素敵な出会いだったなぁと感じますね。

瀬戸　シャロンは、とても人が好きな王女なんだなって感じます。初めてシャロンに謁見したシーンで、ちょっと失礼な態度をとってしまったまなつにも寛容でしたしね。滅びることなくそのまま女王になっていたら、国民にも慕われただろうなって想像します。ローラと心を交わし合うシーンも、とても素敵でした。

日高　シャロンが実はもうこの世にはいない存在だと知った時は、やっぱり衝撃でした。ローラは次期女王になりたい思いを強く持っているので、その一歩先を行っているシャロンには憧れを感じていたはずです。戴冠式でも、ローラは「ああ、すごいなぁ!」って感じで、目をキラキラさせて見ていましたし。そんなシャロンがまさか!? という感じで……。シャロンの寂しさが伝わってきて、とても切なくなりました。

主題歌に詰まっている感謝と幸せへの祈り

――ローラがシャロンから指輪を受け取るシーンも良かったですね。

日高　二人の関係性を、とても丁寧に描いてくれたと思います。立派な女王になりたいという、二人だからこそ理解し合える部分があって。だからローラは、シャンティアの歌を歌い継いでいく意志を固めたんです。少し強がった感じで明るく「だって、この私が歌うのよ」と言った後に、約束するように「絶対に、なくならない!」って……。そこに私もぐっときました。本当は悲しい気持ちのほうが勝っていたけど、その悲しさを見せないのがローラらしさだなと思いました。

――「シャンティア~しあわせのくに~」を歌ってみてどうでしたか?

日高　とっても感情移入できました。ローラのソロから始まって、そこにスッと『トロプリ』のみんなが入ってきてくれた時の、なんとも言えない温かいチーム感が素敵で! 難しい曲だったので、レコーディングでは最初緊張しましたが、実際に歌っていると、脚本を読んで臨んだからこそこみ上げてくるものがあって……。ローラだからこそ歌えるものを、気持ちを込めて歌わせていただきました。

花守　ローラが軸となって、シャロンの凍った心を温めるような歌なんです。そんなローラの背中をトロピカる部4人が押しています。レコーディング前は、現場間を移動する時もいただいた仮歌をずっと聴きながらだったんですけど、本当に涙が出てくる歌だなぁと。感謝と幸せへの祈りがたくさん詰まっている曲です。私のレコーディングは後ろのほうだったんですが、ローラの独唱がぐっと心に刺さるというか、心が溶かされるというか……もうローラ、大好きです!

日高　嬉しい! ありがとう!

石川　本当に素敵な曲で、メロディだけでもおとぎ話の世界に入ったかのようです。心にスッと入ってくる、キラキラとした温かいものがジワッと染み渡っていくような歌だと思います。レコーディングではハモリが大変でしたが、出来上がったものを聴いたら、みんなのハモリがとてもきれいに混じっていて。お客さんの心の中にも永遠に響き続けるものになるんじゃないかと思います。

ファイ　劇中で流れるものとEDで流れるものは、歌詞もメロディもほぼ同じなんですけど、アレンジが違っていて。劇中歌のほうは、特にシャロンの心を溶かすような慈愛に満ちた歌です。普段のまなつの「イェ~イ!」みたいなテンションではなく、優しい愛で歌わせていただいたので、どうか温かい気持ちになってほしいと思います。EDのほうは、ついつい一緒に踊り出したくなる軽快な歌です。2曲の違いを楽しんでもらいたいです!

瀬戸　とにかく、ローラの天使の歌声に寄り添うようにみんなが集結していく、終盤にかけての盛り上がりが最高な曲です!(びしっとサムズアップ)

――ラスト、商店街の青空ソング大会に出場する時に、ローラが「私の歌じゃない。私たちの歌よ」と言うのが、この映画でのローラの成長を象徴するように感じました。

日高　まさにそうです! TVアニメを含め、本当にローラの成長って著しくて……。ローラって「自分の夢のために」が一番に来がちな子ですけど、まなつたちに出会って、シャロンとも出会って、どんどん内面的に成熟しているんです。そして最後の「私たちの歌よ」。この成長ぶりは、ローラを演じている私としても本当に嬉しかったです。

――最後にファイルーズさん、この映画の見どころをお願いします。

ファイ　これまで常夏スタイルだった「トロプリ」メンバーですが、映画では冬の装いが楽しめます。それぞれ個性あるファッションなんですよ。さらに戴冠式での衣装やステージ衣装もあります。どれもこの映画だけの服で、とってもかわいいので、ぜひ注目してもらいたいです!

ずっとかわいく、最後まで癒しの存在で

くるるん役 田中あいみ

――まずは、『トロプリ』への出演が決まった時の気持ちをお聞かせください。

田中　もともとキュアサマー役でオーディションを受けていたのですが、のちにくるるん役も受けさせていただきました。くるるんのイラストに一目惚れして、「絶対やりたい！　とことんかわいい、海の妖精さんにしてあげる！」という気持ちでオーディションに臨んだことを覚えています。私は海の生き物が好きで、水族館によく遊びに行っていたので、今回のシリーズは特に参加したいという思いが強かったです。「プリキュア」シリーズのオーディションは何度か受けさせていただいていたこともあり、決まった時の喜びはひとしおでした。結果の連絡をいただいた時は、嬉しくて泣きました。声優として、どうしても関わってみたい、目標の一つである作品だったからです。任せていただけて、大変光栄でした。

――くるるんの第一印象はどうでしたか？

田中　ピンク色でハートのモチーフ、まぁるいフォルム、もきゅっとしたお口。どこに注目してもすべてがかわいらしい妖精さんだなぁと思いました。オンエアで動いているシーンを観たら、仕草や効果音のおかげでかわいさがもっと増していて嬉しくなりました。思わず抱きしめたくなる、愛らしいペット感がたまらないです！　初回の収録で、「歴代シリーズでも異例のポジションの妖精です。戦闘に参加したりせず、緊迫したシーンにはあまり登場しません。くるるんはとにかくずっとかわいく、最後まで癒しの存在でい続けてください」とのディレクションがありました。どの一言を聞いてもかわいいと感じていただけるよう、かわいさ全振りでお届けすることを心がけています。

――セリフは全部「くるるん」で、人間の言葉を一切喋りません。これもプリキュアの妖精としては珍しいパターンですね。

田中　オーディションの時点でセリフがなく、当時はすべて「くぅ」で喜怒哀楽を表現してくださいというような内容でした。なので、人間の言葉を使わない妖精さんだということは知っていたのですが、役が決まった後、正式に鳴き声が「くるるん」になることを教えていただきました。言葉が通じない分、ジェスチャーで頑張って伝えてくれるところが好きです。

――喜怒哀楽を「くるるん」だけで表現する上で、気をつけていることは？

田中　台本上、セリフは「くるるん」と表記されていて、その後にカッコ書きで意味が付け足されている時といない時があります。なので、どの「くるるん」にも自分なりに翻訳を書いてから映像チェックをするようにしています。テンションや雰囲気が話の流れにぴたっと当てはまることを意識しているのですが、たまに日本語のイントネーションに近づけてみたりもしています。なるべくいろんな「くるるん」をお届けしたいので、ニュアンスもしっかりつけて「くるる↑~~~ん♪（わーい）」「くぅるる~ん……（そんなぁ）」「く~う、くるるん！（ねぇ、ローラ）」など細かく決めて収録に臨んでいます。くるるんはのんびりまったりがベースにあるので、驚きも鋭すぎず、落ち込みも下げすぎず……絶妙なラインを狙うように心がけています。

――同じグランオーシャン出身のローラより、みのり（パパイア）とのほうが意思の疎通ができている気もします。

田中　私、ローラだけはくるるんが何て言っているか全部分かってくれると存在だと思っていたんです。なので、初登場時、まさかの何も伝わらないシーンにはとても驚きました。みのりがいてくれて本当に良かったです（笑）。すっかり仲良しになったかと思いきや、TV 第 29 話ではパパイアに誤射されたりして……ちょっとかわいそう……コーラルしか心配してくれてなかったですし（笑）。でも、その後けろっとしていたので、「くるるんって、もしかして防御力高いのか !?　パワーアップアイテムくるるんへの伏線 !?」って思ったりしていました。

――くるるんを演じていて、特にかわいいと感じるシーンを教えてください。

田中　くるるんは、寝ているシーンと食べているシーンがちょこちょこ出てくるのですが、それがとってもかわいいんです！　第 36 話の、女王様が話している横でふわふわ流されながら寝ているくるるんとか、第 30 話の、みんなと一緒にお昼ご飯中すっごく美味しそうに食べているくるるんとか。それから、第 15 話で横断幕のはじっこに置かれて、文鎮にされているくるるんには笑いました。第 29 話や第 31 話でみんなに忘れられちゃったくるるんにも。ちょっとかわいそうだけど、やっぱりギャグシーンで描かれるくるるんはかわいくてお気に入りです。第 20 話ラストで、メロンパンを冷蔵庫にしまったことを頑張って伝えた後、ちっちゃく反省して撫でられているところや、その後ぬいぐるみのフリをするところとかも、くるるんらしさが出ていていいですよね。

――最後にファンへのメッセージを！

田中　いつも『トロプリ』の応援ありがとうございます！　最終回まであと少しとなり、どんなラストを迎えるのかわくわくする気持ちと、終わってしまう寂しさに揺れています。くるるんのこと、登場するたびに「かわいい」って言ってくださる皆さんの言葉に励まされて、毎回楽しく収録してきました。プリキュアにも変身できましたし（夢だったけど！）、あとはプリキュアのピンチに颯爽と現れてパワーアップさせてあげる妖精らしい役目を担えたら、もう思い残すことはありません。が、果たしてそんなシーンはあるのでしょうか !?　あってもなくても、ぜひ最後まで見守ってあげてください。くるるるっるる~ん♪（トロピカってこ~！）

くるるん

秋映画では、シャンティア王国で気ままに別行動。でも、地下牢に囚われた「ハトプリ」チームを助ける際には、偶然ながら、牢の扉を開けるヒントを示すお手柄も！

やる気パワーいらっしゃ〜い

あとまわしチーム座談会

「あとまわしで満ちた世界」を目指す、あとまわしの魔女とその召使いたち。ほのぼの憎めないメンバーが、今日も和気あいあいと「やる気パワー」を狙っている!?

バトラー役
小松史法
こまつ・ふみのり
7月23日生まれ／東京都出身／フリー／『憂国のモリアーティ』(ジョージ・レストレード)、『バイオハザード RE:2』(マービン・ブラナー) ほか

チョンギーレ役
白熊寛嗣
しろくま・ひろし
8月4日生まれ／神奈川県出身／ぷろだくしょんバオバブ所属／『キングダム』(岳雷)、『ディープインサニティ ザ・ロストチャイルド』(アイスマン) ほか

ヌメリー役
渡辺明乃
わたなべ・あけの
11月18日生まれ／千葉県出身／大沢事務所所属／『爆丸ジオガンライイジング』(ピンチタウラー)、『かいじゅうステップ ワンダバダ』(ゴモちゃん) ほか

エルダ役
高垣彩陽
たかがき・あやひ
10月25日生まれ／東京都出身／ミュージックレイン所属／『のりものまん モービルランドのカークン』(カークン)、『Gのレコンギスタ』(マニィ・アンバサダ) ほか

ヴィラン度の低すぎる召使いのファミリー感

——4キャラとも、ずばり海洋生物モチーフですが。

白熊 チョンギーレの絵を見た瞬間「見るからにカニだ!」って思いましたよ(笑)。でも、「かったり〜ぜ」って俺も普段から言っているし、こういうゴツいキャラはよく演じているので、とても親近感がわきました。

——演じる上ではどのように?

白熊 最初はやっぱり、「プリキュアにやられるべくして出てくる存在」として、第1話のアフレコに臨んだんです。なので、テストでは分かりやすく怖そうにやったんですよ。そうしたら「もっとやる気のない感じでお願いします」ってディレクションが入って(一同・笑)。それからは「ああ、かったり〜」専門です。

渡辺 ヌメリーも「もっとユルく」って言われました(笑)。最初は敵側のドクターだから、攻撃的で妖艶な美女風にやってみたんですよ。それが、どんどんユルくなり、今や「あらあら、やだやだ〜」みたいなお姉さんに(笑)。プリキュアをぐいぐい攻める時もありますけど、当初想定していたヴィラン度合いから言ったら、何もないくらい。

白熊 もはや、敵役としてホネヌキになってるよね。

渡辺 そういえばヌメリーはナマコモチーフだそうですが、ずっと自分は分かっていなかったんです。水族館の回で、ローラに「ナマコ?」って言われたんですが、それまでは、ウミウシかなあと思っていました(笑)。

小松 僕も、最初はバトラーがタツノオトシゴだって気づいていなかったです。タキシードを着た「敵役の執事」をどう演じていくかに焦点を定めていて。タツノオトシゴだって気がついたのは、収録が始まってからです。

高垣 顔のインパクトに持っていかれた感じですかね?(笑)

小松 そうかもしれません(笑)。「表情は変化しません」と設定画にあって、なかなか表情がつかめないなぁ、セリフでニュアンスを出さないといけないなぁ、とか考え込んでいました。

高垣 私のエルダちゃんの第一印象は「ちっちゃいエビだ! かわいい!」でした。事務所から「敵役に決まりました」と連絡が来て、私は勝手に大人の女性を想像していたので、「かわいい声、出るかな?」ってドキドキしちゃいました。

渡辺 大丈夫、出てる出てる♪

高垣 ありがとうございます。ヌメリーやチョンギーレとのやりとりを見ても、エルダちゃんは明らかにかわいがられていますよね。最初のアフレコの時に、「何か裏があって、子どものふりをしているだけなんですか?」って、スタッフさんに尋ねたところ「純粋に子どもで演じてください」と言われました。

白熊 ああ、それ覚えてる。確かに訊いてたよね。

高垣 なので、先々どうなるかは分かりませんが、私のお芝居としては、とにかく楽しく子どもらしく、ですね。バトラーさんやあとまわしの魔女様は分からないですけど、私たち3人については、特別人間を恨んでいるとか、滅ぼしたいとかはないんですよ。

渡辺 ないよねー。

高垣 お仕事だから、面倒くさいけど行く感じなんです。エルダちゃんの場合は、「みんなが楽しそうにしていてムカツク」みたいな感じでヤラネーダを出すこともありますが、私としてはあまり悪の存在とはとらえていなくて。

白熊 チョンギーレも、悪人というより料理人だからな。戦闘中も、食材の煮込み時間がきたからって、戻っていきましたから。本業はそっち(笑)。

高垣 とにかく、想像以上にファミリーでした(笑)。

——バトラーは、あとの3人とは少し立ち位置が違いますよね。裏を知っていそうな雰囲気も匂わせています。

小松 意味ありげなことも、ときどき言っていますしね。やる気パワーを集めると願いを叶えられるとのことで、そこにバトラーの企みがあるのかなと考えたりしています。

高垣 バトラーさんは結構、怪しい雰囲気も出していますよね。

小松 そう、意味深なアップショットがあるよね。

渡辺 でも、すぐに日常の「行ってきてください」に戻っちゃう。

小松 「魔女様の側近」の雰囲気はあまり出さないでほしいと言われています。なので、3人に対しての「〜ですね」とか「〜してください」といった語尾も、あまりイヤミにならないよう注意していますね。

3人のほっこりぶりはまるで父・母・娘!

——とても愉快なキャラクターたちですが、皆さん演じる際に、愛嬌や家族感は意識しているのですか?

白熊 いや、台本通りにやっていると、自然とかわいさが出てくるというか。

渡辺 とっても愛おしい存在ですよね。スタッフさんから特別なディレクションがあったわけじゃないんですよ。

高垣 そうですよね、台本のおかげです。我々も毎週台本を見て「今回の3人も尊すぎるっ!」って。

白熊 むしろ、こんなにいい人っぽくて、プリキュアが恨まれたりしちゃわない? 大丈夫? とか思ったりもして(笑)。たとえばエルダちゃんがお人形のふりをする話とか。

渡辺 あれは胸キュンだったよね。

高垣 流星群を3人で見たのも尊かったですよね。

渡辺 ね〜!

白熊 もう、どう見てもチョンギーレがパパ、ヌメリーがママ、エルダちゃんが娘でしょ!

高垣 収録中も「パパ頑張ってるね! ママ優しいなぁ!」って、お二人とやりとりしているんです。演者の和気あいあい感も、演技に出ているのかもしれません。

白熊 ただ、バトラーさんは家族じゃないんだよねぇ。

小松 ……ですねぇ(苦笑)。

高垣 バトラーさんは、上司ですから。

小松 魔女様に仕える一方で、チョンギーレたち3人にはやる気パワーを集めるよう命じる、中間管理職みたいな立場ですね。というか、3人の尻たたきに精を出しすぎて、やる気パワーを集めることを実は後回しにしているんじゃないかって、ときどき思います。

3人 確かに!(笑)

小松 バトラーは自分ではやる気パワーを集めに行かないでしょ? いつ

バトラー
あとまわしの魔女の執事。やる気パワーを人間世界に奪いに行くよう召使いに命じているが、毎度言うことを聞かせるのにひと苦労

いかにうまくエサを撒いて、この人たちをその気にさせるか

も「皆さん順番に」ばかりで。とにかく3人とはフレンドリーな間柄にはならないよう気をつけています。でも僕自身は、皆さんの和気あいあいとした中に加わりたいです！（一同・爆笑）
白熊　そうだったんだ！（笑）
小松　お人形のふりをするエルダちゃんもすごくかわいかったし、ヌメリーさんもチョンギーレさんもいつも楽しそうでいいなって！　でもバトラーとしては、あくまでもサバサバした感じでやらないといけないので……。
渡辺　魔女様役の五十嵐麗さんも、このキャッキャウフフの家族っぽさを見て「私もそっちに行きたい。私、いつも独りぼっちで寂しい！」っておっしゃっています（笑）。

チョンギーレの持ち場である厨房。隣にある居間でヌメリーやエルダとよくダラダラしている

チョンギーレ
あとまわしの魔女に仕える料理人。一番最初に、人間の世界にやる気パワーを集めにきた。「かったり～」と口癖のようにぼやいている

文化祭の屋台ではやる気パワー出すぎ！

——バトラーは、3人に小言を並べることも多いですよね。

小松　芝居的には、叱りつけるより「何やってるんですか、皆さん」って呆れ気味な感じですね。ただ、感情を出していいところと、そうじゃないところの線引きが難しくて。声のボリュームも、あまり強く出してもいけないし。
高垣　バトラーさんは、どうしたら私たち3人が仕事に行ってくれるかを常に考えていて、飴と鞭を使い分けている感じがあります。
小松　うん、ありますね。
白熊　だから大変な立場の人なんだよ。
小松　そう、任務に忠実なので。夏休みにしても、いかにうまくエサを撒いて、この人たちをその気にさせて動かすか！（一同・爆笑）
白熊　でも、とりあえず出撃すれば成否に関係なく夏休みをちゃんとくれるのが、ものすごくクリーンな職場ですよね？
渡辺　そう、とってもクリーン！
白熊　さすがバトラーさんの差配です！
小松　そうでもしないと、皆さん行ってくれないのでね（笑）。だからいつも「やれやれ」ですよ。やる気パワーが集められないことに「やれやれ」じゃないんです。3人がなかなか動いてくれないことに「やれやれ」なんです。まぁ、本編であまり描かれてないだけで、成果が上がらないことの小言も多いのかもしれませんが、とりあえず行く気にさせるまでのやりとりを見せている感じですね。「この人たちは、何で行ってくれないんだろう？」って。
白熊　だってかったり～んだもん！
渡辺　それにつきますよね。
白熊　バトラーが部屋に入ってくるシーンは「チッ」ってなるもんね。
高垣　私たちからしたら「邪魔される～」って感じです。
白熊　そうだよ。せっかく、のんびり家族団らんを楽しんでいたところなのに！
小松　「うるさいのが来やがった！」って？（笑）

——バトラー自身の戦いでは、第17話で逃げ出したローラを追った時に、初めて戦闘的な技を披露しました。

小松　あれが初めての戦闘シーンで新鮮でした。でも、自分としては抵抗感なく、スッと戦えましたね。「あ、バトラーって意外と強いのかな？」って思いました。せっかくなので、その話数から先も、悪そうなところを少しは出そうかと思ったんですが、やっぱりスタッフさんから止められました（笑）。

——でも、わずかなシーンでしたが、「すごい実力者なのでは？」という印象が残りました。

小松　直近の第37話もそうですが、バトラーがこれまで見せなかった一面を出す時って、すごく意外性を感じますよね。第17話でバトラーの凛々しい一面も分かったので、お芝居のストックが増えた感覚はあります。

腕を振るうチョンギーレ　オシャレなヌメリー

——先ほども少し話が出た、第19話のエルダ回についてですが。

高垣　まず、こういうお話がくるとは思っていなくて……。
白熊　みんなびっくりしたよね。
高垣　こんな形でプリキュアとやりとりできるとは！　この第19話の収録は、まなつとのシーンはファイルーズあいちゃんと二人で、楽しくやれました。
渡辺　そうだったね。
高垣　ファイルーズちゃんとはあまりゆっくりお話したことがなかったので、キャスト同士も「未知との遭遇」で、まさに初めて言葉を交わす二人って感じでした（笑）。物語の中で一番印象に残ったのが、話していた相手がプリキュアだと分かった時のエルダちゃんの表情です。「自分とは相容れない人だったんだ」と気がついた感じがあって。そこから、エルダちゃんの人間性……まぁ人でなくエビなんですけど（笑）、みたいなものも見えて。この回はエルダちゃんからまなつへの想いはもちろんのこと、その後に二人が迎えに来てくれたシーンもかわいくて！
白熊　かわいかったよね！
渡辺　もう尊いの！
高垣　エルダちゃんが「おなか痛い！」って嘘をついて、プリキュアへの攻撃を止めさせるんですよね。で、二人とも心配して「すぐに帰らなきゃ！」みたいな感じで慌てちゃう！
白熊　最高の尊いポイントです!!
白熊　撤退決めるの、早かったもんなぁ。ヌメリーが「すぐに帰るわよ！」って。

——独りぼっちのお人形を一緒に連れていってあげたのも、優しいですよね。

高垣　そうなんですよ！
渡辺　ね！　これからもお屋敷で一緒なんだよね。
白熊　そこがまた尊いんだよね！
高垣　スタッフさんからは「ここで、まなつやプリキュアに対して大きく気持ちが変わるわけではないです」とは言われたんです。でも、エルダちゃんの中では特別な時間として残っているはずだし、だからお人形を連れ帰ったんだと思うんです。お人形ももう寂しくないですし、本当にいいお話でした。

——授業参観回の第25話は、ヌメリーの保護者っぽさも出ていました。

渡辺　（しみじみと）そうなんですよ～。
高垣　エルダちゃんに一緒についてきてくれて。
白熊　完全にお母さんだったよね。
渡辺　こんなに母性が出ていて、敵キャラとしていいのかな（笑）。でも「母性感を抑えてほしい」とかのリテイクもなかったですしね。「もうどこまでもエルダちゃん好き好きになっちゃいますけど、いいんですね!?」という感じで。
白熊　そうだそうだ！
渡辺　うちのエルダちゃんが一番かわいいですからね。うふふ。

——チョンギーレの活躍では、第28話の文化祭。シェフの腕前を遺憾なく発揮していました。

白熊　いか焼き、本気で作ってましたね！　もう料理ならまかせろって感じでしょう。しかもシーフードとなれば、「こりゃちゃんと作らないと！」って。柔道部員に持ち上げられて屋台に連れ

うちのエルダちゃんが一番かわいいですからね

ヌメリーの持ち場である医務室。同僚がケガをした時などはここで診療する

ヌメリー
あとまわしの魔女に仕えるドクター。パッと見は妖艶だが、エルダを膝に乗せてかわいがるなど、アットホームな雰囲気で愛情深い

「今回の3人も尊すぎるっ！」ってなっています

エルダ
あとまわしの魔女に仕えるちびっ子メイド。無邪気な性格で、いたずらっ子な面もある。子ども扱いされないとプンスカしてしまう

て行かれた時は「おい！」ってなっていましたけど、作り始めたら誰よりもやる気満々で。やる気パワー出すぎだろ（一同・笑）。

—次の回で、トロピカる部が人気出展2位だったと語られましたが、脚本によると、1位はいか焼きで大繁盛した柔道部だったそうですよ。おめでとうございます。

渡辺 チョンギーレのおかげで1位だったんだ！

白熊 当然だよ！ シェフですからね、私は。わははは！

—ヌメリーについては、衣装替えもありますね。第31話では車掌に変装していました。

渡辺 下半身のナマコ部分が全部出ていて、バレバレ。でもそこがかわいい。

白熊 ガッツリ見えてたもんね（笑）。

渡辺 セリフとしては、ヤラネーダでどうこうって、結構物騒なことを言っているのに、なぜかあすかの座席でおみかんをモグモグ。

—第32話でも、一瞬ですがドレス姿に変装していました。

渡辺 あの時はファッションショーにやる気パワーを取りに行くのに、バトラーさんにおだてられて。「こんなことを頼めるのは、ヌメリーさんだけなんです！」なんて。

小松 はい、おだてました（笑）。

渡辺 それで珍しくやる気を出して、フリフリのドレスを着ましたが、でもやっぱりナマコの足はそのまんま？

—一応隠れてはいましたよ（笑）。

渡辺 とにかく最近のヌメリーさんは自由です（笑）。演者としてはたまらなく楽しいですね！

あとまわしの魔女たちのグッズも出してほしい

—続く第33話が、またものすごい話でした。

渡辺 ショートコント集！

白熊 あれは面白かったねぇ！

高垣 チョンギーレさんが一番大活躍でしたね。

渡辺 チョンギーレの体がさんごちゃんと入れ替わっちゃった（笑）。

白熊 リアルに考えたら、体が入れ替わったとしても意識して高い声で喋ったりしないだろうと思ったんです。なのでテストでは、見た目はさんごちゃんだけど声はいつものチョンギーレ……つまり低い声で喋ったんです。そうしたら、「高めの声で喋ってください」って（笑）。確かに、アニメを観た子どもたちがすぐ分かるようにやらないとダメですよね（笑）。

—つまり、花守ゆみりさんのかわいい芝居に寄せたんですね。

白熊 はい。俺の声だから、気持ち悪い感じになりましたよね。わははは！

—そして第34話は、エルダが家出しちゃいました。

渡辺 超かわいいよね。

高垣 チョンギーレもヌメリーも、エルダちゃんは帰ってくるって分かってるのが、またいいですよね。

渡辺 お父さん（チョンギーレ）はヤラネーダの素を届けに行くし！

高垣 そう、うまく帰れるように背中を押してくれて。お母さん(ヌメリー）は迎えに来て、そっとやる気パワーのたんす貯金を渡してくれて、胸で泣かせてくれて……。

渡辺 そうなの！

—家出の最中に寂しくなったエルダが、お菓子を3人で一緒に食べたいと思ったり。

渡辺 「あげたら喜ぶかなぁ」って。もうね、涙が出ちゃう！

白熊 尊くて仕方ないよ！

高垣 帰ってから、二人にちゃんと渡したんだと思います♪

小松 （ぼそっと）バトラーにはくれないんだろうなぁ。

高垣 バトラーさんへのお土産はないです！（笑）

渡辺 手にしていたのは2つだけだったもんね。そもそもバトラーとケンカして家出したわけだから（笑）。

—では、皆さんから見て、あとまわしの魔女の印象は？

小松 まだよく分からないんですが……「寝ている人」って感じ？ あくびがすごいなぁって。バトラーはあくびでビビってますからね。「ひぃぃ！」って（笑）。

—3人もちゃんとお仕えはしているわけですよね。

渡辺 はい。ヌメリーは診察に行っています。

白熊 俺も魔女様の食事を作っていますし。

高垣 エルダちゃんはお掃除かな。「(もしプリキュアのことを話したら）バトラーにお仕置きされちゃうもん」と言っていたのは、魔女様のお部屋のお掃除から戻った時でした。「プリキュア」がNGワードって、演者の私たちもそこで初めて知ったんです。

渡辺 ね。そうだったんだ〜って。

高垣 だから、魔女様はまだまだ謎の部分が多い人です。しかも魔女様のビジュアルって結構怖いですよね。見た目は一番ヴィランっぽい感じがします。でも人間を苦しめてやろうというよりも、ご本人が苦しんでいて。

白熊 そうなんだよね。

高垣 だから、何かすごいものを抱えているのかもしれません。

—最後にファンへのメッセージをお願いします。

白熊 あとまわし勢のファンの皆さん、俺らあとまわし勢は、早く我々のグッズを作ってほしいと、ずっと声を上げております！

全員 （拍手）

白熊 チョンギーレならハサミ、ヌメリーさんは糊、エルダちゃんはホッチキス、バトラーさんは鉛筆のキャップかコンパスかな？ とかアイテアを出し合っています。皆さんにも、「グッズが欲しい」とぜひ声を上げていただきたい。我々はダラダラしながらも、やる時はやります！

高垣 皆さん応援ありがとうございます。エルダちゃんはたまにダジャレを言いますけど、最初は台本に書いてあったんです。「イカすイカスミすいか」や「エビューン」も台本にありました。それを見て「あ、ダジャレ言っていいんだ」って思って、私のアドリブも増えていきました（笑）。私はエルダちゃんが大好きです。「エルダ」とか「エルダさん」ではなく、ぜひ「エルダちゃん」と呼んでくださると嬉しいです！

渡辺 先のお話、どうなるんでしょうね。今のこの家族感がすごく好きなので、万が一倒されちゃったりしたら……それも一人ずつ倒されていく形になったら、ちょっと耐えられないです！ もしいなくなるなら全員一緒がいいし、なんならもうこの先は戦わないで、予告編の後のミニコーナーとかで家族団らんを描いてくれるだけでもいいです。

白熊 そうね。「一方その頃」みたいな感じで（笑）。

渡辺 仲良くのんびりほんわかと、平和なエンディングを迎えられるよう、祈っていてください！

小松 個性あふれる、あとまわしの魔女一味ですが、僕としてもここから魔女様とどう関わり合いを持っていくのか、バックボーンがどう描かれるのか本当に楽しみです。これからも思いきり演じたいと思います。そしてバトラーのグッズも、ぜひお願いします！

白熊 そこは大事ですね！（一同・笑）

あとまわしの魔女と召使いたちが暮らす深海の屋敷。城のような大邸宅で、地下牢などもある

あとまわしの魔女役 五十嵐麗

屋敷の仕事とやる気パワー集め、お疲れさまです

—役が決まった時のことを教えてください。オーディションなどはあったのですか？

五十嵐 オーディションはありませんでした。うちの事務所の女性タレントみんなが「プリキュア」に出たい！」とオーディションを受けているので、ちょっと申し訳ないな〜♪♪と、ほくそ笑みました（笑）。

—あとまわしの魔女の第一印象は？ なんでも後回しにするという基本設定にはどう思いましたか？

五十嵐 耳の痛い設定だな、と。ビジュアルから、女王蜂のような、絶対的な存在感も感じました。

—あとまわしの魔女は、怒りや苦悩のようなシリアスな芝居が多いと思うのですが。

五十嵐 ものすごいエネルギーを出しつつ、同時に押さえ込むように演じています。が、ちょっと力が入りすぎると「もっとやる気なくお願いします」と言われます（笑）。

—第1話のラスト、プリキュア出現の報告に一瞬怒りを露わにしつつも、「明日にするわ」と面倒くさそうに寝てしまいました。

五十嵐 この言葉、毎日使いたい！

—第17話では悪魔のささやきのように、「人間になりたいんだろう？」とローラに語りかけましたが。

五十嵐 あとまわしの魔女は、良かれと思って言っています（笑）。自分の力で突き進んで行くローラの強さはカッコいいですね！

—第29話では謎の少女の夢にうなされるという、今後の伏線的なシーンが出てきました。

五十嵐 私も少女の正体を知らされていなかったので、「知りたい！」という素直な気持ちで演じました。

—あとまわしの魔女に仕える面々を見て、どう思いますか？

五十嵐 とってもキュートなキャラクターたちです。オフの姿を知りたくなります。なんだかんだでバランスがとれていて、家族のよう。屋敷の仕事とやる気パワー集めのWワーク、お疲れさまです。転職は考えないの？

—召使いたちを演じるキャストの印象は？

五十嵐 吹き替えの現場で一緒になる方も多く、大人の解釈がチラ見えして素敵です。

—プリキュアメンバーの中で、気になるキャラはいますか？

五十嵐 くるるん！ すべてがかわいすぎます！ そばにいてくれたら、いつも笑顔でいられそう。

—最後にファンへのメッセージを。

五十嵐 あなたも一緒にやる気パワーを集めませんか。Wワークもできて夏休みもとれます。バトラー宛に履歴書を送ってください（やる気のある方、優遇）。

あとまわしの魔女
深海のお屋敷に住む魔女で、身を横たえて過ごしている。やる気パワーを集めて「愚者の棺」を解放し、不老不死を得ようとしている

それでも面白く作れるか

独特のギャグ表現と、さりげなく深いドラマ性がお得意の土田さん。既存の伝統の枠組みの中でいかに面白くするか、果敢に挑戦し続けているようだ。

TV

シリーズディレクター
土田 豊

「プリキュア」は今絶賛堕落中!?

——土田さんはこれまでも「プリキュア」シリーズに参加してこられましたが、今回シリーズディレクターの話がきて、どう思いましたか？

土田　参加初期のことは細かく覚えていないのですが……正直難しいと思いました。私が「プリキュア」シリーズを俯瞰で見た時に思い浮かべるのが、「ウルトラ」シリーズのデザイナー・成田亨さんの言葉です。「新しいデザインとはシンプルなものであり、人はそれができなくなると複雑化させて堕落する」という意味のことをおっしゃっています。これは「ウルトラ」同様、長期シリーズである「プリキュア」にも（キャラクターデザインのことではなく総合的に）当てはまるでしょう。「プリキュア」シリーズは、スタッフの意識の如何に関わらず、絶賛堕落中だと私は思っています。その中心に近いところに立たされた時に、「新しいプリキュアが作れるか？」「堕落を打破できるのか？」というと、少なくとも自分には難しい。制約が多い中、細かい部分で新鮮味を探るという、閉塞感漂う仕事になることは目に見えていました。しかし、結局は「面白いかどうか」が問題です。大枠で新しさがなくても、面白くすることはいくらでも可能。ならば、やってみようと思いました。

——この作品を象徴する、まなつの口癖「トロピカる」は土田さん考案とのことですが。

土田　主人公の口癖がネガティブというのはありえないので、まずはポジティブであることを考えました。試しに「トロピカル」を動詞化してみたら、（シリーズ構成の）横谷（昌宏）さんにウケてしまった記憶があります。

——まなつは、やや幼児っぽい元気さがある子ですね。土田さんが直接絵コンテ・演出を担当した第1話や、貝澤幸男さんのコンテ回が顕著ですが、ガニ股気味だったり、鼻水を垂らして泣いたり。

土田　中性的な主人公のほうが、おっさん的には動かしやすいです。鼻水等の描写が貝澤さんと共通しているのは、貝澤さんが合わせてくださっているのではなく、私が演出助手時代に貝澤さんの影響を受けているからだと思います。

——まなつの相方・ローラが、ちょっと生意気で高飛車な性格なのも、土田さんのこだわりだそうですが。

土田　当初は真面目なキャラを想定していました。でも横谷さんから、「そういう性格だとシリーズ中盤まで自分だけ変身できないことが、本人も視聴者もつらい」という指摘を受けまして。ならば、変身できないことを気に病まない、ふてぶてしいキャラがいいと思いました。それに、性格の悪さが面白さにつながるようなキャラが、私は好きなので。

——全編ギャグシーンが多いですが、それらはシナリオをベースにしつつ、各話の絵コンテにお任せなのですか？　それとも土田さんのほうでも膨らませているのですか？

土田　私から提案したものもありますが、第3話のマネキンチョップは佐藤順一さん、第4話のアクアポットから首だけ出ているローラは宮元宏彰さん、第5話の「使ってまーす」は大地丙太郎さん……というように、各演出（コンテ）さんのアイデアもあります。ただ、ギャグアニメではないので、特に膨らませようとはしていません。膨らませてこの程度では、話にならないので……。

——面白技も多数あります。たとえばキュアパパイアのイヤリングをメガネ風にしてビーム発射する攻撃は、土田さんのアイデアだそうですね。

土田　当初から、各プリキュアの戦法に特徴が欲しいと思っていました。パパイアはチャームポイントである目を使った技です。イヤリングを横に倒したら目の形に見えるので、これを使おうと考えました。ちなみにパパイアについては、TV初登場の第4話よりも、春の短編映画（『映画トロピカル～ジュ！プリキュア プチ とびこめ！コラボ♡ダンスパーティー！』）のコンテ作業が先行していたんです。短編映画の大塚隆史監督に「何かパパイアの戦い方に特徴はないのか」と言われましたが思いつかず、結局映画には盛り込めませんでした。

——コーラルは指をバツの字に組んで「×」のバリアを展開しますが、これもそうですか？

土田　アイデアは私です。

——フラミンゴの個人の決め技は「ぶっとびフラミンゴスマッシュ」で、今思うと、いかにもテニスプレイヤーの技ですね。

土田　最初から、あすか＝元テニス部は想定していました。

——初の5人技「ランドビートダイナミック」が、象の跳び蹴りなのには驚きました。

土田　「ランド→地上」「地上最大の動物→象」「ダイナミック→跳び蹴り」という発想です。続く「マリンビートダイナミック」も同じ考え方です。裸足でステップを踏むカットは、「ランドビート→地面と足を使った芝居」という発想でした。

敵たちの空飛ぶ舟は舟盛りのイメージ

——第29話に伝説のプリキュアが登場しましたが、キャラクターデザインの中谷友紀子さんにお願いしたことは？

土田　トロピカルでオアシスで、5人より少しお姉さんで、髪型に素敵なサムシング、というオーダーでした。かわいさと面白さのある、魅力的なデザインにしていただけました。この伝説のプリキュアとあとまわしの魔女がどういう関係なのかは、私からおおまかな案を初期に出したと思います。

——敵側のボスが魔女なのは、やはり『人魚姫』モチーフなのですか？

土田　当初はもっと『人魚姫』を意識したキャラや物語にする案がありました。ただ、ことさら『人魚姫』を礼賛or批判する作品にしても仕方がないと我に返り、現状の形になりました。

——あとまわしの魔女の手下であるチョンギーレ、ヌメリー、エルダ、バトラーは、ほぼ土田さんのラフ画通りとのこと。憎めない、ゆるキャラ方向で考えたのですか？

土田　これまでヒーローもので、敵幹部のいがみ合う描写を腐るほど見たり描いたりしてきました。でも、敵幹部の醜い争いを描いたところで、楽しくありません。やる気がないという設定でもあるので、必然的にゆるくなりました。あとまわしの魔女については、上半身はほぼ人間型、下半身は『スター・ウォーズ』のジャバ・ザ・ハット風、というおおまかな案を中谷さんに出しました。

——彼らが出撃する時に、空飛ぶ舟に乗っていくのは、海の乗り物だからですか？

土田　料理の「舟盛り」のイメージです。チョンギーレたちは海鮮物モチーフなので。

——では、彼らがやる気パワーを集める時に、ドーム型結界が展開されるのはどういった経緯で？

土田　今作は、ヤラネーダ出現時にプリキュアが離れた場所にいることが多いんです。それで、敵の出現とその位置を察知しやすくするために設定しています。

——まなつたちの住むあおぞら市もユニークです。単なる南国のビーチサイドではなく、水路が張り巡らされていますね。

土田　「人に見られてはいけない、かつ歩けない人魚ローラが、街の中を自力で移動しやすいように」という意図がありました。実際に第1話、2話、10話などで、ローラは水路を利用しています。

——第36話で、ローラの故郷・グランオーシャンの町並みも出てきました。

土田　グランオーシャンは「古代ローマ風？」くらいのおおざっぱな注文を元に、美術さんに作っていただきました。足を使わない住人が多いはずなので、階段はほぼありません。

——「トロプリ」を制作して、楽しいと感じることをお聞かせください。

土田　少しずれた答えになりますが、恐らくこの文章を読むことがないであろうメインターゲットの子どもたちに喜んでもらえることを目標に制作しています。そういう作品にできたら嬉しいです。

つちだ・ゆたか
東映アニメーション所属。『金田一少年の事件簿R』（1期）シリーズディレクター、『映画キラキラ☆プリキュアアラモード パリッと！想い出のミルフィーユ！』監督などを務める

TV

今を生きる女の子たち

**人魚モチーフだけど、決して『人魚姫』ではない。
今を懸命に生きる、強い女の子たちの物語だ。
メイクをするのは、王子様のためじゃない！**

シリーズ構成
横谷昌宏
プロデューサー
村瀬亜季

よこたに・まさひろ
脚本家。シリーズ構成作品として「ケロロ軍曹」『Free!』「Re: ゼロから始める異世界生活』など。「プリキュア」シリーズには今作が初参加

むらせ・あき
東映アニメーション所属。「プリキュア」シリーズのTV・映画のアシスタントプロデューサーを経て、「映画スター☆トゥインクルプリキュア 星のうたに想いをこめて」でプロデューサーに。

恋愛要素なしの一話完結が大前提

――最初に、シリーズディレクターの土田豊さんを交えて話し合ったことは何ですか？

横谷 僕はギャグものの脚本をよく書いてはきたのですが、根は暗い性格なんです（笑）。エモーショナルな話が好きなので、最初はアンデルセンの『人魚姫』をモチーフにした話を……何かを得るために大切なものを引き替えにするといった、シリアスめな話のアイデアを出していました。ただ、今の子どもたちは「人魚姫」と言うと「リトルマーメイド」をイメージして、アンデルセンのほうはピンとこないかもしれないという話がありまして。

村瀬 それに「人魚姫」のアナザーストーリーになると、「プリキュア」でやる意味がないなと。それで、本編で出てくる「人魚姫」要素はほんの少しに留めました。ローラ自身も、人魚を誇りに思うがゆえ、『人魚姫』をあまり好いてないと突っぱねましたし。狙ったわけじゃないですけど、それが『トロプリ』スタッフの答えなのかもしれません。

横谷 アンデルセンの「人魚姫」は、王子様に恋をした結果、はかなく消える話ですからね。僕としても、王子様のために生きる女性よりも、自立した強い女性のほうが好きです。

――第9話の「メイクをするのは王子様のためじゃない」にもつながるところですね。

横谷 そもそも土田さんから、「恋愛要素は一切入れたくない」という話もあったんです。

村瀬 土田さんの「この作品で重視したいこと」といった最初のメモに「恋愛要素はなし、一話完結」とありましたね。恋愛要素については、私は企画段階では特に何も考えていなかったので、そこは土田さんの意向に沿いましょうと。

――一話完結も土田さんのメモにあったのですね。

横谷 僕も一話完結が好きなんです。各話ごとにライター（脚本家）さんの色を出すことでバラエティに富んだ形にできますし。それにシリーズ構成を作るのも楽かなと（笑）。ただ、最終話の落としどころは最初から決めていました。敵が魔女というのも早々に決まっていました。「あとまわしの魔女」は土田さん発案の言葉です。主人公側のテーマが「今、一番大事なことをする」だから、その対極で「あとまわし」ってすごくいいですよね。もう全員一致で「これだ！」ってなりました。

村瀬 あとまわしの魔女のバックボーンも、設定としては最初からざっくり決まっていましたね。

横谷 「伝説のプリキュア」も早くから考えてはいました。ただ、シリーズ前半から伏線で登場させても、あまり絡みがないので印象づけられない。何より、今回は部活動をメインに描く話。敵の目的が早く分かってしまうと、「世界の危機を横目に、楽しい部活」というちぐはぐ感も出てしまいそうで。それで、シリアスな設定はほとんど出さないまま、各話を進めていく構成にしたんです。村瀬さんがやりたかったのは、あくまで学園ストーリーとのことで、そこを重視しながら作っていきました。

――横谷さんから見て、今回初タッグとなった土田さんの印象は？

横谷 土田さんは、自分の意見を曲げない人ですね。あと、ギャグ演出が得意だけど、いわゆるギャグが好きな人とはこだわるポイントがちょっと違っていて。僕もギャグが好きですけど、その場の流れやノリでギャグを入れちゃうんです。でも土田さんはきちんと設定を守った上で、「こういう理由があるから、これが面白い」という作りのようですね。

――確かに、パパイアの「目からビーム」のような攻撃も、ギャグっぽい見せ方ですけど、イヤリングを巨大化させているという理由づけはされていますね。

横谷 そうなんです。そもそも変身バンクや技バンクって、イメージ背景になっていて、具体的にはどういう場所なのかは曖昧でしょ？ そこも土田さんの中では、「そういう特殊な空間でなされていること」という整合性を考えているみたいなんです。

――横谷さんが参加した段階では、各プリキュアのキャラカラーや、珊瑚やパパイヤやフラミンゴといったモチーフはどの程度決まっていたのですか？

村瀬 人数と使いたい色、大まかな性格や年齢設定、あとは人魚がいることや部活をしていくという程度です。それを、横谷さんを交えて形にしていったんです。

まだまだ、まなつたちを書いていたい気持ちです！

――メイクの割り振りはどのように？

村瀬 お子様にも分かりやすく、大きく括ると5つくらいになるかなと。中でも、一番分かりやすくてなじみがあるだろうリップを、主役のサマーにしました。おしゃべりな性格というのもありますね。

横谷 村瀬さんは、主役の色は白にこだわっていましたね。でも、「リップなら、主役の色はピンクがいいのでは？」みたいな話も出ました。

村瀬 あえてピンク以外にしたかったんですよね！ 白なら「まだ自分の色が決まっていない」という意味合いにもできるかなと。

横谷 ラメールは、プリキュアになった時に尾ひれが脚になるので、それでペディキュアから、ネイルがチャームポイントになったんです。

村瀬 ラメールの登場は4人のメイクが出そろった後になるので、最後の仕上げとして特別感のあるものにしたかったのもありますね。土田さんの希望で、手足のネイルは違う色にしました。そんなふうに、サマーとラメールは最初から意図していましたが、あとの3人は雰囲気で「この子にはこれが似合うかな？」みたいな感じで決めていきました。

――パパイアのアイメイクや、フラミンゴのヘアーは分かりやすいですが、コーラルがチークというのは？

村瀬 「微笑みが素敵な子」という意味合いからです。それでチークがぴったりかなと！

おしゃべりなまなつはリップを担うにぴったり

――キャラづけについてお聞きします。まなつはテンションが高くてアッケラカンとしているのが特徴ですね。

横谷 僕が書くと、どうしてもアホな子っぽくなっちゃうんです(笑)。でも、まなつは「今、一番大事なことをする」というテーマを背負う子です。あまり悩まない子ですが、周りを巻き込んで変えていく力があります。

『トロプリ』はちゃんと考えた上での「なんでもあり」

村瀬　土田さんの演出メモにも「主人公は愛すべきおバカキャラ」とありました（笑）。島育ちにしたのは、私のこだわりです。

—さんごは、メイクという重要な作品モチーフを担っていますよね。

横谷　主人公が元気な田舎の子だし、相棒となるローラは人魚だし。それで、田舎から出てきたまなつが、一番最初に仲良くなる、都会の女の子に担ってもらうことにしたんです。

村瀬　まなつは都会に憧れて友達を作りにきた子なので。さんごは、そこで初めて出会うおしゃれな子という位置づけです。

—さんごをちょっと物怖じする性格にした狙いは？

横谷　キャラクターの配分を考えた時に、まなつは勢いのある巻き込み型だし、ローラも気が強いから、ちょっと対極にある感じにしたんですよね。

村瀬　さんご、みのり、あすかは結構並行で、3人の差別化も図りつつキャラ性を考えていきました。まなつのクラスメイトなので「クラスの中でどういう位置の子なのか」をはじめに考えたんです。最初は「クラスのマドンナ」という案もあったんですけど、まなつがすでに目立つ子ですよね。ならば、まなつがすぐに友達になりたいと思えるような、優しい子でいこうとなって。そこから「空気を読みすぎちゃう子」に行き着いた感じです。

—みのりがメガネキャラというのは最初から？

村瀬　わりと早い段階で決まりました。みのりは賢くていろいろなものをよく見ているところから、チャームポイントがアイメイクと決まったんです。その意味合いでも、メガネはちょうどいいんじゃないかと。

横谷　読書好きで寡黙な性格だから、元々メガネキャラっぽかったですし。変身後もメガネのままでいくか、といった話も出たくらいです。

—みのりはときどき、不条理な思考センスや、チクリと鋭いツッコミを見せますよね。

横谷　そこは単純に僕の好みかもしれません（笑）。ただ、最初に僕が思い描いたのは、自分の興味のあることを早口で畳み掛けるようなオタクっぽい子だったんですよ。でも土田さんは「そうじゃない」って。それでちょっと抑え気味にしたら、さんごとの差がなくなって、おとなしい子が二人になってしまい……。「みのりは、ちゃんとキャラが立つかな？」って、みんなで心配になったんです。

村瀬　みのり役の石川由依さんにも「一緒にみのりというキャラを作っていきましょう」とお願いしていました。でも途中から、むしろさんごのほうが、キャラ立ちが心配になってきて。「これじゃあ、みのりの影に隠れちゃう！」みたいな（笑）。

横谷　みのりは話が動き出すと、意外とキャラが立っていったので（笑）。

村瀬　無表情なのにノリノリで踊っているOPのみのりを見て、各話の演出さんたちも腑に落ちたみたいです（笑）。

横谷　僕もあのOPを見た途端「そうか、こういう子か！」ってなりましたね。

—あすかは、スケバン的な性格ありきだったんですか？

横谷　そうです。ボーイッシュというよりもスケバン。最初はスカート丈ももっと長い設定で考えていました。

村瀬　キャラ性としては、「女性が憧れる女性」。プリキュアに変身せずともカッコ良くて、正義感があるタイプです。そういう人がきれいなロングヘアーをたなびかせて颯爽と現れたらいいよねって考えたんです。

—憧れの大人っぽい先輩という感じなんですね。

村瀬　そうですね。元テニス部という設定も早くに決まっていました。「仲間なんて！」という初期のキャラ設定を決める際に、その理由づけとして、元々部活でいざこざがあったということになり、「じゃあ何部にする？」という流れでした。

—ローラについては、やる気パワーの回収役でもあります。これはプリキュアに変身するまでの間も、バトルでの見せ場を作るためですか？

横谷　その通りです。そこも当初、土田さんが心配していて。人魚だからサマーたちと一緒にいることもできないし、普段いるのはマーメイドアクアポットの中だしって。僕としては、キャラ性が強いから、そこまで心配しなくても大丈夫じゃないかと思ったんですが、土田さんとしては、戦闘中の役割を与えたいということで。

—初期の頃からローラは「みんな、変身よ！」って仕切っていましたよね。確かに、回収役という仕事がなければ、単なる仕切り屋に見えたかも？

横谷　ローラはこういう性格だから、それはそれでよかったかもしれませんが（笑）。

村瀬　ローラが変身を仕切るのも、土田さんのアイデアなんですよ（笑）。

—整合性を気にされる土田さんとしては、仕切るに見合う役割も欲しかったってことでしょうか。

横谷　そういうことでしょうね。

村瀬　ローラは、そういう尖ったところと素直なところが、日高里菜さんのお芝居も相まってうまく出ていると思います。

—ちなみに第1話でローラが初めてポットから出たシーンは、脚本では「身体を伸ばし屈伸運動」とエコノミー症候群対策のようなト書きになっていました。

横谷　僕としては、ポットの中はベッドとソファだけの狭い部屋だと思っていたんです。それでそういうト書きにしたんですが、実は意外と広かったという（笑）。

村瀬　ただ、もっと広々とした海の中に住んでいた子が、ポットの中で暮らしているわけで、私たちの感覚よりは圧迫感があるかもしれません。

—第1話でのニュルッとした出現は、まさに「狭いところから出た」感じでしたね。

横谷　第4話では、首だけ出して宙に浮いていたりとか（笑）。

村瀬　あれは宮元宏彰さん（第4話絵コンテ）のアイデアでした。貝澤幸男さんが絵コンテで考えた、第31話のあすかのカバンの中から手がヌッと出てくるシーンは、ちょっとホラーでしたね。土田さんがOKを出していました（笑）。

ローラの記憶問題は最終回への予兆!?

—基本的にはコメディ中心ですが、ところどころに入る「いいお話」もじんわりきますね。たとえば、保育士体験の回（第14話）では、独り遊びも否定しない結末が良かったと思います。

横谷　この回、ラストをどうするかは話し合いになったんですが、「一人で過ごしたい子を否定してほしくない」というのは僕のほうからも言いました。これだけ多様性の時代と言われている中、なんでもかんでも「友達たくさんが正解」にはしたくなかったんです。僕も小さい頃は、一人で家で本を読んでいるのが好きで、母親に「外で友達と遊びなさい！」と言われるのがつらかった記憶があるんですよ。やっぱり、自分が子ども時代どうだったかというのは、考えながら作りますよね。その意味では、あの男の子は小さい頃の僕自身みたいなところもありますね。まあ、虫は苦手でしたけど（笑）。

—第19話は、まなつとエルダが少し心を通わせる回でした。

村瀬　横谷さんが「敵側の話も描きたい」とは言っていたんですよ。それでローラ絡みの話が一段落した第19話で「夏なので怪談話」の案が出て。まなつメインの話として吉野弘幸さんにお願いしたところ、「まなつはオバケが怖い」という設定が生まれ、そこから敵キャラがちょっとした事情からオバケに見えてしまうという内容を考えてくださったんです。「お互い姿を知らないまま仲良くなっていくのが素敵じゃないですか」と吉野さんがおっしゃって、「それでいきましょう！」となりまして。そんなふうに、ふわっとしたアイデアがうまく重なって出来上がったエピソードでしたね。

—横谷さんが直接書かれた第34話は、まなつが将来のことを問われて悩むお話。ちょっと作品テーマへのカウンターのような感じも受けました。

村瀬　第34話は、今を生きている子が、未来を考える話ですね。ローラはぶれずに「女王になる」。それに対して「じゃあ、私は？」とまなつは考えて、出した答えが「大人になったその時に、一番なりたいものになる！」でした。

横谷　第34話は、僕が自分で手を挙げて書いたんですけど、難しかったですね。「今すぐ決めなくてもいい」は「あとまわし」と同じではないのかとも考えられるし。それに「今が、今が」と言いすぎると、刹那的になっちゃうし。でも、まなつの考え方が、僕はやっぱり好きですね。まなつの両親の生き方も含めてね。

村瀬　ポイントは、まなつ自身でちゃんと考えて答えを出したというところ。フィーリングももちろんありますけど、考えなしのただのおバカさんではなく、悩んで考えた上で「今、一番大事なことをする」を選ぶ。そういう子なんだというのを、あらためて描けたと思います。

—第37話では、まなつとローラの驚きの過去が明かされました。

横谷　この設定は、かなり初期から考えていました。まなつは自己紹介をする際、必ず相手の名前を訊くんですが、そうなった理由はなんなのかを考えたんですよね。

村瀬　そう。そこにローラも絡めたいとなって。

横谷　それを本編のどこで明かすか、タイミングを探っていた感じでした。

—第34話のラストで「女王様になっても、ずっと友達でいること！」とまなつがローラに言うのは、この第37話を踏まえたセリフだったわけですね。いずれ記憶を消されるという。

横谷　はい、そうです。ここはもう、最終回に向けての予兆の部分ですね！

—最後に、お二人が『トロプリ』に参加して楽しいと感じることを教えてください。

村瀬　どの話数も、土田さんのコンテチェックが終わるまで、完成形が見えないところですね。毎週ハラハラドキドキしながら、見守っています（笑）。それから、考えなしの「なんでもいい」ではなく、ちゃんと考えた上での「なんでもあり」なところ。土田さんがとにかく熟考型で、私もいろいろと考えて紐づけようとするタイプなんです。そういった考える作業は楽しいですね。

横谷　1年物は、本当に描いていて楽しいです。キャラクターに愛着も湧くし、どんどん勝手に動いてくれるようになるし。ただ、シリーズ構成の自分は、どうしてもパワーアップ回やキーになる回を担当することになるんです。たとえば第33話の10本立て回みたいな遊べる話を、もっともっと書きたかったですね。でも、1年物の醍醐味を味わえて幸せでした。まだまだ、まなつたちを書いていたい気持ちです！

常夏の装いで！

『Go! プリンセスプリキュア』でプリンセス感あふれるデザインを手がけた中谷さん。しかし今作のまなつたちはとにかくアクティブ。一年中、心はサマーな爽やかスタイルだ。

キャラクターデザイン 中谷友紀子

TV

変身前対比表

ハートマークで瞳をカラフルに

——中谷さんは、『プリキュア』シリーズでは2度目のキャラクターデザインになります。前回手がけた「Go！プリンセスプリキュア」との差別化も少し意識したのですか？

中谷　いえ、そこは特に意識せずという感じですね。ただ、歴代シリーズとの差別化自体は考えました。やっぱり、歴代のプリキュアがズラリと並ぶことって多いと思うので。

——今回、オーディションの声がかかった時の意気込みとしては？

中谷　シリーズディレクターの土田（豊）さんとは、一緒にお仕事してみたかったんです。土田さんの「映画キラキラ☆プリキュアアラモード パリッと！想い出のミルフィーユ！」を観て、楽しい作品だなぁと感じていたので。今回はギャグ寄りの楽しいシリーズだと聞いていたので、その意味でもぜひやりたいと思いました。

——オーディションのお題は、まなつとローラだったそうですが。

中谷　というより、サマーとラメールです。変身後の主人公と追加戦士のセットですね。その時に描いたラメールは、ほぼそのまま決定稿になりました。サマーはそこから、細かい擦り合わせがちょいちょいありましたが。

——本格的なデザイン作業に入った段階では、サマー以外の色味ももう決まっていたのですか？

中谷　はい、各キャラの色の指定や、メイクのチャームポイント、それにキャラ名も決まっていて、それらを足がかりに考えていきました。ただ、各チャームポイントをどう見せるかについては、全体のフォルムが固まってから考えました。やっぱり、デザインを起こすにあたっては、髪型や服装がどうしても先になるんですよね。なので、たとえばコーラルのチークは、本当に最後の最後に「あ、どうしようか」って。そこは申し訳なかったと反省しています。

——プリキュアの衣装については、玩具会社の提案デザインにどの程度沿っているのですか？

中谷　実は今回は、絵としての提案はまったくなく、文字で書かれたものだけでした。それも、キャラカラーとキャラ性くらいで、服や見た目に関しての指定はなかったんですよ。『Go！プリ』の時は玩具会社さんが描かれたラフがあったので、今回もてっきりあるものだと思っていたんですけど。

——するとセーラー服的なコンセプトは、中谷さんが考案されたのですね。

中谷　そうです。セーラー襟を共通パーツにして、そのバリエーションで考えました。

——手先は、ラメール以外は4人とも指ぬきグローブですが、格闘を意識してのことですか？

中谷　それもありますけど、他のシリーズのプリキュアとは何か違うものにしたいなと。指ぬきグローブの子は、これまであまりなかったので。それと、私はずっと『ベイブレード』シリーズに参加していたので、その影響もあったかも。出てくる男の子キャラが、ことごとく指ぬきグローブだったんです（笑）。

——「プリキュア」にも、そういう男児向けの雰囲気もありますから、アリですよね。

中谷　そう言ってもらえると！（笑）手の甲にハート型のホールを着けて、ちょっとかわいくしてみました。

——プリキュアの5人とくるるんだけは、瞳孔がハート型ですが。

中谷　そうですね。脇キャラとは描き方を変えました。変身後にはハート部分に色をつけて、瞳の色数を増やすというのが狙いです。くるるんも瞳孔が同じ形なのは、深い意味はなく、流れでそうなりました（笑）。

——まなつたちは、変身前はみんな足が大きめですよね。変身後もフラミンゴとラメール以外は大きくて、元気なイメージです。

中谷　ここは純粋に私の絵柄でしょうか。特にそう描いてほしいと私から指示したわけではないんですよ（笑）。

——変身前の私服は、プリキュア衣装の雰囲気もありますね。

中谷　はい、そこは「Go！プリ」の時も意識していました。変身後と変身前で大きく形状に差が出ると、観ている小さい子たちの中でリンクしにくいと思うんです。それで、変身後のコスチュームを想起させる私服を考えました。ただ、あすかだけは全然違うものになっちゃいました（笑）。

キュアサマーの足元はとにかく涼しげに

——各キャラの特徴だと、サマーは編み上げサンダルのようなかわいい靴が特徴ですね。

中谷　現実にこういう靴があるかは分からないんですが、レースアップのサンダル自体はありますよね。やっぱりキュアサマーなので、夏感を出したいなと。素足に白い靴で、夏っぽくした

かったんです。

ーー変身前のまなつは、性差のない幼児のようなアクティブさを感じます。

中谷　そう思っていただけたなら、狙い通りかもしれません。まなつは、いかにも女の子ってタイプではないですから。土田さんも「田舎の島からやってきた元気な子」とおっしゃっていて。

ーー結構ガニ股にもなりますよね。

中谷　そういうキャラなんです。笑う時は口を大きく開けて。少年マンガの主人公みたいな気分で作りましたね。

ーーまなつに限らずですが、今作は口を開けると前歯がしっかり見えるデザインですね。

中谷　今までの「プリキュア」であまり例がなかったので、やってみようかなと。見栄えよりも、差別化の意識のほうが強いですね（笑）。

ーーコーラルはハートのチークが特徴です。瞳孔の形やグローブなども含め、実はハート型が隠れ統一モチーフだったり？

中谷　いえ、そういう意識はなかったのですが……。ただ、コーラルはかわいい担当なので、ハートを多用しています。ハートを出す単独技の「もこもこコーラルディフュージョン」は、たぶんこのデザインを見て、土田さんが考えてくれたんだと思います。セーラー襟も、一番かわいい感じにしてみました。

ーー変身前のさんごのほうは？

中谷　かなり悩みましたね。「かわいいものが好きな普通の子」という設定では、デザイン的な特徴が出しにくくて。さんごの服はティーン向けのファッション雑誌を参考にしましたが、それもどういう方向の服にすべきかの基準が難しかったです。

ーー続いて、パパイアはまつ毛が独特ですね。

中谷　アイメイクのキャラクターですが、前髪を下ろしたデザインに決めた後だったので、アイシャドウでは目立たないなと。それで一人だけ、まつ毛の形状を変えました。グラデ処理は、ラフ画に仮色を着ける段階で、土田さん、プロデューサー、色指定さん含めたみんなで決めたと思います。おかげで一人だけ処理が違うのですが、斬新に感じてもらえればいいなと思います。

ーーパパイアのイヤリングはデザイン段階では、メガネ風にしてビーム攻撃する想定はなかったそうで。

中谷　ええ、全然思ってもいませんでした（笑）。あれは完全に土田さんの斜め上を行く見せ方というか。土田さんのセンスが爆発しすぎて、仰天しました（笑）。私も初めて見たのは確かOPだったと思います。

ーー変身前のみのりは、一人スカート丈が長めです。

中谷　そこはキャラ性から出てきたものです。肌の露出は多くないだろうと思いました。

ーーフラミンゴの表情集（P.15）は、結構強そうなものもありますね。

中谷　表情をつけやすい性格というか。スケバンのイメージだと最初に言われたので、その方向で作りました（笑）。

ーー足元は、ブーツと網タイツが組み合わさっているのがユニークです。

中谷　ちょっと大人っぽくしたくて、実験的にやってみたんです。OKになればいいなぁくらいの気持ちでしたが、そのまま残りました。

ーー変身前のあすかの普段着はロングパンツですね。

中谷　スポーツキャラを意識したからです。元テニス部というのもデザイン段階で分かっていたと思います。靴はサンダルです。常夏っぽい街ということで、みんな普段着はほぼ夏服で、春から夏の衣替えもありません。でも今後、冬服は本編に登場します。

ーーラメールはパンツにオープントウの靴。足のつめを出すというのは、ネイルというチャームポイントありきですよね。

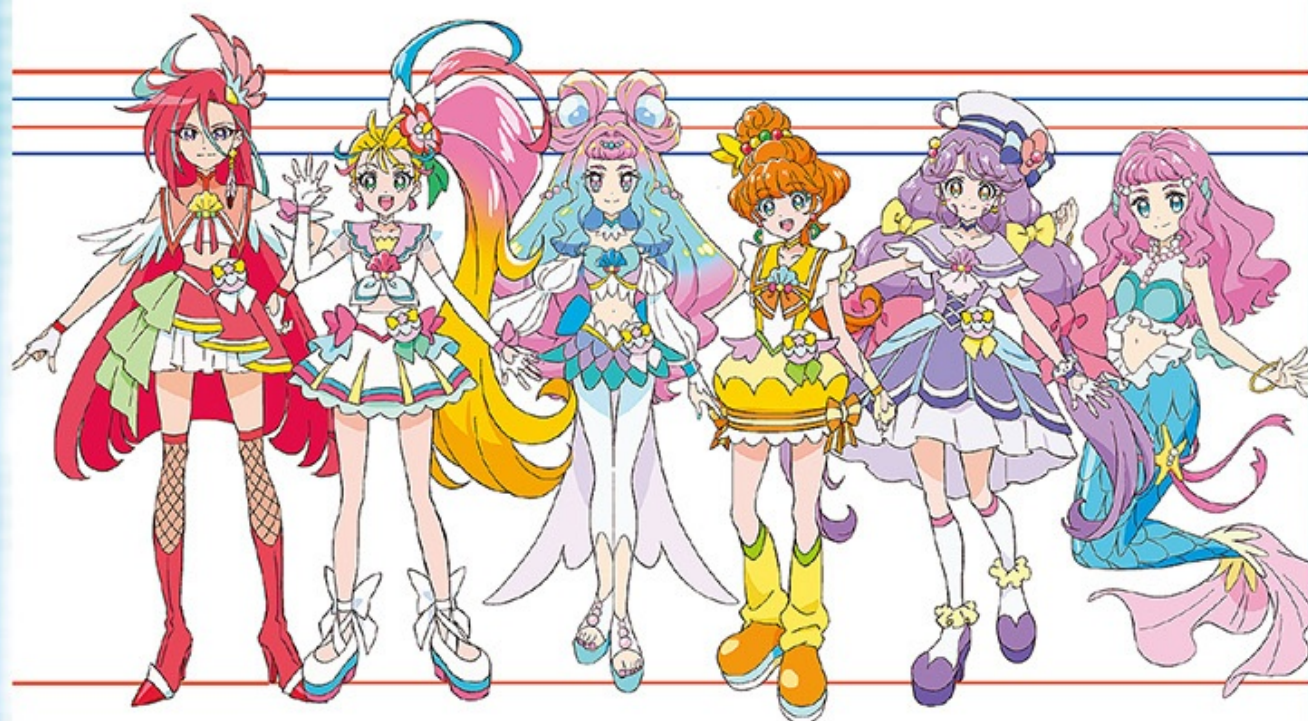
中谷　もちろんです。つま先を見せるためにサンダルになり、さらに蹴り技を使うとも聞いていたので。人魚から人間の姿になった時に、分かりやすく足を目立たせるデザインにしました。

ーー変身前のローラのデザインで意識したことは？

中谷　最初から「いい性格している」とは聞いてはいました。意地悪まではいかないけど、気が強い、ワガママお嬢様のイメージで作りました。人間の姿の時は頭にカチューシャが付きます。「髪型を人魚の時と変えてほしい」と言われまして。

ーー制服姿は、ローラだけ色味が違いますが。

中谷　確か土田さんから、「服の色を根本的に変えて、他の子たちよりも目立たせたい」との話がありました。ルーズソックスは、もともと個人的にかわいいなぁと思っていたので、ローラに取り入れました。

みんな普段着はほぼ夏服。春から夏の衣替えもありません

王家や神話のイメージで5人がパワーアップ

ーー第29話から登場のエクセレン・トロピカルスタイルですが、裸足なのが驚きました。

中谷　玩具会社さんからは「王家スタイルで」という話がありまして。ちょっと神話方向にしたいのかなと思い、羽衣っぽいガウンにしました。そうしたら靴がうまくはまらなかったので、裸足にしちゃいました。この衣装は、本編中で動かすことはあまり想定していません。基本は変身・技バンクだけのデザインです。

ーーくるるんは、玩具会社からの提案デザインはあったのですか？

中谷　くるるんは、まず土田さんが描いたキモカワ系のヘンテコな初期ラフがあって（笑）。それをそのまま提出したんですが、「やっぱり普通にかわいい方向で行きましょう」となり、今のデザインになりました。

ーーあとまわしの魔女のたちのデザインは？

中谷　これも土田さんのラフ画が元々あって、完成デザインもほとんど同じです。私は特に付け加えることもなく、ブラッシュアップした程度ですね。下半身は人の足にはしないというのは、土田さんの強い要望です。

ーーそれでチョンギーレ以外は、人魚と同じフォルムなんですね。魔女様のモチーフは、ウナギなのか、ウツボなのか……。

中谷　どちらかと言えばウツボですね。あとまわしの魔女たちはみんな深海に棲んでいる海洋生物をイメージして作りました。

ーーサブキャラ関係で中谷さんがデザインしたものは？

中谷　生徒会長の百合子や、まなつたち4人の親、あとは人魚の女王や伝説のプリキュアは私がデザインしています。生徒会長は、完全に私のイメージです。土田さんは、もっとお嬢様っぽい、物腰柔らかなキャラの想定だったらしくて。でも私としては、冷たい感じの生徒会長と熱いあすかとの対にしたかったので、クールなキャラで作らせてもらいました。髪の色も青系です。

ーーまなつたちのギャグの表情は、第1話の土田さんのコンテの絵が元になっているのでしょうか？

中谷　基本的にはそうですね。だからギャグ顔の表情設定は、私のほうでは作っていないんです。第1話については、作画監督の上野ケンさんのアドリブもだいぶ入っていますが、土田さんのコンテはとにかく表情が細かく決めこまれていて。だから、アニメーターもとても作画しやすいと思います。逆に、土田さんからの演出注意事項もいくつかありますね。たとえば、シリアスシーンで呆然とした時の「瞳孔やハイライトなしの瞳表現」はNGだったりします。

ーーギャグ表情については、中谷さんには総作監カットとして回ってこないことが多いんですか？

中谷　そうですね、各話の作監さんおまかせで。でもホラー回（第19話）はちょっとだけ見てほしいとのことで、回ってきました。これまで私はバンク作業に追われて、各話の総作監はあまりできてなかったんです。でも、ようやく少し落ちついたので、終盤はもう少し総作監カットを回してもらおうかとは思っています。

ーー中谷さんから見ての、土田さんのギャグセンスの非凡さというのは？

中谷　実は寡黙なタイプという、土田さん本人とのギャップが面白いですよね。そのギャグの源流がどこにあるのかは、私は分からないんですけど、ちょっと「コロコロコミック」のギャグマンガ的な表情のつけ方で、私は好きです。たとえば、「ランドビートダイナミック」。象が跳び蹴りするのを見て、「なんじゃこりゃ！」って（笑）。まさに土田さんのセンスだなぁと思います。技バンクはどれも土田さんらしさ全開ですよね。

ーー今後、中谷さんが作監で参加する予定というのは？

中谷　たぶん、次はもう最終回になるんじゃないかと思います。今は子育て中で、ローテーションで各話作監もしていた「Go!プリ」の時とは生活の状況がかなり違うんですね。子育てと仕事の両立がものすごい大変で……。昔みたいに、仕事一辺倒みたいな働き方はもうできないですね。

ーー毎日大変だと思いますが、ラストに向かっての意気込みをお願いします。

中谷　ローラとまなつの関係が今後、重要になっていきます。それと、これまでの各キャラのドラマがどういう結末を迎えて、それぞれがどんな道を見つけていくのか。そこが見どころだと思います！

「トロプリ」のOP映像は、Machicoさんの「Viva! Spark!トロピカル〜ジュ！プリキュア」に乗せた、明るく弾けた90秒。まなつたち5人だけでなく、サブキャラや敵キャラまでもが踊る、フラダンスのようなノリのいいダンスがまずキャッチー。

そして、トロピカる部のわちゃわちゃ感あるイメージカットの数々——5人のディップアイスのリレーや、大量のフルーツを積んだリアカーをみんなで引く姿なども愉快だ。ラストカットの、集合セルフィーのような5人＋くるるんのショットも、まなつたちの楽しい日常の一コマを感じさせる。

演出は、90年代からギャグ作品の名手として名を馳せている大地丙太郎さん。「こどものおもちゃ」や「セクシーコマンドー外伝すごいよ!!マサルさん」などを知る人ならば、大地さんの独特のテイストと「トロプリ」とのマッチぶりに驚いたはずだ。

だいち・あきたろう
1956年生まれ、群馬県出身。TVアニメのデビュー作は「ナースエンジェルりりかSOS」。1998年以降「おじゃる丸」の監督を務める

OP「Viva! Spark!トロピカル〜ジュ！プリキュア」

トロピカっちゃお！

OPからして、『トロプリ』はこれまでと一味違う!?
ほどよいユルさと共に、遊び心がギュッと詰まった、
楽しさいっぱいのアニメーションだ！

OP絵コンテ・演出 大地丙太郎

踊らせてOKと言われテンション爆上がり

——今作で、ついに「プリキュア」シリーズ初参加となったわけですが。

大地 実は僕は、去年の秋頃に病気で入院していたんです。その入院中に、今作のOP演出のオファーをいただきました。2020年はコロナ禍で生活に制限を受けて大変な年でしたが、僕の中ではこれが2020年で最大の出来事でした！ 実はすでに本編の第5話の絵コンテの作業はしていたんです。初めての話数でもあったので、自分ではかなりノリノリで描いたんですけど、その最中での緊急入院だったから、スタッフの皆さんに迷惑をかけてしまって……。

——つまり、先に本編での絵コンテ参加が決まっていたのですね。

大地 そうなんです。最初から「シリーズ通してお願いします」と。それだけにやる気満々でいたんですが、出鼻をくじかれる形になって、落ち込んでいたんです。そこにまさかのOPの話ですから！ もうどれだけ嬉しかったことか！ 気持ちも上がって、退院したらすぐに打ち合わせを始めました。

——本編への参加はどういう経緯で？

大地 僕は、東映アニメーションさんでは、『ワンピース』や『デジモンアドベンチャー:』の各話コンテをやっていたんですけど、ある時「大地さん、今度の『プリキュア』はどうですか？」って東映アニメの製作さんから話がありまして。「シリーズディレクターの土田（豊）さんが大地さんのファンなんです」と言われて、「本当ですか〜。うまいこと言いますねぇ〜」みたいに思ったわけですよ（笑）。でもOPの打ち合わせで、『妖精姫レーン』（OVA）の話を土田さんがされまして。僕の作品が好きって話は、本当だったのかな（笑）。

——大地さんの監督デビュー作である『妖精姫レーン』の話が出てくるなら、間違いないでしょう。

大地 僕も、それなら話は早いなと思いました（笑）。ただ、僕はいろいろな作品でOPの依頼を受ける際に、まず最初に必ず確かめることがあって。それは「踊らせていいのか、ダメなのか」……つまり「マサルさん」でいいのかどうか。「僕に依頼したということは、「マサルさん」をやってほしいんですよね？」って解釈でいるので（笑）、今回もそこは確認しました。そうしたら土田さんは「踊らせてください！」と（笑）。しかも、「トロプリ」の舞台は僕の大好きなハワイのような場所！ それで余計にテンションが上がっちゃって。「トロピカルに踊らせるなんて、もう最高ですね！」って。

——ノリノリでOP作業に入られたんですね。

大地 はい、ノリノリでした（笑）。それに「Viva! Spark! トロピカル〜ジュ！プリキュア」が大好きなんです。OPを作る間はずーっと聴いていました。何回聴いてもノリノリになれるこの楽曲ありきで、この映像が出来上がりました。

——映像全体のコンセプトはどうやって決めていきましたか？

大地 僕はなんらかのパロディを入れるのが好きで、特に自作パロディだとよりやりやすいというか（笑）。今回だと、「マサルさん」のOPもありつつ、場面が変わりながらいろんなキャラが並んで踊っているのは、「こどものおもちゃ」なんですよ。そんなふうに、自分の得意技というか、引き出しを使った感じですね。それと、湘南が舞台の「まかせてイルか！」という僕のオリジナル作品もあって、まなつたちがリアカーを引いているカットはそれなんです。ちょうど第5話でもリアカーを引くシーンがあったので、「実は連動しているよ！」みたいな。気がついている人は少ないんですけどね！（笑）

——まなつたちの踊りも大地さんが考えたんですか？

大地 はい、そうです。なにしろEDがCGでのきれいなダンスじゃないですか。だからそれとは違う、作画アニメならではのコミカルな感じや、ちょっとフラダンスの雰囲気で。「これならトロピカってるかな？」とか思いつつ（笑）。

——OP全体の演出処理も大地さんですよね。

大地 そうです。ちょっと大変でした。特に踊りのカットは、僕のほうで結構手を入れました。肩の力の入り方や抜き方、動きの柔らかさなどはコンテではなかなか伝わらないので。実際に自分で描いたラフをクリスタでなぞって、それをPremiereに読み込んで動かしてみたりとかして。そこは試行錯誤しましたね。

——原画のタイムシートを直すというよりも、自分でラフ原画を入れる感じですね。

大地 そうですね。でも僕は昔から、演出処理まで自分でやる時は、ラフを入れちゃうほうなんです。自分のイメージするヘンテコな動きって、やっぱり自分の手でしかできないところがあって（笑）。

——BG（背景）もマンガチックで、楽しさを増幅していますね。

大地 美術監督さんから「この雰囲気

僕もトロピカれた1年でした

なら、本編とは違うタッチでもいいですよね」と提案されたので、「それで大丈夫であれば、ぜひ！」と。OPは独自の世界観でもアリだと僕は思っているので。コンテには、僕のBGイメージも多少描いたかもしれませんが、基本的には美術さんに自由に遊んでもらいました。皆さんの意見をどんどん取り入れてやっていきましたね。

――OPは、全体的にまなつたちのわちゃわちゃ感が強いですね。

大地　トロピカルな世界観から、自然とそうなっちゃいました。やっぱり女の子同士がわちゃわちゃしているのは、見ていて気持ちがいいですからね。肩をつかんだりする動きも、意識せずにやっていました。それぞれの性格はあるけれど、距離が近い感じがかわいいなと。

――まなつとローラが「せっせっせ」と手をハイスピードで重ね合うカットは、W主役を意識してのことですか？

大地　これは土田さんがコンテチェック時に要望されたカットです。直前のキャラ紹介の3カットもそうなんですが。実は僕は、当初はまなつとローラの二人主役とは分かっておらず、その指摘を受けて「ああ、そうだったのか」と。土田さんが「たとえばこんな感じで」と描いてくれたまなつとローラのラフがとってもいい感じだったから「これをそのまま使いましょう」となりました。あすかのダンベルも土田さん発案です。でもあすかは、本編であんまりダンベルを使ってないんですよね。それこそ、僕が担当した第33話くらいかな？　みのりが本を無表情でめくっているのも、基本的な画は土田さんです。ページをめくるスピード感は、僕のほうで増しました。

――続く、5人がアイスクリームのリレーをしていくカットもいいですよね。

大地　これは自作パロディではない、初の試みです。自分でもいいアイデアだったなと思います。南国風の作品ならアイスクリームが合うし、それも4段5段と積み重なっていったらカラフルにもなりますからね。

――落下しつつ重なっていくアイスに、縦の付けPANでしょうか。凝った動きでもあります。

大地　そうなんです。実はちょっと無理がある動きで、カットの尺もそんなに長くないので難しいだろうなと思ったんです。でも、一発ですばらしい原画を描いてきてくださって。ここは僕のほうでは全然手を入れていないんです。もう感激でした！

コロナ禍だからこそ元気なプリキュアを

――歌のサビはバトルシーンです。パパイアの「目からビーム」のような攻撃カットは、ひっくり返って驚いた人も多いと思います（笑）。

大地　これは、土田さんのリクエスト通りなんですよ。でも、第1話が放送されたらSNSでみんな騒然としていましたよね。僕としては、「え、なんで騒いでるの？」って感じでした。あれは何かヘンなんですかね。僕は「あ、そういう攻撃なんですね」と普通に受け入れていました（笑）。

――だって、みのりは寡黙でおとなしい子という設定なのに、こういうギャグっぽい攻撃をするとは（笑）。

大地　そうかぁ。僕は、違和感はなかったですよ（笑）。でもみのりは最初、難しかったですね。ポーカーフェイスの子をどうやって動かしたらいいかなと。でも、土田さんから「ポーカーフェイスだけど、冷めている子ではない」と言われたので、じゃあ体はすごく動くんだろうなと。それで、顔だけ無表情で、首から下はみんなと同じように踊っている感じにしたんです。

――おかげで、みのりの面白さが増しました。サビの後は、4人技の「プリキュア！ミックストロピカル！」を受けて、あとまわしの魔女勢が退場します。ただ、あんまり成敗された感じがないですよね。

大地　そこはエルダがいるのが大きいですよね。あの子がやられるのは見たくないじゃないですか。そこはプロデューサーの村瀬（亜季）さんからも「エルダが痛く見えないように」とありました。それに今回の敵キャラはみんな愛嬌があるので、「ぶっ飛んで退場」にしました。

――敵たちも、まなつたちと同じダンスを踊っていますしね。敵がOPでこういう愛嬌を見せるのは「プリキュア」では珍しいです。

大地　本編でも、魔女の召使いたちは結構仲いい連中ですから、仲良く踊らせちゃいました。そこは僕が考えたところですけど、そのまま通りましたね。もっとも、OPのコンテを描いていた時は、本編での彼らがどのくらい仲がいいかは分かっていなかったんですが。

――第32話、33話から、ラメールや人間姿のローラが追加・差し替えの後期版に切り替わりました。これらも大地さんのコンテですか？

大地　アイデアはほぼ土田さんです。僕はラフで描いて、そこから先はお任せした形でした。追加部分の打ち合わせは、今年の夏頃だったと思います。最初から追加カットを意識すると、なんか硬くなっちゃう気がして、後から考えたんです。序盤のほう、横位置で校庭を走っているローラが人間の姿に切り替わっていたのは、僕もSNSを見て気がつきました。間違い探しみたいになっていますよね（笑）。

――追加カットでインパクトがあるのが、あとまわし勢が退場するカットでの、ラメールの跳び蹴りです（笑）。

大地　僕も、跳び蹴りでいいのかなぁと思ったんです。でも、確か土田さんがそうしましょうって言った気がするんですが、違ったかなぁ？　なんにせよ、お互いそれでいこうってなったのは確かですけどね（笑）。

――5人技の「ランドビートダイナミック」も象の跳び蹴りですから。

大地　そうですよ。跳び蹴りはいいですよね、僕は好きです！

――大地さんから見て、土田さんのギャグ演出はいかがですか？　ちょっと斜め上なところもあると思いますが。

大地　どうやら、みんなが土田さんのギャグセンスの「ここがヘン」みたいに感じるところを、僕は全然そんなふうに思っていないんです。むしろ真っ当なギャグセンスのような気がして。しいて言えば、第25話の「お便所！」をそのままOKにするところですかね。こういう判断が、土田さんの斜め上なところかもしれません（笑）。

――でも、そのネタを仕込んだのは大地さんですよね？

大地　わははは！　感覚が似ているのかも。思えば、土田さんには相当なものを受け入れてもらったと思うし、異色のシリーズにはなったのかな？　ギャグというよりも元気の良さが際立っている作品だと思います。こういうコロナ禍のような困難な時期に、よくぞこういう元気な「プリキュア」を作ってくれたと思います！

――今作の「トロピカってる」という言葉の印象はいかがですか？

大地　最高ですよね！「トロピカル」という英語に、「ピカってる」という太陽的な要素もあるし、まなつの脳天気な明るさがよく出ていると思います。初めて聞いた時から、これは流行らせたいなと思いましたね。

――「トロプリ」をやっていて楽しいと感じるところは？

大地　やっぱり、一番はトロピカルな世界観ですよね。僕のスケジュールの都合で、第33話が僕の最後の『トロプリ』になってしまって、それがすごく心残りです。そう思えるほど、このシリーズに参加できて本当に嬉しかったです！

――それは寂しいですね。でも、第33話でいい意味で爪跡を残して去られたわけですね。

大地　その通りです！（笑）とにかく僕は『トロプリ』に恩を感じています。特にOP演出は、入院で気持ちがへこんだところにいただいた仕事だったし、ファンの方にも話題にしてもらえて嬉しかったです。僕も元気をもらえた、トロピカれた1年でした！

大地さんの絵コンテ回にも注目

――大地さんの本編のコンテ回は全5本。キュアフラミンゴ登場の第5話の次は、第10話ですが、まなつがやる気パワーを奪われる回でした。

大地　こういう、主役ピンチの話って好きなんです。周りのキャラとの友情が固まる話にもできますし。この回では、ローラが良かったですよね。口では「まなつのおたんこなす！」って言いながらも、自らドブの中に入っていくのが泣かせるんですよね。あのドブの中を泳ぐシーンは、コンテを描いていてぐっとくるものがありました。

――続く第16話は、ローラの人間への憧れをダメ押しするような回でしたね。

大地　ラメール初登場の第17話と前後編になっていたので、第17話の担当の方と一緒に打ち合わせをしました。土田さんはこの回に限らず、結構細かく指定をしてくれるんです。シナリオにいっぱいメモを書いてくるので、それに従って進めていく形で。ラメール登場へとつながる重要な回だったので、疑問点は都度都度確認しながら作ったと思います。

――この回や第25話にもありましたが、みのりがメガネで瞳が見えない状態でボソッと答えたり、みんなと同じポーズを取ったりするのが愉快でした。

大地　メガネの反射表現で白く塗りつぶすのは、みのりの場合だとコミカルな感じが出て便利なんですよ。そもそもメガネキャラを描く時って、僕はたいてい白く反射させますね。あまり瞳を描かない（笑）。

――第25話は授業参観回。授業中にヤラネーダが現れてそこで抜け出す口実に、まなつが大声で……。

大地　まなつに勢いよく「お便所！」って言わせたの、僕です（笑）。脚本にはないんです。打ち合わせで土田さんから、「何らかの理由をつけて、抜け出してください」と言われたので、コンテで入れました（笑）。変えてくれても構わないと思っていたんですけど、そのまま放送されましたね（笑）。今なら「おトイレ」という言い方が普通かな？

――幼児のように屈託なくトイレに行きたいと、しかも昔懐かしい言い方をするのが、まなつらしいです。そこでさんごも恥ずかしそうに「私も……」と手を挙げるのがまた、彼女らしくて。

大地　さんごちゃんは一番女の子っぽいですからね（笑）。そういえば、さんごちゃんは第33話が面白かったです。まさかのチョンギーレと体が入れ替わっちゃって（笑）。

第16話

第25話

大地さんならではのテイスト

シリーズディレクター　**土田 豊**

今回は大地さんとお仕事できて、大変光栄でした。特にOPや第33話の絵コンテは、大地さんならではのテイストで、参加していただいた甲斐がありました。ありがたや。

★第33話の振り返りトークはP.81を見てね

設定資料 SELECTION

他のページで未掲載のものを中心に、TVシリーズの主なキャラクター表（線画設定）をご紹介！

キュアサマー／夏海まなつ

▲▶第29話から登場したパワーアップ姿＝エクセレン・トロピカルスタイル。髪と髪飾りがボリュームアップし、足元は裸足

◀▶キュアサマーの三面図。キャラクターデザイン・中谷友紀子さんのアイデアで、セーラー襟が4人の共通パーツに。タイの結び目部分が真珠貝なのはラメールも共通

◀基本の普段着。あおぞら市はハワイや沖縄のような温暖な気候という設定なので、夏服のような薄手のスタイル

▲▶あおぞら中学の制服姿。他の一般女生徒は緑のタイだが、まなつ、さんご、みのり、あすかはそれぞれ色が異なる

▶◀部屋着姿。Tシャツにショートパンツでややボーイッシュ。髪を下ろした設定も兼ねている

◀第10話での、やる気パワーを奪われたまなつ。「まなつは全身やる気パワーでできている子なので、やる気を失ったら、普通の人よりもヘナヘナ（ダメージ）度合いが高くなるイメージで作りました」（作画監督・上野ケン）

▶第3話で、さんごやクラスメイトとお出かけした時に使った、魚マークのショルダーバッグ

◀▼第19話で、裏山の廃屋の探険に向かった際の服装。珍しい長袖スタイル

▼背負いベルトを外すとこうなっている

▶第35話のハロウィンパーティーで狼人間に仮装。テンションが上がって狼の鳴き真似をする愉快な芝居は絵コンテで足されたもの

◀第28話の文化祭での姿。メイク＋ヘアアレンジ、色違いのおそろいのエプロンも

▼第27話でイルカショーを見に行った時の姿。イルカ見たさの高揚感を出す、大きなイルカ浮き輪は絵コンテ段階で加えられた。イルカペンダントはボール紙で作ったまなつのお手製という設定

▲▶第1話で南乃島から引っ越して来た時の、大型トランクを背負った姿。「シリーズディレクターの土田豊さんからも、『大きなトランク』というイメージを提示されました」（上野）

キュアコーラル／涼村さんご
エクセレン・トロピカルスタイル。ベレー帽のリボンがツインになり、お下げのリボンも計6つに増える
キュアコーラルの三面図。大きなベレー帽は水兵服のイメージから。「大きい帽子をかぶっている歴代キャラがいないので、結構新しい感じにできたと思っています！」(中谷)。セーラー襟がショール風なのもかわいい
制服姿。5人はソックスの違いで個性を出すデザインになっており、さんごのはフリル調のクルー丈
さんごのパジャマ姿。髪を解いてアクセを外した状態で描かれている
普段着姿のさんご。パフスリーブや、リボンベルトなど、全体にガーリーにまとめられている
第3話で使っていたポシェット。手提げ型にもなるツーウェイタイプ。リボン型の留め具がキュート
第32話で、ファッションモデルとしてランウェイを歩いた時の服装
さんごには珍しい、不敵な表情で描かれているのもポイント
第15話での応援部の助っ人姿。さんごだけがチア服なのは絵コンテ段階で決め込まれた
第9話の化粧品キャンペーン用キャラ「でれらちゃん」姿のさんご。脚本では「着ぐるみ」だが、かぶり物キャラでデザインされた
トロピカルパクト
まなつたちの変身アイテム。変身リングを鍵穴にセットすることで開く。ブラシでコンパクト内のハートをタッチすると、変身メイクがスタート
本編でパクトが開いている時は、常に変身リングが装着されている
第35話の海賊の仮装。剣はおもちゃで柔らかいという設定
スカートを広げると、カラフルなハートが見えるのがポイント
さんごはノースリ+ミニスカで涼しそう。あとの3人は学ラン
第19話の探険服。夕刻以降のシーンのためか、長袖パーカーにロング丈スパッツ

キュアパパイア／一之瀬みのり

エクセレン・トロピカルスタイルのパパイア。後ろ髪が、テイル型ではなく下ろしたロングヘアに変わっている。蝶の髪飾りは水色にチェンジ

キュアパパイアの三面図。コスチュームは南国の果物感ある丸っこい雰囲気でデザイン。「イヤリングは果物のパパイヤそのものというより、一般的なカットフルーツのイメージです」（中谷）

第21話での夏合宿用トートバッグ。本がぎっしり！

制服姿。白のハイソックスを着用。スカート丈は5人の中で最も長く、ひざが隠れる長さ

第15話に登場したパジャマ姿。本編では中身はローラだったため（P.71参照）、メガネはかけていなかった

普段着姿。かわいらしい肩のフリルは、変身後のコスチュームの意匠をスライドさせたもの

フレームがリモコン操作の電飾で光るという設定

第15話での応援スタイル。学ランと扇で応援というビジュアルは、絵コンテ段階で考えられた

第35話のキョンシーの仮装。まなつ、さんごと同様に脚本での指定通りの扮装で、「とろぴかる」のお札はキャラ表発注段階でのお遊び

第19話での探険服。第16話の登山スタイルに引き続き帽子姿

キャラ表からしてノリノリな雰囲気が楽しい

第20話で「ピカリン探偵」を気取ったみのり。横顔でも目がレンズに隠れるよう、少し湾曲気味のメガネフレーム

ハートルージュロッド

リップスティックモチーフのロッド型アイテム。サマー、コーラル、パパイア、フラミンゴが個人技や4人技の「ミックストロピカル」を出す時に使う。ミックストロピカルではサマーのロッドにハートカルテットリングを装着

ハートのプレートの模様は、サマー＝ハート、コーラル＝珊瑚、パパイア＝パパイヤ、フラミンゴ＝ダイヤ（口ばし）

ハートカルテットリングをセットした状態

キュアフラミンゴ／滝沢あすか

エクセレン・トロピカルスタイル。髪の跳ね具合も増している。なお、チョーカーは5人の共通パーツ

キュアフラミンゴの三面図。肩口の白いヒラヒラは鳥の羽のイメージから作られたもので、トップスにくっついている構造

第31話の回想シーンに登場した、テニス部時代のユニフォーム姿とジャージ姿。髪はシュシュでポニーテールに。キャラ表は、百合子とペアで一枚絵で描かれている

制服姿。黒に白ラインのショートソックスを着用

普段着姿。5人の中では変身後の服装とのイメージが一番違っているが、肩周りは似た雰囲気を保っている

第19話の探険服。ここでも髪はポニーテール

第11話のサンドアート大会でのゼッケン付き体育着姿。トロピカる部の「ト」の字のゼッケンが愉快。第24話のクイズ大会でも着用

第35話のドラキュラあすかとコウモリくるるん。脚本では天狗と幽霊の仮装だった

第16話冒頭での登山スタイル。「僕のほうで「こんなふうな服装で」と絵コンテの表紙にメモを描いたのが元になってます」（絵コンテ・大地丙太郎）

トロピカルハートドレッサー

トロピカる部が作ったドレッサーが伝説のプリキュアから授かった力で変化したもの。この鏡に向かって「おめかしアップ」することで、エクセレン・トロピカルスタイルに

キュアラメール／ローラ

◀エクセレン・トロピカルスタイル。他の4人は腰ベルトが真珠型だが、ラメールはブレスレットとアンクレットが真珠型になっている

▶キュアラメールの三面図。スカート丈が短いこともあり、パンツスタイル風。まつ毛先端の球体は真珠のイメージ。変身前のローラが着けている真珠のヘアピンとも似ているが、偶然の一致だそう

マーメイドアクアポット

◀ヤラネーダから、やる気パワーを取り戻す際にローラが使うアイテム。内部は、ローラやくるるんの住まいでもある。「シャボンピクチャー」という写真撮影機能もある

◀人魚のローラ。耳にはえら、肘にはヒレのようなパーツがある。金のブレスレットや、下半身に巻かれたピンクのリボンがおしゃれ

▶制服姿。ローラだけは水色地で配色がまったく異なる。足元はルーズソックス

▶第17話ラストから登場した人間姿のローラ（普段着）。本編登場に合わせて設定が起こされた

▶▼第30話では生徒会長選挙に出馬。タスキとハチマキでキリリと

◀第19話探険服。髪はシュシュでサイドにまとめている

▲第7話で、くるるんが運んできたグランオーシャンのお菓子と、それが詰まった真珠貝型の巨大なギフトボックス

◀▼第12話で、風紀委員を誤魔化すため、咄嗟に違反制服を使って人間の扮装に

◀第13～16話、下半身をロングスカートで隠して人間として振る舞っていた

▼ローラが下半身を隠して直立歩行する際のパターン参考。尾ひれ（紫色部分）を器用に使った、スキップするような動き方

マーメイドアクアパクト

▶ローラ専用の変身＆技アイテム。人魚の女王からは石化した状態で託されたが、サマーたちのピンチを前に、ローラの気持ちに反応して、本来の状態になった

▲グランオーシャンのお菓子。ヒトデ型はチョコ味、クラゲ型と魚型はクリーム、たこは伸びるグミのようなもの

くるるん

▶人魚の女王のペット。のんびり屋で、普段はゴロゴロと昼寝をしていることが多い。人の言葉を話すことができないが、みのりだけはくるるんの言っていることがなんとなく分かる

人魚の女王

◀グランオーシャンの女王。名前は、メルジーヌ・ミューゼス・ムネモシュネ。「ローラありきの見た目です。『ローラが憧れている存在』のイメージでデザインしました」（中谷）

♥第7話で、人魚の女王からのお土産をローラに届けにきた時の、風呂敷を背負った姿

◀第33話でくるるんが夢に見たプリキュア姿

伝説のプリキュア

◀第29話に登場した先代のプリキュア。すでに肉体は消滅していることが第37話で明かされた。バトラーは彼女の存在を知っている様子

◀くるるんの大好物、貝殻クッキー。マーメイドアクアポットの中に、たくさんしまってある

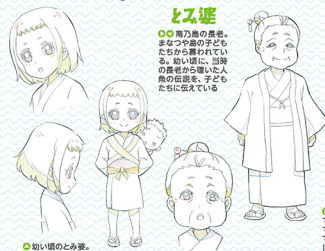
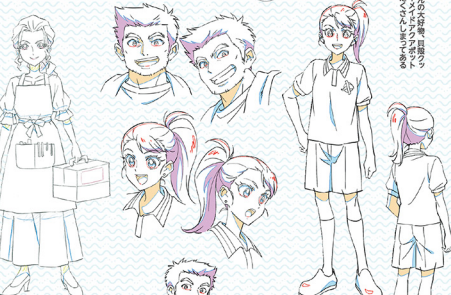
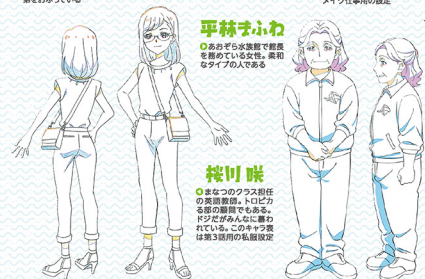
とみ婆

▶♥南乃島の長老。まなつや島の子どもたちから慕われている。幼い頃に、当時の長老から聴いた人魚の伝説を、子どもたちに伝えている

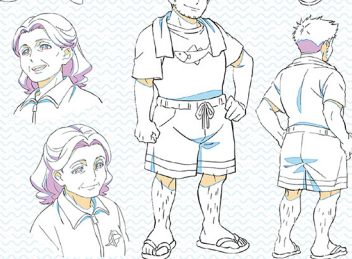
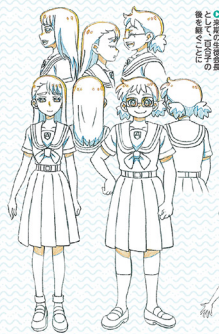
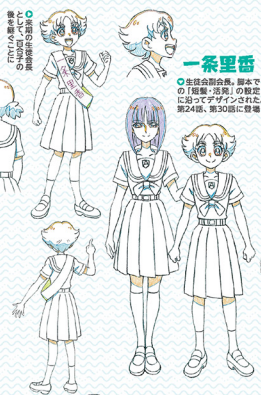
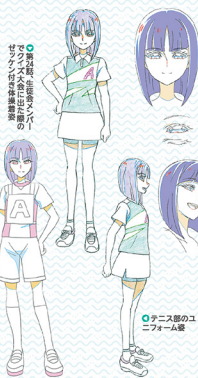
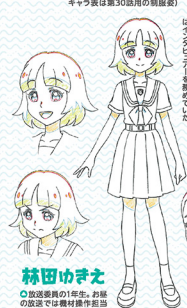
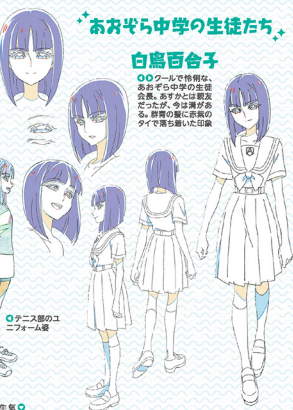
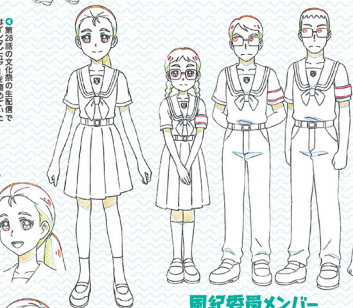
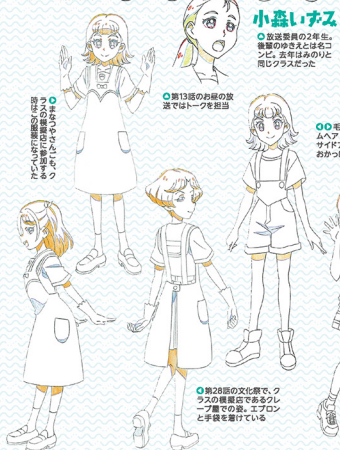
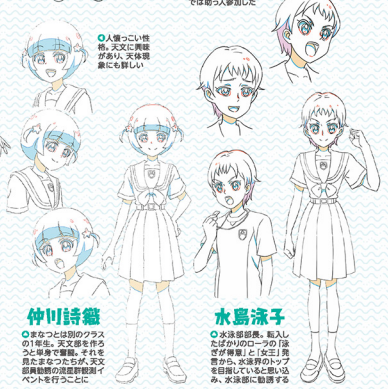
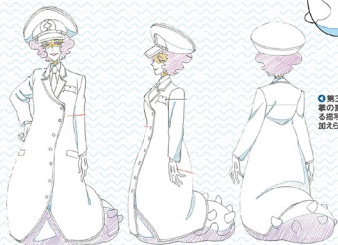
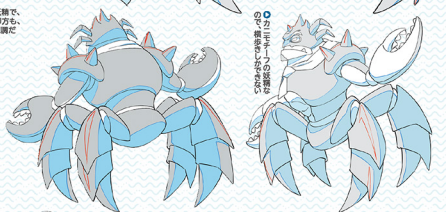
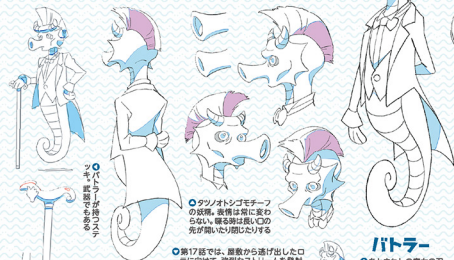
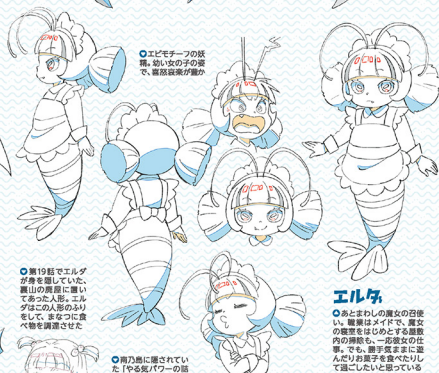
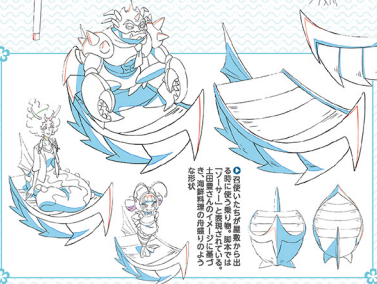
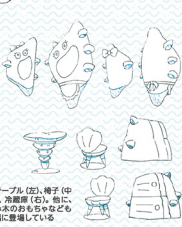
▲幼い頃のとみ婆。弟をおぶっている

涼村みゆき

▶さんごの母。あおぞら市でコスメショップを経営している。プロのメイクとしても活躍中。このキャラ表は、第9話や第32話でのメイク仕事用の設定

平林まふわ

▶あおぞら水族館で館長を務めている女性。柔和なタイプの人である

桜川 咲

◀まなつのクラス担任の英語教師。トロピカる部の顧問でもある。ドジだがみんなに慕われている。このキャラ表は第3話用の私服設定

夏海 碧
夏海大洋

◀▲まなつの両親。母親の碧は20代の頃に南乃島を訪れ、大洋と知り合った。現在はあおぞら水族館に勤務している。父親の大洋は生まれも育ちも南乃島で、島でスキューバダイビングのインストラクターをしている

あおぞら中学の生徒たち
白鳥百合子
クールで怜悧な、あおぞら中学の生徒会長。あすかとは親友だったが、今は溝がある。群青の髪に赤紫のタイで落ち着いた印象
テニス部のユニフォーム姿
第24話、生徒会メンバーでクイズ大会に出た際のゼッケン付き体操着姿
一条里香
生徒会副会長。脚本での「短髪・活発」の設定に沿ってデザインされた。第24話、第30話に登場
来期の生徒会長として、百合子の後を継ぐことに
生徒会メンバー
左の長髪の子が書記、メガネの子が会計。第24話で、里香や正美と共にクイズ大会に出場（このキャラ表は第30話用の制服姿）
第28話の文化祭の生配信ではインタビュアーを務めていた
林田ゆきえ
放送委員の1年生。お昼の放送では機材操作担当
小森いずみ
放送委員の2年生。後輩のゆきえとは名コンビ。去年はみのりと同じクラスだった
風紀委員メンバー
メガネの女の子が副委員長。男子の委員もみんなメガネをかけており、二人ともお堅そうな雰囲気。第12話に登場
学校を良くしたい気持ちが強く、次期生徒会長にも立候補。残念ながら敗退した
角田正美
風紀委員長。ルールに厳格で、トロピカる部に抜き打ちで持ち物検査をしたことも。生徒会とは親しく、クイズ大会では助っ人参加した
第13話のお昼の放送ではトークを担当
まなつやさんごも、クラスの模擬店に参加する時はこの服装になっていた
毛先が跳ねたミディアムヘア（左）がきりこ、ツーサイドアップ（下）がなおみ、おかっぱボブ（右）がゆみ
人懐っこい性格。天文に興味があり、天体現象にも詳しい
第28話の文化祭で、クラスの模擬店であるクレープ屋での姿。エプロンと手袋を着けている
白石きりこ
小町なおみ
桑野ゆみ
まなつのクラス（1年5組）の仲良し三人娘。さんごともよく話をしている。キャラ表は第3話の私服設定
仲川詩織
まなつとは別のクラスの1年生。天文部を作ろうと単身で奮闘。それを見たまなつたちが、天文部員勧誘の流星群観測イベントを行うことに
水島泳子
水泳部部長。転入したばかりのローラの「泳ぎが得意」と「女王」発言から、水泳界のトップを目指していると思い込み、水泳部に勧誘する

ヌメリー
あとまわしの魔女の召使い。職業はドクターで、魔女の体調管理を任されている。同僚の使用人の怪我の手当ても仕事のうち
ナマコモチーフの妖精で、下半身はむき出し。喋り方も、なんとも気怠そうな口調だ
第31話での車掌姿。車掌の変装やみかんを食べる描写は、絵コンテ段階で加えられた楽しいアレンジ
チョンギーレ
あとまわしの魔女の召使い。職業はシェフ。魔女のために、時間が経っても伸びない特製ラーメンを作ったりする。シェフのイメージから、常に首に赤いスカーフを着けている。調理時は、白いコック服も着用
カニモチーフの妖精なので、横歩きしかできない
バトラーが持つステッキ。武器でもある
タツノオトシゴモチーフの妖精。表情は常に変わらない。喋る時は長い口の先が開いたり閉じたりする
第17話では、屋敷から逃げ出したローラに向けて、強烈なストリームを発射
バトラー
あとまわしの魔女の召使い。職業は執事。魔女の寝室に頻繁に出入りして、いろいろな報告をしたり指示を仰いだりする
エビモチーフの妖精。幼い女の子の姿で、喜怒哀楽が豊か
第19話でエルダが身を隠していた、裏山の廃屋に置いてあった人形。エルダはこの人形のふりをして、まなつに食べ物を調達させた
エルダ
あとまわしの魔女の召使い。職業はメイドで、魔女の寝室をはじめとする屋敷内の掃除も、一応彼女の仕事。でも、勝手気ままに遊んだりお菓子を食べたりして過ごしたいと思っている
南乃島に隠されていた「やる気パワーの詰まった杯」。第23話でエルダが見つけ出した
召使いたちが屋敷から出る時に使う乗り物。脚本では「ソーサー」と表現されている。土田豊さんのイメージに基づき、海鮮料理の舟盛りのような形状
最終的に、人形はエルダが屋敷に連れて帰った
エルダが遊んでいた、手のひらサイズのママゴト用の人形。右の2つは背面
テーブル（左）、椅子（中央）、冷蔵庫（右）。他に、積み木のおもちゃなども本編に登場している

『映画トロピカル～ジュ！プリキュア 雪のプリンセスと奇跡の指輪！』

MOVIE

歌は風に乗せて

監督 **志水淳児**

しみず・じゅんじ
「プリキュア」シリーズでは「フレッシュプリキュア！」（シリーズディレクター）、「映画フレッシュプリキュア！ おもちゃの国は秘密がいっぱい!?」（監督）ほか

孤独な王女シャロンを歌で送ったローラたち。「ハートキャッチプリキュア！」とコラボした今回の映画は、切ないながらもハートウォーミングな後味を堪能できる一作だ。

1 雪原の謎の人物

雪深い山中をゆく人影。紫の光を妖しく放つ石に手を触れると、竜巻が起こり、無数の精霊「ホワン」が飛び出して世界各地へ。この人物は何者なのか？　神秘的で謎めいたシーンからスタートする。

2 シャンティアからの招待状

ヤラネーダとのいつもの戦い（作監：増田さん）が一件落着してからの、トロピカる部の面々の会話という日常スナップシーン。浜辺の東屋でさんごが提案するショピングモールのイベントはエピローグへの振りで、この時のローラは乗り気ではないのがポイントだ。そこへホワンが現れ、シャンティア王国の招待状を見せる。雪国と聞いたまなつは「辺り一面、かき氷ってことだよね！」と色めき立つ。志水監督発案の、巨大かき氷の周りをヘンテコ踊りするイメージが楽しい。

上野ケンさんの作監パート
増田誠治さんの作監パート

※例外部分は別記してあります。

エピシー
（朝日放送グループホールディングスのキャラクターとして活躍中のABCキャラクター）

onちゃん
（HTB 北海道テレビのマスコットキャラクター）

映画のどこかに登場！

3 いざシャンティア王国へ

シャンティアへ豪華な列車で向かうまなつたち。ここからの服装は映画用のコラボ服（P.16 参照／作画用デザインは増田さん）。車中で描いてもらうローラの似顔絵がゲージツ的なのはコンテでのお遊び（上野さんの修正原画の絵そのままを使用）。シャンティアに到着して、防寒着に着替えて王宮へ向かう際、あすかだけ雪だるま作りに夢中になっているのも志水監督のアイデア。

4 シャンティアの王女、シャロンとの謁見

王宮でシャロン王女と謁見。シャロンが穏やかでフランクな人物であることを印象づけるシーンだ。ローラが意外にもお行儀よく受け答えするのを、まなつたちが一斉に驚き、いじるのも愉快。

雪の王国・シャンティアの戴冠式に招待されたまなつたち。ローラは同じ女王候補としてシャロン王女と仲良くなり、指輪をプレゼントしてもらう。

しかし、シャロンが抱えている心の闇が暴走し、幸せな戴冠式は一転、暗雲に包まれる。『トロプリ』チームは、同じく招待されていた『ハトプリ』チームと共闘する。王国の悲しい真実も明かされ、9人のプリキュアはシャロンの凍りついた心を溶かすことを決める。

シャンティア王国に伝わる歌で、シャロンの心を癒やしていくプリキュア。空には太陽が、大地に緑が広がり、シャロンも心に温かさを取り戻す。そして、「あなたに会えてよかった」の言葉を残し、そのまま儚く消えていく……。

ローラたちの元に形として残ったのは、シャロンからもらった指輪だけだ。しかし、「笑顔あふれる国にしたい」というシャロンの想いを、ローラたちは忘れない。シャンティアの歌と共に、ずっと紡がれていくだろう。

悪を成敗する話にはしたくなかった

――久々の「プリキュア」映画のオファーがきて、いかがでしたか？

志水　しばらく「プリキュア」映画からは遠ざかっていましたし、最近は若手の人がやることが多かったので、もう僕に監督の話は来ないかなぁと思っていました。やらせてもらえるのは本当にありがたいです。年齢的にも、今後何本もできるとは思えないので、貴重な経験になりそうだと思いました。

――『ハトプリ』の客演はどう思いましたか？　志水監督の参加した段階ではもう決まっていたそうですが。

志水　僕は『ハトプリ』はTVの演出を2本やっただけなので、僕がやっていいのかなぁみたいな感じはありました。『フレッシュプリキュア！』だったらもちろん分かるんですけどね。だからこそ、僕でも分かるというか、あんまりマニアックなネタは入れずに、初めて観た人でも分かるような内容にしたいなと思いました。

――バトルシーンでの両チームは、脚本以上にコラボ感が高かったです。

志水　パート演出を担当した、なかの★陽さんに任せた部分も大きいですね。なかのさんはオールスターものや、ヒーロー集結ものってのが大好きな人なので。

――バトルシーンの絵コンテは、ほぼなかのさんが担当ですね。

志水　以前、『劇場版 マジンガーZ／INFINITY』で一緒に仕事していたので。こちらの要望も分かってくださる方で、今回も入ってもらいました。

――映画オリジナルキャラクターのシャロンは、実はシャンティアでただ一人の生存者という孤独な女の子ですが。

志水　前提として、やはり登場人物が少ないほうが話が作りやすいだろうというのはありました。あと、東映アニメーションの子ども向け作品は、極悪なものをやっつけるパターンが主流ですが、そればかりになるのはどうだろうというのがありまして。シャロンを極悪な魂が乗り移っているような存在にはしたくなかったんですね。

――そこで、歌で救うという形に。

志水　はい。歌を入れることは最初に決まっていたんですよ。ただ、脚本段階では、歌がまだできていないので、それがどこまで効果的になるかが分からないわけです。でも、そこは歌の力を信じるしかないなと（笑）。もうプ

5 『ハトプリ』と雪合戦

会見後、雪を満喫しようと外で遊ぶまなつたち。雪合戦を始めたはいいが、知らない女の子＝えりかに雪玉が命中。お互いに強烈なギャグ顔でバチバチ。「すぐ仲直りするぐらいのケンカにしたかったので、ギャグっぽくしています」（志水）。自己紹介し合いながら雪玉を投げ合うシーンでは、ひたすら雪玉を作るさんごや、かまくらを防御壁にして雪玉を避けるみのり、達人の動きで雪玉をかわすゆりが出色。仲良くなった両チームだが、最後にシャンティアに違和感を覚えるゆりのセリフで、軽く不穏さを匂わせる。

6 ローラvsえりか 2度目の対立

ゲストルームで、戴冠式で歌を披露する際の衣装を考えるローラたち。そこへえりかがやってきて、親切心からササッとデザインを描いてあげる（このデッサン画も上野さんの修正原画そのまま。服飾デザイナーが描く絵柄を意識している）。そこでまたもローラと衝突。ギャグ顔でオロオロするつぼみとさんごや、空気を読まずにアイスを抱えてくるまなつが演出的な緩衝材。だが、気分を害したローラは部屋を出て行ってしまう。

7 ローラ＆シャロン 心の交感

中庭に池を見つけたローラは、人魚姿に戻って一泳ぎし、少し気持ちを落ち着ける。そこに聞こえてくるシャロンのハミング。そのメロディを印象付けるリバーブ（残響）効果もポイントだ。ローラが人魚ということに驚くこともなく、声をかけるシャロン。それぞれの故郷の王国復興を願う二人は、互いに共感し、打ち解ける。このシーンはBGMが一切ない。「二人の関係がいいのか悪いのかをハッキリさせないためです。音楽をつけちゃうとそのシーンの意図が透けて見えるので」（志水）。一瞬だけシャロンは険のある表情を見せ、ローラはそれにハッとする。だが直後、シャロンはローラの幸せを願い、指輪をプレゼントする。

8 まなつとえりか

一方、えりかはコフレやシプレから諫められ、押しつけがましかったと反省。そこへまなつが現れる。「TVスタッフから、ローラとまなつは直接的に『あなたがいてくれたから、私は助かっている』みたいに、言葉にしない間柄だと聞いて、『なるほど！』と。そこでこのシーンで、『つぼみがそばにいてくれると心強い』とえりかが言い、『じゃあ、私がローラのそばにいるよ！だってローラといると楽しいもん！』と即座に返す形にしました」（プロデューサー・伊藤志穂）。互いのバディへの信頼や支え合う関係性が浮き彫りになるシーンだ。

9 ローラとえりか 仲直り

戴冠式の衣装に着替える一同。そこにやってくるローラ。一瞬気まずそうな表情から、えりかが先に頭を下げ、ローラも思いを受け入れる。お互いにちょっと強がって目は合わせないが、オンカメで柔和な微笑みを見せてから、最後はローラがえりかへ歩み寄って笑い合うという和解演出が絶妙。

10 戴冠式スタート

いよいよ戴冠式が始まる。凛々しく美しいシャロンの姿にまなつたちは拍手を贈るが、中でもローラは、頬を紅潮させて憧れの眼差しで見つめている。しかし、みのりは戴冠式なのに現国王や女王がいないこと、観覧席には招待客しかいないことを不自然に感じる。そしてシャロンが手にした錫杖には、映画冒頭に出てきた紫色の光を放つ石が……。

ロット段階で、クライマックスで使う形に決めたんです。

――シャロンは、物語の前半と後半で二面性が強いですね。

志水　それでも、悪い人にはできるだけ見せないようにしたくて、悪い言葉遣いも極力避けました。「隕石の悪い心がシャロンに乗り移る」という案もありましたが、やっぱりそれじゃあ同情できないというか。相手を殲滅しなきゃいけなくなっちゃうので。

――雪にも「楽しさ」や「凍える怖さ」の二面性があると思います。

志水　確かに、雪害とかは大変ですけど、人は雪と共存して乗り越えてきましたよね。同じ雪でも、とらえ方によってだいぶ変わってくるというのはありますね。

まなつたちの訪れた国はシャロンの幻想世界

――シャンティア王国のアジアンテイストは？

志水　某雪の女王との差別化です。ベースはチベット風で、そこに世界中のいろんな文化が寄せ集まる形にしてもらいました。五重塔があったり、モスクっぽい寺院もあったりします。

――ユーラシア全体が渾然としている感じもします。

志水　冒頭でシャロンがホワンを世界中に放っていますよね。あそこで、地球のいろんな文化を集めて想像上の一つの街を作った、という設定なんです。つまり、シャロンのイメージ世界なので、ちょっとごちゃ混ぜになっているという。

――すると、アバンの段階ではシャンティア王国の形はなかったんですね？

志水　そういうことです。まなつたちが訪れた街は、本当のシャンティア王国とは違います。回想シーンに出てくるほうが正しいです。古代都市だから、石造り中心のシンプルな感じですね。ちょっと中東に近いイメージの街です。

――シャンティアという名前は中央アジアにあったという理想郷・シャンバラからのモジリなんですか？

志水　そうですね。シャンバラの伝説とうまく絡められたらなぁと。シャンバラ王国も「幸せの国」と呼ばれているので、リンクさせたいと思いました。

――シャンティアに向かう列車は、南満州鉄道のあじあ号をモデルにしていますよね。そこもアジアンテイストとの関連で？

志水　いや、そういうわけではないで

『トロプリ』チーム変身！

5人はプリキュアに変身。TV本編ではローラが「変身よ！」と仕切ることが多いが、今回のローラは一瞬の躊躇を見せ、変身リングの光り演出で、戦いの決意を示す。変身シーンは、今作では一度だけなので、フルサイズのバージョンをつないだ豪華仕様だ。その長尺に合わせた形で変身曲が作成されている。「キャラのカットの雰囲気に合わせて、新アレンジで曲を上げていただきました。ありがたかったです」（志水）。TVでは週替わりのチーム名乗りは、ここでは「雪の国でも！」（脚本段階で決められたもの）。そして「トロプリ」チームの個人戦が展開される。

シャロン豹変～雪の怪物出現！

様々なパフォーマンスを披露した招待客たちはシャロンに招かれた礼を述べる。だが、そこに別れの言葉が含まれていたことで、シャロンの表情は冷たく豹変。国から去ることを許さないと言い出した。呼応するように、錫杖の石の輝きが増幅。空は暗転、奇怪な雪の怪物が多数出現して、招待客を捕らえてしまった！「みんなで笑顔あふれる国を作っていきましょう」と手を広げつつ、無感情に宣言するシャロンに一同、愕然とする。

協力な助っ人参上！

雪の怪物は次々と生み出され、多勢に無勢。そこに響き渡る、えりかの笑い声。「私たちの出番が来たようね！」。『ハトプリ』の主人公つぼみが、なんとも情けない姿なのもケッサク。「ハトプリ」4人の変身シーンは「トロプリ」チームと同じく長尺・新規BGMの豪華版。変身直後に『ハトプリ』チームが各個に怪物を倒す7カットは馬越嘉彦さんの原画だ（ここは上野さんが作監）。「当時「ハトプリ」を観ていた人だったら、絶対馬越さんの絵は見たいだろうと思ったので、製作の方にお願いして実現できました！」（伊藤）。なかの★陽さんのアイデアによるコラボ技の数々も見どころ。9人での合体技「トロピカ・フォルテウェーブ」は増田さんが原画を描いている。「あなたは何者なんですか？」とブロッサムに問われたシャロンは、その悲しい過去を語り出す。

シャロンの真実

淡々と、自身に降りかかった悲劇を明かすシャロン。実はシャンティア王国は約1万3000年前に隕石が落ちて滅亡した国だったのだ。「悔しかった」と漏らして錫杖を握りしめるカットからは、悲しみの深さが見える。また、彼女だけは隕石の力で蘇ったことも語られ、冒頭の貫頭衣の人物がシャロンであったことがここで明示される。「貫頭衣姿のシャロンのキャラ表はありませんが、原画の高橋任治さんの絵にボロ感を足して、悲しさをのせました」（上野）

善悪ではなく「冷たい」と「温かい」の戦いなんです

す。あじあ号は有名ですけれども、今回はその元になった、イギリスとかドイツの列車をイメージにしています。せっかく映画の冒頭に出すのなら、普通の電車だとサマにならないので、機関車がいいなぁと思ったんです。ただ、よくあるD51みたいな機関車だと、銀河鉄道999号っぽくなっちゃうし、ちょっと形の変わったものでと。弁慶号みたいな、玩具っぽいかわいい機関車もありますけど、それよりはやっぱり大型がいいかなと思いました。

――「シャンティア～しあわせのくに～」の楽曲発注では、どんな要望を出しましたか？

志水　国歌みたいな扱いになるので、恋愛の歌とか陽気すぎる歌とかじゃなくて、世界や季節を歌い上げる感じにしてほしいというのはありました。また、「トロプリ」のみんなで合唱する方向で考えていたので、一人が歌って、周りがそれにコーラスで合わせていく、Little Glee Monsterの曲みたいなイメージで発注しました。脚本段階で、ローラがメインで、他の面々がどういう順番でハーモニーで入ってくるかを設計して、作詞家の方（六ツ見純代さん）には、それを汲んで作ってもらいました。

――具体的に歌ができて、絵コンテ段階で考えたことは？

志水　あんまりワンカットを長くするのも間延びするし、かといってゆったりした曲なので、カット割りが短すぎてもせわしない。ちょっと難しかったですが、バランスをとりつつ配置していくように考えました。

――もう1曲、雪合戦で「大好きのSnowball」が流れます。Machicoさんの楽しい歌ですね。

志水　挿入歌をもう1曲追加したいという話がありまして。それに合わせて「じゃあここのシーンで使うか」ということで相談して決めたものですね。

歌をあちこちで広めていく9人

――本編クライマックスでの歌唱シーンは、口パクはどのように？

志水　動画の中割りを自動でやっています。そのソフト自体はそんなに特殊でもないんですけど、東映アニメとしては初めて使ったみたいで、普通の作画よりもちょっと滑らかにするための新しい試みです。モーションキャプチャした口の形を参考にして、アニメーターが手描きし、それをキーフ

王宮から脱出した「トロプリ」チーム。「ごめん、戦わなきゃいけなかったのに……」と、つらそうに謝るラメールに、サマーは「でも、戦いたくなかったんでしょ」と笑顔で受け入れる。そしてコーラルたちも、次善の策を提案してくる。この５人の関係性が心憎い。サマーにどうしたいのかを促されたラメールは「私、シャロンに言ってやりたいことがあるの。それを言いにいく！」。その決意の後押しに、リップを塗ってあげるサマー。作品テーマが見事に昇華されたシーンだ。原画も、増田さん自身が担当。

16 再起のリップ

15 キュアラメールの葛藤

無関係な人々をこの世界に閉じこめてしまうシャロンの暴挙と、それを止めようとする『ハトプリ』チーム。しかし、シャロンに同情するラメールは気持ちを曇らせてしまう。ブロッサムとマリンのフローラルパワー・フォルテシモから、身を挺してシャロンを庇うラメール。悲痛な彼女の瞳に映るフォルテシモの光跡や、フォルテシモによって弾き飛ばされた後に、シャロンを見て悲嘆に暮れる表情が見事。これらはなかの★陽さんの絵コンテに沿った芝居の組み立てだ。そして『ハトプリ』チームも捕らわれの身に……。

18 巨大な雪の怪獣が

シャロンの膨れ上がった怒りと悲しみが、巨大な雪の怪獣となって具現化した。コーラルたちもサマーに合流し、５人は個人技やミックストロピカルを連続発射するが、怪獣には通じない。しかしラメールはシャロンとの出会いを、サマーたちはシャンティアという国や、彼女の存在を強く肯定する。ラメールたちの想いに指輪が反応して輝くのを見て、ついにシャロンは穏やかな表情に！　ここでのバンクを使わない個人技や巨大怪獣とのバトルは板岡錦さん。指輪が光り、シャロンの心を動かすシーンは上田由希子さんの原画だ。

シャロンの指輪がスノーハートクルリングに変化！

17 ラメール vs シャロン

くるるんのお手柄で、地下牢から脱出したブロッサムたちは、雪原で凍りついたスノードロップを発見。スノードロップはシャロンの「こころの花」であるという。一方、シャロンと対峙するラメール（両者のシリアスな表情でのやりとりは石野聡さんが担当）。シャロンの言葉に耳を傾けすぎてしまうラメールに、サマーがギュッと手を握る。一瞬、リップがラメ反射する演出もポイント。「サマーはラメールの強い支えになっているんです。こういうところで、「一緒にいるよ」というまなつの変わらない良さを出したいと思いました」（伊藤）。そして、ラメールはシャロンを説得しようと、静かに強く言葉を紡ぐ。「本当は分かってるんでしょ？」。図星をつかれ、「黙れ！」と怒りを露わにするシャロン。ここで髪がほどけ、風に舞うのは志水監督となかの★陽さんのアイデアだ。

レームにして、ソフトで中割りをしているんです。手間はかかりますが、ちょっとした無駄な動きも再現して、できるだけリアルな口にしたくて。３Dソフトでやっちゃうと滑らかすぎるので、あえて手描きにしました。

――作画のほうが独特の引っかかりがあって、印象に残りますからね。

志水　そうですね。それに作画のほうが、キャラごとに口の形状も柔軟に変えられますから。

――エンドロールの途中でインサートされる作画パートは、シャンティアの歌を歌い継いでいく内容です。保育園でまなつとあすかが園児の前で歌ったり、みのりはビジネスマンにプレゼンしたり、さんごはファーストティクしているなど、バラエティに富んでいます。

志水　これらはコンテを描きながら考えたものですね。最初は５人の合唱で、ドリフの聖歌隊風です。そしてローラは高座で浪曲を歌い、あすか・いつき・ゆりはストリートミュージシャン風。最後のまなつは、水谷千重子風の謎の演歌歌手ですね。全体的に、まなつとローラがちょっとヘンテコなことをしている形にしています。で、学校で歌っているカットは「ハトプリ」の学園祭。ここはＴＶシリーズの美術設定を使っています。

――みんなシャロンとの約束を実践しているわけですね。最後に、映画を観る上で注目してほしいところは？

志水　歌のシーンと、あとはＥＤのダンスですね。いつものＥＤはわりとみんなでそろいの振り付けでやっていますが、今回は全員が違う動きになっているんです。やっぱり、いつものダンスとは違うものにしたくて、僕のほうからお願いしました。ところどころみんなで合わせる部分もありますけど、基本はキャラごとにバラバラで、あえてルーズな動きをしたり。そういうところを、じっくり観てもらえると嬉しいですね。

寒い冬から暖かな春へ

CGディレクター **大曽根悠介**　CGプロデューサー **野島淳志**

――今回の映画のEDも、実制作はダイナモピクチャーズさんなのですか？

大曽根　そうです。TV後期と同じく松瀬勝さんが演出を務めました。映画の内容をお伝えして、そこから映像のコンセプトなどを考えていただきました。

野島　ダンスの振り付けに関しては、志水監督から「本編の雰囲気も加味して、あまり激しい動きではなく、歌いながらリズムに乗っているくらいのダンスにしてほしい」という話がありました。各キャラにちょっとしたお芝居が入っている感じといいますか。途中で作画による後日談のカットも入るので、松瀬さんの絵コンテは志水監督にもチェックしてもらっています。

大曽根　ダンスを見せる以上に、ストーリー性や本編とのつながりを意識しました。冒頭のラメールのカットは、感情表現が思い切り前面に出るので、CG的には難しかったですが、ダイナモさんが総出で頑張ってくれたそうです。表情だけでなく、ライティングなども工夫されています。

野島　とにかく、キャラの芝居力が必要とされるのが今回のEDですね。

――「ハトプリ」チームは10年前のCGモデルなんですか？

大曽根　いえ、さすがに改修しています。やはり最新のCGモデルの子たちと並ぶことになるので。その作業も、ダイナモさんにやっていただいています。頭身も『トロプリ』チームと並ぶと違和感が出るので調整していますが、関節や骨組みは基本的にはいじっていないです。

野島　でも、細かい角度補正などができるよう、アップグレードはさせています。

大曽根　顔周りについても、ダイナモさんが独自にリグを追加してくれていて、顔の表現力も上がっています。東映アニメーション側からのクオリティに対する要求が高くなっている分、それに応じる形でモデルに手を入れてくれました。

野島　それと専門的な話ですが、『ハトプリ』のモデルのレンダラー（仕上げソフト）を「トロプリ」で使っている最新のものと合わせたんですよ。それで、撮影が一緒にできるようになり、そこも違和感を減らすことに貢献したと思います。

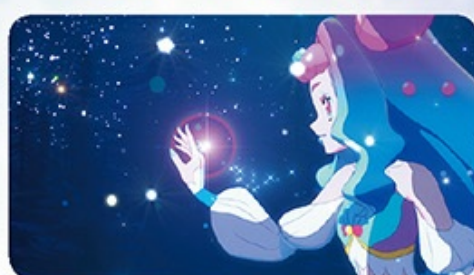
――前半は冬をイメージした寒色系の暗い世界で、歌のサビでガラッと春の世界に切り替わりますね。

野島　そこは、プロデューサーの伊藤（志穂）や志水監督の要望です。二人からは「木々などの自然物を出したい」という要望もありました。冒頭の「トロプリ」の5人にピンスポットが当たって登場するのは、松瀬さんが考えた演出だったと思います。

――全体にパーティクルが美しいですね。

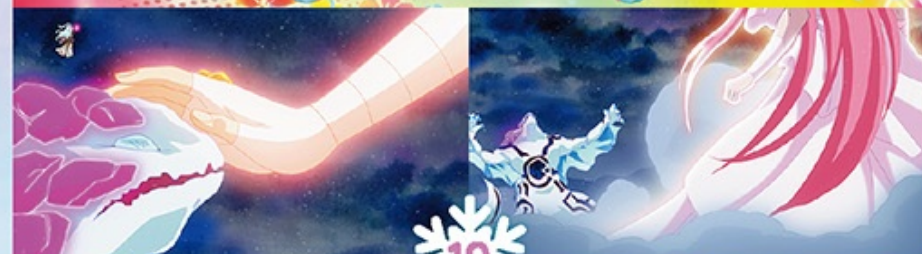
野島　パーティクルは、全体的に足してもらいました。やっぱり最後は明るく終わりたいですから。そこは、伊藤からも強く要望されました。

大曽根　プリキュアのかわいさをどう保つのか計算しながらバランスを考えていくと、豪華に盛る方向になったんです。前半部分については、リアルに作ってしまうと暗くて怖くなるんです。そう感じさせないために、背景をきれいにしていった結果、キャラがいる手前部分が寂しくなってしまい……。そこで、手前側にもキラキラを足して調整しました。そうすると、今度は後半があっさりめに見えてしまって。最初は花びらだけ足してもらったんですけど、結局後半もキラキラしたものを加えてもらいました。

野島　花とは違うパーティクルもいっぱい飛ばしてもらって。大曽根さんはパーティクルの流れる方向までこだわっていましたよね？

大曽根　当初は、花とキラキラしたものは違う方向に流れていたんですけど、「ぴったりとは重ならないようにしつつも、微妙に合わせて流れる」感じがきれいかなと思いました。

――最後にED全体の見どころをお願いします。

大曽根　とにかくダイナモさんがキャラクターをとてもかわいく見せてくださったので、そこに注目してもらいたいです。あとは、本編を観た上でのEDなので、物語の雰囲気の再現というか、ラメールのシャロンに対する気持ちを、ED後半のガラッと明るくなるところまで含めて表現しているのが見どころですね。

野島　先ほども話に出た、ED前半が暗くても小さい子たちに怖いと感じさせないことを一番に心がけました。それと、今回のED前半のような、ライティングの効果を分かりやすく感じさせる映像は、アニメのCGではあまり見たことがない気がします。「プリキュア」でも珍しい演出なので、ぜひ味わってもらいたいです。

19 パワーアップ変身！

別の場所で戦う「ハトプリ」チームの想いも受けて、リングがスノーハートクルリングに変化。5人はスノークリスタル・トロピカルスタイルにおめかしアップ！　変身シーンの原画は吉松孝博さん。鏡面反射するハートがサマーたちの身体をすり抜けて変身して行くプロセスは、なかの★陽さんの案だ。怪獣とのバトルの末に、女神が拳を寸止めして頭をなでる流れは、片山敬介さんの原画。「シャロンは悪い人ではないし、やっつける形にはしたくないなと。なので決めゼリフの「ビクトリー！」もTVとは違う、穏やかな言い方にしています」（志水）。また、女神の色味は、映画用にオレンジ系に変更されている。「暖かい光のイメージです。敵側はほぼ寒色ばかりなので、暖色で対抗する構図です。善悪ではなく「冷たい」と「温かい」の戦いなんです」（志水）。その後の温かい光を見上げる「ハトプリ」のカットは馬越さんの原画。

20 シャロンを送る歌声

しかし、シャロンの心は傷ついたままだ。力を失いかけているが、ラメールへ弱々しく雪玉を投げて抵抗するところが切ない。ラメールは戴冠式で歌うつもりでいた、シャロンから教わった歌「シャンティア～しあわせのくに～」を歌い始める。そこにサマーたちも加わり、シャロンの目には両親や国民たちの幻が……。このリップシンクの原画は青山充さん。ラメールたちの歌声に、シャンティアの凍てついた世界は暖かな春の世界へ。この歌を歌い継いでいくことを、ラメールは気丈に約束する。その腕の中で、シャロンは穏やかな顔で消えていった。

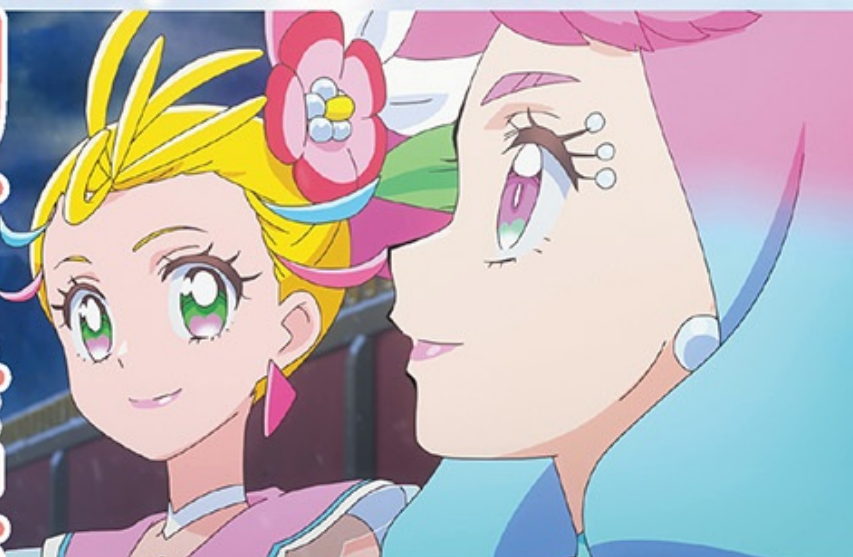
21 そしていつもの常夏の街

気づくと、まなつたちはあおぞら市に。夢から覚めたように、強い陽射しとセミの声に切り替わる。「ここは、突然現実に戻った感じを出しました」（志水）。口をへの字にして涙を堪えるローラに対して、わんわんと泣き出すまなつ。「シャロンが消えるシーンもそうなんですけど、大粒の涙にしたかったんです」（上野）。鼻水を出して泣くまなつはTVでもよく見られるが、ここではギャグ表現ではなくリアル寄り。骨格の見える造形で、強く印象に残る。みんなを代表して泣いてくれているかのようだ。

22 想いは永遠

エピローグ。冒頭で話題に出ていた、商店街の青空ソング大会だ。集まった人たちにシャンティアの歌を届けるのだ。「私の歌じゃない、私たちの歌よ！　さあ、みんなの心に、響かせるわよ！」と意気込むローラ。スノードロップと指輪も一緒に、トロピカる部はステージに立つ！

行動で信頼を示すバディ

「プリキュア」シリーズではおなじみの成田さんによる、７年ぶりの劇場作品。女の子たちの心の交流をどのようにして描いたのだろうか。

脚本 成田良美

なりた・よしみ
1973年生まれ。脚本家。シリーズ構成作品に「のりものまん モービルランドのカークン」「先輩がうざい後輩の話」「抱かれたい男１位に脅されています。」ほか

人々が亡くなっても受け継がれていくもの

――成田さんにとって、やや久々の「プリキュア」シリーズへの参加となりましたが。

成田 「プリキュア」シリーズは、ありがたくもよくお声がけをいただくのですが、私のスケジュールの都合でお断りしてしまうことが何度かあって。TV『トロプリ』はタイミングが合い、少し遅れての参加となりました。

――映画のお仕事のオファーは？

成田 TVの脚本を2本ほど書いたところで、映画のオファーをいただきました。もうちょっとTVのほうを書きたいなと少し迷う気持ちもあったのですが、映画は長い物語をじっくり描けるという魅力がありますし、せっかくご指名いただいたので、TVのほうを一旦抜けて映画チームに行きました。

――当初から『ハートキャッチプリキュア！』が客演することが決まっていたようですが、そこに関して考えたことは？

成田 『ハトプリ』は私も大好きなシリーズなので、つぼみやえりかたちをまた書けることがとても嬉しかったです。と同時に、人気シリーズなので、ファンの皆さんの期待に応えるようなものにしなければと。ただ出すだけじゃなく、『ハトプリ』らしさや、彼女たちが『トロプリ』の映画に出ることの必然性をしっかり描かなければと思いました。

――この映画は、ローラの成長物語の側面が強いですね。

成田 「ローラがメイン」というのは最初にプロデューサーから言われました。TV『トロプリ』のシナリオを読んで書いてみて、ローラはすごく面白いキャラだと思っていたので、そこは大賛成でした。「ローラの成長物語を」というのも最初に言われたのですが、すでに自分のポリシーをしっかり持っている子なので、どう成長させるかはかなり悩みましたね。

――雪の国を舞台にするというのは、成田さんの参加後に話し合って決まったそうですが。

成田 年中常夏の街でいつもトロピカってる子たちが、寒い国に行ったら面白そう、という単純な発想からです。そこから、「寒く凍りついた国やゲストキャラを、ローラやまなつたちが温めてトロピカらせる」という物語にしようと考えました。つまり、凍りついた心を溶かして春をもたらす、雪解けのイメージです。子どもたちに雪を怖いものと思ってほしくなかったので、雪遊びなど楽しい面もしっかり描きました。

――シャロンやホワンなどのネーミングは、どういう話し合いで決まったのですか？

成田 シャロンもホワンも私が名づけて、そのまま採用されました。キャラクターの名づけは、覚えやすさと呼びやすさを重視して考えます。雪のようにほわほわしてるのでホワン。シャロンやシャンティアは、シャンバラ王国のきれいな音の響きからとりました。

――シャロンやシャンティアのバックボーンは、どういう話し合いから決まったのでしょうか？

成田 シャロンとシャンティアの設定も、私からご提案させていただきました。シャンティアは太古に滅んだ古代文明のイメージです。国が滅び、人が亡くなっても、そこから生まれた文字や歌や習慣は人を通じて伝えられ、現代にも息づいている、ということにロマンを感じます。シャロンもシャンティアも復活させることはできないけれど、彼らの歌をプリキュアが歌い、受け継いでいけたらとても素敵だなと思いました。

――物語の軸となるのは、ローラとシャロンの心の触れ合いですね。

成田 TVの土田監督から、「ローラはTVのほうでまなつたちと友達関係を構築している最中なので、ローラに友達を作らないでほしい」という注意がありました。なので、「女王を目指している同志」という関係にしました。ローラもグランオーシャンを救いたいという思いがありますし、国を思うシャロンと心を通わせられるのは、まなつたちではなくローラ、という必然性を持たせました。

――これまでの「プリキュア」映画では、通常フォームへの変身シーンが前半と後半で1回ずつ入ることが多いですが、今作は中盤に1回だけで、その分、前半のドラマが落ち着いている印象でした。

成田 変身シーンは子どもたちが喜ぶ見せ場ではありますが、2回あるとダレてしまう気がして。映画フォームへのチェンジもありますし、ドラマに尺をとりたかったというのもあって、変身バンクは1回にしました。

――ラメールは戦いの場でも、ブロッサムとマリンの攻撃から、身を挺してシャロンをかばっていましたね。

成田 物語の流れの中で、自然と出てきた展開です。シャロンと心の交流のあるラメールは、当然かばうだろうと。結果的にいいアクセントになったと思います。

――隕石自体に邪悪な意志はなく、シャロンの悲しみが暴走して怪物を生んだ形でした。たとえば『ハピネスチャージプリキュア！』のクイーンミラージュのように、悪者に操られたシャロンを救う話とはまた違いましたね。

成田 「悪い敵を倒して終わりではない物語にしたい」という思いは最初からありました。多様性を認め合うことが大事だと子どもたちに言っている昨今、勧善懲悪がどうもプリキュアになじまなくなっているような気がして。悪者に操られるパターンも候補としてあったのですが、前にやったしなぁと自主的に却下。「今までに書いたことのない形を」と悩んで悩んで、アイデアをひねり出してこうなりました。

――そんなシャロンを最終的には歌で救いましたね。

成田 「ローラの歌を推したい」というオーダーでもありました。なので、歌でゲストキャラクターを救うという物語にしようというのは、わりと最初に考えて決めました。

――スノードロップをシャロンの「こころの花」にしたアイデアは、どういう経緯で出てきたのでしょうか？

成田 せっかく『ハトプリ』を出すなら、しっかりドラマの本線に絡めたい。でもどう絡ませるか？ と会議で話し合いました。そんな中、『ハトプリ』の象徴である「こころの花」を出し、シャロンのこころの花をスノードロップにしてはどうか、というご提案をいただきました。スノードロップは春を告げる象徴で、花言葉（＝希望）もよかったので、そのまま使わせていただきました。

ぜひチェックしてほしいプリキュア伝統の手つなぎ

――ローラとえりかの険悪ムードは、最初からフレンドリーに出会う、これまでの『オールスターズ』企画とのギャップがありましたね。

成田 差別化は特に意識していなかったです。最初から険悪にしようとしたのではなく、ローラとえりかは二人とも思ったことを直球で言うキャラなので、この二人が出会ったら当然、一悶着あるだろうなと。キャラの動きに任せたら、そういう流れになったという感じです。ただ、ケンカの仕方には細心の注意を払いました。二人がイヤな子にならず、見ていて不快にならないように、何度も会議で話し合って、修正を重ねました。

勧善懲悪がどうもプリキュアになじまなくなっているような気がして

――以前、成田さんは「えりかは書いていて筆が乗る」と言われていましたが。

成田 えりかを書いたのは久しぶりでしたが、やはり筆は乗りましたね。雪の国という舞台にポンと入れるだけで、自然と動き回ってわいわい喋ってくれます。同じように、ローラも元気に動いて喋ってくれるので、書いていて本当に楽しいキャラたちです。ただ二人とも喋りすぎて長くなってしまい、短く削るのが大変でした。

――『トロプリ』はまなつとローラ、『ハトプリ』はつぼみとえりかがバディ関係だといえますが、両者の特徴をあえて言うなら？

成田 まなつとローラは言葉で励まし合うのではなく「行動で信頼を示すバディ」だと思います。それぞれがマイペースで行動するんだけど、お互いがそばにいることが力になるイメージです。今回の映画では、プリキュア伝統の「手つなぎ」をしています。サマーがラメールの手を握るシーンと、ローラがまなつの手を握るシーンとが対になっています。一方の『ハトプリ』は、えりかが元気に「うおーっ！」と突っ走るけど、ときどき立ち止まってチラッと振り向き「つぼみ、いるよね？」と確認する感じ。つぼみは、そんなえりかに振り回されつつもついていく、女房役のようなイメージです。

――バトルシーンでは『トロプリ』『ハトプリ』両チームの共闘が見どころだと思います。

成田 やはり2チームのプリキュアが出るからには、コラボさせたいですし、見せ場にしたいと思いました。バトルはシナリオに書いた以上に、演出でコラボ感を盛り上げていただきました。

――『トロプリ』5人のパワーアップ形態「スノークリスタル・トロピカルスタイル」は、『ハトプリ』チームの想いの力も受けての変身ですね。

成田 映画のスペシャルフォームを出すというのは必須事項ですので、どんなフォームにするかは物語を考え、会議で話し合いながら決めていった感じです。やはりメインは『トロプリ』チームなので、自然と『ハトプリ』チームがバックアップという流れになりました。そういえば、どちらのチームもドレッサーで合体技が発動しますね。特に意識はしていませんでしたが。

――シャロンが消滅すると、シャンティア王国も消えました。まなつたちは白昼夢から覚めたようにあおぞら市に戻ってきます。

成田 シャンティア王国は、シャロンのイメージ世界のつもりで書きました。シャロンが愛し、彼女が作りたかった王国のイメージが、隕石のパワーで具現化していたという感じです。

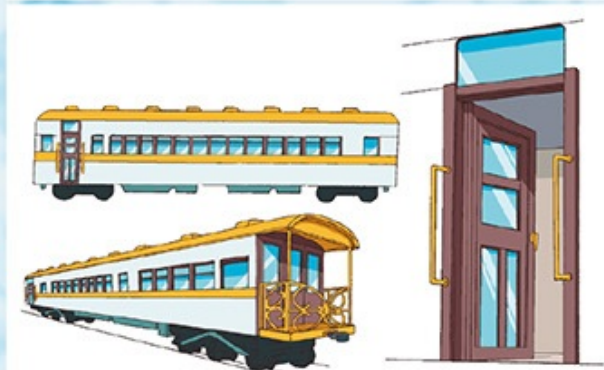
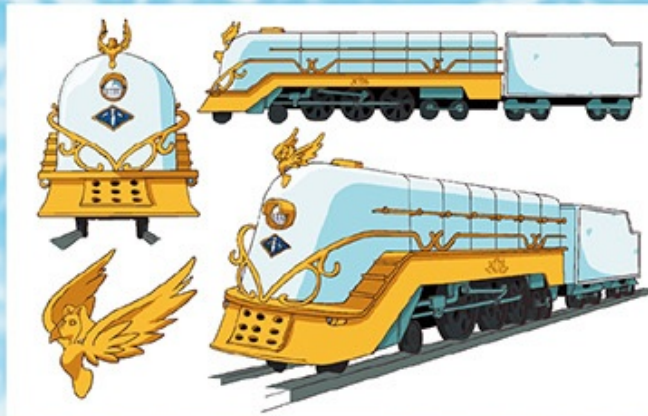
――全体としては現状のTVの『トロプリ』よりも、シリアスで切ない雰囲気が強かったですね。

成田 最初のオーダーで「ドラマ性のあるものを」と言われましたし、私も感動のある物語にしたいと思っていました。シリアスで切ない雰囲気は、プロットを考えるうちに結果的にそうなった感じです。しかし、TVアニメ『トロプリ』は楽しさやギャグをメインにしている作品なので、『トロプリ』らしさをしっかり保ちつつシリアスなドラマを描く、そのバランスをとるところに苦労しました。

――今回の映画を、2度、3度観る上での注目ポイントをお願いします。

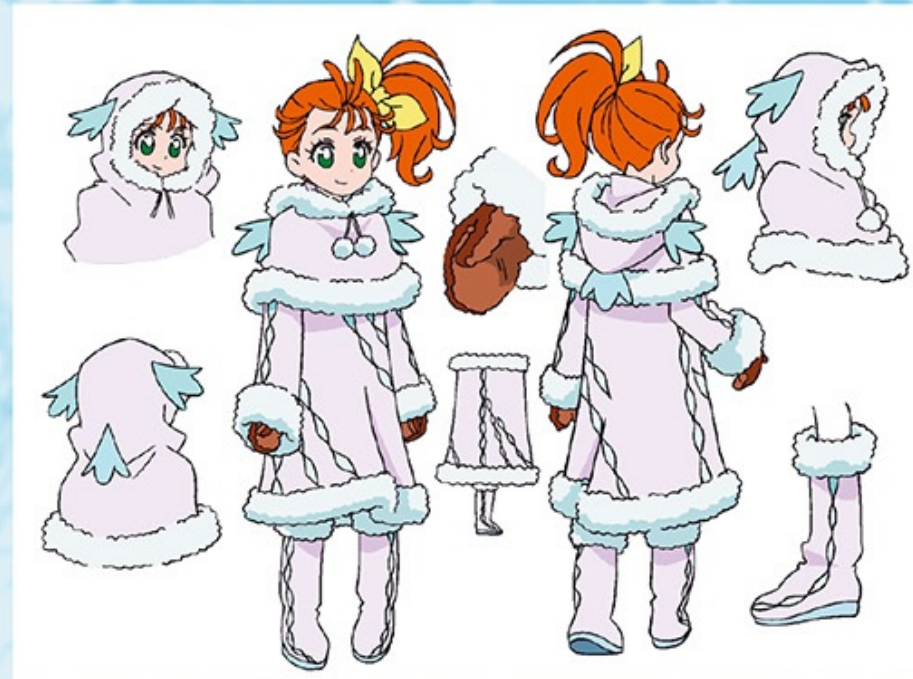
成田 『トロプリ』と『ハトプリ』、力を合わせてのバトルは迫力があるので、何度も見てほしいです。あと、サマーとラメールのプリキュア伝統の手つなぎは、ぜひチェックしてください。

まなつたちはここが魅力的！

「まなつの魅力は、いつどんな時も笑顔で明るいところ。ローラが「私のせいで……」と落ち込んだ時も、笑顔でその気持ちを肯定してあげられます。ローラは、心揺らしながらも毅然とシャロンと向き合います。女王の素質の片鱗を見せるつもりで書きました。さんご、みのり、あすかは、二人と比べると出番が少なめですが、その分、一つ一つのセリフに思いがこもった、彼女たちらしいセリフになるようにしました。凍りついたシャロンの心を、彼女たちがどうやって溶かしてトロピカらせるのか、注目して楽しんでいただけたらと思います」（成田）

シャンティア行き列車

まなつたちがシャンティア王国に行く時に乗車した特別列車。志水監督のイメージに沿って上野さんが設定を起こしている。機関車は装飾性の高いパイプやハーピー風の飾りなどが優美な雰囲気。ヘッドマークはシャンティアのエンブレム。客車は２両編成で、１両目は二軸台車、２両目（最後尾車輌）は三軸台車でディテールも異なる。

ローラの考えたステージ衣装

ローラが当初考えていた、戴冠式で歌を披露する際の衣装。このイロモノなデザインは志水監督のアイデア。「まさか昆布を巻き付けるとは。我々人間とはちょっと美意識が違うというか、グランオーシャンではこれがスタンダードなんですかね(笑)」(上野)。キャラ表には「アンモナイト&イソギンチャク付きカチューシャ、ホラ貝のネックレス、腰にエビ、昆布のドレス、足首にヒレ、足先にヒトデ、右手首 大きな真珠、左手首 真珠のブレスレット、右腕に珊瑚」と詳細が書かれている。脚本によると、これらのパーツはアクアポットの中にあったという設定だ。

防寒服

まなつたちが雪遊びシーンで着用。ケープやフードにホワンを思わせる羽がついている。「最初私は、ホワンが変化して防寒着になるのだと勘違いしていたんです（笑）」（上野）。だが出自的な意味合いは変わらないのと、アクセントとしてもかわいいので、そのまま決定稿となった。なお本編では未使用だが、フードをかぶった参考（左上）も描かれている。

防寒服えりかアレンジver.

防寒服のデザインは９人同一（色違い）だが、脚本段階からえりかだけ少しアレンジした着こなしに設定されていた。「志水監督から、スカーフを着けようと言われたんです。それで首元のボンボンを外してスカーフに変えたんですね。その場で思いついて、ありものでおしゃれにアレンジしたという意味合いです」（上野）。コートの裾も動きやすいよう、少したくし上げてある。

戴冠式用国民服

戴冠式で、まなつや招待されたゲストが着用。これはシャンティアの民族衣装で、シャロンの回想シーンに出てくるかつての国民たちもこの服を着ている。シャロンの服と同様の幾何学模様が入っている。

プリンセスとの出会い

キャラクターデザイン・総作画監督
上野ケン

うえの・けん
フリーのアニメーター。「プリキュア」映画のキャラクターデザインでは、インタビュー中に出てくる「ハトプリ」「まほプリ」のほか、「映画ドキドキ！プリキュア マナ結婚!!? 未来につなぐ希望のドレス」もある

異国情緒あふれる街で、ミステリアスな王女様との奇跡の出会い。全編通して、まなつたちのお着替えも多く、目にも鮮やかな画面が広がっている。

隕石の力を表すシャロンの瞳の星

――今回のお仕事のオファーを受けた感想からお願いします。

上野　「やらせていただけるのであれば……」というのはありましたね。もうそろそろ世代交代かと思っていたので。5年前の『映画魔法つかいプリキュア！ 奇跡の変身！キュアモフルン！』はこれが最後のつもりだったんですよ（笑）。私も「プリキュア」シリーズは10年以上やっていますから、そろそろ一区切りかなと感じたりしつつも、まだ仕事がいただけるのなら頑張ろうと思いました。

――上野さんは2010年の『映画ハートキャッチプリキュア！ 花の都でファッションショー…ですか!?』から「プリキュア」に本格参加でしたね。

上野　「プリキュア」に参加した1作目なので、記念の作品ではありますね。でもまさか、また「ハトプリ」を描くことになるとは思わなかったです。「ハトプリ」から始まって、その後、いろいろなプリキュアを描いてきたので、当時の絵柄に戻れるかどうか……というのはありました。私自身の絵の描き方も、少し違っているところもあると思うし。

――実際に「ハトプリ」チームを描いてみてどうでした？

上野　いやぁ、手こずりました（笑）。私は「トロプリ」の第1話と第10話をやったので、どうしても「トロプリ」っぽくなっちゃうんですよ。でも「トロプリ」の世界がベースだから、それもアリだったのかなぁ。とはいえ、影のつけ方とかは、もともと「トロプリ」の世界観に合わせようとは思っていましたよ。今回用に「ハトプリ」のキャラ表をあらためて作ったわけではないので、2チームが並んだ時に、違和感が出ないようにという感じですね。

――映画オリジナルフォームであるスノークリスタル・トロピカルスタイルは、「ハトプリ」のスーパーシルエットのイメージも取り入れてるようですね。

上野　そうです。全体的なフォルムというよりは、パーツ的なものを借りた感じですね。サマーはブロッサムの、コーラルはマリンの、パパイアはサンシャインの、フラミンゴはムーンライトのデザインを持ち込みました。で、ラメールをどうしようかなと思ったんですけど、そこは「ハトプリ」4人の集合体にしてみました。長尺で動くわけではないので、多少線が多くても大丈夫かなって（笑）。動かすことはあまり考えていないデザインですね。背中のハートは、撮影処理でどうきれいに見せるか大変だったろうと思います。

――ラストシーンのまなつたちのステージ衣装は？

上野　これはもう志水監督の趣味ですね（笑）。曲調にうまく合うかなぁとも思いましたが、ガールズグループみたいなポップな感じでとオーダーされました。

――シャロンのデザインについて、志水監督からのオーダーは？

上野　特になかったんですよね。最初に「王女様が出てくるお話」と聞いて、きっと村娘みたいに身をやつした少女とプリキュアが会って、お城に行ったら実はお姫様でした……という王道ストーリーだろうと勝手に思い込んでいたんです。まさか、最初からお姫様として登場してくるとは（笑）。

――つまり、お下げ髪は村娘のイメージの名残なんですか？

上野　それはありますね。村娘のラフを描き始めていたので。そこをベースに、高貴な人というのが一目で分かるように、髪を盛りました。一般国民との違いを出すなら、それが一番分かりやすいかなと。

――瞳孔が星形なのも特徴です。隕石の力で復活したという設定を意識したのですか？

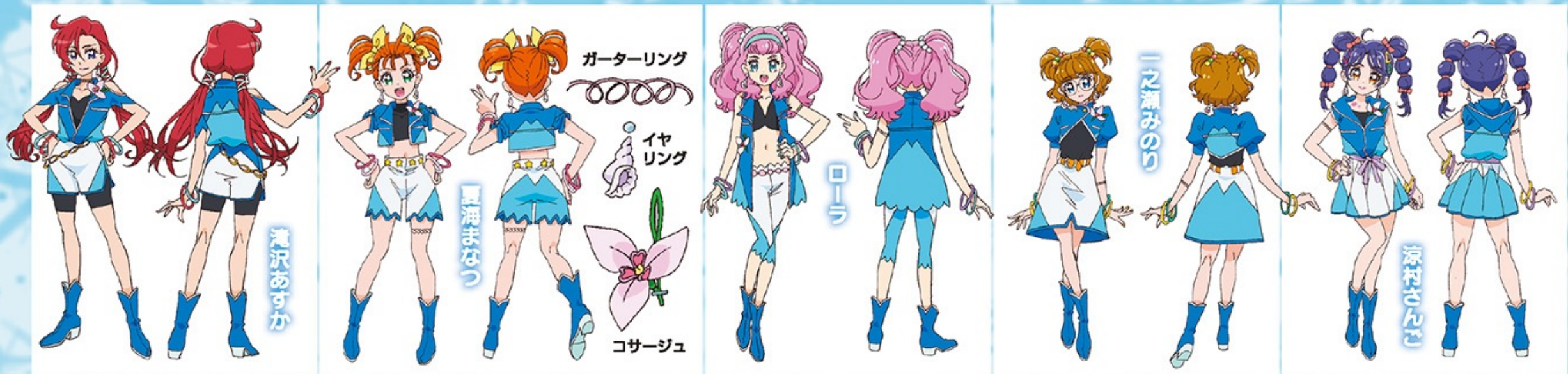
上野　実は、そこは最初、無意識だったんですよ。単純にプリキュアとの差別化と、高貴な要素を入れようと思って星型にしたんです。そしたら志水監督から「隕石の影響を受けて瞳が星形になったと解釈できるし、いいね」と言われたので、「それだ！」と。だから回想シーンのシャロンの瞳孔はノーマルなんです。幸せだった頃は普通の目でしたが、隕石の力を借りるようになって星型になったと。細かく言うと、瞳孔そのものじゃなくて、眼球の手前に星があるイメージなんです。

――コンタクトレンズみたいなことですか？

上野　そういうことです。だからあの星は、星の奥には通常の瞳があるって解釈なんです。

ローラはただの高慢ちきじゃない

――パート作監は、増田誠治さんと上野さんですね。

上野　そう、二人だけなんです。なの

青空ソング大会の衣装

エピローグのまなつたちのステージ衣装。これがシャンティアでえりかがデザインした服だ（P.41 参照）。ガールズアイドルを意識して、全員少しずつディテールが異なる。スノードロップのコサージュと巻き貝のイヤリングは共通アクセ。青をベースに、差し色でそれぞれのカラーが配されている（まなつはピンク）。髪型を全員ツインテールで統一したのは上野さんの趣味らしい。「シャロンに合わせたつもりはなかったんですけど、そういうことにしておいてください（笑）」（上野）

キュアサマー

スノークリスタル・トロピカルスタイル

巨大な雪の怪獣との対決で、「トロプリ」チームがスノーハートクルリングによってパワーアップ。最後の浄化技は「『ハトプリ』から力を託されてハートキャッチオーケストラを意識したものを放つ」という狙いがあった。「デザインには『ハトプリ』のモチーフをどこかに欲しいという話は最初にお願いしました」（プロデューサー・伊藤志穂）。「ハトプリ」のパワーアップ姿であるスーパーシルエットを想起させる、ハートの羽衣パーツもある。

キュアラメール

「ハトプリ」の私服

シャンティア王国滞在中のつぼみたちの服装。「映画ハートキャッチプリキュア！ 花の都でファッションショー…ですか⁉」用に上野さんがデザインしたもの。「若いスタッフに「こんな私服がありました。昔、映画用に作ったそうですよ」と言われて、『それ、俺のデザインだから！』って（笑）。当時はとにかくキャラクターのイメージに合った感じで作ろうと思ったのを覚えています」（上野）

で、私と増田さんの担当シーンを最初に分けました。雪合戦のシーンや、くるるんとポプリが地下牢前で遭遇するところや、通常フォームでのアクションシーンは増田さんに担当してもらいました。で、それ以外のドラマ部分や、スノークリスタル・トロピカルスタイルになってからラストまでのアクションは、私が作監をやっています。私のほうでやりきれない設定は、増田さんに作ってもらいました。増田さんの担当部分も含めて、全体の8割ぐらいはレイアウト修正やチェックも自分でやりました。

――まなつたちのギャグ顔についてはどのように作りましたか？

上野　基本的には、監督たちの絵コンテのニュアンスを拾いました。そこからあまりキツくならないよう、ちょっと和らげたところもあるくらいの感じですね。

――シャロンの表情芝居は、穏やかな時と後半の悪辣な時のギャップがありますね。

上野　実は、そこまでギャップをつけたつもりはないんですけどね。シャロンは幸せな王国を作りたいという一貫した気持ちを持った子なので。たまに寂しい表情を見せることはあるにしても、あまり大きく感情は出さないというか。劇中ではローラと接することで、初めて穏やかな感情を出しています。それ以前のシーンは、表情としては硬めかなと思います。

――すると、前半の二人で会話するシーンが、一番シャロンの表情が出ているということですね。

上野　ようやく自分と似たような境遇の人と出会えたわけですからね。多少は心が開けたというか。後半の怪物を操っている時の表情は、あんまり怖くないようにという意識で修正を乗せていました。そこは志水監督からも言われていましたし。まぁ個人的な好みで言えば、もっと怖い感じにしたかったんですけど（笑）。とにかくシャロンに関しては、原画を全部チェックできたので、丁寧に表情をつけられたかなと思っています。やっぱり自分の作ったオリジナルキャラなので、かわいく描きたいなというのはありますよね！

――最後、シャロンが消えていくシーンで気をつけたところは？

上野　ここまでシリアスな表情芝居は、「トロプリ」のTVアニメでは描けないだろうと思ったんです。その分、力が入りましたね。作画作業としても最後のほうだったので、ラストスパート

シャロンのアバター

ホワンが持ってきた戴冠式の招待状から自動的に現れるアバター。「今はもっとリアル寄りのアバターもあるでしょうけど、私は二頭身キャラしか思いつかなくて（笑）。でも、このほうが分かりやすいでしょ。頭上のリングは、実は天使の輪っかなんですよ。表現としては、ぼかしていますけどね」（上野）。つまりすでにシャロンはこの世の人ではないことを示唆する意味で、上野さんが組み込んだ仕掛けなのだ。

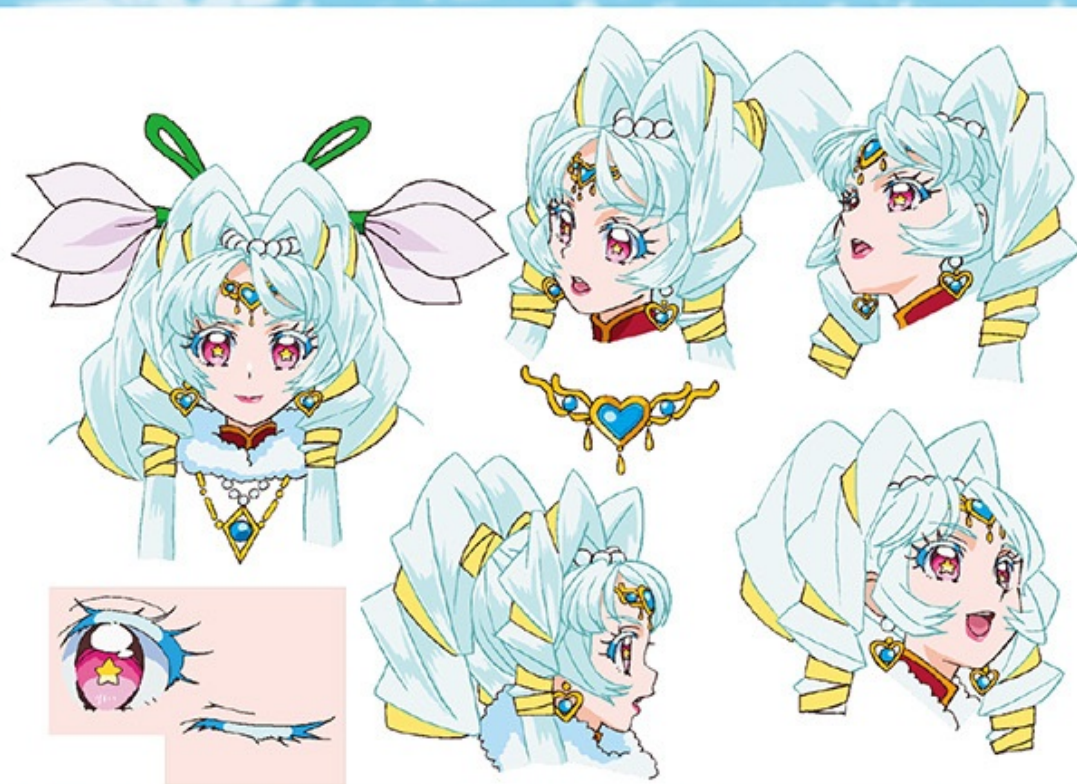
普段のシャロン

頭の両サイドに着けているのは、シャンティア王国の象徴であるスノードロップをモチーフにしたアクセサリー。「何かしら物語にちなんだものを装飾品にしたかったのと、ヘアスタイルを派手にするためには大きなものが欲しくて」（上野）。両サイドの花がリボンでつながっているが、これで髪を結っているわけではなくティアラ的な装飾品。ケープや上着の模様や色味は、志水監督提案のアジアンテイスト。

回想シーンでは目に星がない

ホワン

シャロンが隕石から生み出した精霊。脚本には「タンポポの綿毛のよう」とある。「なるべく今まで出てきた妖精や精霊とはかぶらないよう意識しました」（上野）。また、「ホワンは、イメージ的にはシャロンの良心なんです」（伊藤）とのこと。なお冒頭の浜辺のシーンで、まなつたちの前で多数のホワンが集まって「そうです」と文字を作るのは志水監督の絵コンテでのアイデア。

錫杖（しゃくじょう）

戴冠式でシャロンが持つ錫杖。隕石が宝玉のように付いているというのは脚本段階で指定されており、仏教の杖がベースにある。志水監督のイメージによると、錫杖が開いて立ち上る紫煙は、オーラではなくいわばドライアイスの煙のようなもの。最終的に隕石が消える展開を鑑みて、上野さんが花の形の開閉ギミックを加えた。「フタで隕石を包み込んで、隕石の力が放出されすぎないようセーブする感じにしています」（上野）

花びらの奥に現れる隕石は宙に浮いている

戴冠式のシャロン

通常服とイメージは似せているが、正装なので大きな襟やマントなど全体にゴージャス。「髪飾りを外したため、スノードロップは服の刺繍にしました。頭には王冠を着けるので、額の飾りも外しました。それと式典なら前髪は上げる気がして、おでこも出してあります」（上野）。靴も水色のパンプスにチェンジ。

雪の怪物

シャロンが生み出した、人型の雪の怪物。3パターンのデザインが作られており、アクションの見栄え優先で、人間サイズから4m程度まで自由にサイズ感が変わる。額部分には隕石の小片が埋まっており、その隕石が周囲の雪を集めて実体化したという設定。

シャロンの両親

回想シーンで登場。王妃である母親は、シャロンのイメージを踏襲しているが、シャロンの父は、いわゆる王様っぽさを意識したデザイン。王宮に飾られている二人の絵画（下）は、このキャラ表を元に美術側で作成したもの。

雪の巨大怪獣

シャロンの感情の昂ぶりに呼応して現れた巨大な雪の怪獣。「志水監督は、最初から日本を代表するあの怪獣のイメージをずっと持っていたらしくて。テイク5ぐらいまで描き直してようやくこれに落ち着きました」（上野）。頭から首にかけての岩石的なパーツは隕石の一部で、いわばこれが本体。肉体自体は雪の塊。身体の模様は血管や神経のようなもので、これで隕石の力を身体全体に伝えている。

ここまでシリアスな表情芝居はTVアニメでは描けないだろうと

で頑張ろうと思いました。

——シャロンの真実を知ったあたりから、再び王宮で対峙するまでの、ラメールの表情芝居も印象的です。

上野　彼女は、まなつたちとは育った境遇がまったく違うので、実はなかなか自分の本当の気持ちをさらけ出す機会ってなかったのではないかなと思うんです。だからこそ、シャロンが王国を復興させたいあまり間違った方向へ行ってしまったことへの悔しさも大きかったのかなって。TVシリーズでは描かれないローラの一面、つまり本当はただの高慢ちきな人じゃないよってところを映画で見せた感じです。

——映画前半は、いつも通り高慢ちきですけどね（笑）。

上野　そうなんですよね（笑）。だから前半はTVと変わらない感じでやって、でも実は真面目に考えている一面があるんだよというのを、後半で見せたいなと思いました。

——クライマックスでの歌うシーンの口パクは、デジタル処理による手描きだったそうですね。

上野　そうなんですよ。だから、口パクのスポッティング（音楽と映像の同期）の苦労はなかったですね。ただ、原画さんはかなりの口パク枚数を描いていました。

——この映画もそうですが、TVで上野さんが作監された第10話もローラが頑張る話でしたよね。

上野　そうでしたね。もともと「トロプリ」ってローラとまなつのW主役ですからね。ローラって、気高いだけではなく、わりと普通の子なんだなって感じることもあります。そして私は、日高里菜さんのファンになりました（笑）。その意味でも、やれてよかったなぁ！（笑）

——映画を何度も観る上でのポイントは？

上野　作画ではないんですけど、シャロン役の松本まりかさんの声はいいですね。何度も聴いてほしいなと思いました。松本さんの出演しているドラマは結構観ているんですが、今回のお芝居は、シャロンの艶っぽさや高貴な感じがとてもよく出ていると思いました。

MOVIE

プリキュアは頑張るあなたの味方

寂しさと深い悲しみが暴走してしまったシャロン王女。そこには、現代人の孤独・孤立の問題も見え隠れする？

シャロン役

松本まりか

まつもと・まりか
1984年生まれ／東京都出身／「それでも愛を誓いますか？」（純須 純）、アニメ声優として「蒼穹のファフナー」（遠見真矢）、「シュガシュガルーン」（ショコラ＝メイユール）ほか

撮影＝江藤はんな

大人にも子どもにもある「独りぼっち」問題

――アニメージュ本誌12月号に続いて、お話をお聞きします。雪の雫＝スノードロップは、劇中でシャロンの象徴として描かれましたね。

松本　春を告げる花ですが、どこか切ない感じもありますよね。美しいけど儚くて、シャロンそのものって雰囲気がします。

――今回シャロンを演じながら、どのようなことを感じましたか？

松本　小さい頃の自分をちょっと思い出しましたね。私は子どもの頃に両親が離婚していて、父がいないことに引け目があったんです。そこから、自分のことをあまり知られたくないという気持ちになり、周囲にあまり心を開けない子になってしまって。子どもの頃は、お姫様に憧れていたんですけど、今にして思うと、「違う自分」になりたかったのかなって。そういった想いが、演じるお仕事につながったとも言えますね。

――どこかシャロンに通じるところもありそうですね。

松本　だからこの映画は、あの頃の自分に見せてあげたいです。あの頃の私は、どうしたらいいのか分からなくて、自分の中にただただ思いを抱えるしかなくて。でも、この映画を観たら、「あぁ、悲しい思いを抱えているのは自分だけじゃないんだ」って、きっと感じてくれたと思います。子どもにとっての「世界」って、私たち大人の見る世界に比べたら狭いと思うんです。だから、その小さな世界で起こることがすべてになってしまって、「今の現実」が一生続くと思い込んじゃうのかなって。でも、自分のことを見てくれる人は必ずいるはずだし、どんなことも自分さえ信じていれば叶うんだと、感じてもらいたいです。

シャロン
シャンティア王国を滅亡させた隕石の力で、ただ一人蘇った。その寂しさと王国復興の悲願から、優しさを失い、心を歪ませてしまう

――シャロンは寂しさのあまり、まなつたちをはじめとした王国に招待した人たちを、帰すまいと閉じ込めました。

松本　さすがに今の私は「帰さない」とまでは言いませんけど（笑）、シャロンの抱える孤独感は、大人になった今も分かりますね。特に子どもは、そういった気持ちをどう表したらいいか、どう昇華したらいいかが分からないと思うので、この映画がそういう子たちの救いになってくれたら嬉しいです。孤独な気持ちを糧にすることで、将来の励みになることもあると思うので。

――後半「悪い心」が見えたシャロンについての印象は？

松本　まさにダークサイドな部分が露わになりますよね（笑）。ただ、そういう悪い部分は徐々に徐々に、という感じに演じました。「あれ、シャロンの様子、なんだかおかしいな？」という軽い違和感から始めて、ちょっとずつ変わっていくように……。一気に悪に豹変するのではなく、シャロンの心の変化に寄り添うように演じたつもりです。そして、本当に悪い心に染まってしまったところで、声のトーン自体も変える感じにしました。

――王国の歌によって、シャロンの心は救われましたね。シャロンの「永遠」への想いは、プリキュアが引き継いでくれました。

松本　はい、とっても良かったです！　シャロンはずっと、独りぼっちで頑張らなきゃと思ってきたけど、プリキュアという自分のことをちゃんと思ってくれる人がいた。そういう人が、きっとあなたの周りにもいるよって。もし今、目の前にいなかったとしても、プリキュアは頑張るあなたの味方だよって。そんなふうに伝わったら嬉しいなと思います。

――まなつたちのキーワードである「トロピカってる」については、どういう印象を持ちましたか？

松本　とっても使いやすい言葉ですよね（笑）。確かに最初は「トロピカってる、とは？」って感じましたけど、すごく印象的だし、それに語呂もよくて、言葉の響きもかわいくて。「トロピカってる」って口にするだけで、なんだか元気になれるじゃないですか。だから本当にいい言葉だと思います。これからは私も「トロピカってる」を使っていきたいですね。日々トロピカって、「人生トロピカる！」って感じでいきたいです！

シャロンの通常服

戴冠式の衣装

ハートキャッチプリキュア!
キャスト座談会

キュアブロッサム✿花咲つぼみ役
水樹奈々

キュアマリン✿来海えりか役
水沢史絵

キュアサンシャイン✿明堂院いつき役
桑島法子

キュアムーンライト✿月影ゆり役
久川 綾

MOVIE

こころの花を咲かせます!

今回のコラボ作品は2010〜2011年に放映された『ハートキャッチプリキュア!』。TVシリーズ完結から10年、キャストからも一層の愛情が注がれています!

意地っ張り同士の対決 えりかvsローラ

――『ハートキャッチプリキュア!』がコラボ出演すると聞いた時はどうでしたか?

水樹 びっくりしました。しばらく歴代全員集合の映画もなかったですし……。久しぶりにそろったのが、3年前の『プリキュア』シリーズ15周年作品(『映画HUGっと!プリキュア♥ふたりはプリキュア オールスターズメモリーズ』)だったので、「20周年記念作があったら、ちょっとでも出られたらいいな」なんて思っていたんですけど。でも、まさかそれよりも早く、しかも完結10周年という記念の年に、最新のプリキュアチームとコラボできると聞いて、とっても嬉しかったです。内容的にも、かなりフィーチャーしていただけて感激でした!

水沢 私も最後にマリンとして喋ったのが『オールスターズメモリーズ』ですね。「今後しゃべる機会はそうそうないだろうな」と思っていたら、意外と早く訪れました! それに、この4人がそろって変身したり名乗ったりも、なかなかなかったので……。

桑島・久川 うん、ないない!

水沢 ちょっと感覚を取り戻すために頑張りました!

桑島 私ももう、驚きと感動で、「ありがとうございます!」って感謝でいっぱいです〜。

久川 私もやっぱり一番は「嬉しい!」でした。でも、なんで『ハトプリ』が選ばれたのかなって。今回の私たちのアフレコには、『ハトプリ』のプロデューサー・梅澤淳稔さんが立ち会ってくださったので、その疑問をみんなでぶつけたんです。そしたら「いやぁ、ありがたい話ですよねぇ」って。

水沢 「(『ハトプリ』は)人気があるからでしょ〜」って(一同・笑)。(注:伊藤志穂プロデューサーによるセレクト理由はP.82参照)

――『トロプリ』チームとの出会いになる雪合戦のシーンの印象はどうでしたか?

水樹 雪玉の流れ弾からのドタバタが『ハトプリ』らしいといいますか(笑)。これまで『オールスターズ』で集合した時も、えりかのせいなのか、私たちはギャグ要員になりがちで。

水沢 わははは!(笑)

水樹 『トロプリ』との接点が生まれるシーンが、えりかきっかけというのは納得でした。そこでみんなが一気に溶け込んでいくのも、「プリキュア」らしいというか、女の子の素敵な友情の紡がれ方だなって。勢いよく心の距離が縮まる感じが、演じていても楽しかったです。

水沢 でも、ちょっと不穏な空気で始まるのにはびっくりしました。えりかはローラにプチ切れて、その後もずっとケンカしていて(笑)。

――『オールスターズ』でプリキュア同士が初めて出会うシーンは、基本的に最初からフレンドリーな空気感でした。その分、今回のえりかとローラの出会い方は珍しいですよね。

水沢 みんなが優しく諭してくれて、なんとかなりましたが……。

水樹 全然、「海より広い心」じゃなかったよね(一同・笑)。

――ローラはわりと、思ったことをすぐ口にしてしまいますからね。

水沢 すぐプンスカしちゃう子ですよね(笑)。ちょっと怒りん坊さんなのか、ツンデレっぽい感じがしました。えりかとは、意地っ張り同士がぶつかっちゃった感じですね。

水樹 わちゃわちゃ絡んでいく形ではありましたけど、今回はケンカですからね。

久川 意外な始まり方だったね。

大地に咲く一輪の花!

キュアブロッサム
花咲つぼみ

シャイな性格で、相方・えりかの勢いに振り回され気味。花に詳しく、シャンティア王国に咲くスノードロップにいち早く気がついた

つぼみらしい対応でえりかをなだめました

みずき・なな
1月21日生まれ/愛媛県出身/StarCrew所属/「SHAMAN KING」(玉村たまお)、「うらみちお兄さん」(多田野詩乃)ほか

海風に揺れる一輪の花！

キュアマリン
来海えりか

ファッションが大好きで、服のデザインも得意。ただ悪気なく思ったことをすぐ口にしてしまうのが玉にキズで、ローラとも一悶着

ローラの考えたデザインは巻き貝つけすぎ（笑）

みずさわ・ふみえ
1月9日生まれ／栃木県出身／青二プロダクション所属／「のりものまん モービルランドのカークン」（マッハ）、「エビシー修業日記」（エビシーママ）ほか

水沢　でも、悪いのは、えりかのほうだったかも。アフレコの時も「意地悪に聞こえないように気をつけてください」と言われました（一同・笑）。『ハトプリ』を知らない子たちへの配慮も必要ということで。

桑島　うちのえりか、いつもこういう感じなんで……（笑）。つぼみちゃんが一生懸命えりかをフォローして、それをいつきとゆりが少し離れた位置で見守っていましたね。私としては、つぼみとえりかを信頼しているので、本気のケンカには絶対ならないって安心感はありました。

久川　10年前のTVアニメで4人のチームワークが出来上がって、お互いへの信頼度もすごく高いよね。それぞれの立ち位置や関係性が分かっているので、私も全然不安はなかったです。

水沢　ゆりさんといつきは、ちゃんとシャンティア王国を見て、違和感を覚えていましたよね。

水樹　さすがです！

久川　やっぱり客観的なんですよね。でも、ゆりも雪合戦には参加していましたけどね。「ゆりは一歩引いて見ているのかな？」と思っていたんですけど、画を見たらしっかり参加していて（笑）。

——その後、『トロプリ』チームのステージ衣装をえりかがデザインしてあげるシーンでも、またローラとぶつかってしまって。

水沢　そうなんです。ローラの考えたデザインは、巻き貝つけすぎです。そこがファッションデザイナーのえりかとしては、納得いかなかったんですよね～（一同・笑）。で、ここでも「意地悪く聞こえないように」というディレクションがあって。なので、「思わずポロッと、思ったままのことが口に出ちゃった！」みたいな感じでやりました。

久川　なかなか難しいよね。

水沢　特に私たちは『トロプリ』チームより先に録ったので、「掛け合っている想定」で演じなくてはいけなくて、あんばいが難しかったです。もちろん、『トロプリ』チームが私たちの声にどうかぶせてくれるのかも、アフレコしていて楽しみになりました。

水樹　実はつぼみを演じる際にもあんばいが大事でした。あまりにもアワアワし過ぎると、本当に険悪なケンカに見えてしまう。そうではなくて、えりかの正直すぎる部分……それは良さでもあって、いつもの個性が出てしまっているだけなのだと。

水沢　「個性が出ている」、なんて素敵な言い方！（笑）

水樹　だから「まぁまぁ、落ちついて」って、絶妙な温度感で収められたらと。そんなつぼみらしい対応を探りながら演じていました。

久川　このシーンも、いつきとゆりが特に手を貸さなくても大丈夫な感じがありました。

桑島　そうでしたよね。

久川　私たちがいなくても、違和感もなかったですよね。

桑島　ゆりといつきは、安心して別行動していたんでしょう。えりかはいい子ですからね。

久川　うんうん、本当に！

水沢　根はいい子です！（一同・笑）

相変わらずイージスのヒマワリは大きい！

くわしま・ほうこ
12月12日生まれ／岩手県出身／青二プロダクション所属／「半妖の夜叉姫」（珊瑚）、「かぎなど」（坂上智代）ほか

陽の光浴びる一輪の花！

キュアサンシャイン
明堂院いつき

文武両道な生徒会長。ボーイッシュな見た目だが、かわいいものが大好き。戴冠式ではポプリの姿がないことに気づき、心配になり探しに行く

『ハトプリ』各キャラのバックボーンも要復習！

——映画オリジナルキャラクターのシャロンには、どういう印象を持ちましたか？

水沢　もっとシンプルに、かわいいお姫様が「頑張るぞ！」みたいなお話かと思っていたんですが、背負っているものが意外に重くてびっくりしました。

水樹　これまでも映画オリジナルキャラクターは、わりと大きなバックボーンがあることが多かったですけど、シャロンは特に大きい気がしますね。

桑島　シャロンは複雑な思いを抱えていて、まるで一人で数十人分のプリキュアみたいな雰囲気のある、「大きな人」って感じがありました。

水沢　しかも、シャロンの願いが叶ってめでたしめでたしのラストではなくて。これは切ないなぁって。

水樹　そう、ちょっと今までとは毛色が違う。「悪い人を浄化しました！

ゆりも雪合戦にはしっかり参加していました

シプレはつぼみの、コフレはえりかのパートナー妖精。シプレとコフレは仲良しで、えりかがローラと険悪ムードになった時にも二人で親身に助言していた。ポプリはいつきのパートナー妖精だが、まだ赤ちゃん。王宮で迷子になっていたところ、くるるんと衝突してびっくり！

月光に冴える一輪の花！

キュアムーンライト 月影ゆり

つぼみたちより年上の高校生。冷静沈着で、「トロプリ」チームと雪遊びを楽しみつつも、シャンティアの雰囲気に違和感を覚える

ひさかわ・あや
11月12日生まれ／大阪府出身／青二プロダクション所属／『異世界食堂2』（ルシア）、『薔薇王の葬列』（セシリー）ほか

みんな笑顔になれてよかった！」ではなくて、最後にお別れのシーンもあるし……。その意味では、大人も一緒に考えさせられるドラマがあるキャラクターだと思います。

――本当は優しいシャロンの心が、暴走して怪物化する展開でしたね。

水樹 誰が悪いわけでもないんですよね。自分たちが戦わなきゃいけない相手、ぶつからなくてはいけない矛先が、すごく難しいというか。

3人 うんうん！

水樹 「拳で戦って分かり合う」というお話でもないし、今までになかった決着だなと思いました。それと、ローラがいたおかげで、「同じ目線で語れる者同士だからこそ分かり合える部分」があってよかったです。私たち「ハトプリ」チームは、「王女の気持ち」は分からないので……。

久川 庶民だからね（笑）。

桑島 庶民です！（笑）

水樹 （笑）。もちろん、それでも必死で語りかけたし、ぶつかった想いは届いたと思います！　完全に善と悪が分かれているわけではないので、すごく複雑で。自分たちのパワーをどう使って、どう相手を説得するのか。向き合い方がとても繊細だなと思いながら演じていました。

久川 「大きな敵が現れて、みんなで戦って大団円」とならない結末は、今の時代っぽい気はしますね。でも、それにしては、戦い方はやっぱりおしりパンチで（一同・笑）。そのギャップも、またかわいいなぁって感じました。

――結末としては、切ない雰囲気のドラマになりましたね。

水樹 もしかしたら、映画を観た子どもたちの中には「なんでシャロンは消えちゃったの!?」って思った子がいるかもしれません。私も子どもの頃は勧善懲悪が好きだったので……。でも、時が経てば結末の意味を考えることのできる、忘れられない作品になるんじゃないかと思います。

水沢 「悪い人を倒しておしまい」ではないことに「なんで？」って思ったら、そこは親子で話し合えるきっかけにしてもらいたいですね。今日時点でまだ私たちは映画の完成版を観ていないので、シャロン役の松本まりかさんがどんなお芝居をしてくれるのかも、楽しみにしています！

桑島 『ハトプリ』はTVアニメも結構重たいバックボーンがある作品で、こうしたコラボ映画もやっぱり『ハトプリ』に合ったテーマ性なんだなと感じました。心に残る作品になると思うので、時間を置いて見直してみることで、新たな気づきがあるかもしれません。お子さんも大人も、何度も楽しめるんじゃないかなって。

久川 はっきりした答えがある結末ではないので、これを観てくれた親子がどう受け止め、子どもたちが大きくなって思い出した時にさらにどう感じるのか。それが今から楽しみです。

水樹 シンプルに笑顔で終わる作品はもちろん素敵ですが、いろいろな解釈ができて、受け取り手の中で広がる作品も素敵です。切ないお話ですけど、観た人の心に残るといいなと思います。

――最後にメッセージをお願いします。

水樹 まず、TVアニメから10年という時間が経っていたことに驚きです！（一同・笑）定期的に『オールスターズ』の映画や、ちょっとしたボイス収録などがあって、『ハトプリ』はずっと身近にあって。だから思い出の作品というより、常に一緒に歩み続けている感覚があります。今回は久々に4人そろってアフレコができて、すごく嬉しくて！

3人 うんうん！

水樹 4人で「ハートキャッチ！」って決める一言は、久しぶりすぎて、最初なかなか合わなかったんですよ（一同・笑）。でも「当初もこんな感じだったね！」なんて（笑）。そんなふうにすべてを楽しんで演じさせていただきました。つぼみたちは今もずっと中学2年生と高校生で、あの時代をずっと変わらず生きていて。一方の私たちは年月を積み重ねた分、つぼみたちへ注ぐ愛情もエネルギーも増えていて……。1カットにかける想いが、ますます濃くなっていると感じています！

――2度目、3度目に観る時には、そうした愛情の詰まった一言一言も要チェックですね。

水樹 もちろん、TVアニメの時も全力の愛情を注いでいましたが、当時は無我夢中な部分もあって。アニメオリジナル作品なので、みんな先々の展開を知らずに演じていましたから。でも今回は、それを全部踏まえた上で演じられる。画面につぼみたちが出てきただけで、「ハトプリ」とはどういう作品なのか、皆さんに印象付けられるくらいの熱量で演じました。次はいつ演じられるか分かりませんが、定期的に皆さんに思い出してもらえたら嬉しいです。今回初めて『ハトプリ』を知った方には、ぜひ配信やBDなどで、各キャラクターのバックボーンを知っていただきたいです！

水沢 ゆりさんのバックボーンがまたすごいですから！　シャロンに勝るとも劣らぬものを背負ってますからね！シャンティアの風景を見ての「でも、きれいすぎるような……」って言葉は、ゆりさんならではな感じがします。

水樹 その通り！　各キャラのことを知ってからこの映画を観ると、きっと味わい方が違ってくると思います。ぜひ、これをきっかけに『ハトプリ』のTVアニメも観てもらえたら嬉しいです！

「ハトプリ」懐かしの技もたくさん！

――今回のバトルシーンでは、「ハトプリ」らしい小技も多かったです。

水樹 そうなんです！「オールスターズ」だと、みんなで放つ技や、闘いでのアドリブくらいだったので嬉しかったです。しかも、数ある小技の中から「おしりパンチ」を選んでいただけて（一同・笑）。

久川 しかも「全員おしりパンチ」まである！

水樹 そう、最高ですよね！　TVアニメでも「おしりなのにパンチ？」と言われた、あの伝説の技を、まさか「トロプリ」チームと一緒に繰り出して、伝授することができるとは！（笑）

水沢 いやぁ、おしりパンチがみんなで放つ技に昇格するとは。ムーンライトまでやってくれるなんて、嬉しい（笑）。

水樹 10年ぶりのこの技を観て、きっと当時「ハトプリ」を楽しんでくださっていた方は、「これがきたか！」とニヤリとしてくださったと思いますし、今回私たちを知ってくださった方にはものすごいインパクトになったのかなと（笑）。それと、マリンとの二人技もね！

水沢 うん、久しぶりにね！

水樹 フローラルパワー・フォルティシモ、嬉しかった〜。

久川 しかも不発に終わっちゃうなんて、初めて見た（笑）。突然立ち塞がったラメールに、ブロッサムとマリンがギャグ顔で「どいてどいて〜！」ってなって（笑）。逆にサンシャインとムーンライトは、基本的にすごく強いから、単独で短く決めてくれる感じ。

桑島 はい、そうです！

久川 あえて無駄な息も入れず、強さをアピールしました！

――サンシャインは、サンフラワー・イージスを使っていましたね。

桑島 久々で嬉しかったです。相変わらずヒマワリが大きい！（笑）

水沢 あと、『トロプリ』チームと組んで技を出すところもあって。一緒には収録できなかったので、ここも仕上がりが楽しみなところでした。

TROPICAL-ROUGE! PRECURE ×Animage

ここからは「アニメージュ」2021年5月号～11月号の記事を再録！　2021年3月20日公開の『映画トロピカル～ジュ！プリキュア プチ とびこめ！コラボ♡ダンスパーティ！』（『映画ヒーリングっど♥プリキュア ゆめのまちでキュン！っとGoGo!大変身!!』と同時上映）のインタビューもあらためてご覧ください！

※各再録ページの扉側面に初出の月号が表記されています。　※再録されていないページもあります。

トロピカル～ジュ！プリキュア
毎週日曜日 朝8時30分 ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/
©ABC-A・東映アニメーション
キュアフラミンゴ 滝沢あすか役
瀬戸麻沙美
せと・あさみ
埼玉県出身／シグマ・セブン所属／『呪術廻戦』（釘崎野薔薇）、『文豪ストレイドッグス』シリーズ（樋口一葉）ほか
キュアパパイア 一之瀬みのり役
石川由依
いしかわ・ゆい
兵庫県出身／mitt management所属／『進撃の巨人』シリーズ（ミカサ・アッカーマン）、『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』（ヴァイオレット・エヴァーガーデン）ほか
キュアコーラル 涼村さんご役
花守ゆみり
はなもり・ゆみり
神奈川県出身／m&i所属／『ゆるキャン△』（各務原なでしこ）、『怪物事変』（紺）ほか
人魚・ローラ役
日高里菜
ひだか・りな
千葉県出身／大沢事務所所属／『裏世界ピクニック』（小桜）、『SHAMAN KING』（ピリカ）ほか
キュアサマー 夏海まなつ役
ファイルーズあい
ふぁいるーず・あい
東京都出身／プロ・フィット所属／『半妖の夜叉姫』（竹千代）、『推しが武道館いってくれたら死ぬ』（えりぴよ）ほか
TV
メイクで気合い！
ここからは最新シリーズ「トロピカル～ジュ！プリキュア」の登場です。短編映画の紹介とあわせ、キャスト&スタッフトークをお届け！
『トロピカル～ジュ！プリキュア』キャスト座談会

トロピカる部始動！

オーディション会場に漂うプリキュアの憧れ感

やりたいことが多すぎて、部活選びにさんざん迷っていたまなつ。しかし人魚・ローラの「なければ自分で作れば？」の一言に背中を押され、ゼロから部活を立ち上げることにした。メンバーはプリキュアの4人と仮部員のローラ、そして顧問は桜川先生だ。

生徒会長の白鳥百合子から、部の活動内容が曖昧すぎると厳しくツッコまれつつ、最終的にまなつが打ち出したのは「今、一番大事なことをする部活」。その名もトロピカる部！　まなつたちの行動力を知った卒業生たちの後押しもあり、白鳥会長も渋々書類を受け取る。正式に部として出発できた。

さて、前代未聞のトロピカる部の活動はいかが相成りますか？ ご期待あれ！

▶部活を決められないままだったが、発想を大転換。「今、一番大事なことをする」部活をさんごやみのり、あすかたちと作ることに

キュアサマー
夏海まなつ

感じたまま、心のままに演じたら気持ちよかった

――TVアニメ「トロピカル～ジュ！プリキュア」も第6話まで進みましたが、皆さんキャストオーディションでは他の役も受けたのですか？

ファイルーズ（以下ファイ）　私はテープオーディションでは、キュアサマーとキュアフラミンゴを提出しました。ただ、私があすかさんをやると、どうもヤンキー感が出てしまって（笑）。瀬戸さんのような、芯のある優しさをうまく表現できなかった気がします。逆にまなつは、感じたまま、心のままに演じてみたらすごく気持ちがよくて！　自分としてもしっくりくるお芝居ができたので、まなつ役でスタジオオーディションに進めて嬉しかったです。最終的にまなつ役に決まったと聞いた時は、その何十倍も嬉しかったです!!

――口癖の「トロピカってる～！」は、テープの段階からあったのですか？

ファイ　ありました。初めて聞く、謎の言葉でした（一同・笑）。最初はぎょっとしましたけど、企画書を読んで、まなつがどういう子なのか分かると、とてもらしい言葉だなって。スタジオオーディションの現場で5人のキャラの絵を見た時も、「あ、この子がまなつだ！」って一瞬で分かりました。スタジオでは、まなつとローラの日常シーンの掛け合いオーディションもあって。その時のローラ役がまさに、りなりー（日高さん）だったんですよ！

日高　そうなんです！

ファイ　私がローラを演じるパターンでも掛け合ったんですけど、「絶対にローラは、りなりーだ！」って思いましたね。

日高　えへへ（笑）。

花守　私は、テープの段階ではローラ役を受けて、スタジオに進んだ時にローラとキュアコーラルとキュアパパイアを演じました。ローラを演じている時のチャッカリ感も心地よかったです（笑）。逆にコーラルとパパイアはいい子すぎて、私のお芝居でそれが伝わるかしら？って心配になりました。スタジオオーディションでは、瀬戸さんも一緒だったんですよ。

瀬戸　一緒だった！　掛け合いは、花守さんがローラで、私がサマーだったっけ？

花守　そう。「一緒にプリキュアになれたらいいですね」って。

瀬戸　その前の年も「ヒープリ」のオーディションで一緒になったよね？

花守　その時も「一緒にプリキュアになれたらいいですね」って（笑）。

――やっと1年越しで現実になったわけですね。

花守　そうなんです！　本当に一緒になれるとは……もう感動しました。TVアニメ本編が始まってからも、回を重ねるたびに、どんどん愛が深まっていく作品だなぁと感じています。

石川　私は、最初に受けたのが、ローラとさんごちゃんとあすかさんでした。

――みのりでは受けなかったのですか？

石川　はい。テープの段階でみのりのセリフ原稿を読んだ時に、絵がないのもあってか、イマイチ彼女のことをよく分かってあげられなくて。ちゃんと理解してない状態で受けるのはよくないなって思って、みのりは受けなかったんです。でも、スタジオオーディションで「みのりもやってみてください」と言われて、分からないままに頑張ってやってみたところ、みのりで決まりまして……。だから、受かったこと自体は嬉しかったんですけど、「これからちゃんと演じていけるのかな？」とか「もっと知っていかないと！」って思いが強かったです。スタジオオーディションの時は、ファイちゃんと（日高）里菜ちゃんが控え室で一緒でしたね。ファイちゃんは初対面でしたが、すごくお話してくれて。

ファイ　私が「ファンです！　好きです！」って絡みました。嬉しかった～！

石川　私も話しかけてもらえて嬉しかった（笑）。「プリキュア」のオーディションって独特の緊張感が漂っているんです。キャラの絵も現場で見るので、事前に練習してきたものと合わせて、「現場でキャラを作り上げる」ところもあって。でも、ファイちゃんのおかげで、とてもリラックスしてオーディションに臨めました。

ファイ　うわぁ、嬉しい♪　こちらこそ、私の思いの丈を受けとめてくださったおかげで、「よーし、トロピカるぞ！」ってなりました（一同・笑）。

花守　素敵な関係！

日高　めっちゃ「好きです！」って言ってたの、私その場で聞いていたよ（笑）。あ、でもオーディション会場は、並んでいるキャラの絵にみんな「うわぁ、かわいい！」ってなっているので、変なギスギス感はまったくないですよ。みんな「プリキュアになりたい！」という共通の憧れ感があって、いい雰囲気だなって思いました。

瀬戸　私は、テープでもスタジオでもフラミンゴとサマーを受けたんです。今までの仕事では、お姉さん系やクール系のキャラを任せてもらえることが多かったので、サマーよりはフラミンゴへの可能性に期待していました。それにプリキュアは本当に子どもたちの憧れでキラキラしていて……そのセンターを自分が担当するのを想像できなくて（笑）。

ファイ　そんなことないですよ!!

瀬戸　それぞれの個性が輝くプリキュアですが、今作ではカッコよさに振り切ったフラミンゴがいたので、「フラミンゴ、やりたいな」と思いました。だから決まった時は本当に嬉しかったです。

日高　私はテープではローラとサマーを受けて、スタジオではそれに加えてコーラルも受けました。さっきも話に出ましたけど、（ファイルーズさんと）二人で掛け合いを、逆パターン含めてやりまして。でもやっぱり、ファイちゃんの勢い、サマーらしいまっすぐさを目の前で聴いた時に「私では力が足りない……」みたいな（笑）。

ファイ　あははは（笑）。

瀬戸　サマーに圧倒される感じ？

日高　そう！　あとローラについては、演技のあんばいが難しかったです。「ちょっとチャッカリした自信家の人魚で、でも嫌われ者にならない感じで」という説明があったんですが、絵を見ていない状態だと、どこまでチャッカリした面を出していいものかよく分からなくて。だからテープの段階では、私がやれそうなのはサマーかなと思ってたんです。でも、ファイちゃんと掛け合ってみたら、ローラのほうがしっくりきました。ローラ役に決まったと連絡をいただいた時は本当に嬉しかったです。しかもサマーはオーディションで掛け合ったファイちゃんで、運命を感じました。

ファイ　私も！　ローラとりなりーって、プロ意識と目的意識が高いところがすごく似てるよね。そこが素敵だなって思いながら、いつも聴いてるよ♥

日高　ありがとう♥

まなつの鈍感ぶり！ ローラは誘われ待ち!?

――ここからはTVアニメ本編での印象的なシーンをお聞きします。まなつとローラは第2話でさっそく思いがぶつ

学校生活や部活動がストーリーの中心に

プロデューサー　村瀬亜季（東映アニメーション）

私が最初に考えた今作のモチーフは「海」でした。個人的に、海辺の景色が好きなのが大きいかもしれません（笑）。作品全体の色味も、カラフルに弾けたトロピカルなものにしたいなと。離れ小島で生まれ育った主人公が海辺のおしゃれな街に船でやってくるというイメージも、最初から持っていました。

ただ、ここまで楽しく、はっちゃけた作風になったのはシリーズ構成の横谷昌宏さん、そして何よりシリーズディレクターの土田豊さんの力が大きいと思います。お二人と話し合っていく中で、明るさがどんどん増していった気がします（笑）。

今作は学校生活や部活動がストーリーの中心になります。企画の段階からそれらは柱にしていました。「何をやる部活にするのか？」は、ずいぶんみんなで話し合いましたが、考えるより先に体が動くまなつの性格から、「何でもできる部を立ち上げて活動する」という形になりました。その軸となるのが、まなつがよく言う「今、一番大事なことをやろう」です。

等身大の中学生の女の子たちが、プリキュアはもちろんのこと、目の前の大事なことに一つ一つ取り組んでいく姿をシリーズを通して描いていきます。よろしくお願いします！

★村瀬Pのインタビューは次号に続きます。

かっちゃいましたね。

ファイ　ローラは早くプリキュアを探してほしいとまなつに言うんですけど、まなつには学校生活を楽しみたい気持ちがあって、二人は衝突してしまいました。ぶつかり合いではありましたが、重い雰囲気になりすぎないようにしようというのはあって。強気で言い合っちゃっても、ちゃんと仲直りできる関係というか。その表現は難しかったんですけど、りなりーがいいあんばいで返してくれたので、私もまなつらしさを保ちながら、ナチュラルにぶつかれた気がします。そんなふうに、私が引っぱってもらっている部分が大きいです。

日高　最初に台本を読んだ時には、まなつが都会の街や部活選びにあまりに夢中で、日高里菜としても「もう少し私（ローラ）のこと、考えてよ～」って思っちゃった（笑）。

ファイ　あはは（笑）。

日高　そこでローラがすねちゃったんですが、映像でとてもかわいらしい表情で描かれていたので、イヤな感じにならずに救われましたね。まなつもローラに負けずに「私だってやりたいことがあるんだ！」と主張してきて、だからこそ成り立つ関係性というか。簡単に折れてしまわない二人だからこそのシーンだったと思います。5人並んでも、やっぱりまなつとローラが比較的「強い」感じはします。意志の強さというか。

ファイ　うんうん！

日高　でも、ファイちゃんも言ってくれたみたいに、それが重くなりすぎないのが、本当にいいなと思います。

――ローラって、ちょっとワガママに見えますがそこもかわいいですよね。

ファイ　ですね。

日高　そう見えているなら嬉しいです。基本はツンとしていますけど、デレてくれるシーンが毎話1ヵ所くらいはあるんです。私自身、そこにやられてますね（笑）。本心ではまなつにもっと声をかけてもらいたいけど、わざと素っ気なくしたり。「誘われ待ち」みたいな。

ファイ　でも、まなつはストレートに言われないと伝わらない子だから。ローラのそういう、うかがうような態度にも「そうなんだ、じゃあね！　バイバーイ！」って（一同・笑）。

日高　それを見てローラが「ガーン！」ってギャグ顔になるのが、結構定番になりつつありますね（笑）。そこも大好きなところです。

ファイ　ね！

――第2話のさんごは、そんなローラの嫉妬を買ってしまった格好でしたね。

ファイ・日高　ふふふ（笑）。

花守　（笑）。本当、まなつがローラにずっと自慢してくれていて、「そうかぁ、まなつの中のさんごって、こういうイメージなんだ～」って。そこは嬉しかったです♪

――さんごについて語る、まなつのデレた表情もケッサクでした。

花守　さんごは誰とでも仲良くなれる子ではあるんですが、自分の好きなことをちゃんと言えずに、周りに合わせていたというのが第3話で描かれました。そんなさんごに共感できた人は多いんじゃないかなって思います。「好き」と感じるものが他の人と違った時に、「好き」を分かち合えない孤独さや寂しさって、誰しも感じたことがあると思うので。「自分の〈かわいい〉が信じられなくてどうするのよ」とローラから言われるシーン、とても印象的です。ローラの言葉で……いえ、まなつとローラの二人から、好きなものを好きと言えるすばらしさを教わって。さんごが自分の「好き」と向き合う、大きな転機になる回でしたし、大切に演じました。私もさんごの成長ぶりを見習わないといけないなって感じています。

対照的な先輩コンビ それぞれの変身への経緯

――みのりは第4話で変身しましたね。

石川　やっぱり難しい役ですね。他のキャラクターとのバランスも取りつつ、手探り状態です。実はスタッフさんたちも、「これから石川さんと一緒にみのりというキャラを育てていけたらと思っています」と言ってくださったんです。本編収録よりも前から玩具の音声録りは始まっていたんですが、この第4話で、私もみのりとゼロから一緒に歩んでいけたらなと思いながら演じました。印象深いシーンは、私も、みのりがローラに叱咤激励されるところです。きっとそれまでのみのりは、それほど人と深く関わることがないままで……。文芸部での話もちらっと出てきましたけど、ローラのように、ウジウジしているみのりのお尻をペンペン叩いてくれる人は、たぶん今までいなかったんだと思うんです。

ファイ・日高　（笑）。

石川　「勇気を持って前に踏み出せば、何だってできる！」とローラに言われて。みのりにとっては、とても衝撃的なことだったと思います。自分はダメだと思わずに、みんなを助けたいという気持ちのままに、一歩踏み出すきっかけになりました。本当にローラのおかげですね。

――普段のみのりは、あまり表情が変わらない子ですよね。

石川　そうなんです。みんなが大きくリアクションをするようなシーンでも、そういう反応は入れない方向です。ギャグのアドリブもあまり出せないのが寂しいですね。でもパパイアになると「み

キュアコーラル
涼村さんご

▶自分の気持ちを周囲に合わせてしまう面があったが、まなつやローラと出会い、少しずつ自分の「好き」を物怖じせず示せるようになった

私もさんごの成長ぶりを見習わないといけないな

キュアパパイア
一之瀬みのり

◀何でも自分で決めつけて殻に閉じこもりがちだったが、まなつとの出会いや、幼い頃から憧れていた本物の人魚のローラに背中を押され、「前に踏み出す」勇気をもらった

みのりはキュアパパイアになると弾けるんです

キュアフラミンゴ
滝沢あすか

◀人との深い関わりを好まなかったが、まなつが作る新しい部活の立ち上げを手伝ったことをきっかけに、一緒に行動するようになった。生徒会長の百合子とは因縁がありそう？

あすかはさすらいのヒーローみたいでカッコいい

今、一番大事なことをする！

のりの憧れの姿」になっているせいもあってか、かなり弾けていますね。

──あすかは第5話で合流しましたね。

瀬戸　お話の最初にローラに見初められて、「プリキュアになって！」とオファーをもらうという珍しいパターンでした（一同・笑）。第5話でのあすかの登場の仕方は、それこそ昭和のスケバンドラマみたいな感じがあって。怖い人に絡まれているまなつを助けるという出会いでしたが、その助け方も、中学生とは思えないくらい「男前」で冷静で。去り際の名乗り方も、ピンチに現れるさすらいのヒーローみたいでカッコよかったです（笑）。それと、「人とは関わらない」と言いながらも、気づいたら部室のことで困っているまなつたちに手を貸していて、部室の片付けを最後まで手伝ってあげて。それで終わるかと思いきや戦闘が始まって、「やっぱりまなつたちが気になる！」って。助けるためにはプリキュアの力を借りるしかないと思ってローラに頼むんですけど、そこでの「人魚、そのチカラ貸しな！」って言い方！（笑）「こんなにもスムーズにプリキュアになっていくんだ」という感じでしたが、伝説の戦士になるべくしてなった、強い気力と体力がある人ですよね。

──では最後に、ファンへのメッセージを、代表してファイルーズさんお願いします！

ファイ　今は暗い話題も多いですけど、「トロピカル～ジュ！プリキュア」はそんなムードを吹っ飛ばす「真夏」感、サンサンと真夏の太陽がきらめいているような明るい気持ちになれる、まさにトロピカってる作品です！　皆さんも毎週、私たちプリキュアと一緒にトロピカっていこうね！

4人　お～！（拍手）

「映画トロピカル～ジュ！プリキュア プチ とびこめ！コラボ♡ダンスパーティ！」

MOVIE 体感5秒のドタバタ劇！

ファイ　映画自体は3分くらいですけど、体感5秒かな（笑）。そのくらい、怒涛の勢いで進みます。いきなりの「（パーティ開始は）3分後！」って言葉に視聴者も驚く展開ですが、まなつたちと一緒にパーティ会場のある島に向かっている感じがあって……その楽しい疾走感、ドタバタ感がポイントです。

花守　短い時間で、空も海も陸も全部制覇した感じがあって。

ファイ　ああ、確かに！

日高　4人そろって変身した姿を見せるのは、TVではなくこの映画が初でした。だから特別感もあるし、画が全部できた状態でアフレコできたので、収録でもテンションが上がりましたよね。

4人　（口々に）うん、テンション上がった！

日高　画面全体もキラキラして、一人一人の性格によって戦い方も違うし。表情も本当にイキイキしているので、ぜひ大画面で観てほしいです。

石川　『ヒープリ』の皆さんと一緒にダンスできるのもテンションが上がりました。『ヒープリ』の映画を観にきた子どもたちが、最後に「トロプリ」が合流したのを観て、どんな反応をするのか、私たちをちゃんと受け入れてもらえるのか……ドキドキしながら演じました。

瀬戸　私もやっぱり、表情が見どころだと思いますね。特にギャグ顔が（笑）。

──スカイダイビングでのまなつの風圧変顔とかですね（笑）。

ファイ　そうですそうです（笑）。

石川　あそこでの叫び声もよかった。

ファイ　「うがぁ～！」みたいな。

瀬戸　やっぱりサマーが先陣を切っていて、周りのみんなが何かとサマーを気にかけているんですよ。何かあると「サマー！」って（笑）。みんなサマーのことをよく見てるんだなっていうのも感じられました。

▲紆余曲折ありながらも、プリキュアを全員見つけることができて大満足。部活では部長に立候補するも、学校の生徒でないこともあり、仮部員に

ダンスアイランドへ急げ!

映画トロピカル～ジュ!プリキュア プチ とびこめ!コラボ♡ダンスパーティ!

♣「映画ヒーリングっど♥プリキュア ゆめのまちでキュン!っとGoGo!大変身!!」と同時上映

「ヒーリングっど♥プリキュア」のラビリンたちからダンスパーティの誘いを受けた、「トロピカル～ジュ!プリキュア」の一行。大喜びで参加を決めたはいいけれど、パーティ開始は3分後!しかも、なぜかヤラネーダが現れて、次から次へと邪魔してくる!空に海にと一難去ってまた一難。タイムリミットが迫る中、果たしてまなつたちは、「ヒープリ」チームとダンスができるのか?

3分ほどの尺の中に「トロプリ」の明るさ楽しさ、5人の魅力が、派手なバトルと共にギュウギュウに詰まった濃厚なショートムービー。監督は大塚隆史さん、作画監督は稲上晃さんという、古くからの「プリキュア」ファンにはおなじみのお二人。互いに気心も知れているものの、直接タッグを組むのは実はこれが初めて。「プリキュア」を熟知する、この二人ならではの"勢い"を感じとれ!

『トロプリ』の魅力を詰め込んだ紹介ムービー

——今回の映画の作画監督は、長編が爲我井克美さん、短編が稲上さんという、同期コンビで担当することになったわけですね。

稲上 奇しくも爲我井くんとの2本立てになりましたね。同じ上映作品の中で、それぞれ作監をやるってなかなかないことですから、やっぱり感慨深いものがあります。

大塚 そういったご縁で言うと、今回の製作担当の澤守洸さんが入社して最初に製作進行になったのが『スマイルプリキュア!』第17話のFUJIWARAゲスト回。ちょうど今回と同じく、監督が僕、作画監督が稲上さんでした。澤守さんはこの短編で「プリキュア」から卒業になるんですが、「プリキュア」の最初と最後の仕事が僕と稲上さんっていうのがなんだか感慨深いですね。そして実は僕、今回初めて稲上さんと演出×作監タッグを組んで仕事するんです。それも感慨深いです(笑)。

——そんな皆さんの思いがこめられた今作、筋立てはどのように考えましたか?

大塚 去年の7月、プロデューサーの小山弘起さんから「『映画ヒープリ』に新プリキュアの短編映画を併映することになったんだけど、監督をやらないか」と打診されたのが始まりで、内容的にはまだ何も決まっていませんでした。新しい『プリキュア』は土田豊さんがシリーズディレクターだと聞いて、きっと楽しい作風になるだろうと思いましたし、中谷友紀子さんのデザインもとても魅力的だったので、明るく元気な楽しいフィルムにしようと思い、そこからいろいろ整理して楽しいシチュエーションや筋立てを考えていきました。

——作業に入る段階で、すでにTVアニメ本編のギャグ顔のガイドラインなどはもらっていたのですか?

大塚 そういうのはまだなかったですね。ただ土田監督の『プリキュア』での作風はある程度分かっているので(笑)、僕の中で想像して進めました。土田監督は『スマイルプリキュア!』の各話演出でも、とんでもないギャグ表情をつけていましたからね!(笑)

——修学旅行回で、大凶おみくじを引いた時のみゆきの表情とか(笑)。

大塚 そうそう。「なんて自由なんだ!」って(笑)。だから、『トロプリ』でも、あれくらいの振り幅で表現するんだろうなぁと思いました。

稲上 短編の作業は、TVの第1話の作業とほぼ同時スタートだったんです。なので、春映画を担当している作監さんたちの苦労を、ここへきて初めて痛感しました(苦笑)。キュアサマーの表情は大塚くんの絵コンテと、作画打ち合わせで話し合ったイメージに近づけつつ、TV第1話の絵コンテも参考にさせてもらいました。また、中谷さんの描かれた絵は、キャラ表以外も全部集めてもらって、それらとにらめっこしながらの作業でした。

——冒頭、まずローラがまなつたちに招待状を見せますね。

大塚 『トロプリ』では、ラビリンたちのような、いわゆる妖精キャラの立ち位置はローラだと聞いたので、ローラがラビリンからの手紙を受け取る形で、さりげなくお互いが知り合いというふうに見せました。

——そこからダンスアイランドへと出発します。「ダンスパーティ開始まであと3分」と、劇中時間と実尺をほぼ同じにしてあるわけですね。

大塚 そうですね。メタ的な要素だ、なんて言われたりもしますが、実はそういった意図ではありません。この短編映画が何分間の映画なのかを観客には提示されない状態での鑑賞になると聞いたので、観る人に最初にどれくらいの尺の作品なのかを分かってもらうためのものです。10分や15分のつもりで観てしまうと、いざ終わりがきた時に、思っていた気持ちの準備と尺のイメージが違いすぎて、物足りなさや消化不良を起こすだろうなと。それを防ぐための演出的な誘導です。終盤の「あと10秒!」という掛け声もそうで、「さあフィニッシュだ!」と気分を高めてもらいたいなと。

——大塚さんらしいところでは、空中でのアクションもあります。ご自身も以前、スカイダイビングをしていましたよね?

大塚 ええ、その経験も生きています(笑)。でもまぁ単純に、美術デザインがどのようなものになるのかが脚本制作時には不明だったので、「空と海ならデザ

招待状とゆめペンダントを見せるローラ。この文字は大塚監督が左手で書いたもの

インはそんなに関係ないか」というのと、「南国と海が作品の舞台なら丁度よい」という理由で「空と海」を舞台に選びました。設定がないということを逆に利用してやれ！って発想ですね（笑）。あと、舞台を「空と海」に決めた段階で、『ふたりはプリキュア Splash☆Star』第25話のイメージだなと思いまして、今の自分ならどういった表現になるかなって（笑）。

―咲と舞が空中で変身するシーンがありましたね（笑）。

稲上　まなつたちのスカイダイビングは、「S☆S」第25話もそうだけど、大塚くん演出の「S☆S」第2話の、ブルームとイーグレットが大きくジャンプしてワーッと驚くイメージもあります。

大塚　そういえば第2話のそのシーンは、稲上さんに総作監を入れてもらいましたね！

稲上　あとは、『ふたりはプリキュア Max Heart』のOPのイメージ。

大塚　僕もそのイメージ、ありました。最後ブラックとホワイトが手をつないで地球に落下するあたりとか。

稲上　……確かあそこは志田（直俊）さんの原画でしたね。

―まなつの「どどうなってんの～!?」という、空中落下する時の風圧変顔も強烈でした！

大塚　これもね、結構「顔芸だ！」なんて言われますが、別にそれを意味なく出してるわけではなくて、今回の主役のまなつが元気な子だから、そんな彼女たちがどこで何をしたら楽しい映画になるかなぁと思い、キャラクターが活きるであろうシチュエーションをいろいろ考えて、そこにキャラクターたちを放り込む。そしたらあんな感じでリアクションしてくれた！っていう感じです（笑）。

稲上　元気がいいのと品がないのとはまた違うから、作画の際はそのギリギリの微妙なさじ加減に注意しつつ。そこは『プリキュア』でいつも気をつけているところですね。とはいえ、あの落下の1カットは……担当してくれた原画マンさんと一緒に作り上げた感じですけど、目がカッと開いて、唇がビラビラしちゃってたし、我ながらやりすぎちゃったかなあ。中谷さんどう思われただろう。

大塚　品の部分で言うと、作画監督が稲上さんなんで僕は安心して託せました！（笑）澤守さんから聞いた話では、中谷さんは楽しんでくれていたみたいなので……きっと大丈夫（笑）。

稲上　ならいいんですけど……。表情について唯一、TVアニメサイドから要望があったのが、みのりですね。変身前は表情をあまり出さない子なので、「変身前はハツラツとした笑顔にはしないでほしい」と。ただ、他の4人が弾けた感じなので、一人だけ無表情なのも変に浮いちゃうから、軽い微笑み程度にはさせてもらいました。だからTVよりはちょっと表情豊かかもしれないけど、そこはこの短編映画ならではのものと思ってください。

―空中落下シーンでは、音の出方も面白かったです。映画館の客席をぐるりと音が回る仕掛けになっていました。

大塚　5.1chサラウンドを使って「音を回す」のは、昔からやりたいと思ってたんです（注：劇場の6個のスピーカーをバラバラに使い、音を動かしていくやり方）。以前僕がやった「プリキュア」映画では仕様としてできなくて、劇場版『ONE PIECE STAMPEDE』ではそういう遊びを入れるだけの尺の余裕がなくて。そこで今回こそやってみようと思いました。最初の落下シーンなので10秒くらいの短いカットですが、画面上のキャラクターのイン・アウトに合わせて声が行ったり来たりするようにしています。家庭のTVとは違い、声が前後左右から聞こえてきて、初めて映画館にきた子が「あれ!?」ってなる体験をしてもらえたら楽しいなと思い、仕掛けましたね。

ここぞという時には凛とした表情を！

―変身後のバトルは、各プリキュアの紹介としても機能しています。フラミンゴがパンチ、パパイアがキック、コーラルがバッテンシールドでした。

大塚　フラミンゴはめっちゃパワフルで、パパイアは敵の攻撃をいなすような賢い戦い方。コーラルはバリア技をメインに据える。そういったキャラ性や戦い方を土田さんから一通り聞いて、それぞれの特徴を見せるための1アクションでしたね。そこの一連の作画は板岡錦さん。めちゃくちゃパワフルでカッコいいです。

―パパイアは「目からビーム」みたいな技は使わなかったんですね。

大塚　厳密にはイヤリングが目にかぶさってビームが出るって表現みたいですね。あれは僕も知らなくて！　第1話の放送でOPを観てびっくりですよ。短編の絵コンテ作業段階では、パパイアはまだ戦い方が具体的に決まっていなかったんです。あんな技を使うって決まった段階で教えてくれればよかったのに！

パーティへのお誘いに「ステキ～!!」と身を乗り出す4人。みのりの笑顔はやや抑えめだ

アニメーターさんのアドリブか、土田監督の決めごとか、どっちなのかは分かりませんが（笑）。

―ローラの見せ場は、その後の海中ですね。

大塚　そうですね。「トロプリ」はサマーとローラの二人が物語を引っ張っていく作品なんだというのを意識しました。ローラは、やはり水中を自在に泳げる人魚の特性を魅力的に見せてあげたいと思いましたし、何より「プリキュア」で人魚と一緒に泳ぐシチュエーションはなかなかなかったので、二人できれいな海底を進む姿を見せました。おそらく本編でもそういったシーンは頻繁には描かれないだろうというのも想定して。そうやって各キャラ、テーマを決めて要素を織り込んでいきました。TVのニュアンスは変えずに、少し違うアプローチができたんじゃないかなと思います。

―各種ヤラネーダのデザインは？

稲上　飛行機ヤラネーダとパイロットヤラネーダは、大塚くんのコンテの絵を元に担当原画マンさんがレイアウトを描き、それに自分が作監修正を乗せて決め込んでいます。海賊船ヤラネーダは、大塚くんからラフイメージをもらって、そこからちょっとデザイン的に膨らませました。いかにも海賊野郎的なたくましい腕にして、錨マークを足したり。TVのヤラネーダの統一要素は踏まえつつ、バランスを取りながらキャラ表を作りました。

大塚　サメのヤラネーダも考えたんですけど、あんまり怖い感じにはしたくなくて、海賊船にしました。マスト横の網も、稲上さんが足してくれたんです。ぐっと帆船らしさが出たと思います。

稲上　わりと大きめな船にはしたかったので、ある程度のディテールは必要かなと。その上で省略できるところはしています。あまり硬くなくかわいらしさを感じるフォルムで、映画の楽しさに合わせました。カラフルな色は、色彩設計の佐久間ヨシ子さんの工夫です。海賊船ヤラネーダが撃つミサイルヤラネーダの雛形は、板岡氏が作ってくれたんです。そこに僕が修正を乗せて決定デザインとしています。彼はミサイルの発射からサマーがその爆発で落下するあたりまでの原画を担当してくれました。

この短編映画ではリアル調の背景美術も特徴。海中の描写も、豪華で迫力がある！

―映画館で2度目3度目と観る上で注目してもらいたいところは？

大塚　まずはもちろん、映画本編（長編）ですね！　山岡直子さんの優しいキャラクターたちと、中村亮太監督の怒涛のテンポのアクションは一級品です！　短編のほうは、稲上さんのかわいく元気なキャラクターの作画ですかね！　アニメーターさんたちも張り切ってイキイキと動かしてくれていますので、短編はもう単純に勢いを楽しんでほしいです。

稲上　ギャグ要素も多いですが、僕としては、サマーが技バンクの直前にぐっと力を入れるキリリとした表情はちょっとこだわりました。相手と真剣に向き合う「ここぞという時」には、凛とした表情を見せることを初代プリキュアからずっと大切にしてきたので。今回もそこは踏まえた上で、大塚くんのディレクションに沿って、原画マンさんたちと一緒に画を作り込みました。

大塚　サマーのプリキュアらしい、カッコいい表情を見せることができてよかったです。この短編、サマーのカッコいい見せ場って技バンクくらいしかないので。

稲上　そこ以外は、ずっとワーワー言ってる感じだもんね（笑）。まあでも、サマーたちが宙を舞っているシーンのスピード感は、ぜひ映画館の大きいスクリーンで味わってもらいたいです。まずはメインディッシュとなる『映画ヒープリ』（長編）をたっぷり楽しんでもらい、その後に「お楽しみのデザートが来た！」という感じで短編映画を観てもらえたらと。ラストのCGダンスも含めて、映画全体を堪能してもらえたら嬉しいですね。

おおつか・たかし
1981年生まれ。フリー。『スマイルプリキュア！』シリーズディレクター、『映画プリキュアオールスターズDX』シリーズ、劇場版『ONE PIECE STAMPEDE』監督

いながみ・あきら
1963年生まれ。東映アニメーション所属。キャラクターデザイン作品に『ふたりはプリキュア』『ふたりはプリキュア Max Heart』『ふたりはプリキュア Splash☆Star』『夢のクレヨン王国』『ねぎぼうずのあさたろう』

TV　土田豊カラーあふれる愉快な「トロプリ」

大塚　土田豊監督がついに『プリキュア』でシリーズディレクターをやると聞いて、絶対面白くなるだろうなと思いました。僕は土田監督の演出が大好きで、彼が監督した『映画プリキュアオールスターズ みんなで歌う♪奇跡の魔法！』に至っては、さんざん『オールスターズ』をやった僕だけどこれには敵わない……と心底思ったんです。僕にはこの発想はなかったというか、いろいろと目から鱗で、すばらしい。長峯達也監督、田中裕太監督に次いで「勝てねぇ……」と感じる監督の一人です。TVの今後の展開が楽しみです。

稲上　土田氏とは、何度か過去シリーズの各話で一緒に組んだことがあるんですけど、彼の演出は楽しいですよね。実際「トロプリ」第1話は、まなつが元気よく、笑顔もいっぱいで、観ていてなんだか明るい気持ちになれました。

大塚　土田監督は結構な頑固者で（笑）、自分が面白いと思ったことを曲げないタイプです。「スマイル」第29話、れいか以外の全員が補習を受けるはめになるという展開は、当初の予定にはなかったのに、土田監督の絵コンテに押し切られました！（苦笑）

稲上　芯が強いというかね。ちゃんと人の意見は聞いた上で「でも自分はこうしたい」ってきちんと返すタイプで。

大塚　そんな土田監督がどんなプリキュアを描いていくのか、目が離せないですね。

稲上　僕も各話作監として参加しつつ、これからを楽しみにしたいと思います。

EVENT

Machico　北川理恵

宮本佳那子　吉武千颯

輝く歌声の宝石！

3名のゲストと共に、計20曲を披露した北川理恵さん。圧倒的な表現力で、一曲一曲の向こう側にある物語まで見せてくれた！

「MY toybox ～ Rie Kitagawa プリキュアソングコレクション～」絶賛発売中！

「MY toybox～Rie Kitagawa プリキュアソングコレクション～」購入者限定配信ライブ
～「これまで」と「これから」にありがとうを込めて
HP✚https://www.marv.jp/titles/mc/9925/

「MY toybox ～ Rie Kitagawa プリキュアソングコレクション ～」

かわいい題字は北川さん自身が書いたもの。このライブやファンへの思い入れが伝わってくる

アルバム収録曲を中心に緩急のある構成でお届け

3月21日（日）19時から、〝プリキュアの歌姫〟北川理恵さんの生配信ライブが行われた。昨年11月にリリースされた「MY toybox ～ Rie Kitagawa プリキュアソングコレクション～」の購入者だけが視聴できるプレミアムイベントだ。宮本佳那子さん、Machicoさん、そして追加ゲストとなった吉武千颯さんも参加し、ベストアルバムの名を冠したライブに花を添えた。

オープニングナンバーは「ヒーリングっど♥プリキュア」OP①（番号はセットリストより）。北川さんの艶やかで優しい歌声が心地よい。ご挨拶MCを挟んでの2曲目には、Machicoさんが登場し、「ヒープリ」イメージソング②を伸びやかに披露。そこからのキラリ弾けた歌声、北川さんの『スター☆トゥインクルプリキュア』OP③という、序盤から星に向かって急上昇するような構成だ。

アップテンポな曲が3曲続いた後は、「ヒープリ」イメージソングから3曲。北川さんと宮本さんが圧倒的な歌唱力で歌い上げる④。二人そろって生で歌うのは今日が初めてとのことだが、掛け合いも息ぴったりで驚かされる。さらにMachicoさんを加えた3人で、⑤をポップに歌った後は、吉武さんが登場。Machicoさんと吉武さんのかわいいデュオ曲⑥から、お二人が2月から担当している「トロピカル～ジュ！プリキュア」主題歌を歌唱。Machicoさんが夏を届けてくれるOP⑦、吉武さんの踊りたくなるかわいいED⑧、いずれもフルサイズをお披露目するのは今回が初めてだ。北川さんが6年間織り上げてきたプリキュア」主題歌の歴史が、確かに続いていくことを予感させる。

そんなMachicoさんと吉武さんは、二人とも誕生日が3月下旬。北川さんが「ハッピーバースデー」を歌う中、宮本さんがバースデーケーキを渡すという、サプライズイベントが発生。先輩たちからお祝いされて、恐縮しつつも大感激のお二人！　プリキュアシンガーたちの素顔を感じられる和気あいあいとしたトークで、画面の向こうのファンをほっこりさせてくれた。

そして北川さんのソロ曲のターンへ。「魔法つかいプリキュア！」後期OP⑨は北川さんらしい茶目っ気が満点。歌いながらMachicoさんや吉武さんのいるMC席へ乱入するなど、追いかけるカメラもハチャメチャ大混乱!?　続く、「Go！プリンセスプリキュア」の2曲⑩⑪では、女優としての北川さんの姿も垣間見えるような表現力で、グランドミュージカルを最前列で鑑賞した気分にさせられた。MCを挟んで、現在公開中の「映画ヒーリングっど♥プリキュア ゆめのまちでキュン！っとGoGo！大変身!!」の楽曲へ。北川さんが主題歌⑫を凛々しく、MachicoさんがED⑬を情感たっぷりに披露した。

終盤は「ヒープリ」から、Machicoさんの爽やかな前期ED⑭、宮本さんの楽しい後期ED⑮、そして北川さんのポーカルベスト新曲⑯を次々と披露。⑯は最終話で流れた感動的な楽曲で、ビートの効いたアップテンポの曲。ED2曲とのコントラストも鮮やか！

ラストナンバーは、今回のアルバム収録のオリジナル曲⑰と、「映画プリキュアスーパースターズ！」の明るく力強い主題歌⑱で、明るい明日につながる構成。最後のトークでは、今日の感想のほか、ゲストの3人はそれぞれ北川さんの歌や人柄の魅力を語り、「プリキュア」を通じて手と手をつないだ歌姫たちの絆を感じさせた。

アンコールは、4人そろって⑲。「ヒープリ」のイメージソングだが、シリーズを通して継承される「プリキュア」の普遍的なテーマが意識された楽曲だ。「プリキュア」初代シンガーの五條真由美さんのこの曲を、直近世代の4人が高らかに歌唱する姿は胸に熱いものがこみ上げる！　そして本当のラストソングは、今回のアルバムの新曲で北川さん自身が初めて作詞した⑳。北川さんの「この声」が届く先に聴き手はいる……歌声を届けてもらえる喜びに、感謝の気持ちでいっぱいになった。

長いようであっという間だった2時間半。北川さんのソロ曲だけでなくゲストの歌も盛りだくさん。まさに宝石の詰まったおもちゃ箱をひっくり返したような、過去から現在までのバラエティ豊かなライブだった。また、配信ライブだけあり、多くの番組スタッフや音楽関係者も実況や感想をツイート。画面越しで多くのスタッフやファンとの一体感が生まれた、大満足のイベントとなった。

お二人のインタビューは次号掲載！

SET LIST

① ヒーリングっど♥プリキュア Touch !!
② LOVE FOR ALL
③ キラリ☆彡スター☆トゥインクルプリキュア
④ かえりたい場所
⑤ Let's 手と手でキュン！
⑥ Good Good ハ～イ !!
⑦ Viva! Spark! トロピカル～ジュ！プリキュア
⑧ トロピカ I・N・G
⑨ Dokkin ◇魔法つかいプリキュア !part 2
⑩ ドリーミング☆プリンセスプリキュア
⑪ 夢は未来への道
⑫ Grace Flowers
⑬ やくそく
⑭ ミラクルっと♥ Link Ring ！
⑮ エビバディ☆ヒーリングッデイ！
⑯ We are Alive!!
⑰ Jewel Music Toy Star
⑱ 明日笑顔になぁれ！
⑲ シェアして！プリキュア
⑳ この声が届く先に

スチール撮影＝大山雅夫

ライブに参上！

今年も「プリキュアライブ」が華やかに開催。昼夜合わせて、TV&映画&ボーカルアルバムからの計21曲を披露した！

トロピカル～ジュ!プリキュア LIVE2021 Viva!トロピカSUMMER!LIVE

HP♥https://www.marv.jp/special/precure_live/
♥2021年9月25日（土）昼夜2公演
♥パシフィコ横浜・国立大ホール
♥BD・DVDは2022年3月2日（水）発売
商品サイト♥
https://www.marv.jp/titles/mc/10183/

キャスト&シンガーが集合！　キャスト5人はプリキュアの衣装をイメージしたもの。日高さんは髪型もラメール風のパールアクセ付きお団子ヘアだ

「おひサマー公演」「おつきサマー公演」と銘打ち、昼夜2回行われた「プリキュアライブ」。ここでは「おつきサマー公演」をメインに、その模様をレポートしよう。

ステージのオープニングは、「トロプリ」メインキャスト5人による変身と名乗り！「今日も元気だ！」などの掛け声部分は、「Viva! パシフィック！」だ（ちなみに昼公演では「ライブに参上！」だった）。テンションが一気に上がったところで、OP主題歌の「Viva! Spark!トロピカル～ジュ！プリキュア with トロピカる部」。Machicoさんに加え、2番からはキャストの5人も入ってくるなど元気なノリでスタートした。

続いてはキャストのソロ曲のコーナー。ファイルーズあいさんが歌う「OH! TEMPT SUMMER DAY」を皮切りに、花守ゆみりさんの「チャーミング＊∞＊ハピネス」、石川由依さんの「My Story」、瀬戸麻沙美さんの「BREAK POINT」と4人の多彩なナンバーが並ぶ。そして日高里菜さんが「なかよしのうた」をしっとりと歌い、静かに会場を盛り上げる。さらに曲の終盤には、日高さんの後ろにファイルーズさんたち4人がスッと現れるという、5人の友情を感じさせる演出も泣ける！（後方の4人にはライトは当てないところが、実に心憎い！）

ここからはシンガーの二人のコーナーがスタート。Machicoさんのソロで「シェアして！プリキュア」、吉武千颯さんとのデュエット「Brave Parade」。そして吉武さんのソロで前期ED主題歌「トロピカ～I・N・G」と、「トロプリ」らしい元気な曲を披露してゆく。

その後は、二人で歴代ソングを熱唱。『映画スター☆トゥインクルプリキュア 星のうたに想いをこめて』で戦闘シーンを彩った挿入歌「星座のチカラ」。『ヒーリングっど♥プリキュア』から、明るく愉快なイメージソング「Good Good ハ～イ!!」、前期ED主題歌の「ミラクルっと♥Link Ring!」と続く。『トロプリ』の楽曲からは、気分が高揚する応援イメージソング「CLAP!～勇気を鳴らせ～」。メインボーカルはMachicoさんだが、後半の早口ラップパートは吉武さんが大奮闘というスペシャルバージョンだ。

シンガーコーナーの後は、『映画トロピカル～ジュ！プリキュア 雪のプリンセスと奇跡の指輪！』の楽曲を、公開に先立ちお披露目。ここでは「シャンティア～しあわせのくに～」エンディング主題歌Ver.」を「トロプリ」5人だけで歌うというレアな形だ。まだ映画の内容を知らないファンにとっては「なぜリードボーカルは日高さん？」と、映画への興味も湧いたのではないだろうか。

さらに映画からもう1曲、Machicoさんの「大好きのSnowball」。壇上スクリーンや配信用のカメラ映像には、雪の結晶が舞い散るファンシーなエフェクトが加えられ、雰囲気を盛り上げる。そして、キャストの5人と吉武さんとで、所狭しと雪合戦（白玉の投げ合い）が繰り広げられたのも愉快。瀬戸さんだけは途中で雪だるまを作る風情の大玉転がし（？）にシフト。白玉をその大玉に乗せて、雪だるまも作成した。

ステージの終盤は、ファイルーズさんと日高さんのデュオ「プリティル～ジュティズ～」。冒頭の呼びかけ部分は二人向き合っての形で、尊さもひとしお！　ラストの2曲は、キャストの5人による「おもいきりトロピカル！」からの、後期ED主題歌「あこがれ Go My Way!!」というコンビネーション。サビ部分を全員で歌うのも、お祭り感満点だ。

そしてアンコールに応えてステージに全員戻ってくるかと思いきや、なぜか瀬戸さんだけ戻ってこず。すると「ハッピーバースデー」の曲が流れ始め……。実は4日後に控えた花守さんの誕生日をサプライズで祝福しようという粋な計らい。瀬戸さんが遅れて、誕生日プレゼントのコーラルのぬいぐるみ付き花束を持って現れ、花守さんは大感激！

アンコールは、全員で「Viva! Spark!トロピカル～ジュ！プリキュア」を元気に歌って、トロピカりまくりのステージは終了となった。ファイルーズさんが、「帰り道、気をつけてトロピカってね～。トロピカりすぎないようにね～」と言いながらステージからはけていくのも愉快だった。

「OH! TEMPT SUMMER DAY」での元気いっぱいな歌声と、ボディランゲージのような振り付けをノリノリで踊る。その勢いはまなつそのもの！

キュートな振り付けが似合う、花守さんの「チャーミング＊∞＊ハピネス」。ふんわり優しい空気感が漂う、文字通りチャーミングなパフォーマンス

にこやかに「My Story」を歌う石川さん。清楚で落ち着いた振り付けで、聴かせる曲調にぴったり。その分、要所で入る手の動きがとてもキャッチー

「BREAK POINT」を熱唱中の瀬戸さん。アクティブな曲調に合わせた力強い振り付けと、フラミンゴモチーフの袖を優雅に上下に揺らすポーズが印象的

昼公演で「アクアプリズム」を歌う日高さん。アップテンポな曲調に合わせた快活な動きは、じっくりと歌い上げる「なかよしのうた」と見事なコントラスト

昼公演の意外な構成!?

「おひサマー公演」では、1曲目の「Viva! Spark!トロピカル～ジュ!プリキュア」の次に「なかよしのうた」を持ってくるという意外な構成がポイント。作品テイストそのままの賑やかな幕開けの雰囲気を、あえていきなりリセットしたインパクトは絶大。第34話ラストの「ずっと友達でいること!」のやりとりや、第37話で明かされたまなつとローラの過去を知った上でこの構成を振り返ると、思わず泣けてくるものがある。また、日高さんの「アクアプリズム」も昼公演だけの楽曲だ。

二人はソロ曲とデュオ曲を交互に歌う構成。デュオの振りのシンクロ具合も相まって、もともとデュオユニットかと錯覚するくらい二人の息はぴったり！　Machicoさんの衣装は白基調で、吉武さんは黒基調（服のラメがキラキラ）で、そのペア感もなかなか素敵！

あおぞら中学校
「トロピカる部」の活動に率日なし!?
まなつのやる気は次から次へと、
じゃんじゃんドバドバ湧いてくる！

やる気、最強！

トロピカる部の４人とローラは、お弁当作りや映画のエキストラ出演など、目の前の大事なことにどんどんチャレンジ。トロピカってるEveryday!

新たな仲間として海の妖精・くるるんも登場。人魚の国グランオーシャンから、女王様のお使いでやってきたのだ。プリキュアのパワーアップアイテムが届いたと早合点したローラだが、実はそれは、ローラを気遣った女王様からのお菓子の詰め合わせだった。プリキュアのみんなと食べて気分上々、一緒に元気にやっている姿を女王様に伝えることもできた。

一方、まなつは勉強にはなかなかトロピカれず、テスト勉強に四苦八苦。しかも、ヤラネーダにやる気パワーを奪われて、無気力なまなつにローラも大ショック。けれど、ヤラネーダと必死に戦うみんなの姿を見て、まなつはなんと自力でやる気復活！奪われていたやる気パワーもローラの頑張りで戻ってきて、４人の「プリキュア！ミックストロピカル」が発動した！

まなつとローラの友情も再確認でき、追試の合格も勝ち取り、雨降って地固まる。みんなますますトロピカっていく！

キュアパパイア
一之瀬みのり

読書による想像力でくるるんの気持ちを汲み取り、スムーズに意思疎通。ローラに励まされたみのりが、今度はローラに気持ちを教えてあげた

Producer's Eye
「第４話の文芸部時代の回想は、みのりの過去の一つです。彼女がまなつたちがいなかった１年間をどんなふうに過ごしてきたのかは、今後描かれる予定です」（村瀬）

キュアサマー
夏海まなつ

忙しいお母さんを手伝いたいと思って、あすかにお弁当作りを教わった。お母さんが好きなカボチャの煮付けも作れるようになった

Producer's Eye
「第１・２話でのまなつは、意図的に『都会に出てきた感じ』を出しています。『まずは主人公が一歩踏み出した』というのを観ている人にも分かりやすく伝える意図です。無意識かもしれませんが、自分できちんと選択して、一つ一つ段階を踏んで前へ進んでいる子なんです」（村瀬）

キュアコーラル
涼村さんご

新作コスメのキャンペーンマスコット・でれらちゃんの中に入って大奮闘。自信喪失気味の俳優・山辺ゆなも、一歩踏み出す勇気を受け取る

Producer's Eye
「さんごはまなつから影響を強く受けている子。第９話のでれらちゃんのシーンのように、今後も彼女なりの頑張りや魅力を見せていきます。一番常識人で、視聴者に近い子なので、まなつの破天荒な行動力を魅力的に伝える役割もあります」（村瀬）

キュアフラミンゴ
滝沢あすか

毎日のお弁当は、夕飯の残りものや冷凍食品でもOK。家族はチームなのだから、気楽に作ればいいとまなつに明るくアドバイスした

Producer's Eye
「あすかは生徒会長・百合子とのドラマに乞うご期待です。これはシリーズ後半まで続くかもしれません。また、３年生のあすかにとっては中学最後の１年なので、まなつやさんご、みのりとは違う、卒業年度ならではのお話もいずれ描かれていきます」（村瀬）

人魚・ローラ

やる気を奪われてプリキュアを辞めると言うまなつにカチン。まなつのやる気パワーが入ったままのアクアポットを必死の思いで探し出す

Producer's Eye
「企画当初のイメージでは、まなつの突飛さを中和するような優しげな子にしようと思っていたんです。でも『このままだと、まなつたちに埋もれるのでは？』と土田さんが懸念しまして。そこから大転換して、存在感のあるチャッカリ系のキャラクターになりました（笑）」（村瀬）

トロピカった結果、世相のニーズに合うことに

作品名より先に決まった「トロピカってる〜！」

プロデューサー 村瀬亜季（東映アニメーション）

——最初に「海」を作品モチーフに決めたとのことですが、その段階で人魚の登場も考えていたのですか？

村瀬 まず、ファンタジーとリアルの両方を描けるのが「プリキュア」なので、「2つの世界が出会う」という形にすれば世界観もお話も広がると思ったんです。「海」は2つの世界の境界線のようなものでもある。そこで、中学生の主人公が海の世界に住んでいる子と出会って物語がスタートする形にしたいと考え、その過程で人魚が出てきたという流れです。

——2月の製作発表会で、ABCアニメーションの田中昂プロデューサーが「今の世の中の雰囲気を吹き飛ばせるような明るさ」とコメントしていましたが、コロナ禍を意識しての作風でもあるのですか？

村瀬 今となっては、結果的に世相のニーズに合うことになったと思っています。ただ、番組の企画自体はもっと早くから動いていたため、コロナの影響が出る前に、明るい作風などを含めた方向性は固まっていました。番組タイトルもすでに決まっていた気がします。

——「メイクで気合い」など、まさにステイホームの暮らし方にも言えそうですよね。番組タイトルを決める段階で、まなつの口癖の「トロピカってる〜！」はもうあったのですか？

村瀬 ありました。まなつの口癖をどうするかを先に考えたんです。南国モチーフは決まっていたので、「トロピカル」というワードは脚本作業の早い段階から出てきていて。そこからシリーズディレクターの土田（豊）さんが「『トロピカってる』とか、どうですか？」って（笑）。

——さすがギャグの担い手・土田さん（笑）。

村瀬 タイトルを決める時にも「やっぱりトロピカルは入れたいね」となり、もう一つのモチーフ「コスメ」の要素としては「ルージュ」を持ってくれば、掛け合わせられると思ったんです！ トロピカルとルージュを合わせて「トロピカル〜ジュ」。一日くらいであっさり決まりましたね。「ルージュ」より「ル〜ジュ」のほうが特徴的で面白いのと、「〜」で波を表現できそうだと田中プロデューサーがおっしゃって、この表記になりました。

——シリーズ構成を横谷昌宏さんにお願いした理由は？

村瀬 横谷さんとは、東映アニメーションとしてはお付き合いはあったんですが、「プリキュア」シリーズはこれまで参加はなかったんですね。でも、「プリキュア」をやってみたい！」と言ってくださっていたのを耳にしまして。私としても挑戦するシリーズにしたいと考えていたので、意気込みを持ってくださっている新しい方に、新たな切り口で「プリキュア」を書いてもらいたいと思い、オファーしました。

——土田さんがシリーズディレクターに決まったのは、横谷さんの後ですか？

村瀬 ほぼ同じタイミングです。横谷さんにお声がけした段階では、土田さんは正式には決まっていなかったですが、私としては土田さんにお願いしたいとオファーしていたので。

——横谷さんもコミカルなお話が得意な方ですよね。

村瀬 そうなんです。『ゲゲゲの鬼太郎』6期の横谷さんの担当脚本を読んで、「ああ、面白いお話を書かれる方だなぁ」って（笑）。その段階で、土田さんにも横谷さんの脚本をお見せし、横谷さんにも土田さんの担当された「プリキュア」作品、『映画キラキラ☆プリキュアアラモード パリッと！想い出のミルフィーユ！』などを観てもらいました。

——『映画プリアラ』もギャグ満載でしたね。

村瀬 実際打ち合わせでも、ギャグシーンについては、お二人とも一番楽しそうに話し合っています。なので私のほうから「もうちょっとプリキュアの戦闘シーンについても話し合いましょうよ」と言ったりして（笑）。

——キャラクターデザインは中谷友紀子さんですが、例年通りオーディションだったのですか？

村瀬 そうです。オーディションでは、まなつとローラを描いてもらいました。

全学年網羅のトロピカる部
トロピカる部は、まなつ以外は１・２・３年生が一人ずつで、バランスよく構成。故郷の島では同年代の子がいなかったまなつにとっての「夢の学校生活」を描く上でも、全学年いたほうが効果的という判断からだ。

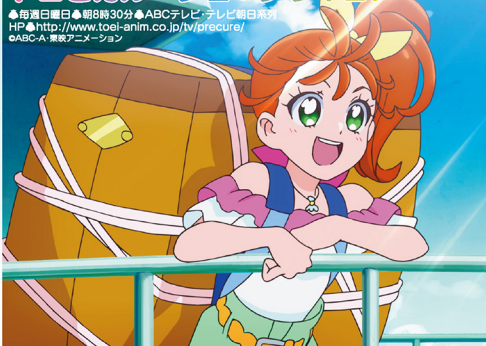
くるるん
海の妖精。人間の言葉は話さないが、まなつたちの言うことは分かるらしい。現在はアクアポットの中でローラがお世話をしている

完成！くるるん弁当
トロピカる部としての最初の成果物。食べるのがためらわれるほどのキュートなキャラ弁だ。くるるんの形は、桜でんぶを混ぜたご飯。目は豆、ひげはハム、鼻・口・尾ヒレは海苔でできている。

▲まなつの弁当。包みは黄色。ローラ（水色）とまなつ母（青）とは色違いのおそろいだ

▼さんごの弁当。たくさんのハムの花はさんごのお手製

▼みのりの弁当。ミートボールの味は超個性的。弁当包みのパパイア型のボタンもかわいい

▼あすかが作った弁当。最もスタンダードな内容だ

やっぱり人魚が特徴的なシリーズなので、ぜひローラは入れたくて。また、プリキュアに守られる立場ではなく、あくまでまなつと対等な存在なので、タッグ感も意識してもらいました。

――キュアサマーは主人公ですが、白を基調にした虹色というのは初めてですね。

村瀬　そこはキャラデのオーディションの段階から決めていました。「歴代プリキュアの中でも埋もれないようにしたい！」と思いまして。デザインを変えるのももちろんですけど、「白をメインにしたい！」とお伝えしました。ただ、他の子がカラフルな分、白だけだとちょっとキャラ立ちが弱いので、髪のグラデーションやピンクも含めた様々な色を追加して現在の色味にまとまりました。サマーが「ずばりピンク色メイン」ではないおかげで、ローラの髪をピンクにできたりなど、よりカラフルなチームになったと思います。

メイクアップ変身は勝負時に巻くハチマキ

――コスメのモチーフはどのようにして作っていきましたか？

村瀬　作品の企画の段階から、アクションや作中のアイテムにコスメを取り入れたいと考えていました。うまく玩具要素ともマッチングしましたね。

――変身シーンも含め、メイクすることを「やる気スイッチ」に落とし込んでいるのが絶妙です。

村瀬　今、小さい女の子にコスメは大人気だと聞いていたし、私自身も子どもの頃にコスメやメイクに憧れていた時期もありました。コスメは見た目だけでなく、気持ちの面でもポジティブに作用できるアイテムなので、きっと女の子たちに届くんじゃないかなと。また、作劇上、プリキュアへの変身は「気持ちの変化」も必要だというのは、土田さんが大事にされていて。メイクアップ変身を「勝負時に巻くハチマキみたいな感覚で表現したい」と言っていただき、「まさにそれ！」という感じでした。

――未就学児向けの作品としては、コスメ推しにはハードルもありそうですが。

村瀬　確かに幼児向けには、コスメ商品のハードルは高いようです。そのため、実際に色がつかなくても「なりきり遊び」として子どもたちにしっかり楽しんでもらえる形を考えました。メイクアップのアクションで、変身遊びにつなげる感じですね。さらに、玩具会社さんからの提案で、6歳以上向けのキッズコスメも出せることになりました。

――本編のストーリーは、学校生活と部活の話が多いですね。

村瀬　第7話でくるるんがやってきた後は、ほぼ部活の話が中心ですね。「どんな活動をするのか？」「どんな人と出会うのか？」というのが毎話のトピックになります。

――第6話（ペンギンの置き物探し回）のノリから、お助け部のような活動になるのと思ったら、そうでもなく。

村瀬　まず最初の活動（第8話）からして、「自分たちのお弁当を作ること」でしたからね（笑）。あくまで等身大の中学生の日常から派生した、目の前にある「今、大事なこと」をやっていく部なんです。第8話は料理部みたいな活動でしたが、お弁当を作るお母さんの大変さに気がついて、なんとか力になりたいというのが出発点でした。第9話の活動は、学校で行われる映画撮影のエキストラ出演。そこにゲストキャラのゆなが現れ、彼女の悩みを解決していく話となりました。

――第11話は、トロピカる部がイベントを主催する話でした。

村瀬　土田さんもよく言っているんですが、トロピカる部はイベント部みたいな一面があるんです。自分たちで企画をして、周りの人たちを巻き込んで盛り上げて、トロピカっていくという。その最初が第11話です。サンドアート大会を企画して、あおぞら中の部活対抗で出来映えを競い合う話にしました。今後は学校の枠を超え、街へ繰り出す活動にも挑戦していきます。

――今後の意気込みをお願いします。

村瀬　シリーズがスタートしてしばらく経ちましたが、この明るく元気な作品を皆さんに楽しんでもらえているなら嬉しいです。人魚と一緒の、そして部活動ならではの日常ドラマが描かれていきます。これからの展開をどうかお楽しみに！

「Viva! Spark! トロピカル～ジュ！プリキュア」

OP Machico

「トロピカ I・N・G」

ED 吉武千颯

「トロピカル～ジュ！プリキュア」の主題歌シングルが発売中。OP・EDアーティストのお二人も、前向きな歌詞にぐいぐい背中を押されています！

キュア

今作のOP・ED主題歌はどちらも南国ムードのある、明るく元気な音楽だ。

まずOP曲「Viva! Spark! トロピカル～ジュ！プリキュア」は、これまでになくノリのいい、ラテン系リズムで楽しさいっぱい。スティールパンやサンバホイッスルなどの陽気なラテンパーカッションや、高らかなホーンがトロピカルムード満点で、Machicoさんの明るく弾けた歌声を盛り上げている。失敗してもめげず、楽しくいこうといった歌詞が多いのも特徴で、ダンサブルな曲調と合わせて気持ちもアガる！

ED曲「トロピカ I・N・G」は、「プリキュア♪」と繰り返すコーラスと、爽やかなギターのカッティング、リリカルなキーボードの音色が耳に残るイントロからスタート。メロウな雰囲気ながら、アップテンポなナンバーで、ラテンパーカッションのティンバレス、ホーンのアンサンブルによるリゾート感が特徴的。マンボ調の２番のＡメロや、イケイケなＤメロ（間奏前）など、遊び心あるアレンジも盛りだくさん。落ちサビはグッと切なく、吉武千颯さんのキュートな歌声が心に染みる。

まちこ
1992年3月25日生まれ／広島県出身／ホリプロインターナショナル所属／声優としても活動。『ウマ娘 プリティーダービー』（トウカイテイオー）、『アイドルマスター ミリオンライブ！』（伊吹 翼）など

よしたけ・ちはや
1999年3月28日生まれ／広島県出身／ Apollo Bay所属／声優としても活動。『スター☆トゥインクルプリキュア』からプリキュアシンガーに。コーラスユニット「ヒーラーガールズ」としても活動中

撮影＝大山雅夫

Viva!プリ

子どもたちの前でも歌いたい！

踊り出したくなる元気な歌詞とメロディ

―Machicoさんは昨年の「ヒーリングっど♥プリキュア」で前期EDを担当していましたが、今回はOP担当ですね。

Machico（以下M） 「ヒープリ」で初めてプリキュアシンガーになった時も、すごく幸せな気持ちでした。それがまさか2年連続で、しかも今回はOP曲だなんて。「こんなに幸せって続くの!?」という驚きの気持ちでしたね。OP曲は、小さなお友達によりたくさん聞いてもらえると思うし、物語の幕開けの一曲なので、せっかく私を選んでいただいたからには自分らしくしっかり歌いたいと思いました。

―ED曲とはまた違う気構えが？

M OP曲は、シリーズの世界観やテーマに合った歌い方だけでなく、パワフルさも重要だなと感じていて。「ヒープリ」での北川理恵さんがまさにそう。プリキュアや観てくれている人たちのことを応援しているような印象を受けたんです。だから私もそういうパワフルさを意識して頑張ったんですが、最初は肩に力が入りすぎちゃいました（笑）。

―吉武さんは「スター☆トゥインクルプリキュア」前期・後期EDに続いてのED担当ですね。

吉武 イメージソングも含めるとプリキュアシンガーとしては3年目なので、また違った緊張感もありました。でも、担当できるのはすごく嬉しくて。「また子どもたちと一緒に歌えるんだ！」ということも、とても嬉しかったです。広島の家族へ報告した時もとっても喜んでくれました。

―最初に曲を聴いた時の印象は？

M OPの「Viva! Spark! トロピカル～ジュ！プリキュア」はハイトーンの箇所がたくさんあるので、難しそうだなぁって（笑）。でも、そのキーの高さが、晴れやかな青空を突き抜けるような印象で、とってもパワフルだなと思いました。全体としては、つい踊り出しちゃうような常夏のイメージです。ドゥンドゥン！というラテンのリズムに私も身を任せて、私も歌いながらどんどん楽しい気持ちになれました。

吉武 EDの「トロピカ I・N・G」は、メロディを聴いた瞬間、プリキュアが踊っている場面がポワンと浮かんできたんです。なので、それをそのまま歌に乗せたいと思いました。それと、なんて前向きな歌詞だろうと。歌詞の一つ一つに背中を押してもらえましたね。今「トロプリ」を観ている子どもたちが大人になってからこの曲を聴いた時に、子どもの頃のワクワクした気持ちを思い出しつつ、歌詞を噛みしめるような曲になったらいいなと思いました。

―それぞれ、特に気に入っているフレーズはありますか？

M いっぱいあるんですけど、OP曲は1番のサビ前の「憧れよ、現実(ほんと)になれ」、落ちサビの「メイクで違う自分に逢えば勇気100倍」が好きですね。『トロプリ』の「メイクでチェンジ！」というキャッチコピー、とても共感できます。私自身もメイクが好きで、その理由は、なりたい自分になりたいからなんです。あと、1番の「明日待てないっ　〝今〟始めよう」もまた『トロプリ』らしくて好きです。

吉武 ED曲も「メイクでチェンジ！」というメッセージがこもった、元気になれる歌詞だなと思います。特に、サビの終盤の「やりたいことに Do my best!! 後まわしにできない」が好きです。まなつちゃんの気持ちを代弁しているような歌詞だなって。

―ED曲は、2番の後の落ちサビでしっとりした雰囲気に変わりますよね。

吉武 そうなんです。

M （ライブだと）サイリウムの振り方も変わりそうだよね？

吉武 私も雰囲気を変えたいなと。聴いてくれているお友達との「約束」を感じながら歌いました。

M このED曲は、序盤とサビでもギャップがあるよね。最初は優しい曲調なのかなと思って聴いていると、サビではOP曲にも負けない元気さで。メロディラインもとってもきれいで、輝いている感じがします。それと、私は吉武ちゃんの声がすごく好きで。

吉武 えっ、嬉しい！（照れ）

M 喋っている時もかわいいんですけど、歌っている声もとってもかわいくて、『トロピカ I・N・G』にぴったり。聴いているだけで耳と心が幸せになる！

吉武 うわぁ～、ありがとうございます！　私、「ヒープリ」の時からずっと思ってたんですけど、Machicoさんの歌声ってかわいさだけじゃなく、胸にくる力強さが込められているんです。今回のOP曲を聴いても「これから始まる！」という楽しさやワクワク感があって。聴いていて心が躍ります！

M どうしよう！　照れちゃいます！

自分の〈かわいい〉を信じることが大切！

―TV本編やOP・ED映像の印象はどうですか？

M もう、どれもコミカルでめちゃめちゃ楽しい！　第1話から「こんな表情するの!?」ってシーンがたくさんあって（笑）、みんな生き生きしていますよね。それはOPからしてそうで、日常のまなつたちのはしゃいでいる表情から、プリキュアのカッコいい表情まで、てんこ盛りの欲張りセットみたいな映像です。私としては、まなつたちがアイスクリームリレーをするようなところが好きなんです。アイスの種類もたくさんあって（笑）。

吉武 私も好きです（笑）。

M それに今回はOPでも踊ってくれているのが、嬉しくなっちゃいました。プリキュアだけでなく、学校のみんなや敵の人たちも踊っていて！　「私もどんどん踊って、もっとうまくなるぞ！」って気持ちで毎週観ています。

吉武 ED映像もとにかくかわいい！　ED冒頭で、毎回キャラクターが交代で「レッツ、ダンス！」って言ってくれるのも今までになかったですよね。サビ以降は、オーシャンプリズムミラーを持って海の上のステージで踊るのも素敵です。あと、Bメロの「カラフル my ブーム」のところで、各チャームポイントを交代でアピールするところ……サマーが唇をピッと触ったり、コーラルがほっぺをポンポンしたりするのも、すごく好きです♪

―では、ファンへのメッセージをお願いします。

吉武 OP曲もED曲も、『トロプリ』ならではの、元気さやワクワク感がいっぱいです。歌を聴いているだけで、アニメのワンシーンが思い浮かぶような感じに仕上がっていると思うので、たくさん歌って踊ってほしいです！

M 『トロプリ』は「変化を恐れない強さ」を大事にしている作品だと思いますが、特に私は、本編でローラが言っていた「自分の〈かわいい〉を信じなさい！」が心に刺さりました。私もデビューしての頃は、自分の好きなものを周りに出せない時期があったんです。だから「好きなものを出すことは恥ずかしくないんだよ！」って、歌を通してお友達を勇気づけていきたいです。そして私たちも『トロプリ』の一ファンです。皆さん一緒に、『トロプリ』を応援していきましょう！

過去シリーズでのライブの思い出

吉武 『プリキュア』のライブステージではイヤモニはなくて、モニタースピーカーだけなんですが、『スタプリ』の時、客席の子どもたちの大熱唱で自分の声が聞こえなかったことがあって、びっくりしました（笑）。みんな一緒に歌ってくれるんです！

M すごい！

吉武 それと、みんながめいっぱい体を使って、一緒にEDダンスを踊ってくれたのも嬉しかった。ライブではダンスレッスンもやりましたが、子どもたちが振り付けを覚えるのが本当に早くて！　毎週テレビの前で踊ってくれているんだろうなと思うと、ジーンときました。

M 「ヒープリ」の時はすでにコロナ禍で、私は一度しか子どもたちの前で歌う機会はなかったんですが、みんながルールを守りながら、せいいっぱい身振り手振りしてくれる姿がかわいくて！　これに声援が加わったらどんなことになるんだろうか、と思いました。いつか、大勢の子どもたちの前で一緒に歌いたいという夢が生まれました！

吉武 私も子どもたちと直接歌って踊れる、あの幸せな空間をまた体験できる日がくるのを、楽しみにしています！

今日の

前期ED「トロピカI(アイ)・N(エヌ)・G(ジー)」

海の匂いが漂ってきそうな、トロピカルなムードあふれるCGアニメーション。キュアサマーたちと一緒にレッツダンス♪

放映中の前期EDテーマは吉武千颯さんが歌う「トロピカI・N・G」。振り付けは今回もCRE8BOY(クリエイトボーイ)で、作品のテイストにマッチした、全身を使った元気いっぱいのダンスになっている。

演出面では、Aメロの「放課後チャイムカウントダウン」という歌詞に寄せ、各キャラのイメージカラーに沿って日が落ちていく時間経過描写が出色。そこからのBメロでは、夜空の花火をバックにランウェイを歩くかのように、各チャームポイントのメイク（リップ、チーク、アイズ、ヘアー）をアピールする動きもおしゃれ！

また、EDダンス開始直前に各キャラの語りかけパートが入るのが、大きな特徴でもある。ここは、もはや子どもたちにもおなじみとなった、リモート通話のイメージもあるそうだ。毎週プリキュアと会話している気分になるのも、嬉しい仕掛けだ。

今回のED映像を担当したのはダイナモピクチャーズ。『プリキュア』のTVシリーズのCGダンスは今回が初だが、イベント用の立体視映像『プリキュアオールスターズDX 3Dシアター』を手掛けたスタジオなので、かわいく華やかな表現もお見事だ。イントロ部分やサビでの、青空や海の美しさにも要注目。

①イントロはフラダンス＋駆けっこ

青空や海のキラキラ感が映えるイントロ。このシーンとサビは、かなり強めにディフュージョン（光源拡散）フィルタがかけられている。「少しファンシー寄りといいますか、華やかな感じにしてほしいとダイナモさんにお願いして、ディフュージョンを強めにしてもらいました」（東映アニメーション・大曽根悠介）

②一人ずつフィーチャー

Aメロの4人の単独ショットは、レターボックス（上下の帯）のテクスチャもポイント。順にハイビスカス、さんご、フルーツ、フラミンゴとなる。これはダイナモピクチャーズからの提案で、素材は東映アニメーションのTV美術スタッフが作成。なお、2D作画のローラ＆くるるんの素材も、東映アニメーションに依頼し、登場箇所はダイナモピクチャーズで考えたという。

③夜空の花火で夏らしさを

Bメロでは、夜空を彩る花火も目を惹く。「夏らしさを出したかったのと、カラフルで華やかな花火で気持ちを盛り上げてサビに入ることが目的でした」（ダイナモピクチャーズ）。「シャッターチャンス」の歌詞に合わせた手振りが、CRE8BOYらしくキャッチー。

「冒頭の『プリキュア～♪』の歌い出しで一瞬見えるアップに注目。演出指示としてもあったのですが、導入パートのサマーは元気な表情で終わるので、歌の始まりは普段とは違ってちょっぴり大人っぽい表情になるようにしました」

「サビ始まりのカットの最後『まぶしい光魔法をかけて♪』でのカメラ目線です。ここはもう『私ってかわいいでしょ？』と自分に自信を持っているような、ちょっとあざとくかわいい女の子といった感じの表情にしちゃいました」

「Aメロの『いつもの笑顔で～♪』です。パパイアは、変身前や他キャラと比べて、笑顔を多めに表情豊かになるよう表情付けしているのですが、このカットは歌詞や振り付けに合わせてとびきりの笑顔で！ ニコ目（笑顔の閉じ目）の時間を長めに見せました」

「『A to Z～♪』の決め顔ですね。一人ずつ決めポーズをとっていった最後のトリなので、印象に残る表情にしたくて。また、フラミンゴの設定ラフを拝見すると、結構勝気そうな表情もあったので、少し挑発的で、強くてカッコいいお姉さんをイメージしました」

ダイナモピクチャーズ

演出担当 いざわひろみ　リードアニメーター 足立奈緒子　リードモデラー 浜崎 恵

プリキュアはとにかく髪の表現が大変かつ大切

―4人のCGモデルは、ベースとなる素体は東映アニメーション製ですが、今回用にダイナモピクチャーズさんが制作したとのこと。モデリングでの苦労点を聞かせてください。

角度ごとにベストな形で描かれた作画設定をどう3Dに落とし込むか、そして気持ちのいい曲線で描かれたシルエットをどのくらい再現できるか、実際に作りながら探っていきました。全キャラ共通して、髪モデルに一番苦労しました。設定画に合わせて形を追っていくだけでは髪のボリュームが全然足りないことが分かり、キュアサマーの担当者には「メリハリを付けつつ、かなり大胆に作ってください！」とお願いしました。サマーの髪で後ろの子が見えないという場面が多々あったくらい、正面だけでなくどの角度からもボリューミーな髪になっています。

―髪の表現は大変そうですね。

髪型の解釈と再現が一番難しかったのがキュアパパイアでした。正面、サイドそれぞれの印象を保ちつつ、設定画に描かれている毛束の線も出しつつ、全体のシルエットは破綻させないように……と考えると、どツボにはまってしまい（笑）。東映アニメさんに構造の確認を取らせていただきつつ、進めていきました。

キュアコーラルの帽子、髪のリボンは配置が結構シビアでした。隙間なく、かつ、めり込まないようにするために、リボンの根元をわざと尖らせたりするなど、モデル形状を工夫して再現しました。モデリング以降のセットアップ、アニメーション工程でも、髪が一番苦戦したかと思います。

キュアフラミンゴは4人の中で一番大人顔なためか、他の3人と同様に顔を作っても、どうにも設定の印象に近づかず、眼球や輪郭など調整を繰り返しました。肩の羽装飾は、どう動くのかモデリング段階から一番懸念があった部分で、最終的にはフレームごとに、めり込み修正と形状調整を行っています。

―表情付けで全体的に意識したことは？

キャラクターの性格や特徴が初見でも伝わるように心掛けました。CGアニメーターの方々にはそれらを踏まえて好きなように表情を付けてもらったのですが、結果生き生きとしたすばらしい表情が上がってきて、東映アニメさんからも好評をいただきました。

生き生きとしたキャラを作るために意識した部分は、目線と眉の動きでしょうか。ダンス作品では目線が非常に重要です。CG表現の際、少しでも目線が定まっていない瞬間があると、途端に人形感が出てしまうことがあるんです。目線の管理に関しては、細かく調整しました。

トロピカル～ジュ!プリキュア

毎週日曜日 朝8時30分 ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

大海原のミラーステージ

歌のサビではオーシャンプリズムミラーのステージに集合。鏡面部分の質感に苦労しつつ、試行錯誤を重ねて作り上げられた。「晴天下での鏡だから、光の反射で真っ白になっちゃうんです。水面とのコントラストもつきにくくて苦労しましたが、サビにふさわしいステージになりました」(東映アニメーション・野島淳志)

4人で寄ってラストポーズ

ラストカットは、髪と服の揺れおさまりの処理も美しい。「このカットに限らずですが、ダイナモさんの物理シミュレーションでは、揺れがかなり大きかったんです。そこで少し抑えてバランスを調整していった結果、全体的にややおとなしめの揺れになったかもしれません」(大曽根)

やる気は!

楽しくて仕方がないといった様子で元気に踊る4人を!

また、プリキュアのような目の大きなキャラは、演技として目を大きく開いたり、目を細めたりすると、わずかのバランスがキャラ崩れにつながります。目周りで細かい演技ができない分、眉毛の動きを大きくすることで表情の豊かさを出すことも心掛けました。

空に浮かぶシャボン玉はサンゴ礁や気泡のイメージ

——では、今回のED映像の演出プランを教えてください。

まず、曲を聴いた時に透き通るような音色を感じ、澄んだ海を連想しました。東映アニメさんからのEDのイメージやキュートな振り付けから、コンセプトは「とにかくかわいい」「夏」「爽やか」「カラフルで元気」という言葉が出てきました。構成としては、第一にお子さまが視認しやすいように激しいカット割りやカメラワークは避けるようにしました。ただ、そこを意識するあまり、ぬるいものにはしたくなかったので、メリハリは気をつけました。

——EDの導入で「今日のやる気は～」と、その回にメインで活躍したプリキュアが出てくるのも特徴ですね。

「視聴者への会話」として伝わるようにしました。観ているお子さまたちにも、もはや日常となっているリモート通話のように、プリキュアが話しかけていることに身近さやリアルさを感じてほしいなと。

——イントロや最後のほうにくる「プリキュア、プリキュア」のコーラス部分の振り付けは、軽くスキップを踏む動きです。CG的にはハードル高めかと思いますが。

歴代のプリキュアEDの映像を参考に、トライ&エラーの繰り返しでした。ダンス自体は基本的にモーションキャプチャで収録したので、ボディの動きよりは髪や衣装の揺れなどの調整に苦労しました。髪や服の形状を保ちつつも弾むような印象にしたかったのですが、弾みすぎても軽すぎてもよくなくて……その丁度いいバランスを見つけるのが非常に大変でした。

真似して踊りたくなる振り付けの中に「ジャンプ」や「横揺れ」の反復が多い分、めり込みも反復で発生するので、それを調整する手間が普通のダンスよりも多く(笑)。一番苦労したところと言えば、そこかもしれません。

——Aメロ「放課後チャイムカウントダウン～」のパートは、サマーのピーカンから、キャラが変わるたびに徐々に日暮れて薄闇へと変化していきます。

歌のサビできれいな青空になり、輝く青い海を背景にしたダンスを引き立たせるため、徐々に時間変化を施しました。変化していく空の雰囲気にも、各キャラクターのイメージカラーや印象を意識してリンクさせました。

——2D作画で、にぎやかし的に入るローラとくるるんもかわいいです。

サマーのダンスでは、ローラは様子見のように座っており、コーラルのダンスで楽しそうだと思い、動き出します。パパイアで、くるるんも何か楽しそうな雰囲気を感じて顔を出し、その後フラミンゴで一緒にダンスする……という流れを描いています。スタッフクレジットを載せることも考慮して、配置しました。

——Bメロ「カラフルmyブーム プレゼンタイム」のパートは、4人のチャームポイントのメイクに沿った動きをしつつ、奥から手前へ一人ずつカメラに近づく「前後の動き」になっています。

各キャラクターのモチーフをイメージした振り付けでしたので、それぞれにフォーカスして見せたいと思いました。鏡を見てお化粧する姿と、ランウェイを歩くファッションモデルのアクションがかわいいなと。ポーズを決めて、次のモデルへと移っていく感じです。その後の「くるくる今のわたし～」で、4人が背中合わせでくるくると回転するのは、歌詞とリンクさせました。

——サビ部分で青空に戻り、4人が並んで踊る姿を見せます。ややドローン撮影風で、ドリー的な移動の動きのあるカメラワークですね。

ライブ感のある雰囲気を出したかったのと、観ているお子さまたちもなるべく一緒に踊れるよう、全身のダンスを見やすくすることを意識しました。

——ここでのステージは、オーシャンプリズムミラーの鏡部分をモチーフに、少しデコレーションされています。

海をイメージしたステージにしたく、サンゴ礁で飾り付けをしました。また、海の中でダンスをしている雰囲気も彷彿とさせたかったので、空に浮かぶシャボン玉はサンゴ礁や海中で発生する気泡をイメージしています。

——「最新のわたし達で～」で、スプラッシュのアーチが虹に変わる、晴れやかでファンシーな演出も素敵です。

噴水ショーのイメージです。チーム内で「青空は飛沫や水滴と相性がいい」という意見があり、それから噴水ショーの動画をたくさん観ました。虹は元々出したかったので、噴水の形状と合致させました。こうなったらかわいいなと。

——今回のED映像で、あらためて観てもらいたいところはありますか?

ぜひ隅から隅まで、観ていただきたいです。挙げ出したらキリがないほど細部まで作り込んだので、何度も観て、いろいろな発見をしてほしいです。キラキラした青空の下で、楽しくて仕方がないといった様子で元気に踊る「トロプリ」のみんなを観ていただけると嬉しいです。

コロナ禍でも踊って元気になれるように

東映アニメーション

CGディレクター 大曽根悠介 CGプロデューサー 野島淳志

ゆめアール空間でレッツダンス♪

──今回の大曽根さんの関わり方は?

大曽根　『ヒーリングっど♥プリキュア』後期EDと同様に、今回も東映アニメーション側で、CG全般に渡るクオリティ管理として参加しました。ですので、演出プランはダイナモさんにおまかせです。作品のイメージに沿ってさえいれば、基本的には自由に考えてもらいました。

野島　村瀬亜季プロデューサーから「海を出してほしい」という要望は事前にありましたね。

──大曽根さんからの要望は?

大曽根　今回のEDは春の短編（『映画トロピカル～ジュ！プリキュア プチ とびこめ！コラボ♡ダンスパーティ！』）との連動があったため、その構成にうまくはめ込めるようにということですね。一部のカットを細かく割ってもらったり、カメラワークのタイミングを調整したりとかいった部分です。

──毎回、導入パートでサマーたちが週替わりでVTuberっぽく登場しますが。

野島　VTuberっぽさは偶然ですね。あのパートは、玩具のオーシャンプリズムミラーが連動する機能に合わせて作られたものです。キャラごとで違う音楽を流して、ミラーがその音楽ごとに違う色で光る仕組みなんです。このパートの5人の動きも、「振り付け」としてCRE8BOYさんにお願いしています。

──すると、この導入部分もCRE8BOYさんの振り付けに合わせたモーションキャプチャのデータを使っているんですね?

野島　その通りです。ローラについてはダンスのガイドムービーを元に、TV本編スタッフに2D作画してもらいました。

──ほか、全体的なところでCRE8BOYさんにお願いしたことは?

野島　作品のコンセプトとして「メイク」が大きな柱だとお伝えし、Bメロの手の動きなどはそれに沿った形で付けていただきました。また、人魚が出てくることや、部活が重要な要素になること、そして元気な感じにしてほしいともお願いしました。イントロ部分では跳ねるような動きもありますが、ジャンプは村瀬Pからの要望でした。

──イントロやラストのフラダンス風+駆けっこ風の腕の振りは、元気のよさと南国っぽさを兼ね備えた動きですね。

野島　ここ、CG的には大変なんです。軽くジャンプしているせいで、いろんなものがめり込んじゃって。

大曽根　ジャンプしたまま空中に浮遊する形なら、それほど大変でもないんですけど。でも今回は元気のよさが大事なので、このスキップのような動きに挑戦しました。

──ミニキャラのローラやくるるんは2D作画ですね。

野島　村瀬Pから「ローラも入れてほしい」という要望もありまして。ただ、CGモデルをもう一体作るのは作業カロリー的に厳しかったので、2キャラともキャラクターデザインの中谷友紀子さんに描いてもらいました。

大曽根　ポージングはダイナモさんのほうである程度指定して、そのニュアンスを汲んで描かれたと思います。

野島　細かい指定はありつつ、中谷さんには好きに描いてください、とお伝えしました（笑）。デフォルメのローラは特にかわいくて、本編にも出てこない姿なのでなかなかレアですよね。

──サビのダンスステージは、オーシャンプリズムミラーがモチーフのようですね。

大曽根　ダイナモさんからの提案で、あの鏡部分をステージにしました。それと玩具にはないんですが、ヒトデやサンゴなどのデコレーションもダイナモさんのアイデアです。オーシャンプリズムミラーをフィーチャーしつつ、ステージにもなるという、いいアイデアですよね。

──今回のED映像で、お二人が観てもらいたいと思うポイントは?

大曽根　以前から「ダンスをしっかり見せたい」という思いがあったので、そこは今回こだわった部分ですね。ダイナモさんの映像は、時間変化の表現や、冒頭はサマーを一人だけ出してみたりとか、そうした大胆な見せ方が参考になるなぁと思いました。

野島　僕は、玩具連動の冒頭ですね。子どもたちにいっぱい遊んでもらいたいです。それからCRE8BOYさんが「コロナ禍でも踊って元気になれるような振り付けにしました」と言ってくださったんです。この映像を観ながら日曜朝はダンスをして、元気を出してもらえたらいいなぁと思います。

映画トロピカル～ジュ！プリキュア プチ とびこめ！コラボ♡ダンスパーティ！

BD・DVDは7月21日発売

──「映画トロプリ プチ」のEDダンスは、TV「トロプリ」EDとサビの部分が共通していますね。

大曽根　ダイナモさんで作っていただいたTVのEDを元に、東映アニメ側で『ヒーリングっど♥プリキュア』の4人を足したり、キャラを入れ替えたりしました。最後の全員で踊るシーンも、こちらでカメラワークやアニメーションを付けました。レンダリングと合成は別会社さんです。

──ダンス映像の最後は、映画独自のステージに切り替わりますね。

大曽根　このステージは、長編（『映画ヒーリングっど♥プリキュア ゆめのまちでキュン！っと GoGo! 大変身!!』）の本編に出てくる渋谷のステージなんです。本編のステージをモデリングしたCGスタジオさんに、ED用のアレンジもしてもらいました。つまり、ゆめアール空間で8人でダンスしているという裏設定なんです。

──楽曲は、TV「ヒープリ」後期ED「エビバディ☆ヒーリングッデイ！」とのミクスチャーでしたが。

野島　映画の小山弘起プロデューサーが、「2世代のバトンタッチ感を出したい」と。そこから2つの曲を混ぜ合わせた楽曲を作ってもらったんです。

大曽根　『ヒープリ』と「トロプリ」のED映像に、メンバーを入れ替えて踊らせるのはCG的にもうまくいったと思います。いつものTVとは違う映像で、お客さんも楽しめたのではないかなと。「ヒープリ」『トロプリ』の2つの映像をつなげ、最後は映画独自のところに持っていく流れにも注目していただきたいです。

5人目の戦士が登場

「トロピカル～ジュ！プリキュア」に新たな仲間キュアラメールが加わるぞ！変身するのは人魚のローラ。「ラメール」とはフランス語で「海」だ。レギンスからつながるサンダルという、これまでのプリキュアにはなかったファッションが特徴。マニキュア&ペディキュアもしており、チャームポイントのメイクは「ネイル」のよう。シリーズ序盤、ローラは「人魚はプリキュアにはなれない」と言っていたが、どんなドラマを経て変身できるようになるのか。初登場は6月20日（日）放送予定の第17話だ。

ゆらめく大海原（オーシャン）！キュアラメール！

キュアラメール

人魚ローラ

SPECIAL COLUMN 02

まだまだ知りたい！『トロプリ』Q&A

［シリーズ構成］横谷昌宏　［プロデューサー］村瀬亜季

横谷さんと村瀬さんからお聞きした、TV『トロプリ』のこぼれ話集をご紹介。みんな大好き・くるるんは、実は本編に登場しない可能性もあった!?

Q1 くるるんはプリキュアの変身や技に関わらない純然たるマスコットキャラ？

村瀬　はい、そうです。いつも妖精キャラが担っている役割を、今回はローラが引き受けた形になったので。ただ、ローラがプリキュアになるのが遅かったため、土田さんの中でも「くるるんは本当に必要なんだろうか？」という疑問が出てきて……。でも子どもたちにかわいいと感じてもらえる「この作品の妖精といえばこの子！」というマスコットキャラは番組的に欲しいんですよね。じゃあ、どんなモチーフの動物なら違和感なく、いつもいられるのかと考えて……。

横谷　そのためにアザラシのぬいぐるみも買ったんですよね。

村瀬　企画初期の頃はまだコロナ禍じゃなかったので、もふもふのアザラシのぬいぐるみを会議の席上にずっと置いて「つぶらな瞳がかわいいでしょ？」って土田さんにアピールしました（笑）。「そこにいるだけでかわいい役」として妖精ポジションのプレゼンをしまくり、無事にマスコットキャラになれました！

横谷　僕は結構、シナリオの初稿でくるるんの出番を作らずに書いちゃうことも多かったです（笑）。そのたびにADKエモーションズの利根里佳さんに「くるるんは、このシーンにどうでしょうか？」と提案を受けていました（笑）。

村瀬　村山功さん（各話脚本）も、くるるんを気にされていましたよね。「今回くるるんは出てこなくて大丈夫ですか？」って。

横谷　放送が始まって、くるるんを観ると「ああ、こう使うと面白いんだ」と脚本に活かせるようになりました。1年もののいいところですよね。

村瀬　私は、第34話でエルダに貝殻クッキーをあげるくるるんが、優しくて大好きです。超かわいい！

Q2 チーム名乗りが回によって変わるのは土田さんの発案？

村瀬　そうです。脚本では決めておらず、毎話土田さんが考えています。「各話ライターさんに考えてもらいましょうか？」と私から訊いたことがあったんですけど、横谷さんやライターの方々が「いや、そこは監督が考えるべきですよ！」とビシッと切り返されて、完全に土田さんの仕事の範疇になりました（笑）。「今日も元気だ！」がベースで、これは繰り返し出てきています。

Q3 ユニークな個人技名も土田さん命名？

横谷　はい、そうです。「おてんとサマーストライク」は早々に決まり、第1話の脚本にも「仮」付きですが、一応ありました。それ以外は技バンクの画に沿った名前をつけるということで、脚本上は「未定」のままでした。

村瀬　やはり映像の雰囲気に合ったものにしたくて、玩具の音声収録に間に合うタイミングで、土田さんのほうで考えてもらいました。「もこもこコーラルディフュージョン」とか、最初聞いた時は驚きました（笑）。

横谷　とにかく土田さんのセンスが不思議で（笑）。でも、その場の勢いで思いついた名前ではなくて、ロジカルに攻めてくるんですよね。

村瀬　「ぶっとびフラミンゴスマッシュ」も「ぶっとび」は鳥のイメージ、「スマッシュ」は元テニス部という設定からきていますし。「ぱんぱかパパイアショット」は音先行かもしれませんが、果物が弾けて粒が飛んでいくイメージもあったと思います。

Q4 百合子は「学園ものの新興部活に立ちはだかるキャラ」が出発点？

村瀬　むしろ「あすかのライバルキャラ」のほうです。「過去に部活で一緒だった子」がまず必要で、その子をどこに置くかということで生徒会長に決まりました。トロピカる部と生徒会は何度かぶつかってはいますが、あまりに大きく衝突してしまうと、百合子があすかのライバルではなく、単なる敵対者に見えてしまう危惧があって。そこで途中から生徒会はちょっと外して、風紀委員などでバリエーションを持たせました。百合子はトロピカる部に意地悪したいわけではなく、あくまで生徒会として学校のことを考えている人。独裁政治ではない点も、土田さんがとても大事にしていました。常にみんなのことを思う、清い心を持った人というイメージが土田さんの中にはあったようです。

Q5 まなつは一人っ子だけど、他の4人の家族構成は？

村瀬　さんごとみのりは、まなつ同様に一人っ子です。あすかは父子家庭で、本編には出てきていませんが、兄がいます。ローラは人魚なので、そういった概念はないんですが、グランオーシャンでは同年代の人魚はいなかったので、一人っ子に近いかもしれません。だから、まなつとローラって、そういう意味では似ているんですよ。

Q6 ローラは、人魚の国のプリンセスではない？

横谷　はい、普通の子です。女王を目指している設定は初期からありましたが、土田さんが「王族じゃないほうがいい」と強く言っていて。土田さんは恋愛要素と同じくらい、二世設定も嫌がっていましたね。それで、庶民が成り上がる形になったんです。

村瀬　ローラについては、「異世界からやってくる人魚を主人公と対等な存在にしたい」という点も大事にしていました。だから小さい妖精でなく、人魚の女の子。まなつとローラで、「ふるさとを離れた女の子が、一緒に新しいことを知っていく」という形にしたかったんです。

Q7 あとまわしの魔女がいつも寝ているのは肉体が衰えているから？

横谷　そういうことです。残り少ない命なので、不老不死を手に入れて「永遠のあとまわし」を望んでいるんです。その理屈自体もう狂っていますが、その哀しさも含めて、彼女がどうなるのか今後描かれていきます。ちなみに、土田さんによれば、頭はカブトガニがモチーフなので、あれが素顔だそうです。僕はマスクだと思っていたんですけど。

村瀬　だから、赤く光っているのは目ではなく、顔の模様ではないかと。

Q8 あとまわしの魔女たちを「主人と召使い」という関係にした理由は？

横谷　土田さんが、組織にはしたくないとのことで。チョンギーレたちは、魔女の願いを叶えるために行動しているメンバーです。

村瀬　土田さんから、敵幹部キャラは「魔女の屋敷に使える召使いとかいいのでは？」というアイデアが出たんです。そこから、シェフ、ドクター、メイドかなぁとなりました。名前も案をいくつか出して、脚本会議で決めましたね。

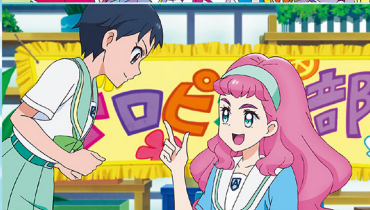
横谷　そのせいもあって、アットホームですよね。基本的にはまなつたちの楽しい部活の話なので、敵もそんなにシリアスにはできませんでした。

夏がやってきた！

ついに人間の姿になれて喜びいっぱいのローラ。5人で迎える夏休みはどんなものになりそう？ OP・ED曲もリニューアルし、「トロプリ」新章のスタートです♪

あとまわしの魔女の屋敷に連れ去られたローラ。まなつたちは救出に向かうも、チョンギーレとヌメリーに行く手を阻まれてしまう。しかしローラは、くるるんと共に自力で脱出に成功。ローラの想いにハートクルリングが出現し、マーメイドアクアパクトで新たなプリキュア・キュアラメールに変身した！ 奪われたやる気パワーを取り戻したサマーたちも、新プリキュアの登場に勇気バリバリ！ 大逆転のビクトリー!!

こうして、念願かなって人間の姿になったローラは、留学生として、まなつたちの通うあおぞら中学に転入した。言動は相変わらずで、スクールデビューにも野心満々。しかし、苦手な教科に文句タラタラで、人間姿では泳ぎはビギナーというかわいいズッコケも。ひと騒動ありつつも、ローラも晴れてトロピカる部の正式な部員となった。

そしていよいよ迫る夏休み！ まなつの故郷・南乃島での合宿は実現するのか？ 5人のトロピカった夏の幕開けだ！

トロピカル〜ジュ！プリキュア

♣毎週日曜日♣朝8時30分♣ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP♣http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

周りを信頼しつつも自力で頑張る女の子たち

キュアサマー・夏海まなつ役 ファイルーズあい

みんなが楽しいことが「トロピカってる」

――「トロプリ」も2クール目半ばですが、ここまでやってきていかがですか？

ファイルーズあい（以下ファイ） 本当に毎回毎回、周りの皆さんにおんぶにだっこというか、助けられているなぁと感じる日々ではありますね（笑）。ただ、変身や技でのそろいのセリフが一発で合うことも増えてきて……私が「せーの」って音頭を取ることが多いんですが。そういうところで、チームとしての手応えを感じています！

――第10話は、いつも元気なまなつが、やる気パワーを奪われるお話でしたね。

ファイ 普段のまなつの演技が、いかに声を張ってたかが分かりました（笑）。まなつって、落ち込んだ時でも「そんなァアッ！」って感じで大ボリュームな喋りなんですけど、第10話はそういう演技が少なかった分、「喉に優しい」感覚でした（笑）。

――やる気の奪われたまなつはどうでしたか？

ファイ いつもと違う一面が見られて楽しかったです。やる気がなくなった状態だと、いつもピョンと跳ねている前髪もヘナッとしおれるんだなって（笑）。

――結局は、奪われたやる気パワーをローラが見つけてくる前に、まなつの中から新しいやる気があふれて元に戻りましたよね。

ファイ そこがまなつらしいですよね。まなつじゃなかったら、あの立ち直り方はできなかったなと。自分の力で仲間のために立ち上がるところが見られて、強い子だなぁって再確認しました。もちろん、ローラも含めたみんなの想いがあってのことなので、トロピカる部がどれだけまなつにとって大事なのかも分かる、素敵な回でした。

――続く第11話のサンドアート大会では、ローラがあんまり一緒にできずにちょっと拗ねちゃう話でもありました。

ファイ まなつとしては、人間と人魚は対等なつもりですけど、ローラってちょっと人間を小バカにしてきましたよね（笑）。そのすれ違いっぷりが二人の面白いところなんですが、この第11話では、悪い意味でのすれ違いが起きてしまったというか。でもそれを経て、ローラの人間に対する見方が変わっていくんです。人間のトロピカっている部分に触れて、ここからだんだんローラの気持ち

みのりとローラの姿が入れ替わった！

中身はローラ。ちゃっかり者の表情

中身はみのり。メガネ＋ポーカーフェイス

一之瀬みのり キュアパパイア
ローラと体が入れ替わってしまった時は、困惑しつつも冷静に受け入れる。人魚体験という稀有な状況を自分なりに楽しんだのだった

涼村さんご キュアコーラル
応援部の助っ人活動では、みんなが学ランを着る中、チアガール姿で参加。周りに流されず好みを主張できるようになった証だろうか

滝沢あすか キュアフラミンゴ
風紀委員がトロピカる部に校則違反疑惑で干渉してきた時は、強く反発！　頭ごなしの態度で接してくる相手が許せない性分のようだ

あすかの応援団スタイル

みのりの応援団スタイル

さんごの応援団スタイル

が変化していく。その最初の話でしたね。日高（里菜）さんの細やかなお芝居が光っていたし、普段とは違うローラと掛け合うことで、まなつの違った一面も見ることができました。

──プールでぼんやり月を見つめるローラの元にまなつが来て、「今度はローラも一緒にやれる部活を考えるからね！」とフォローするラストシーンも印象的でした。

ファイ　まなつって大雑把な子のようで、ちゃんと相手のことを見ているんですよね。気遣いができるというか、倫理観がしっかりしていて。ローラが悲しんだり落ち込んだりした時に「どうしたの？」ってすぐに寄り添えるのがまなつなんです。彼女にとっては、「みんなで楽しい＝トロピカってる」なんですよね。自分だけが楽しいじゃなくて。そういうところもいいなって思います。

やっぱりメイクは王子様のためじゃない

──第17話はローラの初変身回。囚われのローラは、結局自力で脱出してキュアサマーを助けました。第11話のまなつ同様に自分のピンチは自分で解決して、その上でみんなの想いに自分の想いも重ねるのがポイントかなと。

ファイ　そうですよね！　やっぱりまなつとローラって似たもの同士だなって思います！　周りを信頼しつつも、自分でなんとかしようとするところが素敵です。まなつたちって、みんなで一緒に楽しむ心も持っているけど、各々が自立している女の子なんですよね。私は強い女性が大好きなので、なおさらこの作品が好きだなって感じます。

──第17話のアフレコは、チーム全体でも盛り上がったのですか？

ファイ　はい！　特に日高さんはルンルンでしたね。「ついに私もプリキュアに変身できる～！」って（笑）。日高さんはいつも他のプリキュアの変身シーンを「ここ、すごくかわいいね！」って、誰よりも楽しそうに観ていたんです。だからついに自分の番ということで、ものすごく嬉しかったのではないかと思います。夢が叶ってよかったなって、私も嬉しくなりました！

──ファイルーズさんから見て、キュアラメールのかわいいポイントは？

ファイ　（即答で）脚！　ローラの人間になりたいという想いを表すかのような、脚が強調されたパンツスタイル！　人魚らしい神秘的な要素も残しつつ、「人間になったのよ！」という意思表明を感じます。決め技での「ビクトリー！」も、脚を高く上げたポーズですし。足と手でネイルの色が違うのもいいですよね。あと、まつ毛の先っぽに真珠が付いているのも、マリン要素を感じさせて素敵だなぁって感じます。

──その他、ここまでで印象に残っているトロピカる部の活動は？

ファイ　第8話のお弁当作りが特に好きです。毎朝お母さんが忙しくしているのを見て、まなつが「お弁当作りをやろう！」となっていましたが、私自身もそういう経験があったので、すごく共感してジンときました。観てくれた母から「すごくいいお話だったね。そういうこと、うちもあったね」と言ってくれて。母はよく「まなつって、ちっちゃい時のあいにそっくりだよね。自分のやりたいことを見つけたら、それしかやらない子だったよ」って（笑）。親子でそういう話もできたので、特に印象に残っています。ラストの止め絵が淡いグラデっぽい色合いで、そこも心が温まってぐっときました。

──一話完結のようで、ちゃんとドラマが積み重なっているのもいいですよね。第9話で出てきた「メイクは王子様のためじゃない」という言葉も素敵でした。

ファイ　この言葉は「トロプリ」全体のテーマだと思います。私は濃いめのリップが好きなんですけど、よく「濃いリップは異性に受けが悪い」とか言われたりするんです。でも私としてはそんなことじゃなく、自分のテンションを上げるためにメイクしていて。そういう心持ちでずっと生きてきたので、私もものすごく共感しているんです。

──また、チームの名乗りの掛け声が、各話の内容に合わせたものになるのも楽しいです。

ファイ　最初はびっくりしましたが、私たちも楽しんでいます。毎回台本をもらって「今日はどんな一言だろう？」って、みんなで話したりして。第16話では久々に「今日も元気だ！」でしたよね。まさか戻ってくるとは思わなかったので、台本を見て「これは、私たちで別の言葉を考えるべき？」って深読みしてしまいましたが（笑）。印象深いのは第8話の「よく食べよく寝る！」です。こんな標語みたいな名乗りのプリキュア、他にあります？（笑）そこでクスッと笑えて笑顔にさせるのも、とっても「トロプリ」らしいです。決めポーズも、ビシッとカッコよくというより、ピョーンと明るく元気いっぱいですしね。

──では、ファンへのメッセージをお願いします。

ファイ　いつも応援ありがとうございます。「今一番大切なことをやろう」という単純なメッセージですけど、それは本当に大事なことで。後回しにすればするほど、自分のツケになって、心にのしかかってきたりしますからね。歳を重ねていくとそれがより顕著に現れてきて……。でも、感じた時にすぐ行動すれば、どんなことも遅すぎることはないんです。なので、迷ったらまずはやってみるというのを、子どもたちにもぜひ実行してもらいたいと思います。ローラもプリキュアになって、これからさらにカラフルにトロピカっていきたいです。いよいよサマーシーズン到来、一緒にトロピカりましょう！

感じた時にすぐ行動すれば遅すぎることはない！

ファイルーズあい
7月6日生まれ／東京都出身／プロ・フィット所属／『半妖の夜叉姫』（竹千代）、『骸骨騎士様、只今異世界へお出掛け中』（アリアン）ほか

──直近の第19話は、まなつのメイン回。廃屋の人形の正体がエルダとは知らずに、心を通わせる内容でしたね。

ファイ　すっごく楽しかったです！　私、敵の中ではエルダちゃん推しなんです。この回で初めてエルダちゃん（高垣彩陽さん）と一緒に収録ができました。

──今はプリキュアとあとまわしの魔女たちは、基本的には別々での収録なんですね。

ファイ　そうなんです。だから収録の合間に、控え室で彩陽さんとお話しできたのも嬉しかったです。エルダちゃんは敵側ですけど、「ザ・無邪気」な子で。まなつも無邪気ですけどちょっとテイストが違っていて。2つの無邪気が重なるとこんなふうになるんだ！　って。不思議な化学反応があった、とってもユニークな回でした。お屋敷の人形は結構ホラーテイストで、エルダちゃんのコミカルなお芝居とのギャップ感もすごく面白くて！　「早くオンエアで観たい！」って収録時から切望していた回でした。

まなつたちの歌でトロピカっちゃおう！

7月21日発売

トロピカル～ジュ！プリキュア ボーカルアルバム ～トロピカる！ MUSIC BOX～

HP https://www.marv.jp/titles/mc/10065/

各キャラクターソングやイメージソングなど全14曲収録。9月25日開催の「トロピカル～ジュ！プリキュアLIVE2021 Viva！トロピカSUMMER！LIVE」の先行抽選応募券も封入

──ボーカルアルバムもいよいよ7月21日に発売です。まなつのソロ曲は「OH! TEMPT SUMMER DAY」ですね。

ファイ　声に出して読むと「お天道様デイ」、面白い曲名ですよね！　イントロなしで「ピューン！」って声からいきなり入るので、シャッフルで聴いていたりするとびっくりしちゃうと思います（笑）。「太陽」を歌にしたらこれになるぞってくらい元気な曲で、聴いているだけで駆け出したくなっちゃいます。すごくまなつらしさにあふれています。

──確かにしっとりしたパートをカラッと歌っているのも、まなつっぽい気がします。

ファイ　大人っぽく歌うほうが、曲には沿っているんですけどね。ただ、「キャラらしさや感情は録音機材では作れないので、そこを重視で」というディレクションもありまして。まなつだったら、何かに悩んでも気持ちをパッと切り替えて、楽しくポジティブな方向に頑張っていける子だと思うので、まなつになりきって、テンションを落としすぎないように歌いました。

──ローラとのデュオの「プリティル～ジュデイズ！」の印象は？

ファイ　まなつってまず、バラードのイメージじゃないですよね。ローラの曲の「アクアプリズム」はしっとりしている面もあるので、その間をとった「明るいけどしっとりした雰囲気もある」バランスが取れた二人の曲って感じです。トロピカる部の中でも、まなつとローラの関係には特別感があるので、こうして二人で歌えたのは嬉しかったです。これを聴きながらメイクしたら、いつもよりトロピカれそうです！

──5人曲の「おもいきりトロピカル！」は、トロピカる部の団結感が全開ですね。

ファイ　はい！　この曲はトロピカる部のチームソングですね。「フレフレ青春！」とか、ガヤがにぎやかで、自分がまなつくらいの年頃にこれを聴いたら、すごく学校に行くのが楽しくなるだろうなって思います。「トロピカる部があったら私も入部したい！」って思える楽しい曲です。まなつがソロで歌って、その後にトロピカる部の他のメンバーがついてくるパートも結構あります。まなつは部長ではないですが、トロピカる部の発案者感が出ていて、そこもトロピカってるなぁ！　って。

──5人そろっての「Viva! Spark！トロピカル～ジュ！プリキュア トロピカる部Ver.」はどうでしたか？

ファイ　大好きな曲です！　5人でどう歌い分けるのか、事前に予想していたんですが、実際はそれよりも100倍細かくて、「てにをは」で分かれているところまであって！（笑）ただ、完成したものを聴いたら、「このワチャワチャ感こそトロピカる部だ！」って、その細かい歌い分けに感服しました。まなつはペアも含め、わりとずっと歌っているので、むしろ私よりも他の皆さんのほうがもっと大変だったかと。

──9月25日には、このボーカルアルバムの楽曲も披露する「トロピカル～ジュ！プリキュアLIVE2021 Viva！トロピカSUMMER！LIVE」が開催予定です。

ファイ　こういう世情だから、客席から声援を送るのは難しいと思うんですが、心の中で、全力でトロピカってほしいです。それはステージ上の私たちにも絶対に伝わるし、私もキュアサマーとして全力で歌わせていただきます。サマーはいつでも絶対笑顔なので、ステージでは、笑顔を絶やさず頑張ることをお約束します！

★7月4日から始まった後期OP曲「Viva! Spark！トロピカル～ジュ！プリキュア with トロピカる部」は、8月11日発売の「トロピカル～ジュ！プリキュア 後期主題歌シングル」に収録！

トロピカル～ジュ！プリキュア LIVE2021 Viva！トロピカSUMMER！LIVE

開催日
9月25日（土）
「おひサマー公演」
開場：11:30／開演：13:00
「おつきサマー公演」
開場：16:30／開演：18:00
場所
パシフィコ横浜 国立大ホール

キュアラメール 人魚・ローラ役 日高里菜

いろんな感情が込み上げてきて特別な回になりました

ローラの変身に至るドラマ

「人間への憧れ」と「まなつたちとの友情」が、プリキュアへの変身のモチベーション。ローラは第12話で尾ひれを隠して人前に出るようになり、第13話では放送委員と関わって美声を披露。第14話でも積極的にトロピカる部の保育士体験に参加。第15話ではみのりの体と入れ替わって人間生活をエンジョイ。一話完結でありつつも、丁寧にドラマを紡ぐ構成になっており、第17話での感動もひとしおだ。

女王のような風格が!?

—『トロプリ』も2クール目半ばまできましたが、ここまでの手応えのようなものはありますか？

日高　本当にたくさんの方から反響をいただいて、とても励みになっています。老若男女問わずみんなが元気に、そして笑顔になれるようなパワーを持った作品だと思います。今後もそんな『トロプリ』らしさをぜひ多くの方に楽しんでいただきたいです。

—第17話でついにローラがキュアラメールに変身しましたね。

日高　この日をずっと楽しみにしていました！　ですがその分、緊張もありまして……（笑）。前日からソワソワしていたのですが、まなつ役のファイルーズあいちゃんが本来の入り時間より早く現場入りしてくれたんです！　近くで見守ってくれて嬉しかったですし、とても心強かったです。

—記念すべき回になったようですね。

日高　私は今までローラを演じてきて、ローラの成長はもちろん、悩みや葛藤などを一番近くで見ていたからこそ、キュアラメールの変身は感慨深かったです。いろんな感情が込み上げてきて特別な回になりました。

—キュアラメールのかわいいと思うポイントはどこですか？

日高　すべてがかわいいのですが、特に「髪」がお気に入りです。ピンクと水色の髪の色がとてもきれいですし、ボリューミーな髪型はアニメーションでとても映えますよね。人魚のプリキュアということで、随所に真珠が散りばめられているところにもこだわりを感じます。そしてローラの時よりも表情や佇まいが凛々しくなって、女王のような風格があるのも素敵です。

—7月21日には『トロピカル～ジュ！プリキュア ボーカルアルバム ～トロピカる！ MUSIC BOX～』も発売されます。ローラのソロ曲「アクアプリズム」の聴きどころを教えてください。

日高　オケに水の音が入っていたり、歌詞の中にも海にまつわる単語がたくさん入っています。とても爽やかで、聴いていても歌っていても気持ちのいい一曲です。まなつやトロピカる部のみんなとの思い出が頭に浮かぶほど、ローラの気持ちに寄り添ったものになっているので、『トロプリ』を楽しんでくださっている皆さんにきっと気に入っていただけると思います。

—まなつとのデュエット曲「プリティル～ジュティズ！」はいかがですか？

日高　こちらはまなつとローラの掛け合いっぽい歌割りになっているのが推しポイントです。くっつきすぎず、でもしっかりとお互いを理解し信頼している。そんな二人の素敵な関係性がまさに表現されている曲だと思います。

—トロピカる部全員による「Viva! Spark! トロピカル～ジュ！プリキュア トロピカる部Ver.」のオススメポイントも教えてください。

日高　もう聴いているだけでハッピーに、楽しい気持ちになれちゃう、最高にトロピカっている曲です。そんな曲をトロピカる部のみんなで歌えるなんて本当に嬉しかったです。その喜びが歌声にもパッチリ出ていると思います。みんなが楽しそうにはっちゃけていて、お祭りみたいな雰囲気をぜひ楽しんでいただきたいです。普段あんまりノリノリな曲は歌わなさそうなみのりん先輩がこの曲を歌っている……もうそれだけでかわいくてたまらないですよね!!

—OP曲は、これまでの楽曲に合いの手が加わった「with トロピカる部」バージョンに切り替わりましたね。

日高　まさかこのような形でコラボレーションできるとは思っていなかったので光栄です。Machicoさんのパワフルな歌声にトロピカる部のみんなが楽しそうに合いの手を入れていて、より賑やかな印象になっているなと感じました。

—「トロピカル～ジュ！プリキュア LIVE2021 Viva! トロピカ SUMMER!LIVE」の意気込みも聞かせてください。

日高　ライブということで、もちろん緊張はしますが、その何十倍も楽しみな気持ちでいっぱいです！　ローラとして皆さんの前で歌うのはこのライブイベントが初めてになります。ありがとうの気持ちを皆さんに直接伝えられることが嬉しいですし、会場中をハッピーでいっぱいにしたいと思います！　頑張ります！

—最後にファンへのメッセージをお願いします。

日高　ついにローラがキュアラメールに変身しました。敵もどんどん強くなりますが、5人になり、さらにパワーアップしたプリキュアの活躍をぜひ楽しみにしていてください。そして、人間と同じように生活することが可能になったローラが、トロピカる部の一員としてどんな体験をして、そして成長していくのか……！　ぜひ見守っていただけると嬉しいです。『トロプリ』を観て、一人でも多くの方にハッピーな気持ちになっていただけるよう、引き続き頑張ります。よろしくお願いします！

私服姿

現在のローラ

制服姿

キュアラメール

人魚・ローラ キュアラメール
まなつたちと過ごす中で、人間の姿になってこれからも一緒にいたいと願うように。その想いがキュアラメールへの変身につながった

ひだか・りな
6月15日生まれ／千葉県出身／大沢事務所所属／『転生したらスライムだった件』シリーズ（ミリム）、『とある科学の一方通行』（ラストオーダー〈打ち止め〉）ほか

神と肉体を

待ってましたの夏休み！ 宿題はひとまず置いておいて（!?）、トロピカる部の面々はまなつの故郷・南乃島へレッツ・ゴー!! トロピカる部がこの合宿で何を鍛えるのかというと、「トロピカる精神」と「トロピカる肉体」。きれいな海でスキューバダイビングしたり、言い伝えのある洞窟を探険したりと、超アクティブな南乃島ライフを送っていく。

一方、あとまわしの魔女側も同じく南乃島へ。彼らの狙うお宝とは「やる気パワーが詰まった杯」。これがあれば「愚者の棺」なるものの解放を確実に進められるらしい。もっとも、召使いたちの一番の目的は、出撃後に夏休みがもらえることなのだ

夏海まなつ
キュアサマー
南乃島の帰省を、トロピカる部の面々と一緒にエンジョイ。南乃まつりの願い石には「みんなでめいっぱいトロピカる!!!」と書いた

涼村さんご
キュアコーラル
スキューバダイビングの海底散歩で、カラフルでかわいい魚たちにうっとり。願い石には「南乃島のかわいいを持って帰る」と書いた

一之瀬みのり
キュアパパイア
島のお年寄りたちと一緒に太極拳をやってみた。意外とハマってしまったようで、願い石には「太極拳をきわめる」と書いたのだった

「願いは叶えてもらうんじゃなくて自分で叶える」のが、まなつ流。今を全力で生きることはきっと幸せへとつながっている！

まなつの浴衣（ハイビスカス柄）

さんごの浴衣（バラ柄）

みのりの浴衣（南乃島の伝統柄）

あすかの浴衣（撫子柄）

ローラの浴衣（金魚＋波紋柄）

「今」は過去にも未来にもつながっている

プロデューサー 村瀬亜季（東映アニメーション）

ローラの頑張りは「人魚姫」への反発心？

—ローラがキュアラメールに変身しましたが、初期メンバーの一人が追加戦士になるのは早い段階から決めていたのですか？

村瀬　はい、そこは自分の中で勝手に初めから……チームの人数や、そこに人魚キャラを入れるなどが決まる前から、決めていました。それ前提で、追加戦士のサプライズ感をどう出すかを、皆さんと相談していきました。最初に作る番組ビジュアルに全員登場させたかったんです。

—最初から全員集合している中で、特殊な立ち位置のローラを追加戦士にしたというのはどういう経緯で？

村瀬　「人魚がプリキュアになる」というのを、シリーズの一つの山場にしたかったんです。たとえばローラは最初からプリキュアで、他の子はサポーター的存在からスタートさせる、といったやり方は、はなから考えていなかったです。「人魚にぴったりの夏場に、人魚のプリキュア登場！」しか頭になかったですね（笑）。ただしローラにとっては人魚が一番のアイデンティティなので、それをなくしてしまうのは違うだろうと。人魚をやめずにプリキュアになってほしいなと思いました。

—ローラの人間に対する視点は、第11話〜15話で、毎話巧みに盛り込まれていました。一話完結を守りつつさりげなく「一つの物語」になっていましたね。

村瀬　確かに、ローラの変化のドラマは細かく積んできた気がしますね。「トロプリ」は、基本は一話完結なんです。シリーズディレクターの土田（豊）さんもシリーズ構成の横谷（昌宏）さんも、なるべく一話の中で起承転結のドラマやメッセージがあるような作りにしたいと。ただ、第17話でのローラの初変身へ至るドラマは必要だったので、そこは毎話盛り込んでいました。ローラのストーリーをサブ軸にしながら、各話のバランスをどうとるか、結構話し合いながら脚本を作りましたね。あんまりローラにばかり焦点を定めてしまうと、悩みや葛藤が前面に出すぎちゃう。それだと「トロプリ」の明るい雰囲気からズレてしまうので、ローラにスポットを当てる尺は各話のライター（脚本家）さんと増減を調整しつつやってきました。

—ローラにも人間の良さが分かり、人間に憧れるようになった上での、プリキュアへの変身でしたね。

村瀬　ローラの大きな成長として分かりやすく置いていたのが、「『他力本願』から『自力で解決』への変化」なんです。初めは「あなた、プリキュアになりなさいよ」と、自分の夢のためにプリキュアをやってくれる人、いわば自分の道具となる存在を探していたんです。ちょっと相手任せで

トロピカル〜ジュ！プリキュア

♣毎週日曜日♣朝8時30分♣ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP♣http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

が……。そして、ローラも「パフュームシャイニーブレス」を見つけ、戦いの中でその力を発揮。新技「プリキュア・オーシャンバブルシャワー」を発動させた！

合宿の終盤は、島のお祭り「南乃まつり」。5人は、自分にとっての大事なことを、それぞれの願い石に書いた。小さな願いをたくさん重ね、幸せへの道筋へ——そういった湧き上がる想いこそが、「トロピカる精神」だったのだ。

「なかよしのうた」はグランオーシャンの童謡的なもの

「「ローラが歌う」というのは、第13話の脚本を作る段階で出てきたアイデアです。ローラは人魚なので、そのままでは人前に出られない。『でも歌声なら、姿を見せずいけるのでは？』と横谷さんがおっしゃって。もともと、歌をローラの特技にしたいというのもあったので、劇中で歌うアイデアが出てすぐにこの曲を仕込みました。実は第3話でローラが鼻歌で歌っているので、第3話のアフレコ時にはもう楽曲は完成していたんです。

ちなみに「なかよしのうた」は、グランオーシャンで広く歌われている童謡みたいな設定です。ただ、それまでのローラは誰かと一緒にいることを必要としていなかった子なので、第13話の時点でもまだ「なかよしなんて言っちゃって〜」みたいな感じなんです（笑）。「歌詞の意味、ちゃんと分かっているのかな？」という感じにするため、「あんまり気持ちを込めすぎないように歌ってほしい」と土田さんからお願いがあって、日高里菜さん（ローラ役）には「私って歌うまいでしょ」といった得意げな雰囲気を出してもらいました」（村瀬）

★ローラの「なかよしのうた」は8月11日発売の後期主題歌シングルに収録

あとまわしの魔女の真の狙いは？

「あとまわしの魔女がみんなのやる気パワーを集めている目的は、劇中ではしばらく語られません。シリーズとしては「楽しい日常を描いていく」方針で、「敵側の目的を知ってしまうと、今を笑顔で生きられなくなってしまうのでは？」という心配から、まなつたちにはまだ明かしていないんです。

バトラーの語っていた「愚者の棺」は、ちょっとこれまでとは毛色の違うワードですよね。横谷さんが仮で付けてくださった名称ですけど、そのまま使っています（笑）。第17話〜22話の脚本会議で「敵側の目的に、ちょっとは触れてもいいんじゃないですか？」「じゃあ、何か開封してはいけないものがあることにしましょう」みたいなやりとりから生まれました。「出しちゃったからには、どんなものか考えないと」って、土田さんは悩んでいましたね（笑）」（村瀬）

したよね。ところが、まなつたちと触れ合うことで「自分がみんなを守る」「自分でプリキュアになる」という姿勢に変わっていったんです。

——第17話も、ローラが敵地から自力で脱出して、敵に苦戦しているサマーたちをラメールに変身して助ける展開でした。

村瀬　そこがこのシリーズのポイントですね。先ほど「自力で解決」と言いましたが、「自分でなんとかする」というのが物語の基本で。まなつはそれを無意識にやっていて、それが周りのみんなにも波及していった形なんです。

——第16話で、みのりから「何か望みを叶えようと思ったら、別の何か大事なものを失わなきゃならないのかもね」と言われていましたけど、ローラは結局、何も失わずすべてを得た格好ですね。

村瀬　そこがローラっぽいところだと思います。ローラは第4話でも、「人魚姫」の悲しい結末には共感していませんでした。「私は「人魚姫」とは違う！」という反発心が湧いたのかもしれません。あるいは、みのりはそこまで読んだ上で、ローラにアドバイスしたのかもしれません。

「今」の積み重ねで「伝承」が作られる

——第22・23話は南乃島編でした。この島の伝承は、実はラメールのパワーアップアイテムや、あとまわしの魔女が欲しているアイテムと絡んでいたわけですね。

村瀬　南乃島の特徴として、あおぞら市とは違う良さが欲しいというのがあって。ちょうど新アイテムが出る展開でもあったので、「何かしら人魚とのつながりがあるといいのでは？」という話をしていました。まなつの生まれ育った故郷ということで、第22話に合わせてではなく、かなり早い段階から考えていたんです。それを、横谷さんがうまく物語としてまとめてくださいました。

——同じ島に、アイテムが2つとも眠っていたのが謎めいていますね。

村瀬　あとまわしの魔女が欲しがるアイテムが島にあったのは、作劇的な都合も大きくて（笑）。「南乃島はあおぞら市より人の少ない小さな島なのに、たくさんやる気パワーを奪いたい彼らがなぜ南乃島に現れるのか」という理由がないといけなかったんです。それで、あとまわしの魔女が求めるものもそこにあることにすれば、いい感じに島で出くわすよねって（笑）。それに、まなつたちだけでなく、あとまわしの魔女チームも夏休みを楽しもうとしていて、面白い構図になったかなぁと。

——この島には、とみ婆の言う「森の人魚」の伝承もありましたね。

村瀬　きっと、大昔にもグランオーシャンから人魚が来ていたんでしょうね。島で何かをしていて森の湖から飛び出したのを、とみ婆たちの先祖が目撃して、現代まで語り継がれているってことですね。その目撃談は昔の話ですけど、目撃した人にとっては「今」だったわけじゃないですか。それと同じ状況が、また新たに起こった。とみ婆は涙して、ようすけくんは自分が語り継ごうと決意しました。つまり、「今」が未来に向かって積み重なることで「伝承」になることを示しました。「今」は過去にも未来にもつながっていて、「今」を大事に生きてきた過去があるから現在の「今」がある。そして「今」を見ることで未来は明るくなる。「今、一番大事なことをする」という「トロプリ」のテーマもしっかり入れられたと思います。

——基本的に愉快で楽しい「トロプリ」ですが、そういった胸にしみいるいいお話が、要所要所に散りばめられていますね。

村瀬　あんまりウエットな感じになるのは、土田さんの好みとは違うんです。だから何かしっとりさせるような要素を毎話入れてほしいといったお願いは、私のほうからはしていません。楽しい部分との緩急として、ぐっとくる要素や温かい気持ちになる要素をライターさんが入れ込んでくださっているのかもしれませんね。

——8月後半から9月にかけての見どころは？

村瀬　2クール目前半はローラの人魚としてのエピソードが多かったのですが、後半はまなつたち4人や取り巻く人たちの話が入ってきます。みのりとあすかのお話や、桜川先生メインのお話もあったりします。そうやってトロピカる部内のあれこれも描きつつ、校内のいろいろな人たちとも触れ合っていくという、広がりを持たせる時期かなと思います。「ああ、なるほど。そうだったんだ」って思える話が多くなると思いますので、どうぞお楽しみに。

後期ED主題歌「あこがれ Go My Way!!」

青春エンジョイ！

北川理恵さんと吉武千颯さんの後期主題歌シングルがいよいよ発売！ お二人の元気なニコイチ感がめいっぱい詰まっています！

キュアラメール登場の第17話から放映が始まった、後期ED曲「あこがれ Go My Way!!」。TVのED歌唱は実に6年ぶりとなる北川理恵さんと、前期EDから引き続いての吉武千颯さんが担当。実力派プリキュアシンガーによる、初のデュエット曲だ。

明るく爽やかなメロディが心地よく、ポジティブシンキングの大切さを語る歌詞がずらり。その中に、「トロプリ」らしくメイク要素のワードを入れているのもポイントだ。また、フルサイズでは、後半に「雨のち Believe My Way～」のリリカルなパートや、波のSE（効果音）のアウトロなどもあり、単純な元気一辺倒でない構成も聴きどころとなっている。

なお、北川さんと吉武さんは、発売中のボーカルアルバム「トロピカル～ジュ！プリキュア ボーカルアルバム ～トロピカる！ MUSIC BOX～」にも参加している。Machicoさんの歌うイメージソング「CLAP! ～勇気を鳴らせ～」のコーラスを二人一緒に務めているが、ボーナストラックでは3人それぞれのソロバージョンも。テイストが大きく異なる興味深い仕上がりなので、ぜひ聴き比べてほしい！

まなつたちは毎日を大切に生きている

北川理恵

きたがわ・りえ
1990年11月25日生まれ／千葉県出身／歌手、女優／中学生の時に舞台「アニー」でデビューして以来、数々の舞台に出演。ジャンルを問わない歌唱力や、役ごとに違う表情を見せる演技力に定評がある

くすみカラーではない原色のパワーで！

——北川さんのTVのED曲としては、「プリキュア」デビューである「Go！プリンセスプリキュア」以来です。ED曲は、OP曲とは向き合い方が違うようなことはあるのですか？

北川　ED曲だから、というより、後期から加わることへの緊張感がありましたね。今回はMachicoちゃんのOP曲と（吉武）千颯ちゃんの前期ED曲があって、そこに私が入る感じだったので、「二人の明るく弾ける感じをちゃんと受け継いで歌わなきゃ！」という感じで。でも、千颯ちゃんとのデュエットは嬉しかったです。「スター☆トゥインクルプリキュア」では一緒にいろいろなイベントに出演してきたし、「千颯ちゃんはどんなふうに歌うだろう？」って、とても楽しみにしていました。

——お二人の歌声が、とても合っていますね。

北川　意外と私たちの声、似ていますよね？ 予想外の双子感が嬉しくて。普段の喋り声は全然違うし、年齢も私のほうが断然お姉さんなのに(笑)。「相手に寄せて歌ってください」といったディレクションは特になかったんですが、無意識のうちにそうなったのかな。だから、「パッと聴いただけではどっちがどっちなのか分からない」と言ってもらえると、「よっしゃー！」ですね。それだけ仲良し感が出たってことだと思うので。

——Aメロの歌い分けは細かいですね。

北川　そうなんです。1番の歌詞は「北川・吉武」の順で、2番は「吉武・北川」の順なんですけど、2番の「チラチラ視線　気のせいカモテモ」だけ「北川・吉武」になっているのも面白いです。「全部一緒じゃないほうが「トロプリ」のワチャワチャした感じになるから」という理由を聞いてなるほどって思いました。

——お気に入りのフレーズは？

北川　千颯ちゃんが歌っている「タイミング　革命にしちゃおう　今日が輝くから」。ここはまさに『トロプリ』だなぁと思うんです。私、「トロプリ」って、日常を面白がる物語だと感じていて。何かものすごい事件が起きるというより、普通の中学生の出来事なんだけど、その一つ一つに「面白い！」「楽しい！」となっているのが、まなつたちの良さだなと。くすみカラーではない、原色のパワーがありますよね。ここはそれが分かりやすく表れている箇所で、作詞されただまさおりさんはすごいなって思います。

——この曲で吉武さんらしいと感じるフレーズはありますか？

北川　「自分史いちばんチャーミング」の歌い方……「ちゃぁ～み～んぐ」って、ちょっとカッコいいニュアンス入れるの、ずるい！（笑）それと、二人で歌っているパートですが、サビの『〝スキ〟に正直でなくちゃ　今の最高あつめてもっと』がいいですよね。千颯ちゃんが最後の「と」を、めいっぱい息を吐き出して伸ばしてるのが好きです。あとは落ちサビ前の「なんだってできるんだ」。これを二人で言えたのがすごく嬉しかったです。二人のテンションの高さが一緒で、「隣で歌っている感」がとってもありました。

——発売中のボーカルアルバムについてもお聞きします。「CLAP！～勇気を鳴らせ～」は、北川さんのソロバージョンも収録されています。

北川　この曲は高音がきれいな曲なんですが、その分、難しいんですね。私のソロも使われることになりそうだということで、めっちゃ練習しました（笑）。Machicoちゃんと千颯ちゃんは、二人とも予想通り元気いっぱいの、色で言ったらオレンジと黄色っぽい歌い方だったんですね。なので私は赤っぽい、カッコいい系の歌い方を目指して歌ってみたところ「それで行きましょう」となりました。でも本当に二人の歌声があまりにも素敵で、「これは頑張らないと！」って気合いが入りました。

——北川さんバージョンは、とても情熱的な歌になっていると思います。特にお気に入りのフレーズは？

北川　一番気合いを入れて歌った箇所は、2番の最後の「何度だって　立ち上がれ」。もうここに命を賭けていたぐらい。私もそんなふうに言われたいなって、すごく思ったし。それと2番の「流れるナミダの色は（まだ　決まってない）今こそ　変えてゆけるよ（そう　ひとりじゃない）」。

——とても熱い歌詞ですね。

北川　主旋律とコーラスの掛け合いがとっても素敵で。歌っていて、思わず泣きそうになりました。ノリやすいし歌詞も熱くて、ライブで歌いたい一曲ですね。

——最後に、主題歌CD発売に向けたメッセージをお願いします。

北川　「あこがれ Go My Way!!」をフルサイズで初めて聴いた時に、最後の波の音が流れてくるところに感動して泣きそうになりまして。ぜひ皆さんにもフルサイズで聴いてほしいです。まなつたちが仲良く楽しく毎日を大切に生きている感じが出ていますし、ダンスもとてもかわいいです。夏本番ですから、この曲を聴きながら、明るい陽射しを浴びてトロピカっていただけたら嬉しいです。盛り上がっていきましょう！

Q1 北川さんの楽曲の中で、吉武さんのお気に入りは？

「『スタプリ』前期ED曲の「パペピプ☆ロマンチック」です。声のインパクトもあって、聴いていて色が見えてくる感じがあって。曲のかわいさや元気さをしっかり自分の中から出せていてすごい子だなって思った記憶があります」

Q2 北川さんから見て、吉武さんの素敵なところは？

「千颯ちゃんの歌い方って元気でバネがあって、黄色いスーパーボールみたいにポンポン跳ね回る感じだなぁって。声色も相まって、聴いているとこっちがニコニコしてきちゃう！　忘れられないのが、『スタプリ』のお披露目ショーの時。サプライズで千颯ちゃんのお母様が、地元から観覧にいらしてたんですよ。千颯ちゃんも「え～ッ！」って感激していて、見ているこっちが幸せになれました。千颯ちゃんには、優しくてかわいくて幸せがいっぱいのイメージがありますね」

千颯ちゃんへ　from 北川理恵

千颯ちゃんのニコニコした笑顔が大好きです。見ている私も幸せになれるので、千颯ちゃんをニコニコさせられるように、笑わせていきたいと思っています。これからも仲良くしてください♥

やる気、元気、前進の気持ちを込めて 吉武千颯

北川さんとのデュオなんて夢のよう！

——今回、北川さんとは初のデュエットですね。

吉武　理恵さんは私の憧れなので、一緒に歌う曲ができたらいいなとずっと思っていました。それがまさか主題歌で実現するとは、本当に夢のようです！　この曲はメロディもハモリもパート分けが複雑だったんですけど、「My Way」って掛け合うような部分は、聴きながらできた分、すごく楽しめました。

——歌詞の印象はどうですか？

吉武　まなつちゃんみたいに、「今一番大事なことをやる！」というのを感じる歌詞がいっぱいあって。サビの「〝スキ〟に正直でなくちゃ」は、特に「トロプリ」らしさ全開ですよね。あと、落ちサビの前の「テンションあげてもっと　トロピカっていくよっ」が、とっても気に入っているんです。落ち込んでいても、これを聴けば晴れやかになれる気がします。

——『トロプリ』らしさで言うと、「自分史いちばんチャーミング」で、ED映像のローラがニンマリしているのもいいですよね。

吉武　分かります！　なんだかローラの性格にピッタリって感じもするし（笑）、私も大好きな歌詞です。歌詞ごとに、それぞれのキャラクターが想像できるところも好きなポイントです。

——この曲で北川さんらしいと感じるフレーズはありますか？

吉武　二人で一緒に歌っているパートで、2番の「背すじピンとなるの」ですね。ちょっと理恵さんの遊び心が入った歌い方なので、ぜひCDで聴いていただきたいです。二人で一緒に歌ってるところは「理恵さん、こういうふうに歌いそうだな」って想像しながら歌ったんですが、いい感じにピタッとなった気がします。今回ご一緒できて、いっぱい勉強させてもらいました。

——ボーカルアルバムでは、「Brave Parade」が吉武さんのソロ曲ですね。

吉武　イメージソングのソロは初なので嬉しかったです！「私らしくありのままで　いられる幸せ」なんて、まるで私の心を読みとったかのような歌詞で、感激しました。「プリキュア」の現場は、温かいスタッフさんに支えられて、ありのままの自分で歌える場所なんです！

——そして「CLAP!～勇気を鳴らせ～」は吉武さんのソロバージョンも収録されています。

吉武　これまで私が『プリキュア』で歌ってきた曲とは違う雰囲気で、新しい自分に会えた気がします。3人それぞれのソロバージョンが全然違う仕上がりで驚きました。

——吉武さんの歌はアクティブキュートという感じですよね。

吉武　ありがとうございます。Machicoさんのバージョンは、力強さもありつつ声のかわいさとのバランスもあって、「これぞ『トロプリ』」という感じ！　理恵さんバージョンはパワフルですよね。特に「今立ち向かうキミの翼」に圧倒されました。理恵さんはラップの部分も、ソロバージョンでは歌い方を変えていて、そこもさすがでした！

——この曲で、吉武さんが好きなフレーズは？

吉武　好きなところだらけですが、とにかく歌詞がストレートで、プリキュアのみんなが戦っているところを想像しながら歌えました。プリキュアがヤラネーダを浄化した時に「ビクトリー！」って言うみたいに、歌詞にも「もうすぐさVICTORY」ってあるんですよね。自分自身も強くなれそうな楽曲で、とてもやる気をもらえました。

——CD発売を待つファンへのメッセージをお願いします。

吉武　「あこがれ Go My Way!!」は、前期ED曲の「トロピカ I・N・G」とはまた違ったものを出せればと思って歌いました。もちろん、『トロプリ』らしいメイク要素もあって、やる気、元気、前進の気持ちも込めています。この歌が、子どもたちの行動のきっかけになれたらと思うので、「進みたい！」って気持ちを出したい時に聴いてもらえたら嬉しいです。もうすぐ皆さんの前で歌える機会があるので、サビで「My Way」と、今は心の中でですが、掛け声を言ってもらいたいですね。

——9月25日の「トロピカル～ジュ！プリキュア LIVE2021 Viva！トロピカ SUMMER！LIVE」への出演も、みんな楽しみにしていると思います。

吉武　『トロプリ』では、まだ子どもたちの前で歌う機会がなかったので、ライブで直接届けられる喜びがとても大きいです。『トロプリ』の声優の皆さんともようやくお会いできるかなと楽しみにしてます。声優さんと私たちシンガーが集まったからこそ出せる「やる気パワー」で、皆さんが笑顔になれる空間に、きっとなります！　日頃いろいろなことがあると思いますが、そういうことを全部忘れられるくらいのライブにしたいと思います。

よしたけ・ちはや
1999年3月28日生まれ／広島県出身／Apollo Bay所属／声優としても活動。『スター☆トゥインクルプリキュア』からプリキュアシンガーに。コーラスユニット「ヒーラーガールズ」としても活動中

絶賛発売中
トロピカル～ジュ！プリキュア ボーカルアルバム ～トロピカる！ MUSIC BOX～

8月11日発売
トロピカル～ジュ！プリキュア 後期主題歌シングル

発売元：マーベラス
販売元：ソニー・ミュージックソリューションズ

「トロピカル～ジュ！プリキュア LIVE2021 Viva！トロピカ SUMMER！LIVE」
9月25日（土）パシフィコ横浜国立大ホールで開催！
https://www.marv.jp/special/precure_live/

北川さんの楽曲の中で、吉武さんのお気に入りは？

「『明日笑顔になぁれ！』です（『映画プリキュアスーパースターズ！』主題歌）。『プリキュア』に限らず、お仕事に行く時にこの曲を聴くと、絶対にうまくいくんです！　なんだかすごく笑顔になれて、心のパワーのスイッチを入れてもらえます。私のお守りのような曲ですね」

Q2 吉武さんから見て、北川さんの素敵なところは？

「いっぱいありすぎて！　楽曲によって声色がまったく違うところもすばらしいですよね。楽しい曲とカッコいい曲では、同じ人とは思えないくらい変化しますから。それと、キュンキュンとかワクワクとかの跳ねた言い方がとっても好きです。理恵さんがどういう表情をして歌っているのか想像がつくぐらい感情がパンと伝わってきます。それにお人柄も本当に素敵！　どの現場でお会いしても理恵さんらしさがあるし、連絡をくださる時も優しさであふれていて。理恵さんは歌う時もそれ以外でも、本当にありのまま、飾らない方なんです。一緒にステージに立たせてもらうたびに『ああ、私も初心を忘れないようにしよう！』って思えます」

理恵さんへ

理恵さんは私の憧れです！　歌の表現も大好きで、たくさん勉強させてもらっています。歌も人柄も、まさに私の目指す場所。いつか理恵さんみたいな人になりたいです。とっても大好きです♥（照れ）

イントロは、前期同様にサマーの単独ショットからスタートする。カメラが引いてラメールも画面にイン。右手をバタバタする振り付けは「暑～い！　でもそれが気持ちいい！」という仕草だそう。背景の入道雲もそのニュアンスをアピール。

Bメロは、『トロプリ』の主要スポットである海中でのダンス。後期EDで唯一ファンタジー感が押し出されたシーンで、海の色もくるくると変わる。海面（頭上）から差し込む日差しを、ステージの照明代わりにしているのも効果的。

「海」感のあふれた前期EDから一転
「学校」の楽しさを描いた新EDに。
トロピカる部の活動にわくわくが膨らむ
CGアニメーションに注目。

トロピカル～ジュ！プリキュア

♣毎週日曜日♣朝8時30分♣ABCテレビ・テレビ朝日系列
HP♣http://www.toei-anim.co.jp/tv/precure/

ED演出 松瀬 勝　サビは学園祭のイメージで

本編でのキュアラメール登場に合わせてスタートした後期ED。振り付けは前期EDと同じくCRE8BOY（クリエイトボーイ）、CGの実制作も同じくダイナモピクチャーズが担当した（演出は松瀬勝さんにスイッチ）。画面構成としては追加戦士であるラメールをフィーチャーしているのが特徴で、イントロもサマーとの2ショットになっている。サビの5人そろってのダンスシーンの前半で、サマーとラメールが手前にいる配置もまたしかりだ。学園ドラマを軸足に置いた作品テイストに合わせ、Bメロ以外の背景セット（ダンスのステージ）はあおぞら中学の校内が中心。サビでの部室前の特設ステージは、色とりどりのバルーンも賑やか。このわちゃわちゃ感、まさにトロピカってる！　と言っていいだろう。

なお、後期EDでも、その回にちなんだプリキュアが「私と一緒に踊ろう」と、オーシャンプリズムミラーを持って呼びかける導入パートが入る。このアニメーションも後期用に一新されているのもポイントだ。

——後期EDの映像コンセプトを教えてください。

松瀬　東映アニメーションの村瀬（亜季）PからのED企画書に、「仲間と一緒に輝こう！　キラキラ青春スクールライフ！」と書かれていたので、その言葉から浮かぶイメージを広げていきました。

——イントロとサビのステージも、まなつたちのあおぞら中学になっています。

松瀬　コンセプトが「青春スクールライフ！」なので、直球で学校にしました。確かに『プリキュア』のEDアニメーションでここまでの学校推しは珍しいかもしれませんね。導入の語りかけパートは、前期EDから演出方針の変更はありません。サマーの動きが大きいので、キャラのおさまりがいいように少し画角を調整したくらいです。

——イントロでは、キュアサマーに続いてキュアラメールがインしてきますが、これはラメールをフィーチャーするという意図でしょうか？

松瀬　その通りです。最初に提出した絵コンテではサマーのソロダンスだったのですが、検討した結果、二人で踊ることにしました。

——Aメロは5人のソロショットです。背景は校内で、それぞれに関連した場所になっています。

松瀬　それぞれのキャラに縁のある場所にしようということで、どこにするかは東映アニメさんと相談して決めました。キュアフラミンゴが学校の中庭なのは、まなつたちと出会うまであすかは中庭のベンチに一人で孤独だったのではないか……などと想像したからです。

——シャボン玉の中でのダンスというのは、本編のアイテム・シャボンピクチャーからきたものですよね。

松瀬　最初はワイプをイメージしていたのですが、構想中に村瀬Pから「こんなのがあります」とうかがって、一気に親和性が生まれました。

——フラミンゴだけは、「キラリ抱きしめてる」のラストでシャボンから腕が飛び出していますね。

松瀬　手を大きく広げる振り付けが、シャボン内だと動きがもったいなかったので、大きく羽を広げるイメージで飛び出させました。

——Bメロは、背景が海中イメージに切り替わります。ラメールの単独アップから、本編登場とは逆順で他のプリキュアがフレームインしますね。

松瀬　TV画面と連動して玩具が光るのと登場順を合わせたのですが、そういえばプリキュアの本編登場と逆になってますね、気づきませんでした（笑）。最後にサマーが単独で画面下から出てくるのは、振り付け的にこのように見せたらインパクトがあるかなと思ってのことで、4人が一旦はけるのはレイアウト担当者のアイデアです。全員集合するイメージが欲しいと言われたので、一旦はけて再び集まる今のような形になりました。

——Bメロの海では、大小の気泡も特徴的です。

松瀬　気泡はコンポジット担当にソーダのようなイメージでお願いしました。海底感を出しつつ、気泡ワイプにつなげる形にしています。

——海の色はキャラカラーに合わせて変わります。最後の「今日が輝くから」で5人そろって青になりますが、これは一巡してラメールの色に戻ったわけではなく、純粋に海の色ということですよね。

松瀬　基本の海の色がこれで、最初のラメールの時はラメールカラーで光っています。どちらも青系なので、あまり違いが目立っていませんが。

ラメールは瞳とまつ毛がポイント

リードモデラー 浜崎 恵

―ラメールのモデリングで気をつけた点を教えてください。

浜崎　ラメールは他の4人と目のデザインが違って、メインのハイライトが大きめなんです。デフォルト顔だとなかなか視点が定まらない印象があり、何度かモデルを作り直しました。大人っぽい表情になっているのをアニメーション工程で確認できた時には「ちゃんとラメールになってる！」と安心した覚えがあります。衣装では、他のキャラより肌に密着した部分が多く、どの部分もきれいな曲線になるように心がけました。

―サマーたち4キャラは髪型の再現が大変だったとのこと。ラメールの髪型もきっと苦労したんですよね？

浜崎　まず初めて作画設定を拝見した時に「す、すごいデザインだ！」と衝撃でした。後ろ髪の構造の落とし込みと、ラインを出す位置の兼ね合いを考えつつ、試行錯誤しながらの作業でした。グラデーションの調整も結構シビアで、実際は立体だけど平面で見た時にきれいなグラデーションになるように、3D上でも2D上でも調整を重ねてテクスチャを作成しています。サイドの髪は「こういう形に」と、ろくろを回すかのように整えていくだけでしたが、アニメーション工程で腕との干渉を回避させる作業にかなり苦労しました。

―髪のハイライトは、ラメールだけ、うっすら発光していませんか？

浜崎　ハイライトは全員、発光する処理が入っています。ラメールは作画設定でハイライトのフチに黄色いラインが入っていて、それも相まって、より発光しているように見えているのではと思います。リッチ感が増して素敵になっています。

―基本的に目や眉毛は髪に透けている形ですが、技術的には手間が掛かるものなのでしょうか？

浜崎　目元の素材のみ別で出力して、コンポジットで髪に薄く乗せています。最終ルックを作る上では、素材が1種増えるだけなのでさほど手間ではありません。ただ、CGソフト上でアニメーション作業をする時にも、同様に目や眉が透けていないと作業しづらいので、社内ツールを活用して、CGソフト上でもそれらを透過させた環境でフェイシャル作業を進めました。ラメールは前髪は短いものの、まつ毛にパールが付いていてボリュームがあるので、サイドの髪とまつ毛がかぶった時は透けさせるのか、それともまつ毛を手前に出すか、という点が論題になりました。最終的には見栄えを優先し、ほとんどのカットでまつ毛が上にくるように調整しています。横顔用に、まつ毛位置を調整したバージョンを作成するなどの工夫も行いました。

―ラメールに限らずですが、『トロプリ』のキャラモデリングにおいて、共通してこだわった点をお聞かせください。

浜崎　すごく大前提な話にはなりますが、CGEDだけでも歴史の長い『プリキュア』なので、「なんだか今年のモデル、これまでと雰囲気が違うよね」とならないように、過去作の方向性を踏襲しつつ、作画設定を3Dに落とし込んでいくことに一番注力しました。あとは、髪やフリルなどの曲線一つにおいても、「どこから見てもかわいく！」ですね。

キュアコーラル　CGモデル

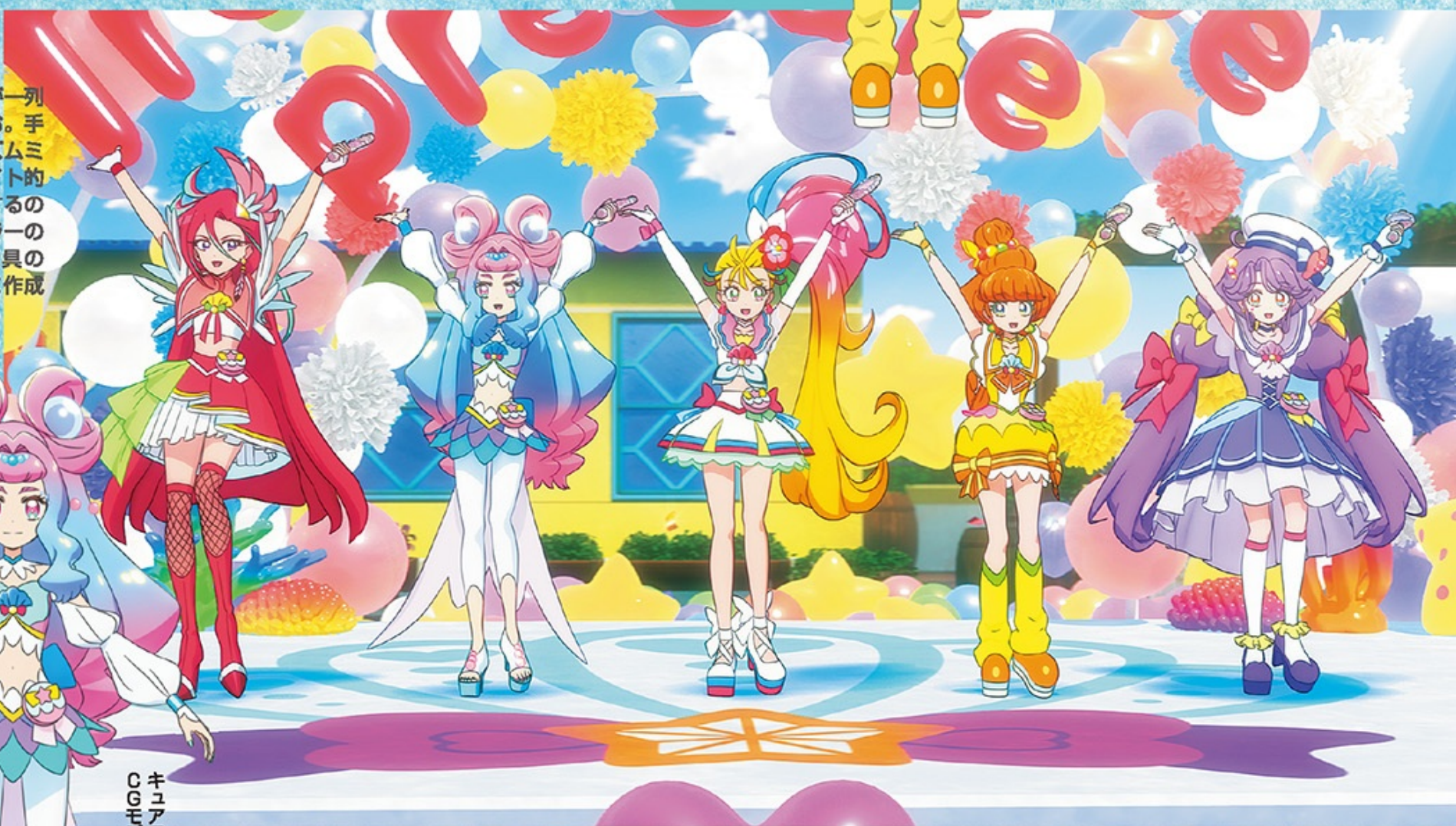
キュアパパイア　CGモデル

3 ミラーと共にダンス

サビのラストは、5人が一列に並んでステップを踏む。手にしたオーシャンプリズムミラーの鏡面が、ペンライト的にキャラカラーで発光するのにも注目だ。なお、ミラーの3Dモデルは実際の玩具のCADデータをベースに作成されている。

キュアフラミンゴ　CGモデル

キュアラメール　CGモデル

オーシャンプリズムミラー　CGモデル

ソロもチャーミング

楽しく踊る5人のアップショットも次々と見せていく。それぞれのチャーミングな表情がしっかり見えるように、各ショットの尺は長め。アウトロ最後のサマーの振り付けは、イントロと同じく「平泳ぎ」の仕草だ。

4

―サビからが、屋上のトロピカる部部室前に組まれた野外ステージです。

松瀬　「学校でダンス」がコンセプトなので、「トロピカる部が学園祭で手作りステージを組んでライブをしている」という設定で舞台を作りました。実際の学園祭などを調べて、風船や紙吹雪で、とにかく賑やかで楽しい雰囲気にしようと心がけました。

―オーシャンプリズムミラーが発光しているのもポイントですね。

松瀬　これも玩具連動企画です。それぞれのイメージカラーで光らせることで、画面に華やかさが増したと思います。

―「今の最高あつめてもっと」で5人が屈むあたりで、さりげなくアイコンタクトし合っている芝居が効いていると思います。

松瀬　ありがとうございます。関係性を出すアイコンタクトは、（モーションキャプチャではなく）アニメーターが手付けで芝居を入れてくれました。すごく自然になったと思います。

―今回の後期ED映像で、特に注目してもらいたい点をお願いします。

松瀬　全カットになりますが、手の動きや顔の表情、髪や服の揺れ方、体のフォルムなどキャラの細部に注目して観ていただきたいですね。コマ単位でデータを調整し、動きを付けて繊細で美しいアニメーションに仕上げています。前期EDに引き続き、後期も女性のスタッフが中心になって頑張ってくれて、彼女たちのセンスが光っているなと思います。導入パートのラメール編など、特にいい感じだと思います。

5　5人は無敵！

ラストは、5人それぞれ決めポーズ。このポーズも全員分モーションキャプチャを撮っており、CRE8BOY から姿勢や手の角度など、かなり細かいポージング指示があったそうだ。ミラーの鏡面は、全員きれいにこちら側に向けている。

性格に合わせた表情付けを

リードアニメーター　足立奈緒子

—後期EDから加わったラメールは、ふんわりしたアームカバーや髪のサイド部分のボリュームが特徴です。これらは動かす際に多少ハンデになったりしたのでしょうか？

足立　アームカバーは手先にかけて膨らみがあるのでそれほどハンデにはならなかったですが、サイドの髪の動きは非常に苦労しました。サイドの髪が根元から毛先にかけて一定に太く、さらにウェーブがかった形状をしているので、どうしてもシミュレーションが思うとおりにいかず、手付けで揺れを追加したりしました。また、腕を上げる振り付けが多かったため、逐一「めり込み回避」の処理をしつつ、自然な動きになるように調整しました。ラメールのサイドの髪は、今回のアニメーション作業において一番時間がかかったかもしれません（笑）。

—振り付け段階で、細かい指先の動きや指の形が重視されているようですが、そこでの工夫などは？

足立　それぞれに振り付け意図があるので、振り付けの説明動画やモーションキャプチャの撮影風景の動画を観てポーズを拾い、さらにキャラの個性に合わせて形状を調整したりしました。女の子のキャラなので、指の動きや形状は常に細部まで気をつけています。

—ダンスの最中に、5人ともニコ目笑顔になったり、ウインクをしたり、開け口笑いになったりしますが、こうした表情付けは演出プランに沿ったものなのでしょうか？

足立　基本的には、アニメーターがキャラの性格を考えながら、アドリブで表情付けしています。もちろん、最初に演出から特定の指示があればそれを踏まえます。前期EDの時はおもにテキストで指示をいただき、後期EDの時は、決めのポーズなどは絵コンテの表情を拾ったりしました。後期だとAメロ入りの「南風にKISS」で、絵コンテではウインクして口をすぼめる表情をしていたので、それに沿っています。「トロプリ」はとにかく元気に楽しくといった印象なので、サビ前の「今日が輝くから」の部分なども、全員ニコ目でそろえましたが、その後の目を開けるタイミングや速度は、キャラ性に合わせたりと、表情付けはかなり細かく調整しています。

—全体にサマーは開け口笑顔が多く、ラストカット（写真上）もサマーだけ開け口ですよね。

足立　口を閉じているとどうしてもおとなしい、しおらしい印象になるんです。サマーのような常に元気いっぱいな子は、なるべく口を開けさせ、閉じ口の時も歯を出して笑わせたりと、誰よりも元気にコロコロ表情が変わるようにしました。

—後期EDも、サビで軽くジャンプするステップが入っていますが、ここは前期EDでの苦労が活かせた感じだったのでしょうか？

足立　そうですね、ボディ調整からシミュレーションの設定など、前期EDの経験が大きく活きたかと思います。髪と手が接触しないように、腕上げの時は顔回りから少し腕を離したり、脚上げの時はスカートにめり込まないよう、脚の高さを抑えたり向きを変えたりしました。めり込み修正時も、各キャラどこがどのようにめり込むかが分かっていたので、各部位、画像でまとめて作業者に渡して作業してもらいました。前期EDでもめり込み修正を担当した方は、修正速度が倍くらい速くなっていて非常に助かりました。

—導入パートと、Bメロからサビは、セリフや歌詞に合わせた口パクが加わっています。作業での苦労などをお聞かせください。

足立　弊社のツールを使って、実際に口の動きをキャプチャ撮りしています。口の動きのタイミングどりができれば、あとはキー（基点となるショット）のタイミングと歌詞の「あいうえお」の母音に合わせて形状を整えて、F-Xした状態の口のアニメーションを各キャラのシーンデータに流し込んで流用しています。この作業が後のフェイシャル作業で大事なものとなるのですが、だいたいアニメーションの最初の段階で終わらせています。

導入パートはEDダンスと違って、フルコマではなく2コマ打ちの映像です。より2Dアニメーションっぽくなるため、キャプチャだと動きがリアルすぎて逆にうまくいかないので、手付けで口パクを作成しています。2コマ打ちなので、必ず2コマ感覚でキーを打つ（＝キーフレームを設定する）ことが必要です。また、カメラも常に定点にいるので顔がよく見えるため、口パクが速すぎてカクついたり、遅すぎて喋っていないように見えたりしないような調整がいります。結果、導入パートはとても手間がかかりました。

—5人それぞれ、特にかわいくできたと思えるカットを教えてください。

足立　サマーはAメロ頭の「南風にKISS」の口元の表情です。デフォルトで作成してある「あいうえお」などの口の形状では作れない形状でしたが、絵コンテを最初に見た時から「この表情を作ってみせる！」と気合いを入れていました（笑）。元々はこのカットはラメールとして描かれていて、のちのちサマーと入れ替わったので、絵コンテのラメールの表情とは少しニュアンスが違ったのですが、サマーらしいキュートな表情を作れたかなと思います。

コーラルは、サビの「踏み出す勇気チャージ」の表情です。前期ED同様、コーラルはとにかくかわいく愛らしく表情作りをしました。前期EDよりも表情豊かにしようと思い、後期EDでは開き口の時は口角をくいっと上げて、少しアヒル口になるようにしてみました。

パパイアはAメロの「おそろいの太陽」のアップの笑顔です。前期ED同様にパパイアはニコ目の笑顔を多めにしています。胸元に手で太陽を作りながら、太陽にも負けない、とびきりまぶしい笑顔にしました。

フラミンゴは、アウトロの時の表情です。後期EDは前期EDよりも、Bメロやサビでみんなと一緒にニコ目の笑顔を多めにはしました。でも、フラミンゴはやっぱり頼れるカッコいいお姉さんといった印象なので、「決める時は決める！」となるように、ソロのカットではカッコいい表情をつけてみました。フラミンゴのようなイケメン女子の表情を付ける時は、基本薄めの口になるよう心掛けています。

ラメールは、サビの「〝スキ〟に正直でなくちゃ」の表情です。自信に満ちた表情で鏡を見つめ、目を閉じて自分に問いかけ、振り向いて目を開きます。「あなたも私も〝スキ〟に正直にならなくちゃ、そうでしょう？」と問いかけているようなイメージで表情付けしました。

SPECIAL COLUMN 03

PLAY BACK Viva! 10本立てDEトロピカれ!

毎年10月になると楽しみなのが秋映画との連動回。しかし今年は一風変わった仕込みで、『トロプリ』らしいカオスなエピソードが仕上がった!

ギャグの多い『トロプリ』の中でも突出したギャグ回である、第33話「Viva! 10本立てDEトロピカれ!」。抱腹絶倒のミニエピソードが次々と出てくる超番外編だ。どのくらい番外編かといえば、第34話でのアバンの前話振り返り映像が、実に第32話のものだったほどだ!

この回の脚本は横谷昌宏さん（シリーズ構成）、作画監督は中谷友紀子さん（キャラクターデザイン）、絵コンテは土田さんのギャグのルーツともいえる大地丙太郎さんという盤石の布陣。エピソードごとに絵柄が全部変わる、見た目にも楽しい（しかしものすごく手間もかかったであろう）仕上がりだ。

エピソードの中には、秋映画と連動した「ハートキャッチプリキュア!」チームが登場するネタも用意されていた。『ハトプリ』のおなじみのサブタイトル画面を、『トロプリ』メンバーに置き換えたものまで作っており、「僕の絵コンテが元になっていますが、現場の方がうまくアレンジして、しっかりと再現してくれました」と大地さん。

さらにこの回に限り、OP曲はキャラソンバージョンの「Viva! Spark!トロピカル～ジュ!プリキュア トロピカる部Ver.」。村瀬亜季プロデューサーは以前から、これをどこかで使いたいと思っていたとのこと。「土田さんが『33話とかかなぁ?』とおっしゃったので、ダビング前に突撃して差し替えてもらいました!」と語る。こんなスペシャルな回ができるのも、『トロプリ』ならではだ!

第33話はショート11本!

①トロピカれ トロピカる侍
②トロピカれ 竜宮伝説
③トロピカれ カメの恩返し
④トロピカれ 恐怖のあとまわし屋敷──
⑤ジュゴンのかわりにトロピカれ!
⑥入れ替わってトロピカれ
⑦トロピカれ ヤラネーダ
⑧トロピカれ 新しいプリキュア誕生!?
⑨トロピカれ! 伝説のハートキャッチ!!
⑩トロピカれ! 新しい技!
⑪トロピカれ 恐怖の心霊シャボンピクチャー

②トロピカれ 竜宮伝説

③トロピカれ カメの恩返し

④トロピカれ 恐怖のあとまわし屋敷──

僕の中で永久保存のエピソード

［第33話絵コンテ］
大地丙太郎

──大地さんは、この大問題回の絵コンテを担当されたわけですが。

大地 我ながら、すごい回でしたよね（笑）。実はコンテの依頼が正式に来る前に、10本立てのとんでもない話があるらしい、しかもコンテは僕に回ってくるらしいと、風の噂で聞いていたんですよ。それで「よーし!」みたいな気分でオファーを待っていました（笑）。

──実際にコンテ作業に入る上で、考えられたことは?

大地 土田さんは、エピソードごとにある程度タッチを変えたいということでした。普段の回とは違うので、絵柄も自由にいきましょうって。土田さんは「たとえばこんなデザインで」と、ラフを描いてくれたんですよ。人形劇みたいな「ジュゴンのかわりにトロピカれ!」も、土田さんのラフにあったパターンです。「なんなら実写でやりましょうか?」なんて話していました（笑）。あと、「そうなるとキャラだけじゃなく、美術も変えたほうがいいですよね?」って話もして。現場は大変だったんじゃないかなぁ。

──時代劇の「トロピカれ トロピカる侍」は、大地さん好みな感じがしました。

大地 元から脚本にあったネタではあります。でも「横谷くん、よくぞ書いてくれた!」って嬉しかったです（笑）。僕としては、『子連れ狼』や『半蔵の門』の小島剛夕さんの劇画タッチを再現したくて、でも難しいだろうなぁと思っていたら、本当にやってくれました（笑）。僕は時代劇が好きな分、こだわっちゃうので、着物の着方や刀の差し方が間違ってはいないか、レイアウトを確認させてもらったんです。そうしたら、とんでもなく上手いレイアウトで、ただただ感動して戻しました。僕のコンテをはるかに超えていました。カッコいいし、色味もすばらしかった。僕の中で永久保存のエピソードです!

──「トロピカれ 新しいプリキュア誕生!?」のくるるんの変身も、本編コンテとして大地さんが描かれたんですよね。

大地 一応描いたんですが、たぶん使うのは今回限りですから、作画に負担をかけるような細かい指示は良くないなぁって。それで、サマーたちの変身バンクの流れに沿った形で、ほっぺにタッチして、耳が伸びて、衣装がついて「くるるん・ぱ♪」みたいな、ほぼ3コマくらいしか描いていません（笑）。それが、TVでも「バンク職人」と紹介されていた方（板岡錦さん）が原画を描いてくれて、びっくりしました（笑）。

──そしてアイキャッチは敵幹部バージョンでした。

大地 土田さんが打ち合わせで、「いつもと違うアイキャッチにしたい。いつもプリキュアがやってることを敵がやっちゃうとか」って。それで僕のほうでアイキャッチの案をメモしました。面白く仕上がっていましたよね。

──それとインパクトがあったのが、寿限無ネタの「トロピカれ! 新しい技!」。

大地 長い長い技名で、声優さんがすばらしかったですよね!

──絵的には、ありったけのバンク映像を継ぎ足して尺を稼いでいましたね。

大地 最初に脚本を読んだ時から、絵が浮かびました。『こどものおもちゃ』でも、尺がもたなくなった時に同じシーンをもう一回やって「さっき同じシーンやらなかったっけ?」って言わせるというギャグを結構やっていたんです。その感じで、ここは3回同じバンク映像を流して、「何やってんの?」と視聴者に突っ込まれたくて。その合間に落描きみたいな絵を挟むのも、僕からの提案です（笑）。

──この他、お気に入りのネタは?

大地 亀を助ける昔話風の「トロピカれ 竜宮伝説」もかわいかったです。それから「入れ替わってトロピカれ」のヤラネーダも。彼は『ブラタモリ』の地形ネタでよく出てくる暗渠（水路）なんです（笑）。第33話のヤラネーダは、土田さんから「自由にデザインしてください」と言われて、絶対他の話数とかぶらないものを考えたんです。手はブロック塀ですが、みやま（青海波）っていう透かしブロックもコンテで指示したら、そのまま作画してくれました（笑）。このエピソードも永久保存ですね! あと、「トロピカれ 新しいプリキュア誕生!?」のヤラネーダは灯台です。このコンテを描いてる頃にちょうど「タモリ倶楽部」の灯台の回があったんです（笑）。第33話は現場のパワーもすごかったですね。演出と作画で、だいぶ僕のコンテから盛ってもらって、自分でも観ていて面白かったです!

⑧入れ替わってトロピカれ

⑩トロピカれ! 新しい技!

⑪トロピカれ 恐怖の心霊シャボンピクチャー

各エピソードは担当原画さんの絵柄で

［第33話作画監督］
中谷友紀子

第33話はエピソード一本当たりの尺の短さを逆手にとって、各エピソードの担当原画さんの絵柄を活かすことになったんです。いつもと雰囲気を変えてデフォルメキャラで描いても、ずっと同じだと差が出ないと思って。そこで、各エピソードに合っている絵柄の方に原画をお願いしました。私はこの回の作監ですが、新しく設定を起こしたわけでもないし、原画さんに実質おまかせでした。ただ、くるるんの変身だけは、土田さんがラフ画を出してくれて、私がキャラ表の形にまとめました。個人的に一番笑ったのは、やっぱり「トロピカれ! 新しい技!」ですね。あの長い技名、編集さんとアフレコがすごく大変だったんじゃないでしょうか（笑）。皆さんお疲れさまでした!

国でもピカる!?

映画トロピカル～ジュ！プリキュア 雪のプリンセスと奇跡の指輪！

キュアフラミンゴ 滝沢あすか
みんなシャンティアに行く気満々なのを見て、ちょっと呆れつつも異論無し。雪合戦では、いつきの運動能力の高さを一目で見抜いた

キュアラメール ローラ
シャロンの戴冠式で自慢の歌を披露することになり、大いにはりきる。また、式に先立ちシャロンと出会い、心を通わせるが……

キュアサマー 夏海まなつ
シャンティアで初めて雪が見られて大喜び。仲良くなったつぼみたちに、持参したシロップでかき氷をごちそうしようとしたが……

キュアパパイア 一之瀬みのり
シャンティアの美しい銀世界やかわいい不思議な生き物に見とれる一同だったが、ゆりと同様にちょっとした違和感を覚えるのだった

キュアコーラル 涼村さんご
かわいいもの好きの彼女は、えりかのファッションセンスに感心。即興的に衣装のデザイン画まで描く姿を見て、驚きの声を上げる

🔔10月23日(土)ロードショー
HP🔔https://2021.precure-movie.com/

STAFF　監督／志水淳児　脚本／成田良美　音楽／寺田志保　キャラクターデザイン・総作画監督／上野ケン　美術監督／倉橋 隆　色彩設計／濱田直美　CG ディレクター ／大曽根悠介　撮影監督／高橋賢司

「映画トロピカル～ジュ！プリキュア 雪のプリンセスと奇跡の指輪！」の公開が迫ってきた。『トロプリ』といえば夏のイメージだが、映画の舞台はあえて逆をいく白銀の世界！　そして「ハートキャッチプリキュア！」チームとの共演も大きなトピックだ。

ある日、トロピカる部の面々は、シャンティアという雪の王国から、シャロン王女の戴冠式の招待状を受け取る。ローラの発案で、式を歌で盛り上げようと決めるまなつたち。そして、同じように王国にやって来ていたのが、つぼみたち『ハトプリ』チームの4人だ。まなつたちは彼女らと仲良くなり、えりかから戴冠式でのファッションアドバイスももらう。

いざ、お祭りムードの中で始まった戴冠式。だがその時、雪の怪物が突如、王国を襲ってくる！　まなつたちはプリキュアに変身し、『ハトプリ』チームと協力して敵に立ち向かう。

また、ローラはシャロンとも親しくなり、シャンティアに古くから伝わる歌を教えてもらうが……この王国には一体どんな秘密が？

TVアニメと変わらぬ、全編コミカルな雰囲気が満載の映画最新作。ローラを軸に、切ない中にも心がほっこりする温かいドラマが展開してゆく！

1 まなつたちは雪の精霊ホワンから、シャロン王女の戴冠式の招待を受けた

ホワン

ローラのことをもっと好きになれると思います

プロデューサー 伊藤志穂（東映アニメーション）

『ハトプリ』といえばファッション部！

――『トロプリ』の秋映画を担当することになって考えたことは？

伊藤　最初に弊社の鷲尾（天）から話があったのですが、『プリキュア』の今後を見越して、春映画（『映画ヒーリングっど♥プリキュア ゆめのまちでキュン！っとGoGo！大変身!!』）と同様に、歴代シリーズからゲストで1チーム出てくるもの。なおかつ、少し年齢が高めの子も楽しめて感動できるもの。この2つのオーダーがありました。

――中でも『ハートキャッチプリキュア！』を選んだのは、伊藤さんのほうで？

伊藤　そうです。今、自分のお小遣いで映画を観られる年齢になっている子たちが、かつて観ていたプリキュアって何だろうかと。そこから、直近の世代ではなく、少し昔のシリーズがいいなと思いました。それと、『トロプリ』は歴代の中でもかなり明るくてコミカルですよね。シリーズディレクターの土田豊さんらしい作品という印象だったので、一緒に思い切りギャグができて、表情豊かに動いてくれる子たちというのも決め手でした。また、『トロプリ』は部活ものストーリーでコスメがモチーフ。『ハトプリ』はファッション部の話ですから、親和性も高いんじゃないかと。

――脚本は、『プリキュア』シリーズではおなじみの成田良美さんですね。

伊藤　私からぜひにと、お声がけしました。まず、『ハトプリ』チームを映画本編でどのくらい物語に関わらせるかを考えたんですが、やはり映画に出てくるのであれば出る意味を持たせたい。出番がわずかだと寂しいし、『ハトプリ』を観てくれていた子たちにも失礼かなと。出すからには、9人みんなで話を進めていきたいというのが出発点としてありました。そうなると、『ハ

2 特別列車で王国へ到着。まなつはかき氷を食べたいと思っていたけど、寒すぎてガクガク

Guest Team

ハートキャッチプリキュア!

TVアニメは2010～2011年放映。内気なつぼみとお調子者のえりかが、こころの大樹の妖精シプレとコフレに出会いプリキュアに。でも、つぼみが変身するキュアブロッサムは、敵であるデザトリアンに「最弱」と言われる頼りなさ……。そんな中、生徒会長のいつきが仲間になる。また、当初はつぼみたちを半人前と見ていたゆりも、つぼみたちを認めて力を貸す!

えりかの防寒着

まなつの防寒着

3 つぼみたち「ハトプリ」の面々と知り合い、共に雪合戦やウインタースポーツを楽しむ

4 戴冠式に先駆け、偶然シャロン王女と仲良くなったローラ。美しい指輪を贈られる!

5 戴冠式に雪の怪物が出現。戦うみんなの前に、キュアブロッサムたちが颯爽助太刀!

6 シャンティアを想うシャロンのためにも、「トロプリ」「ハトプリ」両チームは力を合わせて戦う!

シャロン

シャンティア王国の王女。心優しい女の子で、よく王国の歌を口ずさんでいる。笑顔のあふれる王国を作りたいと願っているが……

雪の王 トロ

『トロピカル～ジュ!プリキュア』の秋映画がいよいよ公開。まなつたちがやってくれば、凍てついた世界も夏色にトロピカっちゃう?

トプリ」も「トロプリ」も分かっている方、両シリーズを各話ライターとして執筆されている成田さんにお頼みするのがベストだなと思いました。

――監督は志水淳児さん、作画監督は上野ケンさんと、こちらもベテラン陣で固めていますね。

伊藤 そこも成田さんと同じ理由で、「ハトプリ」の経験もあって「トロプリ」にも参加されている方ということで製作部と相談したところ、志水さんのお名前が上がってきて。私としては逆に「やってもらえるんですか!?」って感じでした。志水さんなら安心してお任せできるなと。

――上野さんは『映画ハートキャッチプリキュア! 花の都でファッションショー…ですか!?』の作監でしたし。

伊藤 そうなんです。それに私は、上野さんが描いた『映画魔法つかいプリキュア! 奇跡の変身!キュアモフルン!』のキュアモフルンのデザインが大好きで! 上野さんなら、映画オリジナルキャラクターも絶対かわいくしてくださるに違いないと思いました。

エスニックな雰囲気のシャンティア王国

――映画の舞台を雪国にした理由は?

伊藤 TVアニメが、あおぞら市からあまり遠くへ行かない話が多いので、映画ならではのスケール感や非日常性を出したいと思いまして。普段は「海」だから「空」を舞台にしてみようか、など成田さんや監督たちとブレストしていく中で、「雪」というアイデアが出てきました。雪といえば白ですよね。白い世界をトロピカルで鮮やかな色合いに染めていくイメージがパッと頭に浮かんで、まなつたちが行く意味も出てきそうだなと思いました。暗いモノトーンではなく、スノードームみたいなキラキラした世界なら、子ども向け映画としてもアリなんじゃないかなと。

――雪国を舞台にすることが出発点ではなかったのですね。

伊藤 成田さんにオファーした段階で決めていたのは、「ローラを中心に描くこと」「歌を物語の中で使っていくこと」の2点でした。ローラは人魚らしく歌が得意で、TVアニメで歌のシーンがあることも早くに知っていたので。映画の劇中でも使われる楽曲「シャンティア～しあわせのくに～」には、ぜひ注目してもらいたいです。

――ローラを物語の軸にした理由は?

伊藤 「子どもたちに誰の目線で観てもらうと一番いいのか」というのを、最初に決めたのですが、まず今回はプリキュア側に視点を置こうと考えました。やっぱり、「トロプリ」の映画ですから、映画オリジナルキャラクターではなく「トロプリ」チームの誰かの気持ちになって観てもらいたいと。最初はまなつを軸に考えたんですけど、まなつは「変わらない良さ」がある子ですよね。一方、ローラはTVアニメの初期話数を観るに、感情が出やすいタイプで面白い子だなと(笑)。それに追加戦士でもあるので、秋ならば子どもたちの人気ももっと出ているだろうと。ローラの心情を中心に、普段と変わらないまなつが、その心の支えになる方向性がいいんじゃないかなって。

――まなつといえば、これまで雪を見たことがなかったのですね。

伊藤 そうなんです。TVスタッフからも「『初めて!』という反応にさせてほしい」と言われました。「雪でかき氷を作るんだ!」と張り切ったり、雪に突っ込んで寒くて震えまくったりなど、まなつらしくハッチャけてもらっています(笑)。

――そして、映画オリジナルキャラクターのシャロン。ぷにっとしたかわいさや、温かみがある見た目ですよね。

伊藤 「雪の国の女王」と聞くと、クールで鋭いイメージが先行すると思うんですが、今回のシャロンはそういう立ち位置じゃないんですね。まなつたちと同じ年頃だけど、抱えているものもあり、ちょっと大人っぽく見えるという。そういうキャラ性を上野さんがうまく汲んで、デザインしてくださいました。また、雪の世界を描いた他作品との差別化もあり、志水監督からも「単純なヨーロッパ風にはせず、アジアのテイストも入れていきたい」というアイデアが出ました。そこから、チベット系など、いろいろな国の要素を入れた服にして、洋風ながらエスニックな雰囲気になりました。「シャンティア」という国名もチベット系で、シャンバラ伝説のもじりや、響きのかわいさから考えたものなんです。

――雪の精霊ホワンは、ネーミングも含めて雪のふわふわしたイメージからきているのでしょうか?

伊藤 ええ。ホワン役は楠木ともりさんと井上ほの花さんです。志水監督のオーダーで、「スター☆トゥインクルプリキュア」のフワのような、無邪気な子どもっぽさを意識して演じてもらいました。とってもかわいい声ですよ!

――映画を楽しみしているファンへのメッセージをお願いします。

伊藤 アニメージュの読者の方は、「ハトプリ」世代だった方も多いと思います。春の映画に引き続いて2世代で活躍する映画になっていますが、一番気をつけたのは、どちらの世代のプリキュアもきちんといる意味があること。変顔ギャグもたっぷりあるので(笑)、楽しみにしていてください。また、プリキュア側に感情移入しながら観られるお話になっています。この映画を観たら、より一層ローラのことを大好きになってくれると思います!

SPECIAL COLUMN 04

スノーハートクルリングは「祈り」の象徴

歌と共に想いを引き継ぐ、しっとりしたラストを味わえる秋映画。前ページに引き続き、伊藤プロデューサーの制作秘話をお届け！

［プロデューサー］
伊藤志穂

いとう・しほ
1994年生まれ。2016年、東映アニメーション入社。『ヒーリングっど♥プリキュア』『映画プリキュアミラクルリープ みんなとの不思議な1日』（共にアシスタントプロデューサー）『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂』（プロデューサー）

スノードロップは希望であり死の象徴

——今回の映画は、ローラの成長物語の色が濃いです。これまでTVシリーズで「女王になる」とずっと言ってきたローラの、心情的な補完にもなっている気がします。

伊藤　映画の企画を練るために、その段階で上がっていたTVシリーズの脚本を読んだのですが、「なんでローラは女王になりたいんだろう？　どうしてそう思うようになったんだろう？」というのが私の中でありまして。そこで、映画のほうで少し触れさせてほしいとTV側のスタッフと相談しました。

——そしてローラの歌も、今回の重要な「アイテム」ですね。

伊藤　もともと「プリキュア」シリーズ自体が歌を大事にしているし、今回も映画ならではの歌を作ることは考えていました。特にローラは、TVの劇中でも「なかよしのうた」を歌っていたし、映画ではローラの歌を物語の軸にしようと考えました。シャロンの浄化に紐づける、対話のツールのような使い方にしています。

——シャロンはすでに死人で、シャンティア王国も滅んでいたというシビアな設定です。

伊藤　シャロンを「過去に苛まれている子」にするという出発点から、滅亡した王国の住人という設定が出てきたんです。あと、コラボする「ハトプリ」は、「こころの花」という題材を使って、人の心を大事に扱ってきた作品です。そこから「凍ってしまったシャロンの心を、9人のプリキュアがハートウォーミングな力で溶かしてあげる」という骨子が出来上がりました。だったら、舞台となる雪の国も、実は凍った心が作り出していて、それを最後に溶かしてあげる流れがいいのではないかと。最初からファンタジー世界にしようと考えていたというよりは、シャロンとその心を溶かす展開から考えた感じなんです。

——つまりシャンティア王国は、シャロンの心を分かりやすく見せるための装置でもあったと。

伊藤　そういうことです。心の世界だったら、シャロンのこころの花であるスノードロップが咲いているという設定も生きてきますしね。

——スノードロップを採用した理由は？

伊藤　スノードロップは冬の終わり頃に咲く花、春を告げる花なんです。天使が雪解けを告げるようにスノードロップの花を置いていったという伝説もあります。物語が始まった段階でのシャロンの心は、完全に冬の状態。そこから吹雪になって、暗く吹き荒れたりするんですが、最後は暖かい春の世界に変わっていきます。それにスノードロップは、「死の象徴」でもあるんです。亡くなる人の脇にスノードロップを添えると、雪解けに合わせるようにその人と共に消えたとか……。調べていくうちに「これ、すごくシャロンでは！」と思えてきて、スノードロップがいいのではないかと私から提案しました。

ミラクルライトに代わる「気持ちによる応援」

——シャロンは普段の優しい姿と、後半との二面性がポイントですね。

伊藤　まなつたちが「今を生きている子たち」なのに対して、シャロンは「過去を見ている人」。そういう、まなつたちとは逆の立ち位置であることを出していく段階で、本来の優しい面が途中で変化して、内面に秘めた孤独が表に出てしまう。そういう見せ方にしました。

——最後、指輪と歌は残りましたが、シャロン自身は消えてしまいました。

伊藤　悲しいですが、シャロンはすでにこの世の人ではありませんからね。でも、シャンティアの歌が残ってくれて、ローラが指輪を大切に持っていてくれる。その2点で、想いは遂げられたんじゃないかなと。ですから、切なさもありつつ、いい終わり方にできたんじゃないかと思います。

——歌が残っていくのは、ある種の永遠性も感じさせますしね。

伊藤　そうですね。実際に我々の生きている世界でも、長い長い年月、受け継がれている歌がありますし、歌と共に想いも引き継がれていると思うんです。ただ、結末としてはちょっと大人っぽい描き方だったかもしれません。

——シャロンの指輪が、今回の入場者プレゼントのスノーハートクルリングですが、これはミラクルライトに代わるものという発想なのですか？

伊藤　そうですね。コロナ禍の今は、「プリキュア頑張れ！」と声を出して応援するスタイルが採りにくいことは予想できました。それで、ライトに代わるものとして「祈り」の要素というか、気持ちによる応援がいいのではという話になりまして。それで本編でも、ローラは常にこの指輪を着けて、ギュッと手を握りしめるようなシーンも入れました。子どもたちがこの映画を観て何かを感じた上で、指輪を家に飾ったり遊んだりしてくれたら嬉しいです。

——今回の映画は、明朗快活というよりも、ちょっと切ない余韻が残るのが特徴かと思います。

伊藤　『トロプリ』ははちゃめちゃに明るいイメージがあるので、私も最初は「明るさ8割、切なさ2割」くらいがいいと思っていたんです。でも、脚本会議を重ねていく中で、結構大人っぽい話になっていきまして……。どうしようかなとも思ったのですが、秋の映画は少し年上の子もターゲットにしてきたところがありますし。それに、普段あまり見ることができないローラの姿を見せたいとも思っていたので、無理に明るく変えなくてもいいんじゃないかなと。もちろん、心にじんわりくるお話がお得意な成田さんのテイストもありますし、実は私自身もこういうしっとりしたお話が好きなんです。普段のTVシリーズが明るいからこその特別なお話になったと思います。もちろん、ギャグっぽいシーンもふんだんに入れてもらい、そこは志水監督がうまく緩急をつけてくださいました。子どもたちには映画を観て、笑顔になって帰ってほしいという気持ちはあるので、ED主題歌の「シャンティア～しあわせのくに～」は、明るく楽しいダンス調にしています。観てくれた子どもたちの心に、このお話が歌と一緒に残ってくれたらと思います。

——この映画を2度、3度楽しむ人へのメッセージをお願いします。

伊藤　最後はシャロンが儚く消えてしまうという流れを踏まえた上で、ぜひ細部までご覧ください。「あのシーンはこういう意味だったんだ」と分かるポイントもあると思うので、そういったところを楽しんでくだされば と思います。

スノーハートクルリング
（作画用デザイン）

センターのハート部分はピンク色。シャロンからローラがプレゼントされた時は、台座部分と同一色（脚本では「無色透明」）だが、『ハトプリ』チームの想いを受けてこの状態に。

アニメージュ1月号増刊『トロピカル～ジュ!プリキュア』特別増刊号

2022年1月1日発行
電子書籍版発行日：2022年1月1日

問い合わせ　03-5403-4986

STAFF

[Editor] 久保田志乃
[Writer] ぽろり春草
[Proofreading] 東京出版サービスセンター
[Cover Layout] 間中幸子（クウ）
[Designers] 山川夏実
柳川ユリ
里信亜沙子（クウ）
[Advertising] 岩水洋子
林 優太
伊藤沙織
[Marketing Analyzer] 片山伸之
柳楽公三
[Public Relations] 斎藤信恵
松本留衣子
[Supervisor] 川井久恵
鈴木雅展
[Special Thanks] 東映アニメーション
東映
マーベラス
バンダイ

Contents

※本書に再録したページの情報はすべて「アニメージュ」に掲載した当時のものです。

［表紙・ピンナップ］
原画・仕上／東映アニメーション